訳　読　編

序

◻　上巻において，文法の概略を把捉された学習者は，この中巻において，さていよいよ若干のまとまった独文記事を読破されるわけです。

◻　いちばん大切なことは，自分勝手の間違った読み方をしないことです。すべてが物めずらしく，従って印象も強い，最初の大事な時期に，間違っておぼえたことは，あとまでも混乱を残します。そのために，本巻では，一語一句を逐うて，原語の通りの考え方を強いるような「逐語訳」を付していきます。たとえわかったと思っても，念のために一度はかならず逐語訳を読んでみて下さい。意外なこともたまにはあるものですから。またその意外なことのために非常に啓発されるものですから。

逐語訳といえば，たとえば漢文の読み方という奴は一種の逐語訳です（即ち原語を混えた逐語訳です)。江天一色無纖塵，皎皎空中孤月輪,——中国人はこれをどう発音してどんな気持がするかは，本当はちょっとわかりません。

そこまでわかれば満点だが，満点はちょっと期待し得ない。そこで昔の日本人は，これを逐語訳にして，江天一色纖塵なし，皎皎たり空中の孤月輪，と読んだ。翻訳ではありません。原文そのものでもありません。その中間です。すなわち逐語訳です。「かたい」直訳です。けれども，漢文の精神は，この逐語訳を介して充分伝わったのではないでしょうか? なまじっか「楊子江もその上の天もおんなじ色をしていて，ちり一つない，そして空では月がきらきらと照っている」というよりは，むしろこの生硬な江天一色せんじん無し云云の方が好かったのではないでしょうか?

ドイツ語の場合は，もちろん，這般の関係は少しちがいます。けれども，原文と逐語訳とを合わせたものが，まあ大体「江天いっしょく纖塵なし，皎皎たり空中の孤月輪」ぐらいのところへ行くのではないでしょうか?

◻　逐語訳以外に注を付していきます。注は必ずしも目前のその箇所だけを理解せしめるためではなく，一般的知識の獲得を以って目的としたもので

すから，時には原文を全然はなれて，一般講義と思ってご研究ください。効果はそう直ぐは現われませんが，半年後一年後には，読んでよかったと思われることが必ず出てきます。

◫ テキストは，極く初歩のものからはじめて，次第にむつかしくしていき，最後のところは，殆んど最高級程度にまで引き上げて見ました。各篇ともに，上巻以来の本講座の精神に基づいて，内容の興味によって語学への関心を最高度に刺戟すべく努めました。おもしろくないテキストは一つも無いつもりです。

著　者　識

目　　次

第 1 課　すばらしい儲け 1

Es war einmal..... 4

wenn と als の相違 4

文章の短縮・省略としての不定句 4

Ich denke nicht daran..... 5

強い主観が働いたときに用いる ja..... 5

定形を打ち消す nicht の位置..... 6

心理的接近を示す da 7

時間の概念の副詞 Genitivus absolutus 8

Weißt du was?..... 9

前置詞 bei の意味の見分け方..... 9

獲得・着服を意味する三格の sich..... 11

二つの目的語の語順 12

単に「なす」を意味する諸種の動詞 12

公開的な場所を指す auf 14

wollen の重要な意味の一つ「.....と主張する・したつもりでいる」..... 15

離格 (Ablativ) の意になる三格 15

第 2 課　あるギャング物語 18

紹介する際の es..... 24

所属を示す von..... 24

平叙文形の疑問文 25

aber, nämlich などの位置 26

「添加」または「随伴」の dazu 27

物質名詞から作った形容詞 27

断わり書きの表現法 28

動詞の前置詞支配 31

よく使われる間投詞的な表現 32

装飾的枕詞と限定的な形容詞 33

一局部の強調：　否定する nicht の位置 34

他動詞の自動詞化 …… 35
非人称熟語 …… 37
熟語動詞の配語法について …… 38
複数形のみの名詞 Pluralia tantum …… 40
認容文章の構造 …… 42
外交的辞令の最高級 …… 44
動詞の前綴の主な特徴 …… 45
einige, einzeln, eigen などについて …… 46
不定法と過去分詞が同形になる動詞 …… 48
連発弱化的語尾 -eln …… 51
二語一想 Hendiadyoin …… 52
熟語にあらわれる填詞 (Füllwort) としての es …… 52
変則的な形容詞 angeblich, sogenannt, seinwollend など …… 53

第 3 課　天国への旅 …… 55

準否定詞の訳し方 …… 61
分詞を基礎とする述語的(客語的)副詞句 …… 62
geraden Weges など …… 62
物主代名詞代わりの四格 ihn auf den Kopf schlagen など …… 64
規定的意味形態と後続的意味形態 …… 65
関心の三格 ethischer Dativ …… 67
形容詞につく数量的規定は四格 …… 69
二格支配の再帰動詞 …… 71
zu を伴う不定句の名詞付加的な用法 …… 72
den Gefallen tun について …… 73
述語句として用いられた „zu を伴う不定法＋sein・haben・geben など“ …… 74
空間概念を表現する副詞の序列 …… 76
名詞の前にふたつ以上の形容詞がある場合 …… 76
扮役的直接法 Indicativus mimicus …… 79
「……のあまり」などの意の vor …… 80
目的語化した „不定法とその四格主語“ …… 81
Ich habe ihn kommen sehen など …… 82
時間概念の副詞が論理概念の副詞に転用される例 …… 84
批評の副詞 …… 85
Schwüre 啖呵 …… 86

第 4 課　猫の生態 87

後続文章の先行詞として用いられる es 94
副詞の絶対最高級 gehorsamst, äußerst, entschiedenst など 95
事実描写の wie 98
「排泄」を表わす ab- 100
「開ける」auf- と「閉める」zu- 101
形容詞の最高級の認容的意味 103
無関心なる要求を表わす mögen 104
無選択の態度を表わす認容文「それは甲であれ乙であれ」 106

第 5 課　「かの如く」の哲学 108

das Als-Ob, das Morgen, das blutgebrillte Muß など 113
Er trinkt seinen Kaffee. 習慣・性癖などを指す物主代名詞 115
Für dich täte ich alles. 約束話法の結論部の独立用法 118

第 6 課　壺を作るロビンソン 124

付加語としての地名 130
離格 (Ablativ) 的三格を伴う動詞：{ent-, ab-} nehmen, stehlen, rauben など .. 130
助詞 schon の一用法「もう；じつに；きっと」など 132
擬音詞 Onomatopöie, Onomatopoesie 137
副文章中の前置詞を伴う文肢 141
結果的補足語 (Ergebnisobjekt) を伴う語法 143
惰性・傾向を指す wollen 146
liegen bleiben, schlafen gehen, kennen lernen など 146
haben と四格主語を伴う不定法 148
-heiten, -keiten の意味 150

第 7 課　君主論 151

有形無意の es を主語とする受働文 157
否定詞と als 164

第 8 課　アインシュタインの空間論 168

固有名詞の形容詞化語尾 -sch について 179
助辞 ja の一用法「だって……じゃないか」 180
扮役的直接法について 182

形容詞的用法の von 186
形容詞語尾 -artig の意味 186
als solche, an sich「それ自体」..... 190
nicht wahr? の用法 192
縮小名詞 (Diminutiv) -chen, -lein 193
前綴り un- の意味 195
Ich kann nicht hinaus.「私は表へでられない」..... 198
bei..... の句と wenn..... の文 200
viel zu....., als daß..... について 206
mit は副詞の場合がある 208
Es ist mit.....so und so「這般の関係はしかじかである」..... 209
結果を示す zu と in 209
「なんなら」という etwa 211
sagen wir「そうですね，まあ.....；たとえば.....」..... 211
否定的基礎の上に立つ虚構の文の定形は第二式接続法 212
von.....reden の意味 213

訳　読　編

読本を研究する上の注意事項

◻ 各課の冒頭に解説欄を設けて，内容を簡単に紹介しておきました。

◻ 次にテキストの全文を印象的な活字で掲げておきました。読者はまずテキストを数回繰り返して読み，慾をいえば自分で辞書を引いて，不明な箇所，疑問の箇所を自分なりにつきとめてから，訳の部に移ってほしい。

◻ 訳の部では学習の便を計って，テキストを手頃の長さに分割して掲げました。訳は出来るかぎり逐語訳にしました。逐語訳で意味の通じ難い箇所に（　）を入れて，別に解説的な訳文を加えておきました。（　）の中の訳文は解説を主としたものであって，日本語訳としての標準を示したものでありませんから，模範訳文は読者自ら作るようにされたい。［　］の中の語句は，原文の省略部分を補ったり，訳文の意味を補うためのもので，主として文法的な関係を示す役割をしています。

◻ 注の部では，強変化および不規則変化の動詞が新しく出るごとに，その三要形を挙げておきました——第 8 課（アインシュタインの空間論）においては三要形を訳の部に挿入しました。

注の部では，「基礎入門編」に盛りきれなかった文法上の重要事項をかなりたくさんに取り入れました。機会あるごとに参照されたい。なお，巻頭の目次には，注の部の重要な事項を，順を逐って掲げておきましたから，「文法詳説編」の各項目同様に，機会あるごとに nachschlagen してください。

第１課　すばらしい儲け

解説：　ある大金持の守銭奴と夫思いの妻との間に起こった一笑話。「毎年冬がくるたびに外套を新調するような贅沢をしなければこそ，わしはこれだけの金持になったのだ」一点張りで，古ぼけてよれよれになった外套一枚で押し通す守銭奴。夫の年齢や世間体を顧慮して暖かい外套を買わせようと苦心する妻。この二人が妥協点に達するためには，夫にとっては安い買物，つまり，すばらしい掘出し物を，妻にとっては暖かい上質の外套を，買うことが必要である。妻はある町の毛皮商と打合わせをして，千マルクの毛皮外套を二十マルクということにして，夫に買わせる。ところが妻の喜びもつかのま，つぎの日には夫はまたもとのよれよれ外套を着ている。おどろく妻に老守銭奴は得意満面で，じつはあの外套を昨日のうちに二百マルクで売った，と話してきかせる。守銭奴に言わせれば，二十マルクで買った外套を二百マルクで売ったのだから，すごい儲けである。妻にしてみれば，千マルクも出したものを二百マルクで手放されたうえに，またもとの古外套にもどられたのでは，泣くにも泣かれない気持である。――「新ドイツ語の基礎」をひととおり勉強した諸君にはらくに読める程度の独文である。訳を手引きにして辞書をひいて研究してほしい。

Ein enormes Geschäft

Es war einmal ein reicher Mann, der trug trotz seines ungeheuren Reichtums nur einen alten, schmutzigen Mantel. Wenn sein Weib ihn bat, sich doch einen neuen zu verschaffen, sagte er: „Ich denke nicht daran; ich bin ja nur deshalb so reich geworden, weil ich nicht jeden Winter* einen neuen Mantel getragen habe."

Da sann das Weib lange auf eine List, wie sie ihm einen neuen Mantel anschaffen sollte.

Eines Tages sagte sie zu ihrem Gatten: „Weißt du was, ich habe zufällig bei einem Pelzgeschäft einen sehr billigen* Mantel gefunden, er kostet nur zwanzig Mark. Und ich glaube, er würde dir sehr gut stehen."

Da wurde der alte Geizhals neugierig, ging mit seiner

Frau ins Geschäft und kaufte sich den Mantel. Der Kaufmann gab ihn ihm für zwanzig Mark, weil zwischen ihm und der Frau vorher eine Verabredung getroffen worden war. Den Rest des Betrages bezahlte sie ihm natürlich
* hinter dem Rücken ihres Gatten.

Aber am andern Morgen fand sie ihn schon wieder in seinem alten, schmutzigen Mantel!

„Aber Joseph!“ schalt sie ihn, „warum trägst du schon wieder den abscheulichen Mantel? Hast du dir nicht
* gestern einen neuen gekauft?“

„Freue dich, Liebste“, sagte der alte Geizhals strahlend, „mit dem habe ich ein enormes Geschäft gemacht. Denke dir mal, als ich heute auf der Börse erzählte, daß ich den herrlichen Pelzmantel für zwanzig Mark gekauft habe, da
* wollte ihn mir jeder Mensch für dreißig, vierzig, ja fünfzig Mark abkaufen. Da sagte ich gleich hundert! Aber damit war die Versteigerung noch nicht zu Ende und schließlich hat ihn mir einer für zweihundert Mark abgekauft!“

Und die arme Frau hatte tausend Mark dafür bezahlt!

Ein enormes Geschäft

[1] Es war[1] einmal ein reicher Mann[2], der[3] trug[4] trotz seines ungeheuren Reichtums[5] nur einen alten, schmutzigen Mantel. Wenn[6] sein Weib ihn bat[7], sich doch einen neuen zu verschaffen, sagte er: „Ich denke[8] nicht daran[9]; ich bin ja[10] nur deshalb[11] so reich geworden[12], weil ich nicht[13] jeden Winter einen neuen Mantel getragen[14] habe[15]."

Da[16] sann[17] das Weib lange auf eine List, wie[18] sie[19] ihm einen neuen Mantel anschaffen[20] sollte[21].

Eines Tages[22] sagte sie zu ihrem Gatten[23]: „Weißt[24] du was[25], ich habe zufällig bei[26] einem Pelzgeschäft einen sehr billigen Mantel gefunden[27], er kostet nur zwanzig Mark[28]. Und ich glaube, er würde[29] dir sehr gut stehen[30]."

〔訳〕 Ein enormes Geschäft すばらしい儲け

einmal かつて ein reicher Mann ひとりの金持の男が Es war おりました, der その男は trotz seines ungeheuren Reichtums 彼の巨大な富にもかかわらず (途方もない財産家のくせに) nur einen alten, schmutzigen Mantel ただ一着の古い汚れた外套を trug 着ていました (外套といっては後にも先にも古く汚れたのが一着しかありませんでした)。sein Weib 彼の妻君が ihn 彼に, sich 自分[のため]に doch せめて einen neuen [Mantel] 一着の新しい[外套]を zu verschaffen 調達することを (それではあんまりですから新しいのをお買いになってくださいと) bat 願い wenn ますと [そのたびごとにきまって], er 彼は sagte [つぎのように] 答えるのでした: „Ich 私は daran そんなことなどは denke nicht 考えない (とんでもないことだ); jeden Winter 冬ごとに einen neuen Mantel ひとつの新しい外套を weil ich nicht.....getragen habe 私が着なかったから [こそ] (毎年冬がくるたびに新しい外套を買って着るような贅沢をしなかったからこそ), nur deshalb ただそれゆえに (それだからこそ) ich 私は so reich こんなに金持にbin.....geworden なった ja のだよ。"

Da そこで das Weib 妻君は, wie いかにして sie 彼女が ihm 彼に einen neuen Mantel 新しい外套を anschaffen sollte 調達してやるべきかの [夫に新しい外套を買わせる) eine List [何かうまい] 策 auf がないかと lange 長い間 sann 思案をいたしました。

Eines Tages ある日 sie 彼女は zu ihrem Gatten 彼女の夫に向かって sagte 申しました: „Weißt du was ねえあなた, ich わたしは zufällig 偶然に bei einem Pelzgeschäft ある毛皮商店で einen sehr billigen Mantel とても安い外套を habe.....ge-

funden 見つけました，er その外套は nur zwanzig Mark ただ二十マルクだけ kostet 値がします（その値段は二十マルクにすぎません）。Und それに，er その外套は dir あなたに sehr gut とてもよく würde.....stehen 似合うだろう［と］ich わたしは glaube 思いますの。"

〔注〕【1】**war** 三要形：sein, war, gewesen.

Es war einmal..... 【2】これはお伽噺や回顧的小話の枕に使われる常套文句。おなじ意味で *Vorzeiten* war..... や *In alten Zeiten* war..... もよく使われる。主語がふたつ（es と ein reicher Mann）あることについては，「新ドイツ語の基礎」（講座上巻）125 項「文の非人称化」をもう一度読み返してほしい。つまり，ことさら改まって，ひとつの現象，出来事または真理を紹介しようとする時によく贅語的な es を先頭にすえ，ほんとうの主語を後におくのである。この贅語的な es を文法上の主語（grammatisches Subjekt）と呼び，意味上の主語 ein reicher Mann を論理上の主語（logisches Subjekt）と呼ぶことも覚えなおしておくこと。なお einmal は本文のように「かつて・昔々」の意味の時はアクセントが mal にあり，したがって通俗的には mal だけで使われることが多い。これに反して「一度」「一回」の意味の時はアクセントは ein の方にある。

【3】**der** この der は指示代名詞で，関係代名詞ではない。後者の場合ならば定形の trug は文末にいくはずである。指示代名詞 der の変化・用法については「ドイツ文法の要点」（講座下巻）§2 を参照のこと。【4】**trug** 三要形：tragen, trug, getragen. 【5】**trotz seines ungeheuren Reichtums**=*trotzdem* [daß] er ungeheuer reich war=*obgleich* er ungeheuer reich war. ungeheueren とせずに，r の前の e を省いて ungeheuren とした理由については「新ドイツ語の基礎」§57「形容詞に語尾をつける際の注意」を参照すること。

wenn と als の相違 【6】**Wenn sein Weib ihn bat** als は「.....した時に」と，過去に起こった一回かぎりの事実を述べる接続詞だが，wenn はつぎにくる動詞が過去であろうと現在であろうと，「もしも.....すると」の意になり，したがって過去の事実を指す場合にも，何度もあったことを指すのである（sooft「.....するたびに」とおなじ）。

文章の短縮・省略としての不定句 【7】**bat** 三要形：bitten, bat, gebeten.「ある人にあることを請い求める・請願する」の意味では，本文のように *einen bitten, etwas zu tun*=*to beg of*（または *to ask* またはもっと強く *to beseech* あるいは *to implore*）*a person to do a thing* の形を用いるか，または *einen um etwas bitten*=*to ask a thing of*

a person（または *to ask a person for a thing*）の形（例：Ich *bat ihn um die Erlaubnis,* mich entfernen zu dürfen.＝*I asked him for leave to withdraw.*）を用いるのがふつうである。なお sich doch……zu verschaffen なる zu を伴う不定句をつぎのように文章に書きなおすと，逐語訳から意訳への推移がよくわかると思う： Wenn sein Weib ihn bat, *sich doch einen neuen zu verschaffen*＝Wenn sein Weib ihn bat, *er möge sich doch einen neuen verschaffen.* このように zu を伴う不定句は文章の短縮ないし省略と見なしてよい場合がある。参考のために以下数例を挙げておく：

(1) 彼は私に，彼女を連れてこい，と命じた。

Er befahl mir, *sie abzuholen.*

Er befahl mir, *daß ich sie abhole.*

(2) 彼は医者を連れてくるために家を出た。

Er ging aus, *um einen Arzt zu holen.*

Er ging aus, *damit*（または *auf daß* または *daß*）*er einen Arzt hole.*

(3) 彼は私にいとまごいもせずに出かけて行った。

Er ging fort, *ohne von mir Abschied zu nehmen.*

Er ging fort, *ohne daß er von mir Abschied genommen hatte*（または *hätte*）.

【8】 **denke** 三要形：denken, dachte, gedacht.

Ich denke nicht daran 【9】これは *an etwas*（四格）*denken*「あることに考え及ぶ」という一般的な成句の特殊な場合である。「私はそんなことに考え及ばぬ」であるが，語調からはむしろ Ich denke nicht im entferntesten daran. または Ich denke gar nicht daran. ぐらいに考えてよいところ。したがって俗語調に Denk' nicht dran!＝*I should not dream of it.* と言ってもよかろうし，Wo denkst du nur hin?＝*What are you thinking about*（または *of*）*?* または Woran denkst du? Wie kannst du daran denken?＝*How can you think of such a thing?* と言ってもよかろう。

強い主観が働いたときに用いる ja 【10】この ja はしいて訳出する必要もないし，じじつ，一語として訳出することの困難な副詞である。「このことは誰でも承知のことだ」とか「このことは理の当然のことだ」といった強い主観が働いた時によく用いる助詞的な副詞：Das weiß ich ja.「そんなことぐらい知ってるわ」。Es regnet ja!「なんだ，雨が降ってるじゃないか!」Zwei und zwei macht ja vier.「2 と 2 なら 4 さ」など。つまり，ほぼ日本語の「じゃないか」，「だよ」，「さ」，「ですぜ」が ja である。

【11】 **nur deshalb……, weil……** weil だとか damit のような因由や目的を示す接続詞句の意味をとくに強調するために nur deshalb「それだからこそ」という副詞を先行

させたのであって，日本語としてしいて訳出する必要はない。英語の場合でも Er tat es *nur deshalb*, weil.....=*He did it only because*..... とか Er schrieb *deshalb*, damit wir.....=*He wrote so that we*..... のように副詞をわざわざ先行させることはない。

【12】 **geworden** 三要形：werden, wurde, geworden.

定形を打ち消す nicht の位置 【13】ふつう nicht は否定の副詞といわれているが，用法の実際からみて前置的接続詞と言った方がよいのである。その証拠に名詞，形容詞および定形以外の動詞を打ち消す時には，原則として否定される言葉の前におかれるうえに，意味のうえでもたんに「A ではない」と言うだけでなく，「じつは B である」という余韻を裏に響かせているのである。はじめの間はこの点をあいまいにして，nicht はすべて動詞にかかるもののように読みたがるが，そのためにずいぶん珍妙な読み違いが生ずる。下の諸例で nicht にたいする感じを養ってほしい。定形が単一な動詞の場合は，否定の nicht は文末におかれる点は英語とはまったく違うから，とくに注意を要する。たとえば Er kommt *nicht* immer. と Er kommt immer *nicht*. を比較すると，上述の原則にしたがって，前の文では nicht はつぎの immer を打ち消しているから「彼は必ずしもこない」となり，後の文では nicht は文末に位し，定形は単一な動詞だから，nicht は定形の kommt を打ち消して「彼はいつもこない」となるわけである。以下の例で定形を打ち消す nicht とそうでない場合の nicht の用法の差を銘記してほしい：

〔**A**〕 定形を打ち消す nicht の位置

(1) Ich kenne diesen Herrn *nicht*.
　私はこの人を知らない。

(2) Er liest den Roman, den ich ihm geliehen [habe], *nicht*.
　彼は，私が貸してやった小説を読まない。

(3) Sein Betragen gefiel seinem Vorgesetzten, der als sehr strenger Beamter bekannt war und auf eine tadellose Disziplin hielt, *nicht*.
　彼の挙動は，非常に厳格な官吏として知られ完全無欠な規律を心がけていた彼の上官の気に入らなかった。

〔**B**〕 定形以外の要素を打ち消す場合

(1) *Nicht* ich habe es getan.
　それをしたのは私ではない。

(2) Er ist *nicht* reich, sondern arm.
　彼は金持ではない，貧乏だ。

(3) Ich habe es *nicht* bemerkt.

私はそれを認めなかった。

(4) Ich lebe *nicht* in Japan.

私は日本には住まない。

会話の場合など Verachten Sie ihn?「あなたは彼を軽蔑しますか?」に対する答えとして Ich nicht. という形で答えるが，これは「私ではない」ではなく，「私は彼を軽蔑しない」すなわち Ich verachte ihn nicht. という意味で，簡潔を旨とするための省略法 (Ellipse) である。Wird er kommen?「彼はくるだろうか?」の答えとして Ich glaube nicht. と答える場合も Ich glaube, [er wird] nicht [kommen].「彼はこない，と私は思う」の意味で，「私は信じない」という場合と混同してはいけない。以上述べたところから，本文の nicht は直後の jeden Winter だけを打ち消していることが分かると思う。

【14】**getragen** 三要形：tragen, trug, getragen. 【15】**habe** 三要形：haben, hatte, gehabt.

心理的接近を示す da 【16】**Da** 逐語訳では「そこで」と訳してあるが，これが空間概念を表わしているのでないことは一目瞭然だと思う。「こういうわけで」に相当する「そこで」なのである。本来は場所の規定詞である da が，どうしてこういう因由を示す副詞に使われるかということについては——この意味の da が余りにもしばしば用いられるものであるだけに——da のもつ根本的な性格にまでさかのぼってその正体をはっきりさせておかないと分からない。まず順序として dort「あそこに・かなたに」と hier「ここに」とを片づけよう。この両者の間には距離関係があって，hier は自分に近いことをいい，dort は自分から相当距りのある時に用いる。つまり hier は「ここ」，dort は「かなた・あそこ」である。単に空間的な距りを表現するだけなら hier と dort でじゅうぶんなはずなのに，さらに da があるのはなぜか? da は「そこに・眼前に・まのあたりに・現在・現に」で，空間的にわれわれに接近していると否とにかかわらず，**われわれの意識の間近かに迫っている**時に用いるのである。Das Examen ist *da*!「いよいよ試験がやってきたぞ!」Gott ist *da*.「神は存在する」Er ist nicht *da*.「彼は留守だ」Was sagst du *da* für dummes Zeug?「君はまた何というばかなことを言うのだ!」*Da*!「そら！ほら！それ見ろ!」つまり da は心理的接近を示す副詞であるから，場合によっては dort よりもかえって遠距離にあるものを指すことができる。たとえば，味方の艦隊がどこかに停泊しているとする。甲艦と乙艦は数丁の距離をおいている。すると甲艦の水兵は乙艦を指して Unser Freund ist dort.「われわれの味方はあそこにいる」と言うことができる。ところが，数十マイルもかなたに哨戒に出ている偵察機から「敵艦見ゆ」との報告がくる。この時兵士たちは Der Feind ist da!「敵が来た」と言う。この場合は，ほんの数丁しか離れていない友艦を

指して dort といい，おそらくは数十マイルもかなたにいる敵艦を指して da と言うわけである。簡単にいうと，hier は空間的に近いことを意味し，da は心理的に近いことを意味する。そして dort は，空間的か心理的か，いずれかの意味において多少の距りがある時に用いるのである。本文のような説話的な物語の中で文頭に置かれている場合は，かならずしも一語として訳出するに及ばない。「そこで・それだから・かかる事情で・それから」といった背景がかすかに暗示されればよいのである。

【17】**sann** 三要形：sinnen, sann, gesonnen. *auf etwas* (四格) *sinnen* は慣用句で「あるものを得んとして・発見せんとして・の機会をねらって思いをこらす」ことである。一般にこの型の auf を**関心または注意の目標を指す auf** と呼んでいいと思う。適当の機会にいくつかの文例を挙げよう。【18】**wie**「いかにして彼女は彼に新しい外套を調達してやるべきか」という，wie を先頭にした従属文は直前の List という名詞の付加語になっている。*die Frage, ob.....=the question whether.....; der Grund, warum.....=the reason why.....;* unter *der Bedingung, daß.....=on condition* (または *with the understanding) that.....* などの結合形はひんぱんに用いられるものであるから，ついでに知っておくこと。【19】**sie** 意味の上から sie が das Weib をうける人代名詞であることに気づいた読者ならば，das Weib という中性名詞を女性の代名詞でうけたわけもほぼ推量できたであろう。なるほど，原則としては代名詞は名詞の性にしたがうが，das Weib「妻」とか das Fräulein「令嬢・未婚婦人・ミス」とか das Mädchen「少女」とかいった名詞は，これらの名詞によって表わされている「人間」の実際の性にしたがって代名詞の性を決定する場合もよくある。以上は女を表わす名詞の例だが，男を表わす名詞にも die Wache「歩哨」とか die Memme「ひきょう者」といった，名詞の文法上の性と実物とが一致しないものがあるが，やはり das Weib の場合とおなじように，これをうける代名詞は，文法上の性にしたがって sie としてもよければ，実際の性にしたがって er としてもよい。やかましく言うと，これらの性の決定が任意を許さない場合もあるが，それは微妙な語学の感じの問題になるので，詳細は「文法詳説編」§171 を参照すること。【20】**anschaffen** 数行前の verschaffen とおなじ意味。【21】**sollte** 三要形：sollen, sollte, gesollt. この話法の助動詞は三要形だけを見ると規則動詞とかわりはないが，直接法現在が不規則である (ich **soll**, du sollst, er soll)。「基礎入門編」87 頁参照。

時間の概念の副詞 Genitivus absolutus 【22】**Eines Tages** 時間概念の名詞を二格にして（これらを Genitivus absolutus「独立二格」と呼ぶことができる）時の副詞に用いるものがかなり多いが，つぎに最もひんぱんに用いられるものを挙げておく：

tags	日中に	sonnabends	土曜に
mittags	正午に	sonntags	日曜に

vormittags	午前に	anfangs	初めは
nachmittags	午後に	tags zuvor	その前日に
morgens	朝	tags darauf	その翌日に
nachts / des Nachts	夜間は	tagsüber	日がな一日
		damals	その当時は
abends / des Abends	晩に	ehemals	以前は
		öfters	ひんぴんとして
dieser Tage	最近，そのうちに	niemals	決して
jemals	いつか	nochmal[s]	もう一度
bereits	すでに		

なお，「文法詳説編」§89 参照のこと。

【23】 **Gatten** これは「基礎入門篇」55 頁の「男性弱変化名詞」に属する名詞であるから，一格 (Gatte) 以外は全部 Gatten である。【24】 **Weißt** 三要形：wissen, wußte, gewußt.

Weißt du was? 【25】 *Wissen Sie was?* または *Weißt du was?* は一種の成句で，相手に何か新しいことを教えてやろうという時に文章の先頭に据えるので，べつに質疑の意味はなく，単に「時に君……」といったぐらいの意味である。例：*Wissen Sie was?* Sie sind doch ein unbegreiflicher Mensch.「ねえ君，君はじつに不可解な男だね」。

前置詞 bei の意味の見分け方 【26】 **bei** einem Pelzgeschäft「ある毛皮商人の店で」。bei という前置詞は時によっていろいろな意味になるが，それはそのつぎにくる名詞の種類によって判断できる。名詞には具体名詞 (家，石，町，壁)，人名詞 (父，母，友だち，商人)，時間の経過のある事件名詞 (祭，戦，試験，死，読書)，空間をも時間をも占めない抽象名詞 (性質，意味，寒さ，知識，美) の四大別を設けることができるから，それにしたがって bei の意味を示してみよう：

(1) 具体名詞とともに「……のそば」： bei der Schule「学校のそば」，beim Stuhl「椅子のそばに」

(2) 人名詞とともに「……のもとで・の家で」： bei mir「私の宅に」，bei meinem Vater「私の父のもとに」

(3) 事件名詞とともに「……の際に」： beim Schreiben「書く時に」，beim Examen「試験の際に」，beim Krieg「戦争の際に」

(4) 抽象名詞とともに「……にもかかわらず」「もし……ならば」または「……であ

るから」: bei seiner Weisheit「彼の賢明さにもかかわらず」,「彼のごとき賢明さをもってすれば」,「彼は賢明であったから」, bei dieser Hitze「この暑さにもかかわらず」,「こんなに暑くては」,「この暑さのために」

(5) ただひとつ「……にかけて」誓うという時には, つぎにはどんな名詞がきてもかまわない: bei meinem Schwert!「私の剣にかけて」, bei Gott!「神にかけて」, bei meiner Ehre!「私の名誉にかけて」

この最後の場合は (3) の意味の転用である。

[27] **gefunden** 三要形: finden, fand, gefunden. [28] **er kostet nur zwanzig Mark** kosten という動詞は英語の *to cost* とほとんど同じ用い方である。[29] **würde** これは werden の第二式接続法である。そして用法の上では間接話法に属するのだが, 接続法の問題は重要だから, もう一度「基礎入門編」の第 26 講と第 27 講を読みなおしてほしい。[30] **stehen** 三要形: stehen, stand, gestanden. 衣裳が着る人に似合うとか似合わないという時に *einem gut* (*schlecht*) *stehen*=*to suit* (または *fit*) *a person well* (*badly*) の形を用いる。このほかに anstehen や passen もまったく同じ用法をもっている。また sitzen もよく使われるが, この方は「からだにしっくり合う」とか合わぬという時に用いる。kleiden という動詞を用いることもあるが, これは他動詞だから *einen kleiden* の形になる。

[2] Da wurde der alte Geizhals neugierig, ging[31] mit seiner Frau ins Geschäft und kaufte sich[32] den Mantel. Der Kaufmann gab[33] ihn ihm[34] für zwanzig Mark, weil zwischen ihm und der Frau vorher eine Verabredung getroffen[35] worden war. Den Rest des Betrages bezahlte sie ihm natürlich hinter dem Rücken ihres Gatten[36].

Aber am andern Morgen fand sie ihn schon wieder[37] in seinem alten, schmutzigen Mantel!

„Aber Joseph[38]!" schalt[39] sie ihn, „warum trägst du schon wieder den abscheulichen Mantel? Hast du dir[40] nicht gestern einen neuen gekauft?"

〔訳〕 Da そこで (この話を聞いて) der alte Geizhals 老守銭奴は wurde……neugierig 好奇心を起こしました, mit seiner Frau 妻君と連れだって ins Geschäft 問題

の店へ ging 行き und そして den Mantel くだんの外套を sich 自分 [のため] に kaufte 買いました (買い求めました)。Der Kaufmann 商人は ihm (Geizhals) 彼に ihn (Mantel) その外套を für zwanzig Mark 二十マルク [の値] で gab 与えました (売り渡しました), zwischen ihm (Kaufmann) und seiner Frau 商人と妻君との間に vorher 前もって eine Verabredung ある申し合わせが getroffen worden war おこなわれていました weil ので。natürlich 言うまでもなく Den Rest des Betrages 価格の残りを sie 妻君は ihm 商人に hinter dem Rücken ihres Gatten 彼女の夫の背後で (夫には内証で) bezahlte 支払いました。

Aber ところが am andern Morgen その翌朝には sie 彼女は schon wieder 早くもまた ihn 彼を in seinem alten, schmutzigen Mantel 彼の古く汚れた外套のなかに (を着ているのを) fand 見出しました。

„Aber あらまあ Joseph ヨーゼフ!" [と] sie 彼女は ihn 彼を schalt 非難しました, „warum どうして du あなたは schon wieder またしても den abscheulichen Mantel こんないやな外套を trägst お着になるのですか? du あなたは gestern 昨日 einen neuen [Mantel] 新しいのを Hast.....dir nicht.....gekauft お買いになったじゃありませんか?"

〔注〕 [31] **ging** 三要形: gehen, ging, gegangen.

獲得・着服を意味する三格の sich [32] **kaufte sich den Mantel** すでに一度 „*sich* doch einen neuen zu *verschaffen*" という句でおめにかかった sich (三格) である。これは人代名詞の三格を支配する再帰動詞にもっとも多い型で, 獲得・着服・自己の利害を表現する。日本語としてはわざわざ言い表わさないのがふつうであるが, 逐語訳では読者の関心を高めるためにわざと訳をつけてある。つぎの例でこの型の sich の用法を会得してほしい:

(1) Er zündet *sich* eine Zigarette.
彼はシガレットに火をつける。

(2) Er putzt *sich* umständlich die Brille.
彼は念入りに眼鏡をみがく。

(3) Wir wollen *uns* das Mittagessen bestellen!
昼飯を注文しようじゃないか。

(4) Ich muß *mir* Klarheit darüber verschaffen.
僕はその点をはっきりさせておかなくてはならぬ。

(5) Es ist aber traurig, den ganzen Tag laufen zu müssen, um *sich* sein Brot zu verdienen.
パンをかせぐために一日中走り回らされるのは悲しいことだよ。

[33] **gab** 三要形: geben, gab, gegeben.

二つの目的語の語順 【34】 **gab ihn ihm** ここでは geben という動詞が二つの目的語——三格の ihm と四格の ihn——をとっているが，二つとも名詞の場合，一方が人代名詞の場合，二つとも人代名詞の場合などで，三格と四格のどちらを先におくか，つまり語順 (Wortfolge) に一定の習慣があるから注意を要する：

(1) 三格も四格も名詞の場合は，三格の人間を表わす方が先に出る：

Der Lehrer hat *dem Schüler ein Buch* geliehen.

先生は生徒に一冊の本を貸した。

(2) どちらも名詞の場合は強める方が後にくる：

Ich habe *Ihren Sohn dem berühmten Professor* empfohlen.

私はあなたの息子さんをあの有名な教授に推せんしておきました。

(3) 一方が人代名詞の場合は人代名詞が先に出る：

Fräulein Hanako hat *mir ein Geschenk* gemacht.

花子嬢が僕に贈り物をくれた。

(4) どちらも人代名詞の場合は短くて力点のない方が先に出る：

Er hat *es ihnen* gezeigt.

彼はそれをかれらにみせた。

以上が基本的な規則だが，4 の場合でも，どちらも力点のない人代名詞だと，大体四格が先に出る (Ich habe *sie ihm* gezeigt. 僕はそれらのものを彼にみせた。) といった細則があったり，三格の mir と dir が四格の ihn, sie, es と組み合わせられると，どちらを先にしてもよい (Fräulein Hanako hat *es mir* または *mir es* geliehen. 花子嬢がそれを僕にかしてくれた。) といった例外があったりして，初学者は作文の時に迷うが，読み慣れて語感が養われるにしたがって，自然に解決できるようになる。

単に「なす」を意味する諸種の動詞 【35】 **getroffen** 三要形：treffen, traf, getroffen. *eine Verabredung treffen*「申し合わせをする」は熟語だが，この型の熟語に用いられる動詞は特別な意味はなく単に machen や tun の言い換えにすぎないものが多い。他の例を挙げておこう：

eine Verbeugung machen	おじぎを——する
einen Sprung tun (または *machen*)	跳躍を——する
einen Einfluß ausüben	影響を——およぼす
Gerechtigkeit üben	正義を——行なう
Schaden zufügen	危害を——加える
Widerstand leisten	抵抗を——試みる

seine Arbeit verrichten	自分の仕事を——やってのける
einen Diebstahl begehen	窃盗罪を——犯す
böse Taten verüben	悪事を——はたらく
Handel treiben	商売を——営む
Krieg führen	戦争を——する
ein Urteil fällen	判決を——下す
eine Klage erheben	訴訟を——起こす
eine Revision vornehmen	改訂を——試みる

[36] hinter dem Rücken ihres Gatten「夫には内密で」は熟語。英語にも全く同じ熟語 *behind one's back* がある。ついでにこの熟語の正反対の熟語 *ins Gesicht*「面と向かって」も覚えておくとつごうがよい: Ich werde es ihm *ins Gesicht* sagen.=*I will tell him so to his face.* aller guten Sitte *ins Gesicht* schlagen=*to act in defiance of all rules of decency*「良風美俗など糞くらえといった行動をする」。**[37] schon wieder**「またもや」。この wieder は「ふたたび」ではなくて「もとの通り」の意味で，多くは *schon wieder* の結合で用いられる。**[38] Aber Joseph!** この aber は間投詞的に用いられたもので主として疑問文にそえて「これはいったいどうしたことか?」といった意相をもっている。つぎの Joseph という名前はしいて訳出しなくてもよかろうが，日本語にもある筋道で，人を叱ったりたしなめたりする時には，よく相手の名を挙げる。**[39] schalt** 三要形: schelten, schalt, gescholten (=*to scold*). **[40] dir** 注 32 で詳述した獲得・着服を意味する三格の再帰代名詞の例である。

[3] „Freue dich,[41] Liebste[42]", sagte der alte Geizhals strahlend[43], „mit dem habe ich ein enormes Geschäft gemacht[44]. Denke dir mal[45], als ich heute auf der Börse[46] erzählte, daß ich den herrlichen Pelzmantel für zwanzig Mark gekauft habe, da wollte[47] ihn mir jeder Mensch für dreißig, vierzig, ja fünfzig Mark abkaufen[48]. Da sagte ich gleich hundert! Aber damit war die Versteigerung noch nicht zu Ende[49] und schließlich hat ihn mir einer[50] für zweihundert Mark abgekauft!"

Und[51] die arme[52] Frau hatte tausend Mark dafür bezahlt!

〔訳〕 „Freue dich 喜んでくれ, Liebste お前," [と] der alte Geizhals 老守銭奴は strahlend [嬉しさに顔を] 輝かせながら sagte 言いました, „mit dem (=Mantel) あれをもって (あの外套を売って) ich 私は ein enormes Geschäft ひとつの莫大な取引きを habe.....gemacht 行なった (すばらしい儲けをしたんだよ)。Denke dir mal まあ考えてもごらん, ich 私が den herrlichen Pelzmantel あのすてきな毛皮外套を für zwanzig Mark 二十マルクで gekauft habe 買った daß のだということを, heute 今日 auf der Börse 取引所で ich.....erzählte 話をした als 時, da それを聞いて jeder Mensch [居合わせた人は] だれもかれも ihn あの外套を für dreißig, vierzig, ja fünfzig Mark 三十マルクで, いや四十マルクで, それどころか五十マルクで mir 私から wollte.....abkaufen 買い取ろうと欲した。Da そこで ich 私は gleich さっそく hundert [Mark] 百 [マルク] と sagte 言ったものだ! Aber ところが die Versteigerung 競り上げは damit それをもって (百マルクで) war.....noch nicht zu Ende まだ終わらなかった und そして schließlich 最後には einer ある人が ihn あの外套を für zweihundert Mark 二百マルクで hat.....mir.....abgekauft 私から買い取ったよ!"

Und ところが die arme Frau そのきのどくな妻君は dafür その [外套の] ために tausend Mark 千マルクを hatte.....bezahlt 支払っていたのでした!

〔注〕 [41] **Freue dich** *sich freuen=to be glad* (または *pleased*) という再帰動詞の du に対する命令形。なお再帰動詞については「基礎入門編」第 21 講を参照せよ。[42] **Liebste** これは「基礎入門編」第 23 講で説明した「形容詞の名詞化」の一つである。liebste は lieb の最上級であるからといって「最も愛すべき者」と訳することはない。愛人とか親しい人々に対する愛称の一種である。相手が女だから Liebste だが男なら当然 Liebster となる。Geliebte, Geliebter と言ってもよい。英語なら *my darling* ぐらいのところ。[43] **strahlend** は *vor Freude strahlend=beaming with delight* の意味である。[44] **habe.....ein enormes Geschäft gemacht**「いい儲けをする」とか「旨い商売をする」という時の常套的な表現が *ein gutes Geschäft machen=to do a good stroke of business, to make a good bargain, glänzende Geschäfte machen=to do a roaring* (または *rattling good*) *business* (または *trade*) など, で本文の場合も単に形容詞を誇張しただけである。[45] **Denken dir mal** 注 41 で述べた再帰動詞の命令形だが, 再帰代名詞が三格な点が違っている。「基礎入門編」第 21 講の後半 (§ 113) を読み返すこと。mal は einmal の縮小形,「まあちょっと.....してごらん」など言う際の「まあ」「ちょっと」にあたる。

公開的な場所を指す auf [46] **auf der Börse** 日本語の感じでは in でよかろうと思われる時に, よく auf が使われるが, その auf は, 何か「公開的な」場所の時に限られる。たとえば *auf den Markt gehen*「市場へでかける」, *auf der Universität*「大学で」など, 同様に「住宅で」は im Wohnhaus だが, 別荘となると *auf dem Landhaus* と言える。つまり住宅の方は「私的」だが, 別荘は大学や劇場や博物館と同じよ

うに社会的，社交的，世間的な場所と見るのである。また Der Hausherr ist in seinem Zimmer.「主人は部屋にいる」と言うと，その in は単に空間的に一つの場所を指したことになるが，Er ist *auf* seinem Zimmer. と言うと，今にも新聞記者でも引見しそうな気がする。だから，先生が一方的に指導し知識を授ける間は in die Schule gehen「学校へ通う」と言うが，教授が学生という das Publikum「公衆」を相手として vorlesen「講義し」vortragen「講演する」大学へ行くのは auf die Universität ziehen と言うのである。

wollen の重要な意味のひとつ「……と主張する・したつもりでいる」 **【47】wollte** 三要形：wollen, wollte, gewollt. wollen の基本的な意味は「欲する・望む」であるが，本文で「だれもかれもが……で私から買い取りたいと思った」と訳しては舌足らずで不十分である。むしろ「買い取ろうとした」「買い取ろうと言った」とか「買い取ろうと言ってきかなかった」といった方向に訳出しないとぴったりこない。事実 wollen は「……と主張する」，「……と自ら称する」，「……と言う」または時とすると「……ということにしてしまう」，「……したつもりである」の意味をもつのである。これは過去の不定法とともに用いられた時にとくに典型的に現われるから注意を要する：Nun er Diktator geworden ist, *will* jeder seiner Feinde sein Freund *gewesen sein*.「彼が独裁者になった今日では，彼の敵はだれもかれも彼の味方であったと主張する」，Geh aus meinen Augen! Ich *will* dich nie *gekannt haben*.「もはや目通りは相かなわぬ！汝がごとき奴とはもはや一面識もなかったことに致すによって，さよう相心得ろ！」。

離格（Ablativ）の意になる三格 **【48】mir……abkaufen** これは「私から買いとる」ということで，前綴の ab に「……から取る・奪う・離れる」といった意味があるので，mir は von mir の意になる。

初歩の文法では三格を形式的に「……に」と教えるところから，あるものをある人「に」与えるという場合だけを念頭において，三格はふつう Dativ「与格」と早のみこみされがちだが，本文でも明らかなようにこの名称は妥当を欠いている。日本語で，この書物をだれそれ「に」借りた，と言うが，この際の「に」は決して書物の移動して行く方向を指したのでなく，むしろ正反対に「……から」というのと同意である。ドイツ語の三格もこういう意味に用いられることがあるので，Dativ と区別して Ablativ「離格・奪格」という範疇を設けることが必要になってくる。三格が Ablativ の意になるためには次のような動詞と結びついた時に限る：

(1) 「……し去る」の意の前綴 ent- を有する動詞：entkommen「逃れる」，entgehen「のがれる」，entlaufen「脱走する」，entfallen「落ち去る」，entgleiten

「滑り落ちる」, entrücken「遠のける」, entrinnen「流れ出る」, entspringen「源を発する」, entschlüpfen「滑り脱ける」, entsprießen「生え出る」, entwachsen「生え出る」。

Er ist *dem* Feinde entgangen.

彼は敵の手を逃れた。

Er ist *der* Gefahr entkommen.

彼は危険を逃れた。

Die Zügel entfielen *seinen* Händen.

手綱が彼の手裡を脱した。

Dem Felsen entrinnt der Quell.

岩から泉が湧く。

Die Pflanzen entwachsen *dem* Boden.

植物は地から生え出る。

Er ist *adligem* Geblüte entsprossen.

彼は貴族の血統から生れ出た。

(2) ent- とほとんど同意の ab- がついて「取る・奪う・搾り出す・骨を折って取る」の意になる動詞。

Auch *seinen* Leuten ließ sich keine Auskunft über ihn abgewinnen.

また彼の使用人たちからも，彼についての消息を聞き出すことができなかった。

Wir haben einen riesigen Vorsprung, den lassen wir *uns* um keinen Preis abkaufen.

われわれは非常な優先的地位を占めている，こいつばかりはたとえどんな値に引替えてもわれわれから買い取らせはしないぞ。

Die ganze Geschichte hatte *ihm* nur ein mitleidiges Lächeln abgenötigt.

この件全体は彼からただひとつの憐憫の苦笑を強要し取ったのみであった。(一部始終を聞いて彼はただちょっと苦笑したきりだった)

(3) 「看取する」という意味での ansehen, anmerken など。

Ich sehe *deinen* Augen an, daß du verliebt bist.

君の眼をみると，君が恋していることがわかる。

(4) そのほか nehmen「取る」, stehlen「盗む」, rauben「奪う」, weichen「避ける」など。

Er hat *mir* alles genommen.

彼は私からすべてを取りあげた。

Er stahl es *mir* vor kurzem.

彼はそれをこのあいだ僕から盗んだ。

Er weicht *mir* überall.

彼はいたるところで僕をさける。

【49】 **war.....zu Ende** *zu Ende sein*「終わっている・過ぎている・尽きている」と同時に *zu Ende bringen*「終える・果たす・すませる」も記憶しておくこと。【50】 **einer** 本文では ein Herr または ein Mann と言うかわりに用いてある。einer の変化や詳しい用法については「ドイツ文法の要点」§6 を参照せよ。【51】 **Und** こまかいことだが，この und には aber, doch と一脈通ずる相反的な意味がある。前に述べたことと und の後で述べることとが論理的にも事実的に矛盾していることを軽い Ironie「皮肉」を交えて対比させるのである。この皮肉は Ich *und* Einfluß haben!=*To think that I should have influence!* (または *Me and influence!*)「この僕の顔が利くなんて，冗談じゃないよ！」のごとき例に露骨に現われている。【52】 **arme** arm というとすぐ「貧乏な」と思うが，この奥さんは金満家の奥さんで「貧乏」どころではない。ここは筆者の主観——同情を表現した装飾的な用い方にすぎない。

第2課　あるギャング物語

解説：　あるギャング団が裕福そうな Dumke 氏に目星をつけて，金目のものを盗み出すために，まず仲間の若い女のひとりを女中として住み込ませる。一週間目に仲間の団長格の男が警部を装って訪ねてきて，Dumke 氏があるギャング団に狙われていること，新しい女中もその一味であることや，今から四日後の月曜日の夜に仕事をする手筈になっていることなどを話してきかせる。お人好しの Dumke 氏はすっかりそれを信用してしまう。不安な四日が過ぎて，問題の月曜日になると，まず女中の態度がうさん臭いところへもってきて先の警部がやってきて，押しこみは明け方の三時に行なわれるらしいと告げる。Dumke 氏はいよいよあわてる。しかし警部は部下を Dumke 氏の家の周囲に張りこませ，自身は氏の家に泊って徹宵警戒するから，と言葉たくみに説いて玄関の鍵まで預ってしまう。この偽警部の言葉を裏書きするように，ちょうどその時女中が外に出てどこかへ電話をかけたことがわかる。ギャング団の手口よりも警部の明察に参ってしまった Dumke 氏は，その夜は言われた通り自分の部屋でぐっすり眠ってしまった。時計が六時を打つ音に目をさまし，呼び鈴を鳴らすと，警部でなくて女中が入ってくる。女中は落着きはらって，Dumke 氏が鍵までわたした警部はじつはギャングの親分で，彼女の計らいで三時間前に留置場に入っていること，彼女こそこのギャングの一味を捕えるために網を張っていた秘密警察の一員であることを語り，これからすぐに警察へ行かなくてはならないからと言って出て行く。警部氏，女中といっしょに夫人の装身具，氏の衣類，家具などが消えてなくなったことは言うまでもない。ギャング団の手口は一見智能犯的だが，Dumke という名にふさわしく——Dumke というと Dummkopf がなんとなく連想される——主人公が頭っから「警察」を信用してしまい，ギャング団の仕事をわざわざ援助しているところが話のミソである。

Eine Gangstergeschichte

Das Mädchen brachte eine Besuchskarte und sagte: „Ein Herr ist da und möchte Sie sprechen."

Der Besucher trat herein. Es war ein Mann, den Dumke nicht kannte. Er bot ihm einen Stuhl.

* „Ich bin von der Polizei," sagte der Fremde, „ich komme, um Sie zu warnen. Sie haben doch ein neues Hausmädchen?"

„Ja, ich habe ein neues Mädchen. Sie ist seit acht Tagen bei uns."

„Ich weiß. Dieses Mädchen wird aber nicht lange bei Ihnen bleiben. In vier Tagen werden Sie sie nicht mehr bei Ihnen finden. Sie und manche andere Dinge dazu: * silberne Löffel, den Schmuck Ihrer Frau, vielleicht auch Ihre Anzüge. Kurz, das Mädchen ist Mitglied einer Einbrecherbande."

„Was?" Herr Dumke wurde blaß.

„Jawohl, sie ist Mitglied einer Gangsterbande. Der Ein- * bruch ist auf Montag Nacht geplant, wie wir soeben erfahren haben."

„Ja.....aber.....sagen Sie mir, was soll ich tun?"

„Nichts. Verhalten Sie sich wie bisher. Vor Montag haben Sie nichts zu befürchten. Wir werden für alles * sorgen. Montag vormittag werde ich nochmals zu Ihnen kommen. Bis dahin sprechen Sie mit niemand über die Angelegenheit. Vielleicht würde es besser sein, auch Ihrer Frau nichts davon zu sagen. Ich meine, um sie nicht unnötig aufzuregen. Verlassen Sie sich auf die Polizei. Also, * auf Wiedersehen!"

Mit diesen Worten war der Beamte weg.

Die Tage vergingen schnell. Am Montag bat das Mädchen beim Frühstück: „Darf ich heute ausgehen, gnädige Frau?" Die Hausfrau nickte. Aber Dumke sagte * schnell: „Nein, heute nicht! Heute bleiben Sie zu Hause! Wir werden Gäste haben."

Es klingelte an der Haustür. Das Mädchen ging hinunter, um zu öffnen.

Nach einem Augenblick kam sie mit dem Polizeibeamten *

zurück. Der Beamte grüßte freundlich die Frau des Hauses und fing an: „Ich komme....."

„Einen Augenblick," bat Dumke und wandte sich an seine Frau: „du entschuldigst uns wohl ein paar Minuten? * Es handelt sich nämlich um geschäftliche Dinge."

Die Herren traten ins Rauchzimmer. „Nun?"

„Haben Sie keine Sorge," sagte der Beamte und nahm in einem Sessel Platz, „die Sache läuft, wie ich vorausgesehen habe. Wir erwarten den Einbruch gegen drei Uhr * morgens. Unsere Leute sind auf der Straße verteilt. Ich persönlich werde diese Nacht in Ihrer Wohnung bleiben."

„Und ich, was soll ich dabei tun?"

„Nichts. Verlassen Sie sich immer auf die Polizei. Gehen Sie zu Bett und bleiben Sie still. Machen Sie keinen * Lärm, was Sie auch hören. Morgen werde ich Ihnen alles erzählen. Wollen Sie mir freundlichst den Hausschlüssel übergeben?"

Dumke übergab dem Beamten den Hausschlüssel.

„Können Sie jetzt," sagte dieser plötzlich, „einmal un- * auffällig Ihr Mädchen hereinrufen?"

Dumke klingelte. Einige Minuten vergingen. Das Mädchen erschien nicht. Er klingelte nochmals.

„Ich werde selbst hinuntergehen und nachsehen," stand er dann auf, „ich lasse Ihnen ein Glas Wein bringen."

* Nach einiger Zeit kam Dumke aufgeregt zurück: „Das Mädchen ist verschwunden!"

Der Beamte erhob sich schnell und trat an das Fenster. „Sehen Sie dort die Telefonzelle?" zeigt er hinunter, „Soeben hat Ihr Mädchen sie verlassen. Sie wird gleich * hier sein."

Da öffnete sich auch schon die Tür des Zimmers und das Mädchen trat wirklich herein: „Sie haben nach mir geklingelt?"

„Ja," sagte der Hausherr, „Sie haben soeben telefoniert?"

Das Mädchen faßte sich schnell: „Ja, an unsern Fleischer; ich mußte etwas bestellen."

„Danke."

Und das Mädchen verließ das Zimmer.

„Wollen Sie nicht den Fleischer anrufen?" fragte der Kommissar.

Dumke ließ sich verbinden: „Hallo! Hier Dumke. Hat soeben mein Mädchen mit Ihnen gesprochen? ja, vor etwa fünf Minuten? Nein? Wirklich nicht? So. Danke."

Der Beamte nahm seinen Hut: „Morgen früh ist alles vorbei. Sprechen Sie nicht mehr mit dem Mädchen und kommen Sie heute nacht nicht herunter. Ich wache für Sie. Gegen sechs Uhr hoffe ich Ihnen Bericht erstatten zu können. Auf Wiedersehen!"

.....

Die Uhr schlug sechs. Dumke fuhr aus seinem Bett hoch. Er mußte doch eingeschlagen sein. Er lauschte angestrengt hinaus. Kein Laut kam aus den andern Zimmern. Er klingelte. Das Mädchen trat herein.

„Sie?" starrte Dumke verwundert. Das Mädchen lächelte: „Ja," sagte sie, „Sie hatten wohl Ihren famosen Kommissar erwartet? Der sitzt schon seit drei Stunden hinter Schloß und Riegel. Ich habe ihn verhaften lassen, als er die Wohnung mit seinen Komplicen ausräumen wollte. Sie haben es ihm ja durch Übergabe des Hausschlüssels sehr bequem gemacht."

Dumke stierte mit großen Augen auf das Mädchen: „Ja aber.....wer sind Sie denn?“ stotterte er.

„Ich? Nicht Mitglied einer Einbrecherbande,“ lachte sie, „sondern Mitglied der Geheimpolizei. Ich war zu Ihnen
* gekommen, um diese Bande dingfest zu machen. Aber entschuldigen Sie, jetzt muß ich gleich auf die Polizei.“

Sie ging. Und kam nicht wieder zurück. Dumke hat weder sie, noch den angeblichen Kommissar, noch den Schmuck seiner Frau, noch seine Anzüge, noch seine Haus-
* möbel wiedergesehen.

Eine Gangstergeschichte

[1] Das Mädchen[1] brachte[2] eine Besuchskarte[3] und sagte: „Ein Herr[4] ist da[5] und möchte Sie sprechen[6].“

Der Besucher trat herein[7]. Es[8] war ein Mann, den Dumke nicht kannte[9]. Er bot[10] ihm einen Stuhl.

„Ich bin von der Polizei[11],“ sagte der Fremde[12], „ich komme[13], um Sie zu warnen[14]. Sie haben doch ein neues Hausmädchen[15]?“

„Ja, ich habe ein neues Mädchen. Sie ist seit acht Tagen[16] bei uns.“

〔訳〕 Eine Gangstergeschichte あるギャング団物語

Das Mädchen 女中が eine Besuchskarte 名刺を brachte 持ってきて und そして sagte 言いました: „Ein Herr ある方が ist da お出でになっております und そして möchte Sie sprechen だんなさまにお目にかかりたい [と申しております]。“

Der Besucher 客は trat herein [部屋へ] 入って来ました。Es それは Dumke ドゥムケが nicht kannte 知らない den ところの ein Mann 男 (ドゥムケが面識のない男) war でした。Er (Dumke) ドゥムケは ihm (dem Besucher) 客に einen Stuhl 椅子を bot 提供した (椅子を指しておかけくださいと言った)。

„Ich 私は von der Polizei 警察の [者] bin です“ [と] der Fremde 客は sagte 言いました, „ich 私は Sie あなたに warnen 警告する um.....zu ために komme やってきたのです。Sie あなたは doch おそらく ein neues Hausmädchen 新しい女中を haben 雇っていられる [でしょうね]?“ „Ja そのとおりです, ich わたしは ein neues Mädchen 新しい女中を habe 雇っています。Sie (das Mädchen) その女中は seit acht Tagen 八日前から (一週間前から) bei uns われわれのもとに ist います (一週間前からうちにきております)。“

〔注〕 [1] **Mädchen** すぐあとで客の言葉にもあるとおりこの Mädchen は Hausmädchen「女中」のこと。 [2] **brachte** 三要形: bringen, brachte, gebracht. [3] **Besuchskarte** また Visitenkarte ともいう。英語の [*visiting*] *card* である。Besuchskarte は der Besuch「訪問」と die Karte「カード」の二つの名詞の複合名詞だが, こういう複合名詞の性をきめるには後の方の die Karte の性にしたがうことになっている。だから Besuchskarte は女性なわけ。この課の見出しになっている Gangstergeschichte も der Gangster (ただしここでは複数) と die Geschichte「物語」の複

合したもので，性は Geschichte の性にしたがって女性である。【4】**ein Herr**「どなたかいらしています」とか「だれかきています」という時，男なら ein Herr だし，女なら eine Dame という。べつに「紳士」というのではない。平俗調なら jemand または einer でもよいところ。これらの不定詞の詳細に関しては「文法詳説編」§6—§9 を参照されたい。【5】**ist da** この da の用法については第 1 課の注〔16〕を参照すること。【6】**möchte Sie sprechen** möchte の三要形：mögen, mochte, gemocht. sprechen の三要形：sprechen, sprach, gesprochen.「基礎入門編」第 26 講「接続法の形」ですでに研究したとおり，möchte は mögen の第二式接続法ではあるが，この形は英の *would like* または *should like* と同じく，ほとんどひとつの独立した動詞と思っていい。つまり möchte は「……したい」，「……を希望する」の意の動詞なのである。will Sie sprechen または wünscht Sie zu sprechen と言ってもおなじ。——つぎに sprechen が人の四格を伴って *jemand*[*en*] *sprechen* となれば，これはおきまり文句で英語の *to see someone* と同様「人と面会する・面談する」の意。【7】**trat herein** 三要形：hereintreten, trat herein, hereingetreten. 不規則動詞の treten に分離前綴の herein がついた形。英語なら *to step in* [*here*] ぐらいのところ。訳ではできるだけ文脈をはっきりさせるために，たとえばここなら「部屋の中へ」などと注釈的な訳語を入れてある。

紹介する際の es 【8】**Es** これは es の重要な用法のひとつで，聴者・読者にむかってある事物または人物をあらためて紹介する場合の「それは……である」の「それ」にあたる。性数のいかんにかかわらず es（または das, dies, その他一般に中性形）を用い，動詞 sein は紹介する名詞が複数なら複数形を用いる。

(1) Eine Gestalt tauchte aus dem Nebel hervor. *Es war* ein verirrter Wanderer.

ひとつの人の姿が霧の中から現われた。それは道に迷った旅人であった。

(2) Wir sichteten am Horizont zwei Rauchfahnen. *Es waren* in der Tat deutsche Schlachtschiffe.

われわれは地平線に二条の煙がたなびくのを認めた。それはほんとうにドイツの戦闘艦であった。

【9】**kannte** 三要形：kennen, kannte, gekannt. 【10】**bot** 三要形：bieten, bot, geboten.「人におかけくださいと言って椅子をすすめる」のが *einem einen Stuhl bieten.*

所属を示す von 【11】**Ich bin von der Polizei.** は Ich bin einer von der Polizei. の意で，単に von…… だけの句で「……に属する者」を意味する。おなじように Er ist vom Komitee.「かれは委任会の一員である」，Ich bin vom Verein.「私

は協会の者ですが」といったような用い方をする。

[12] der Fremde これは「新ドイツ語の基礎」の第 23 講で述べた「形容詞の名詞化」の一例である。女なら die Fremde となる。**[13] komme** これは現在形だが，kommen という動詞は現在形を用いて「……来ました」の意になるところが特徴である。「あなたはどこから来ましたか?」は Woher kommen Sie? または Wo kommen Sie her? がふつうで，Woher sind Sie gekommen? とはふつう言わない。**[14] um Sie zu warnen** *um……zu* の用法に関してもう一度「基礎入門編」第 20 講「zu を伴う不定句」を読みかえすこと。

平叙文形の疑問文 **[15] Sie haben doch ein neues Hausmädchen?** これがもしも「お宅に新しい女中がいますか?」とたずねるのなら：Haben Sie ein neues Mädchen? と諸君がすでに知っている形になるのだが，ここはちょっと違って「お宅にはもちろん新しい女中がいるでしょう?」である。本来の疑問文ではなくて，「……でしょうね」と頭から相手の答えを肯定または否定にきめてかかる時には，本文のように平叙文の形に Fragezeichen「疑問符」をつけて問うのである。こういう場合にはよく doch「もちろん」や doch nicht「まさか」を助勢詞として挿入する：Sie kommen *doch* morgen früh zu uns?「あなたはもちろん明朝私たちの所へいらっしゃるでしょうね?」こういう種類の疑問文の後（または前）にはよく nicht wahr? や nicht? またはくだけた会話では ja? とか gelt? などを追加する。英語なら *is it not?* とか *do you?* とか *are you not?* など，その文によって違うわけだが，ドイツ語では前に立つ文によって変わるということはない。いつでも nicht wahr? である。Sie entschuldigen mich, *nicht wahr*?「かんべんしてくださるでしょうね?」Du kommst mit mir? *Ja*?「いっしょに行こうよ，ね?」

[16] seit acht Tagen「一週間」のかわりに「八日」と言ったり「二週間」のかわりに「十四日」と言ったりするくせがある。*binnen acht Tagen=within a week, vor acht* Tagen=*a week ago, über acht Tage=this day week; heute in vierzehn Tagen*（または *über vierzehn Tage*)=*this day fortnight*（または *a fortnight hence*), *heute vor vierzehn Tagen=a fortnight ago*（または *since*).

[2] „Ich weiß. Dieses Mädchen wird aber[17] nicht lange bei Ihnen bleiben[18]. In vier Tagen[19] werden Sie sie nicht mehr[20] bei Ihnen finden. Sie und manche andere Dinge dazu[21]: silberne Löffel[22], den Schmuck Ihrer Frau, vielleicht

auch Ihre Anzüge. Kurz[23], das Mädchen ist Mitglied[24] einer Einbrecherbande."

„Was[25]?" Herr Dumke wurde blaß.

„Jawohl, Sie ist Mitglied einer Gangsterbande. Der Einbruch ist auf Montag Nacht[26] geplant, wie wir soeben erfahren haben[27]."

„Ja.....aber.....sagen Sie mir, was soll ich tun[28]?"

〔訳〕 „Ich 私は weiß 知っています (それは存じております)。aber しかし Dieses Mädchen この女中は nicht lange 長くは bei Ihnen お宅に wird.....bleiben 留 [まらない] でしょう。In vier Tagen 四日後には Sie あなたは sie 彼女を nicht mehr もはや bei Ihnen お宅に werden.....finden 見出 [さないでしょう]。Sie 彼女と (彼女もいなくなるが) und.....dazu そのほかに manche andere Dinge いろいろなほかの品物も [見えなくなるでしょう]: silberne Löffel 銀の匙や, den Schmuck Ihrer Frau 奥さんの装身具や, vielleicht おそらく auch また Ihre Anzüge 貴方の着物をも [もはや見出さなくなるでしょう]。Kurz かんたんに言えば das Mädchen あの女中は Mitglied einer Einbrecherbande ある強盗団の一員 ist なのです。"

„Was 何ですって?" Herr Dumke ドゥムケ氏は wurde blaß 蒼白になった。

„Jawohl そうですとも, sie 彼女は Mitglied einer Gangsterbande あるギャング団の仲間 ist なのです。wir われわれが soeben いましがた erfahren haben 聞きこんだ wie ところでは, Der Einbruch 押し込みは aut Montag Nacht 月曜日の夜を期して ist.....geplant 計画されています (月曜の夜に押し込むことになっています)。"

„Ja へえ..... aber ところで..... Sie 貴方は mir 私に sagen 言ってください (お伺いいたしますが), ich 私は was 何を soll.....tun なすべきでしょうか (私はどうしたらいいのでしょうか)?"

〔注〕 **[17] aber 接続詞や副詞のある種のもの (きわめてひんぱんに用いられ, 副詞と**

aber, nämlich などの位置

も接続詞ともはっきり定められない, また定める必要のない助辞的なもの) はふたつの独立文章の間に立たないで, 次にくる文章の中へまぎれ込んでしまう傾向がある。日本語でも「君が見た例の男というのはしかしながらぼくの友人である」なぞと言う。「しかしながら」は元来文頭におくべきものだが, 重要な文句を言うのを急ぐために後に貶置されたのである。aber, nun, nun aber, ja, jedoch, dann, nämlich, zum Beispiel, daher, folglich, demnach などは代表的なものである。

(1) Du sagst, ich sei feige; das ist *aber* ganz falsch.
君は僕のことをひきょうだと言う, それはしかしながら全然うそだ。

(2) Für unser Lebensglück ist *demnach* das, was wir sind, die Persönlichkeit, durchaus das Erste und Wesentlichste. (*Schopenhauer*)

したがってわれわれの人生の幸福にとっては，われわれが何者であるかということ，すなわち人格なるものが，徹頭徹尾第一義的かつもっとも重要なるものである。

(3) Hieraus *nun* folgt, daß dem Menschen von außen viel weniger beizukommen ist, als man wohl meint. (*Schopenhauer*)

さてその点から考えると，人間というものは，外界からは，ひとがふつう考えているほど，それほど悪影響をこうむりやすいものではない，ということになっくる。

[18] bleiben 三要形：bleiben, blieb, geblieben. **[19] in vier Tagen**「四日以内に」という意味ではなく，「四日後に」ということである。(nach Verlauf von 4 Tagen 四日が経過したのちに，とおなじ意味)：Die Arbeit wird erst *in acht Tagen* fertig.「この仕事は一週間後にやっとできあがる（一週間後でなければ完成しない)」。Ich werde nun *in drei Monaten* achtzig Jahre alt.「私はあと三月すると八十才になります」。**[20] nicht mehr** mehr を否定詞といっしょに用いると「もはや……でない」の意になることは，英語からの類推 (Analogie) で分かると思う。(*nimmermehr* だけは例外で「決して・どんなことがあっても」で，「もはや」の意味はない)：Er ist *nicht mehr* jung.「彼はもはや若くはない」。Er hat *kein* Kind *mehr*.「彼はもはや子供をもたない」。Er besitzt *nichts mehr*.「彼はもはや何物も所有しない」。Er ist *nirgend mehr* zu sehen.「彼はもはやどこにも姿がみえない」。So etwas tue ich *nimmermehr*.「私はそんなことは決してしない」。

「添加」または「随伴」の dazu **[21]** この場合の dazu は前後関係からもわかるように添加 (Hinzufügung) または随伴 (Begleitung) を意味している。「それに添えて」，「そのほかになお」，「それと同時に」である。これがよく *noch dazu* または *dazu noch* または *dazu auch* の形でも用いられる：Wir aßen Salat *dazu*.「われわれはそれといっしょにサラダを食べた」。Sie ist arm und *noch dazu* kränklich.「彼女はびんぼうな上に病身だ」。Die Gefangenen arbeiten und singen *dazu*.「捕虜たちは仕事をしながら歌っている」。„Sie und manche andere Dinge dazu“ はもちろん前文の中に入るべきものだが，念を入れて相手の注意をひくために抜き出したもの。

物質名詞から作った形容詞 **[22] silberne Löffel** silbern「銀製の」は das Silber「銀」という名詞から作った形容詞である。この種の物質名詞から形容詞を作るには名詞に形容詞語尾 —ern または —en を添えるのが通則である：Stein, *m*.「石」→

steinern「石[製]の」, Glas, *n.*「ガラス」→gläsern「ガラス[製]の」, Holz *n.*「木材」→hölzern「木製の」, Horn, *n.*「つの」→hörnern「つの製の」, Ton, *m.*「粘土」→tönern「粘土[製]の」, Wachs, *n.*「ろう」→wächsern「ろう製の」, Stahl, *m.*「鋼鉄」→stählern「鋼鉄製の」, Zinn, *n.*「すず」→zinnern「すず製の」; Diamant, *m.*「ダイヤモンド」→diamanten「ダイヤモンド[製]の」, Messing, *n.*「しんちゅう」→messingen「しんちゅう[製]の」。

断わり書きの表現法 【23】 **Kurz**=*um es kurz zu machen* (または *sagen*), *kurz gesagt*=*to put it briefly*. kurz「要するに」は「um zu と不定法の結合形」もしくは「kurz と過去分詞の結合形」の省略と見てよい。じじつ，断わり書きはこれらふたつの形を基本にする場合がひじょうに多い。二三の例を挙げておく：

〔A〕 [um] zu と不定法の結合形

um ein Beispiel *anzuführen*	一例を挙げると
um ganz offen *zu sein*	ごくあからさまにいえば
um es kurz *zu machen*	これを要するに

〔B〕 過去分詞と結合する形

offen gesagt	うち明けていえば
offen gestanden	(同上)
genau betrachtet	仔細に観察すると
etwas *eingeschlossen*	あるものをも含めて
etwas *ausgenommen*	あるものは除外して
unter uns gesagt	ここだけの話だが
alles in allem genommen	総括していえば，これを要するに
von etwas *abgesehen*	ある物は論外として
etwas *abgerechnet*	ある物は別として
streng genommen	やかましくいうと

以上のふたつの形が断わり書きとしてもっとも多く使われるものだが，なおそのほかにつぎの文例に見られるような型もあるからついでに覚えておくこと。

〔C〕 *was* das schlimmste *ist* などの型

Beschäftigte Leser sind selten gute Leser. Bald gefällt ihnen alles, bald nichts; bald verstehen sie uns halb, bald gar nicht, bald, *was das schlimmste ist*, unrecht.

「用務に忙殺されている(つまり心身にゆとりのない)読者がよい読者である

ことはまれだと言ってよい。ある時は何を読んでも気に入るが，ある時は何を読んでもお気に召さない。われわれ[の書く物]を読んで半わかり[ぐらいはいい方で]時にはぜんぜんわからないこともある。もっともいけないことには，時には正しくない理解の仕方をする」。

〔D〕 *wie* man sagt の型

Ich kann meine Tochter nur dem geben, der, *wie man sagt*, nicht bloß Liebe im Herzen, sondern auch Brot im Schrank für sie hat.

「うちの娘は，俗にひとがいうように，娘にたいして心に愛情をたくわえているだけでなく，戸棚にパンをたくわえておくような男でなければ，嫁にやれない」。

Die Herren Journalisten sind, *wie ich merke*, gefährliche Leute, und es ist gut, ihr Wohlwollen zu erhalten.

「新聞記者諸公というものは，私の見たところでは，危険な人間です，だからかれらの好意をつなぎとめておくことはよいことです」。

〔E〕 *oder* besser の型

Jede Wahrheit gilt nur für diejenigen Menschen, die sie anerkennen, *oder besser*: anerkennen wollen.

「真理はすべて，それを承認する，もっとはっきりというと，それを承認するだけの意思を有する人間だけに通用する」。

[24] Mitglied 冠詞がつかないのは「職業・資格・国籍などを示す名詞を述語として用いる」場合の通則で，つまり形容詞的なものと考えるのである。 **[25] Was?** Was sagen Sie da?「何ということをおっしゃるのですか?」の省略形と考えてもよければ，一種の間投詞と考えてもよい。 **[26] auf Montag Nacht** この auf は「予定の時期を示す auf」とでもいうべきもので，必ず四格である。たとえば「私は明日招待を受けています」は Ich bin auf morgen eingeladen.「会議は今月十日に予定されている」は Die Sitzung ist auf den zehnten dieses Monats anberaumt. **[27] wie wir soeben erfahren haben** この wie の用法については本課の注 23 の D を参照すること。 **[28] was soll ich tun?**「私は何をなすべきであるか?」= *What shall I do? What am I to do?*

[3] „Nichts. Verhalten[29] Sie sich wie bisher. Vor Montag[30] haben Sie nichts zu befürchten. Wir werden für

alles sorgen[31]. Montag vormittag werde ich nochmals zu Ihnen kommen. Bis dahin sprechen Sie mit niemand über die Angelegenheit. Vielleicht würde es besser sein[32], auch Ihrer Frau nichts davon zu sagen. Ich meine[33], um sie nicht unnötig aufzuregen[34]. Verlassen Sie sich auf[35] die Polizei. Also, auf Wiedersehen[36]!"

Mit diesen Worten war der Beamte weg[37].

Die Tage vergingen[38] schnell. Am Montag bat das Mädchen beim Frühstück: „Darf[39] ich heute ausgehen, gnädige Frau[40]?" Die Hausfrau nickte. Aber Dumke sagte schnell: „Nein, heute nicht[41]! Heute bleiben Sie zu Hause! Wir werden Gäste haben."

Es klingelte[42] an der Haustür. Das Mädchen ging hinunter, um zu öffnen[43].

〔訳〕 „Nichts 何も〔する必要はありません〕。Sie あなたは wie bisher 今までどおりに（ふだんとかわりなく）Verhalten.....sich 行動してください。Vor Montag 月曜日の前は（月曜日になるまでは）Sie あなたは zu befürchten 気遣うべき nichts 何物をも haben 持〔ちません〕（少しもこわがることはありません）。Wir われわれが（警察の方で）für alles あらゆることに対して werden.....sorgen 配慮をいたしまし う（万端の手配をいたします）。Montag vormittag 月曜日の午前中に ich 私は nochmals もういちど zu Ihnen あなたのところへ（お宅へ）werde.....kommen まいるでしょう。Bis dahin その時までは Sie あなたは über die Angelegenheit この問題に関しては mit niemand だれとも sprechen 話を〔しないでください〕。Vielleicht おそらく auch Ihrer Frau 奥さんにも davon そのことについて nichts.....zu sagen 何も言わない es 方が würde.....besser sein いいでしょう。sie 奥さんを unnötig 不必要に um..... nicht.....aufzuregen 興奮させないために Ich meine という意味です。auf die Polizei 警察にたいして Verlassen Sie sich 信頼をおいてください（安心して警察に任せてください）。Also では，auf Wiedersehen さようなら!"

Mit diesen Worten これらの言葉とともに（こう言いながら）der Beamte 警官は war.....weg 立ち去りました。

Die Tage 日日は schnell すみやかに vergingen 過ぎさりました（どんどん日がたっていきました）。Am Montag 月曜日になると das Mädchen 女中は beim Frühstück 朝食の時に bat ねがいました：„ich 私は heute 今日 Darf.....ausgehen 外出してもよろしいでしょか，gnädige Frau 奥さま?" Die Hausfrau 奥さんは nickte うなずきました。Aber しかし Dumke ドゥムケは schnell 急いで sagte 申しました：„Nein

いや, heute nicht 今日はいけない! Heute きょうは zu Hause 家に bleiben Sie いなさい! Wir われわれは Gäste 客を werden.....haben もつだろう (うちにお客がくるはずだから)。"

an der Haustür 玄関のドアのところで Es klingelte [呼び鈴が] 鳴りました。Das Mädchen 女中は um zu öffnen [ドアを] 開けるために ging hinunter 下へおりていきました。

[注] 【29】 **verhalten** 三要形: verhalten, verhielt, verhalten. この動詞は不規則動詞の halten に非分離前綴の ver がついたものであるから, halten の変化をそのまま適用すればよい。*sich verhalten* という再帰動詞は, 本文のように, 動作主体が人間の場合には *sich benehmen* と同じで「.....の行動をする・態度をとる」の意で, 英語の *to behave* (または *conduct*) *oneself* と軌を一にする。したがって何か「.....」に相当する規定がつくのが特徴である。本文では wie bisher「在来どおりに」と接続詞に導かれた句に規定されているが, sich *neutral* (*passiv, ruhig*) verhalten=*to maintain a neutral* (*a passive*) *attitude, to keep quiet* のような形容詞に規定されることもある。要するに wie? に答えるものなら何でも規定詞になることができる。【30】 **Vor Montag** これは明らかに「月曜日までは」と強調先置された形で, したがって主語と定形の位置が逆順になった。定形正置文に直せば Sie haben vor Montag nichts zu befürchten. となる。

動詞の前置詞支配 【31】 **sorgen** *für etwas sorgen=to provide for a thing*「あるこの配慮をする・手配をする」という成句に見られるように「動詞のある一定の意味にしたがって一定の前置詞を要求する」現象を動詞の前置詞支配という。動詞の前置詞支配のうちでもっとも注目を要するのは本文のような自動詞の場合と再帰動詞 (四格の再帰代名詞をとるもの) の場合である。一二の例を挙げておく:

(1) 自動詞の場合

an etwas[IV] *glauben=to believe in* (*the existence of*) *something, to put one's faith* (または *confidence, trust*) *in something*

aus etwas *bestehen=to be composed* (*to consist*) *of something*

für etwas *gelten=to pass for* (*to be considered as*) *something*

von einem (*etwas*) *abhangen=to depend* (*to be dependent*) *on someone* (*something*)

(2) 再帰動詞の場合

sich von etwas *überzeugen=to make sure of a thing*

sich an etwas *gewöhnen=to get accustomed* (または *used*) *to a thing*

sich mit etwas *beschäftigen*=*to work at a thing*
sich für etwas *interessieren*=*to interest oneself in something*

[32] **würde es besser sein**「……した方がよい」は *Es würde besser sein,……zu……* の形が常套句だから，このまま暗記すること。[33] **Ich meine** 一種の挿入句的な断わり書きで英語の *I mean* と同様に，前にいったことを言い換えて説明する句。「つまり」とか「その意味はこうだ」というぐらいのところ。[34] **aufzuregen** *einen aufregen*=*to agitate* (*excite*), *to alarm* (*disturb, unsettle, upset*)「興奮させる・驚かす・心配させる」。[35] **Verlassen Sie sich auf……** *sich auf einen verlassen*=*to relay* (*depend*) *upon a person, to place confidence in a person*「ある人を頼りにする・信頼する」。もちろん，einen の代わりに etwas を置けば「あることを当てにする」という意味になる。ついでに *Sie können sich darauf verlassen, daß……*=*you may rest assured* (または *confident*) *that……* もしくは簡単に *darauf kannst du dich verlassen* の成句も覚えておくこと。意味はどちらも「そのことは当てにしてよろしい」である。

よく使われる間投詞的な表現 [36] **auf Wiedersehen** 分解すると Wiedersehen「再会」auf「を期して」である。英語でこれに相当する表現を求めれば，まず *till we meet again* や *I hope soon to see you again* などの小笠原流からフランス語を借りて *au revoir* (オー・ルヴォアール) と言ったり，かんたんな *till next time* を通って *good-by*[*e*] までいろいろである。つぎにこの種のよく使われる間投詞化しつつあるものを挙げておく：

adieu! (adĭ′φː)	さようなら
ade!	(同上)
adjes!	(同上)
leben Sie wohl!	ごきげんよう
leb wohl!	(同上)
guten Tag!	こんにちは，さようなら
Tag! (俗調)	(同上)
guten Morgen!	おはよう
Morgen! (俗調)	(同上)
guten Abend!	こんばんは，さようなら
Abend! 'nabend! (俗調)	(同上)
gute Nacht!	おやすみなさい
willkommen!	ようこそ

bitte!	どうぞ
danke!	ありがとう
nein, danke!	いえ結構です・もうたくさんです・まっぴらです
wieso!	どうして・なぜ・それはまたどうしたわけで
eben!	しかり・そのとおり・それだよつまり
stimmt!	しかり・そのとおり
jawohl! jawohl!	はい・はいはい・はっ
schön!	よし・よろしい・かしこまりました
getroffen!	そのとおり・当たった
nicht wahr?	そうでしょう・ね
siehst du?	ね? そうだろう? いいかい?
gelt? (方言)	そうだろう?
halt!	待った! 止まれ!
bravo!	すてき・でかした! その調子!
schade!	おきのどくさま! 惜しいかな!
leider!	遺憾ながら・やむをえぬ
da!	それ! (これを見ろの意) どうだ! ほら!
hier!	はい! (出席していますの意)
hoch!	ばんざい!
vivat (víːvat)!	(同上)
Heil [*dir*]!	ばんざい! (個人を歓迎して)

[37] **weg** ここは „war der Beamte weggegangen." とでもすれば初学者にははっきりすると思うが, gehen や kommen といった動詞は方向規定詞があれば容易に推定することができるので, よく省略される。話法の助動詞も方向規定詞だけで本動詞を省略する用法をもっている。[38] **vergingen** 三要形: vergehen, verging, vergangen. いうまでもなく不規則動詞 gehen に非分離前綴 ver- がついた動詞。[39] **darf** 三要形: dürfen, durfte, gedurft.

装飾的枕詞と限定的な形容詞 [40] **gnädige Frau** この gnädig という形容詞は「慈悲深い」という本来の意味で用いられているのでなく, たんに上長とか身分の高い人にたいする敬語として, つまり肩書 (Titel) のようなものとして用いられている。広い意味の Epitheton ornans「装飾的枕詞」の一種と考えてよい。Epitheton ornans の典型的なものは der *edle* Hagen や der *stolze* Siegfried (いずれも古詩 Nibelungen

の英雄たち), der *große* Cäsar など，固有名詞に冠せられるもの，それから本文のように名詞とともに一種の肩書き的になったもの，つぎには das *reiche* Leben (いくつかある人生のうちで reich なものという意味でなく，人生はそもそも reich であるということ), die *edle* Kochkunst (たんに料理術を讃美したにすぎない), der *kühle* Wein (葡萄酒を清冷なる薫酒と飾っただけ) などである。この装飾的 (epithetisch) な形容詞にたいして eine *blaue Blume*「青い花」とか ein *kluges* Kind「りこうな子供」などの blau, klug を限定的 (determinierend) な形容詞と呼ぶ。文学書の翻訳によくみる誤訳は，上の epithetisch な形容詞を determinierend な意味にとったものがかなり多い。かつて新聞の三面に魚屋のおかみさんが泥棒を捕えた話がのっていたが，話がふたりの格闘の段になると記者は思わず「女房の力やまさりけむ」といった文句を使っていた。西洋人ならこういう時の女房に一つの Epitheton ornans を吝まないだろう。Aber der Sieg war der *kampflustigen* Fischhändlerin vorbehalten.「ところが勝利は勇敢な魚やのおかみさん [の方に] とっておかれていた」とか Aber die Übermacht schien auf der Seite des *stolzen* Fischweibes zu liegen.「ところが優勢は誇らかなおかみさんの側にあるようにみえた」とかいうであろう。このごろは民主主義ばやりだからやたらに本文のような Epitheton ornans を乱用すると封建的 (feudal, feudalistisch) と言われるかもしれないが。

一局部の強調：否定する nicht の位置 【41】 **heute nicht**「今日はいけない」だから *nicht heute* とすべきである——nicht は否定される文肢の前に置かれるのだから——が，文章中の一局部・ひとつの文肢・ひとつの文句・ひとつの概念にだけ力を入れ (*Nachdruck legen*) て，それだけを否定する際には，力のはいる文句だけを特に文頭に置いて，nicht を最後 (動詞以外の要素の最後位) にもってくることになっている。heute nicht だけでは心細いだろうから，もっと長い複雑な文例を下に挙げよう：

(1) *So schlau* war er trotz seiner langjährigen Praxis *nicht*.
多年の経験をつんでいるとはいうものの，それほどの狡猾さは彼にはなかった (逐字訳：彼は，多年の経験にもかかわらず，それほど狡猾ではなかった)。

(2) *So schlimm* liegt hier also die Sache noch *nicht*.
だからまだこの際はそれほどひどい状態になっているとは言われない (逐字訳：それゆえに，ここでは，事情はまだそんなに悪くはない)。

(3) *So leicht* kann man auf einem Gebiete, wo man es mit unzähligen Nebenbuhlern zu tun hat, *nicht* zum Ziele gelangen.
多数の競争者を相手にする方面のことであってみれば，まさかそう簡単に

目的を遂げることもできまい（逐字訳：多数の競争者たちを相手にするような領域において，ひとは，そんなに容易に目標に到達することはできない）。

(4) *Künstlerisch* ist das Werk trotz seiner verschiedenen Vorzüge *kaum* zu nennen.

この作品は，なるほどいろいろな長所をもってはいるが，芸術的とはどうもちょっと名づけにくい。

【42】**Es klingelte**「基礎入門編」の §124「非人称主語 es について」の説明を再読されたい。

他動詞の自動詞化 【43】**um zu öffnen** これは um die Tür zu öffnen とすべきところを，Kontext から判断がつくので目的語 die Tür を省略した形。このように当然要求さるべきはずの四格目的語をはぶく用法を「他動詞の自動詞化」または「他動詞の絶対的用法」と呼んでいる：

他 動 詞	自 動 詞 化
etwas trinken 飲む	*trinken* (主として) 飲酒する
einen lieben 愛する	*lieben* (主として) 恋する
etwas führen 導く	*führen* (zu etwas) 通ずる

以上の例でもわかるように，自動詞化されると，意味が多少とも限定され，特殊化されることが多い。つぎにやや困難な例を挙げておく：

(1) Die Gäste müssen im Vorzimmer *ablegen.*

客は控えの間で［帽子・外套などを］ぬがなくてはならぬ。

(2) Ich suchte mit ihm *anzuknüpfen.*

私は彼と［関係を］つけようと試みた。

(3) *Schicken* Sie bitte zu mir, wenn Sie zurück sind.

おかえりになりましたら，［使いの者を］私のところへよこしてください。

(4) Heute *haben* wir *frei*, da unser Lehrer nicht da ist.

今日は僕たちの先生がいないからお休みだ。

(5) Die Entfernung *mildert*, *verschönt*: nicht nur im Raum, sondern auch in der Zeit.

距離というものは緩和し，美化する，空間的距離ばかりでなく時間的距離も。

[4] Nach einem Augenblick kam sie mit dem Polizeibeamten zurück. Der Beamte grüßte freundlich die Frau des Hauses und fing an: „Ich komme....."

„Einen Augenblick[44]," bat Dumke und wandte[45] sich an seine Frau: „du entschuldigst uns[46] wohl ein paar Minuten? Es handelt sich nämlich um[47] geschäftliche Dinge."

Die Herren traten ins Rauchzimmer.

„Nun?"

„Haben Sie keine Sorge," sagte der Beamte und nahm[48] in einem Sessel Platz[49], „die Sache[50] läuft[51], wie ich vorausgesehen habe. Wir erwarten[52] den Einbruch gegen[53] drei Uhr morgens. Unsere Leute[54] sind auf der Straße verteilt. Ich persönlich[55] werde diese Nacht in Ihrer Wohnung bleiben."

〔訳〕 Nach einem Augenblick 一瞬の後に (まもなく) sie 女中は mit dem Polizeibeamten [例の] 警官といっしょに (警官を案内して) kam.....zurück ひきかえして来ました。Der Beamte 警官は freundlich 愛想よく die Frau des Hauses 奥さん [に] grüßte 挨拶しました und そして fing an [話を] 始めました: „Ich komme..... じつは....."

„Einen Augenblick ちょっと [お待ちください]" [と] Dumke ドゥムケは bat 請いました (言いました) und そして an seine Frau 自分の妻の方へ wandte sich ふり向きました: „du おまえは wohl きっと ein paar Minuten 二三分ばかりの間 uns 私たち entschuldigst を許してくれるだろうね (私たちはちょっとの間失礼するよ――「座をはずしてくれ」の意)? nämlich というのは Es handelt sich.....um geschäftliche Dinge 商売上の話があるのでね。"

Die Herren 男たちは ins Rauchzimmer 喫煙室へ trat 入りました。

„Nun どうですか?"

„Haben Sie keine Sorge ご心配なさることはありません," [と] der Beamte 警官は sagte 言いました und そして in einem Sessel ひとつの安楽椅子に nahme..... Platz 席を取りました (安楽椅子にかけました), „die Sache 事件は ich 私が vorausgesehen habe 予想した wie とおりに läuft 進行しています。Wir われわれは den Einbruch 押しこみを gegen drei Uhr morgens 朝の三時ごろに erwarten 予期しています (押しこみは朝の三時ごろに行なわれるみこみです)。Unsere Leute われわれの部員が auf der Straße 街上に sind.....verteilt 分散されています (街上の [要所要所に]

配置されています)。Ich persönlich 私自身は diese Nacht 今夜は in Ihrer Wohnung あなたの住居に werde.....bleiben とどまるでしょう (お宅にいるつもりです)。"

〔注〕【44】**Einen Augenblick** Bitte, warten Sie *einen Augenblick* (*ein wenig*). を簡略化したもの。親しい間柄なら *Warte mal!* とか *Wart' doch ein wenig!* と言うところである。英語も *Just wait a bit* (*a second*)*!* というが，このごろ街で気楽に使われるのに *Just a minute!* がある。【45】**wandte** 三要形：wenden, wandte, gewandt. 「なにか頼みごとやかけ合いごとがあってある人の方へ身を向ける」というのがこの *sich an einen wenden* である。【46】**du entschuldigst uns** これは一種の作法上の辞令 (Höflichkeitsformel, Höflichkeitsphrase) で，「しばらく別室へ遠慮してくれないか」という時に用いる。Sie を用いる間柄ならば *Entschuldingen Sie!=I beg your pardon!* とか *Bitte, entschuldigen Sie mich!=I beg to be excused!* (*Excuse me!*) などというところ。このほか「失礼!」に当たる言い方には *Verzeihen Sie!* とか *Verzeihung!* などもある。

非人称熟語 【47】**Es handelt sich.....um.....**「基礎入門編」第 24 講において非人称動詞は大部分「天候気象，体内腕裡の主観的現象」を指すものであることを説明しておいたが，これ以外のものは大部分熟語である。本文の *es handelt sich um etwas* もそうした熟語で，しかも最もひんぱんに用いられるもののひとつである。直訳すると「それはある事を中心にしてそれ自身を論議する」であるが，意味は「問題の中心は etwas である」，あるいは「ここでは etwas が問題である」ということ。つまり「それはつまり.....なのです」である。たとえば，人が死んだとして，自殺か他殺か，といったような時に，「自殺だ」ということを Es handelt sich um einen Selbstmord と言うなど。——なお，このほか，ふつうよく出てくる非人称的熟語の主なものを挙げておく：

(1) **es geht einem gut (schlecht)**「からだの調子がよい(悪い)」，「景気がよい(よくない)」，「ふところ具合がよい(悪い)・めぐり合わせがよい(悪い)」
Wie geht es Ihnen, Fräulein Amalie?
アマーリエさん，ごきげんはいかがですか?

(2) **es liegt einem viel (wenig) daran**「ある事があるひとにとって大切である (たいした問題ではない)」
Es liegt ihm viel daran, gute Note nach Hause zu tragen.
良い点をもらうことばかり彼は考えている。

(3) **es ist einem viel daran gelegen**「あるひとにとってあることが関心の中心である」

Mir ist nichts an deiner Gunst gelegen.

君の好意なぞ屁とも思わないよ。

(4) **es kommt auf etwas an**「肝要な点はそこだ・あることのいかんによってきまる」

Auf Ruhm und Erfolg kam es ihm nicht an.

彼は名声と成功を問題にしたのではなかった。

Am Ende *kommt es nicht darauf an*, was man tut, sondern nur *darauf*, wie man es tut.

畢竟するにわれわれが何をなすかが問題なのではなくて，いかにそれをなすかが問題なのだ。

(5) **es ist einem um etwas zu tun**「あるひとにとってある事が問題だ」

Manchem Volksführer ist es nicht etwa *um das Wohl des Volks*, sondern nur *um seinen eigenen Ruhm zu tun.*

民衆指導者の中には，民衆の幸福の為も計らずに，たんに自己の名声をあげることのみをこれ事とする者がたくさんいる。

(6) **es handelt sich um etwas**「あることが問題である」

Kurz vor der Abstimmung wachte er von seinem Nickerchen auf und gab seine Stimme, ohne zu wissen, *worum es sich handelte.*

投票のまぎわになってから彼はいねむりから覚めた，それで何が問題になっているのかも知らずに投票した。

(7) **es kommt zu etwas**「あることを見るにいたる」

In verschiedenen Teilen der Hauptstadt *ist es zu blutigen Kämpfen gekommen.*

勢いのおもむくところ首都のそこここで流血の闘いを見るにいたった。

(8) **es gilt etwas**[IV] **(es gilt um etwas)**「事……に関す」

Es gilt um das Fallen und Steigen unseres Vaterlandes.

われわれの祖国の興亡に関するときだ。

(9) **es gibt etwas**[IV]「ある物が存在する」

Es gibt keinen Ausweg!

もはや施すすべがない！ もはや打開の路がない。

【48】 **nahm** 三要形：nehmen, nahm, genommen.

熟語動詞の配語法について 【49】 **nahm……Platz** これは *Platz nehmen*「席をとる・腰をおろす」という熟語だが，Platz があたかも分離動詞の分離前綴のような位置

を占めている。この現象は Platz nehmen だけに限るものでなく，熟語動詞の全般に通ずるものである。要約すると，熟語動詞における補足的文肢 (Platz nehmen における Platz) は，不定法 (nehmen) と一語をなさぬ点のみが分離前綴と異なり，配語法その他の扱い方は分離前綴と同じである。つぎに最もふつうに用いられる熟語動詞を挙げておく：

kennen lernen	(他) 近づきになる
spazieren gehen	(自) 散歩に行く
vorhanden sein	(自) [手もとに] ある
abhanden kommen	(自) 無くなる，切れる
zugrunde gehen	(自) 滅びる
zugrunde richten	(他) 滅ぼす
zustande kommen	(自) 成立する
vor sich gehen	(自) 行なわれる，起こる
mit sich bringen	(他) 結果として伴う
zu sich kommen	(自) 正気づく
Anstand nehmen	(自) 躊躇する
Fuß fassen	(自) 地歩を占める
in Ordnung bringen	(他) 整理する
in Angriff nehmen	(他) 着手する，手をくだす

(1) Schlechte Geschäftsführung *bringt* unvermeidlich eine Krise *mit sich* und der Betrieb *geht* bald *zugrunde.*

拙劣な経営は必ず危機を招くもので，やがては事業が破滅する。

(2) Die Auflösung der kapitalistischen Staatsordnung *geht* zwar sehr langsam aber doch sicher und Schritt vor Schritt *vor sich,* da kann man nichts machen.

資本主義的国家秩序の崩壊はなるほどきわめて緩かではあるが，しかし確実に歩一歩と起こっている，これはなんともしょうのない勢いである。

(3) Er weiß, daß Gefahr dabei ist, und *nimmt Anstand,* das Werk *in Angriff* zu *nehmen.*

彼はそれが危険であることを知っているものだから，その仕事に着手することをためらっている。

(4) Er kennt seine eigene Geschäftslage nicht und schwärmt

weiter; wenn er eines Tages *zu sich kommt*, so wird er sehen, daß er sich, seine Familie und alles *zugrunde gerichtet* hat.

彼は自分の商売の状況も知らずに遊蕩しつづけている；いつか正気にかえったら，自分も，自分の家族もすべてのものも滅ぼしてしまったことに気づくだろう。

[50] die Sache この Sache は「事情・事態・形勢」という意味で，英語の *That's how matters stand.* の *matters* や *Things have greatly changed since then.* の *things* などに相当する。*die Sache läuft, wie.....* はしたがって「事態は.....の通りの経過をたどっている」の意。**[51] läuft** 三要形：laufen, lief, gelaufen. **[52] erwarten** この erwarten を「期待する・希望する」つまり事が起きるのをわざわざ待ち望んでいる意味にとるととんでもない誤りである。ここはそうではなくて「なにか危険なこと・嫌なことが起こりはしないかと思う」あるいは「起こりはしないかとおそれる」という意味である。**[53] gegen drei Uhr** gegen は四格支配の前置詞だが，時を示す言葉がつぎにくると「ほぼ.....のころ」という意味になる：*gegen drei Uhr* morgens＝*about three o'clock in the morning*, *gegen Ende* der Woche＝*towards the end of the week.*

複数形のみの名詞 Pluralia tantum **[54] Leute** ここでは「部員」「部下」の意味。Leute は単数形を欠く名詞だが，ほかにもよく用いられるもので複数だけの名詞がいくつかある。おもなものを挙げておこう：

Eltern	両親	Ferien	休暇
Alpen	アルプス	Pyrenäen	ピレネー
Niederlande	オランダ	Trümmer	廃墟
Pfingsten	聖霊降臨祭	Ostern	復活祭
Weihnachten	クリスマス	Fasten	大斎
Hosen	ズボン	Beinkleider	ズボン
Annalen	年代記	Blattern	痘瘡
Pocken	天然痘	Masern	麻疹(はしか)
Kosten	費用	Unkosten	入費
Einkünfte	収入	Wechseljahre	更年期

(もっとも Weihnachten, Beinkleider などは単数を用いることもある)

[55] Ich persönlich「私自身は」。この persönlich は前にも説明したように「前置的接続詞」の範疇に入るもので，たとえば *der Mench überhaupt*「そもそも人間なるものは」の überhaupt, *ich allein*「私だけ」の allein や，*vollends ich*「私なんぞときた

ら」の vollends, *schon dies*「これがすでに」の schon などとおなじ使い方である。なお「私自身は」とか「私に関しては」という表現は日本語同様ひんぱんに使用され，したがっていろいろな形式をもっているから，ついでに覚えておくと便利である：*was mich angeht*, (*betrifft*, *anbetrifft*, *belangt*, *anbelangt*), *mich anlangend*, *für mich*, *ich für meinen Teil*, *soviel es mich angeht*, *ich meinerseits*, *ich meinesteils*.

[5] „Und ich, was soll ich dabei tun[56]?"

„Nichts. Verlassen Sie sich immer[57] auf die Polizei. Gehen Sie zu Bett[58] und bleiben Sie still. Machen Sie keinen Lärm[59], was Sie auch hören[60]. Morgen werde ich Ihnen alles erzählen. Wollen Sie mir freundlichst[61] den Hausschlüssel übergeben[62]?"

Dumke übergab dem Beamten den Hausschlüssel.

„Können[63] Sie jetzt," sagte dieser[64] plötzlich, „einmal unauffällig Ihr Mädchen hereinrufen[65]?"

Dumke klingelte. Einige Minuten vergingen[66]. Das Mädchen erschien[67] nicht. Er klingelte nochmals.

„Ich werde selbst hinuntergehen und nachsehen[68]," stand er dann auf, „ich lasse[69] Ihnen ein Glas Wein bringen."

Nach einiger Zeit[70] kam Dumke aufgeregt zurück: „Das Mädchen ist verschwunden[71]!"

〔訳〕 „Und ich ところで私は，ich 私は dabei そのさい was 何を soll.....tun なすべきでしょうか（ところで私ですが，私はどうしたらいいでしょう)?"

„Nichts 何も [なさることはありませんよ]。immer とにかく auf die Polizei 警察を Verlassen Sie sich 信頼していてください。Gehen Sie zu Bett 床についてください。und そして bleiben Sie still 静かにしていてください。Sie あなたは was..... auch たとえ何を hören 聞きましょうとも Machen Sie keinen Lärm 騒がぬようにしてください。Morgen 明日 [になりましたら] ich 私は Ihnen あなたに alles すべてを werde.....erzählen お話しいたしましょう。Sie あなたは mir 私に freundlichst どうか den Hausschlüssel 玄関の鍵を Wollen.....übergeben 渡してください。"

Dumke ドゥムケは dem Beamten 警察官に den Hausschlüssel 鍵を übergab 渡しました。

dieser (der Beamte) 後者（警官）は plötzlich だしぬけに sagte 言いました：„Sie あなたは jetzt こんどは einmal ひとつ ganz unauffällig ごく目立たぬように Ihr Mädchen お宅の女中を Können.....hereinrufen [この部屋へ] 呼び入れることができましょうか（ひとつ目立たぬようにして女中さんをここへ呼んでいただけませんか）?"

Dumke ドゥムケは klingelte [呼び鈴を] 鳴らしました。Einige Minuten 数分間が vergingen 過ぎさりました。Das Mädchen 女中は erschien nicht 現われませんでした。Er 彼は nochmals もういちど klingelte [呼び鈴を] 鳴らしました。

„Ich 私は selbst 自分で werde.....hinuntergehen 下へ降りて行って und そして [werde].....nachsehen [様子を] 見てまいりましょう," dann それから er 彼は stand .....auf 立ち上がりました，„ich 私は Ihnen あなたに ein Glas Wein 一杯の葡萄酒を lasse.....bringen 持ってこさせます（あなたに葡萄酒を一杯持ってくるようにいいつけましょう）"。

Nach einiger Zeit しばらくしてから Dumke ドゥムケは aufgeregt 興奮して kam .....zurück もどってきました：„Das Mädchen 女中は ist verschwunden 姿を消しました。"

〔注〕【56】**tun** 三要形：tun, tat, getan. 【57】**immer** この immer は jedenfalls と同じ意味。英語なら *under any circumstances, in any case, after all* などと言うところであろう。この意味の immer はよく doch を伴って *doch immer* の形もとる。es ist *doch immer* gewagt=*it is certainly (undoubtedly) risky* や du mußt gehorchen, er ist *doch immer* dein Vater=*you must obey, for he is your fater after all* がその例である。【58】**Gehen Sie zu Bett**「寝る」とか「寝につく」に相当する成句には *zu Bett[e] gehen* のほかに *schlafen gehen* とか *sich schlafen legen* のようなものもある。「病気で寝ている」なら *das Bett hüten* である。【59】**Machen Sie keinen Lärm** *Lärm machen* も熟語。Lärm, *m.* は「騒ぎ」である。Lärm にいろいろな規定詞をつけてニュアンスを出す。「あることのために大騒ぎをする」なら *großen (viel) Lärm um (wegen) etwas machen=to make a great stir (fuss) about a thing* であり，「すったもんだの騒ぎをする・乱暴をする」なら *lauten Lärm machen=to kick up a great row (shindy)* である。Shakespeare の有名な喜劇 "*Much ado about nothing*"「空騒ぎ」はドイツ語では „*Viel Lärm um nichts*" と訳されている。

認容文章の構造 【60】**was Sie auch hören**「たとえ何を聞こうとも」は認容文の典型的なもののひとつであるが，認容文にはいろいろな構造があるから，つぎに最もふつうなものを示そう。認容の意を表わす従属的接続詞は多くは二部分から成り立っている。すなわち ob, wenn, wie と gleich, schon, auch, wohl, zwar, selbst との組み合わせである：

ob / *wenn* / *wie* + *gleich* / *schon* / *auch* / *wohl* / *zwar* / *selbst* →	一語に書くもの	*obgleich, obschon* *obwohl, obzwar* *wenngleich, wiewohl*
	その他の組み合わせ	*wenn auch, ob schon* *ob gleich, wenn selbst* など

一語に書くものは上の表の右上にある6箇だけだが，べつべつに離して用いる場合は上表の右下に挙げてあるようなあらゆる結合が可能である。配語法で注意を要するのは後者（べつべつに離して用いる場合）で，分離した二つの接続詞のあいだに主語またはそのほかの文章成分がおかれることが多い：

wenn er *gleich* viel gelesen hat
　彼はずいぶんたくさん読みはしたが
wenn ich *auch* ein unerfahrener, junger Mensch bin
　私は世間知らずの若僧ですが
obwohl das Rauchen verboten ist
　煙草をのむことは禁じられているが
wie wohl es kaum möglich war
　それはどうもできそうには思われなかったが

本文のように認容文が主文章の後にくる場合は問題はないが，主文章が認容文のあとにくる時には，つぎのような四つの構造がある：

(1) たんに倒置法
Wenn er gleich einen langen Bart trägt, ist er nicht gerade weise.
　長いひげははやしているが，必ずしも賢明ではない。

(2) so と倒置法
Wenn er gleich einen langen Bart trägt, so ist er doch nicht gerade weise.

(3) 正置法
Wenn er gleich einen langen Bart trägt, er ist nicht gerade weise.

(4) 一文肢の強調的先置と倒置法
Wenn er gleich einen langen Bart trägt, weise ist er gerade nicht zu nennen.
　どうみても賢明とは言われない。

つぎにひとつの文例をあげて参考に供しよう。

Auch die Alltagsmenschen haben poetische Erlebnisse, *wenn* sie sie *auch* nicht in Worten auszudrücken wissen.

平凡な人間もまた詩的経験をもつ，かれらはその経験を言葉において表現することを知らないけれども（平凡な人間といえども詩的な体験はもっている，それを言葉として表現することはできないが）。

外交的辞令の最高級 【61】**freundlichst** 言うまでもなくこれは freundlich の最高級である。「基礎入門編」の §116 で述べたように，副詞の最高級は必ず am —sten の形をとるか，または「すこぶる……に」，「きわめて……に」の意の時は auf das —ste あるいは aufs —ste の形をとるのだが，最高級の意味のなくなったある種の単語は基本形（—st）のまま用いる。これは主として交際上の辞令である。

freundlichst のほかにつぎのようなものがよく用いられる：

gütigst	どうぞ	*ergebenst*	つつしんで
gehorsamst	おそれながら	*höchst*	はなはだ

ついでにつけ加えておくが，こうした交際上の辞令用語以外のもので随意の副詞に —st の語尾をつけたままで用いると「絶対最高級」すなわち「非常に……」の意になる：*lieblichst* singen「しらべも美しく歌う」，*entschiedenst* ablehnen「だんことして拒否する」，*furchtbarst* regnen「どしゃ降りである」。ただしこれらは異例だからまねてはいけない。

【62】**übergeben** この動詞は不規則動詞の geben に前綴の über がついたもの。über は分離する場合と非分離の場合とあるが，本文では übergeben（ユーベルゲーベン），つまり非分離で「手渡しする・まかせる・譲る」の意味。über にアクセントがある場合，つまり分離動詞の場合は「覆いかける」の意で，über の本来の意味が利いている。【63】**können** 三要形：können, konnte, gekonnt. 【64】**dieser** dieser, jener を名詞の前に置いて形容詞的に用いることは「基礎入門編」の第 8 講で説明しておいた。この用法はその dieser や jener を独立して名詞的（substantivisch）に用いた例である。jener と dieser は対(ペア)になって *the former* と *the latter* の関係になるが，本文では「前者」に相当する jener は文面に表われていない。なお dieser, jener の用法に関しては「文法詳説編」の §16 を参照のこと。【65】**hereinrufen** 不規則動詞 rufen に分離前綴 herein がついたもの。rufen「呼び」herein「入れる」という構造。rufen の三要形：rufen, rief, gerufen. 【66】**vergingen** 不規則動詞 gehen に非分離前綴 ver- がついたもの。

動詞の前綴の主な特徴 【67】**erschien** 不規則動詞 scheinen に非分離前綴 er- がついたもの。「基礎入門編」第 17 講で前綴の発音上の注意を与えておいたが，ここで念のために前綴に関する重要な事項をまとめておこう。

(1) 分離前綴の特徴

〔A〕 **分離する前綴は基幹部よりも強く発音する**（すなわち Hauptbetonung「主力点」が前綴にある）：

aufstehen ['ʔaufʃteːən]　　stillstehen ['ʃtɪlʃteːən]
ankommen ['ʔankɔmən]　　ausgehen ['ʔausgeːən]

〔B〕 **分離する前綴は必ず一語として存在する：**
auf, an, aus などは前置詞，still は形容詞である。そのほか，副詞（*hinaus*-gehen, *herein*kommen など）もあり，名詞（*dank*sagen, *preis*geben など）もある。

〔C〕 **分解して意味のわかるものが多い：**
aufstehen（auf 上へ＋stehen 立つ → 立ち上がる）
ausgehen（aus 外へ＋gehen 行く → 外出する）
つまり前綴は基幹部の意味を特殊化（規定）する規定詞である。

〔D〕 配語上の特徴については「新ドイツ語の基礎」§96 参照のこと。

(2) 非分離前綴の特徴

〔A〕 **非分離前綴には力点がない**（すなわち Hauptbetonung は基幹部の主綴にある）：

verstehen [fɛr'ʃteːən]　　entstehen ['ʔɛnt'ʃteːən]
bekommen [bə'kɔmən]　　gehören [gə'høːrən]

〔B〕 **非分離前綴のおもなものは一語として存しないもの，** すなわちもっぱら前綴としてのみ用いられる単綴である。

〔C〕 非分離前綴の主なものには，**概念をもってその意味を言い表わすことのできないものがある**（be-, er-, ge-, ver-）。

なお erschien は不規則動詞 scheinen に前綴 er- がついたもので，scheinen の三要形は：scheinen, schien, geschienen.

【68】**nachsehen** 不規則動詞 sehen と分離前綴 nach との結合形。sehen の三要形：sehen, sah, gesehen. 本文の nachsehen の使い方は *nachsehen, ob* sie da ist oder nicht＝*to go and see, whether she is or not* の省略とみてよい。「行って様子を見てくる」という意味。【69】**lasse** 三要形：lassen, ließ, gelassen. lassen の用法について

は「基礎入門編」第 12 講で輪廓を捕え得たと思うが，詳細は「文法詳説編」§ 183 から § 188 について研究せよ。

einige, einzeln, eigen などについて [70] **nach einiger Zeit** einige と関連してつぎの諸語の意味が混同しやすいから注意する必要がある。

einige=etliche, wenige=*several, some, a few*「数個の」
einzeln=*separate, individual*「個々の」
eigen=*particular, singular; own*「独自の・自己の」
einzig=*only, sole, single*「唯一の」
alleinig=*unique, exclusive*「唯一の・独占的」
eigentlich=*essential*「元来の」
einig=*in agreement* (*harmony, concord*)「一致的」
eigentümlich=*proper*「独特の」

(1) Der Schirm, den ich mir vor *einigen* Tagen gekauft habe, ist schon kaputt.
二三日前に買った傘がもうダメになった。

(2) Was soll ich machen? Mein *einziger* Regenschirm ist kaputt!
どうしたものだろう？一本しかない傘がダメになってしまった。

(3) Nimm bitte deinen *eigenen* Schirm mit, nicht den meinigen.
私の傘でなく，君自身の傘をもってってくれないか。

(4) Ich habe so viele Regenschirme, daß ich mich nicht um jeden *einzelnen* bekümmern kann.
僕には雨傘がたくさんあるから，一本一本かまってなぞいられない。

[71] verschwunden 不規則動詞 schwinden に非分離前綴 ver- がついた動詞。schwinden の三要形：schwinden, schwand, geschwunden.

[6] Der Beamte erhob[72] sich schnell und trat an das Fenster. „Sehen Sie dort die Telefonzelle[73]?“ zeigte er hinunter, „Soeben hat Ihr Mädchen sie verlassen[74]. Sie wird gleich hier sein.“

Da öffnete sich auch schon die Tür des Zimmers und

das Mädchen trat wirklich herein: „Sie haben nach mir geklingelt?"

„Ja," sagte der Hausherr, „Sie haben soeben telefoniert[75]?"

Das Mädchen faßte sich[76] schnell: „Ja, an unsern Fleischer, ich mußte etwas bestellen."

„Danke."

Und das Mädchen verließ das Zimmer.

„Wollen Sie nicht den Fleischer anrufen?" fragte der Kommissar.

〔訳〕 Der Beamte 警官は schnell すみやかに erhob sich 立ち上がりました und そして an das Fenster 窓のそばへ trat 歩いていきました。„Sie あなたは dort むこうの die Telefonzelle あの電話室（公衆電話）を Sehen 見ますか（あの向こうに電話室が見えましょう)?" [と] er 警官は zeigte.....hinunter 下をゆびさしました，„Soeben ついいましがた Ihr Mädchen おたくの女中が sie 電話室を hat.....verlassen 出ました。Sie 彼女は gleich まもなく wird.....hier sein ここへまいりましょう。"

Da そうこうしているうちに auch schon 早くも（案のじょう）die Tür des Zimmers 部屋のドアが öffnete sich 開きました，und そして das Mädchen 女中は wirklich ほんとうに trat.....herein [部屋へ] 入って来ました：„Sie だんなさまは nach mir 私を呼ぶために haben.....geklingelt 呼び鈴を鳴らしましたでしょう（呼び鈴を鳴らして私をお呼びになったでしょう)?"

„Ja そうだ," [と] der Hausherr 主人は sagte 言いました，„Sie おまえは soeben 今しがた haben.....telefoniert 電話をかけたね?"

Das Mädchen 女中は schnell すぐに faßte sich 心がまえをした：„Ja そうです，an unsern Fleischer うちの [取りつけの] 肉屋へ [かけました]; ich 私は etwas あるものを mußte.....bestellen 注文しなければなりませんでした（少し注文がありましたので)。"

„Danke ありがとう。"

Und そこで das Mädchen 女中は das Zimmer 部屋を verließ 去りました。

„Sie あなたは nicht den Fleischer 肉屋を Wollen.....anrufen 呼び出そうとは思いませんか（肉屋を呼び出してみたらどうですか)?" [と] der Kommissar 警部は fragte たずねた。

〔注〕 **[72] erhob** これも不規則動詞 heben に非分離前綴 er- がついたもの。heben の三要形：heben, hob, gehoben. 再帰動詞 *sich erheben* は「自分を起こす」という構造で，たんに aufstehen と言ってもよい。**[73] Telefonzelle** これはもちろん Münzfernsprecher「公衆電話」と同じものを指している。Telefon は本来ならば Telephon

だが最近は ph を f にかえて用いるくせがある。Photographie も Fotografie と書く傾向になっている。

不定法と過去分詞が同形になる動詞 【74】 **verlassen** これは hat といっしょに現在完了を構成しているのだから過去分詞であるが，非分離前綴 ver- がついているので ge- をとることができない。そのために不定法の verlassen と同じ形になっている。このように不定法と過去分詞が同じ形になるものが非分離動詞にかなりあるから注意を要する：

gefallen	「気に入る」——三要形：	gefallen,	gefiel,	gefallen
enthalten	「含む」 ——三要形：	enthalten,	enthielt,	enthalten
bekommen	「得る」 ——三要形：	bekommen,	bekam,	bekommen
vergessen	「忘れる」 ——三要形：	vergessen,	vergaß,	vergessen
ertragen	「耐える」 ——三要形：	ertragen,	ertrug,	ertragen
verstoßen	「排撃する」——三要形：	verstoßen,	verstieß,	verstoßen
verraten	「裏切る」 ——三要形：	verraten,	verriet,	verraten
empfangen	「受け取る」——三要形：	empfangen,	empfing,	empfangen
erfahren	「経験する」——三要形：	erfahren,	erfuhr,	erfahren

【75】 **telefoniert** これも haben といっしょになっているから過去分詞のわけだが，ge- がついていない。ge- をつけない理由を忘れた諸君はもう一度「基礎入門編」§78 の —ieren に終わる動詞の三要形に関する説明を読みかえすこと。【76】 **faßte sich** *sich fassen*=sich zusammennehmen=*to contain* (*collect*, *restrain*) *oneself*「気を落ちつける・気をとりなおす・自制する」，つまり，ハッとして気をしっかりもつことである。

[7] Dumke ließ sich verbinden[77]: „Hallo! Hier Dumke[78]. Hat soeben mein Mädchen mit Ihnen gesprochen? ja, vor etwa fünf Minuten? Nein? wirklich nicht? So. Danke."

Der Beamte nahm seinen Hut: „Morgen früh ist alles vorbei. Sprechen Sie nicht mehr mit dem Mädchen und kommen Sie heute nacht nicht herunter. Ich wache für Sie. Gegen sechs Uhr hoffe ich Ihnen Bericht erstatten[79]

zu können. Auf Wiedersehen!"

.....

Die Uhr schlug[80] sechs. Dumke fuhr aus seinem Bett hoch[81]. Er mußte doch eingeschlafen[82] sein. Er lauschte angestrengt hinaus. Kein Laut kam[83] aus den andern Zimmern. Er klingelte. Das Mädchen trat herein.

〔訳〕 Dumke ドゥムケは ließ sich verbinden 自分を連絡させました（[肉屋に] 電話をつないでもらいました）: „Hallo もしもし! Hier Dumke こちらはドゥムケです。soeben 今しがた mein Mädchen うちの女中が mit Ihnen あなたと Hat.....gesprochen 話をしましたか（お宅に電話をかけましたか）? ja そうです, vor etwa fünf Minuten 約 5 分間ばかり前ですが? Nein かけませんですか? wirklich nicht 本当にかけませんか? So そうですか。Danke いやありがとう。"

Der Beamte 警官は seinen Hut 自分の帽子を nahm とりました: „Morgen früh 明日の朝に [なれば] alles 一切が ist.....vorbei すぎさります（なにもかも片がつきます）。nicht mehr これ以上 mit dem Mädchen 女中と Sprechen Sie 話を [しないでください] und それから heute nacht 今夜は kommen Sie.....nicht herunter 下に降りないでください。Ich 私が für Sie あなたの代わりに wache 見張りをします。Gegen sechs Uhr [朝の] 六時ごろには Ihnen あなたに Bericht erstatten zu können 報告をすることができると hoffe ich 思います。Auf Wiedersehen ではまた!"

.....

Die Uhr 時計は schlug sechs 六時を打ちました。Dumke ドゥムケは aus seinem Bett ベットから fuhr.....hoch 飛び起きました。Er 彼は doch きっと eingeschlafen sein [ぐっすり] 寝込んだ mußte に相違なかった（うっかり眠りこんでしまったらしい [と彼は思いました]）。Er 彼は angestrengt 緊張して（じっと）lauschte.....hinaus [部屋の] 外へ聞き耳をたてました。aus den andern Zimmern ほかの部屋からは Kein Laut kam なんの物音も来ませんでした（ほかの部屋はひっそりとして物音ひとつ聞こえませんでした）。Er 彼は klingelte 呼び鈴を鳴らしました。Das Mädchen 女中が trat herein 部屋へはいってきました。

〔注〕 [77] **ließ sich verbinden** *sich verbinden lassen* は「電話で接続してもらう」こと。verbinden は binden という不規則動詞に ver- がついた形。binden の三要形: binden, band, gebunden. [78] **Hier Dumke.** これは受話器をとって名のる時の常用句。英語なら *Dumke speaking!* といったところ。[79] **Bericht erstatten**=*to give an account, to hand in a statement* [*of the facts*]「報告する」。[80] **schlug** 三要形: schlagen, schlug, geschlagen. [81] **fuhr.....hoch** 不規則動詞 fahren に分離前綴として hoch がついた形, すなわち hochfahren と考えてもよければ hoch を副詞と

して，すなわち in die Höhe と考えてもよい。いずれにしても hoch「がばと」fahren「起き上がる」ことである。fahren の三要形：fahren, fuhr, gefahren. [82] **eingeschlagen** 分離前綴 ein＋不規則動詞 schlafen という構造。schlafen の三要形：schlafen, schlief, geschlafen. この場合の前綴 ein- は「眠りこむ」の「こむ」にあたる。 [83] **Kein Laut kam** この文体はモダーンだからこうなっているが，少し古典的に本格的な文体なら Es kam kein Laut とあるべきはずのところである（文の非人称化）。

[8] „Sie?" starrte Dumke verwundert. Das Mädchen lächelte[84]: „Ja," sagte sie, „Sie hatten wohl Ihren famosen[85] Kommissar erwartet? Der sitzt[86] schon seit drei Stunden hinter Schloß und Riegel[87]. Ich habe ihn verhaften lassen, als er die Wohnung mit seinen Komplicen[88] ausräumen wollte. Sie haben es ihm ja durch Übergabe des Hausschlüssels sehr bequem gemacht[89]."

Dumke stierte mit großen Augen auf das Mädchen: „Ja aber.....wer sind Sie denn?" stotterte er.

„Ich? Nicht Mitglied einer Einbrecherbande," lachte sie, „sondern Mitglied der Geheimpolizei. Ich war zu Ihnen gekommen, um diese Bande dingfest zu machen[90]. Aber entschuldigen Sie, jetzt muß ich gleich auf die Polizei[91]."

Sie ging. Und kam nicht wieder zurück. Dumke hat weder sie, noch den angeblichen Kommissar[92], noch den Schmuck seiner Frau, noch seine Anzüge, noch[93] seine Hausmöbel wiedergesehen.

〔訳〕 „Sie お前か?" Dumke ドゥムケは verwundert 驚いて starrte じっと [女中を] みつめました。Das Mädchen 女中は lächelte 微笑しました：„Ja そうです," [と] sie 彼女は sagte 言いました，„Sie だんなさまは wohl たぶん Ihren famosen Kommissar 例のすてきな警部（あのとんでもない警官）を hatten.....erwartet 待っていらしたんでしょう？ Der あの男は schon もう seit drei Stunden 三時間も前から sitzt.....

hinter Schloß und Riegel 錠と閂のうしろに坐っています（留置場に入れられています)。er (Kommissar) 彼が mit seinen Komplicen 彼の仲間といっしょになって die Wohnung.....ausräumen wollte この住居を取り片づけようとしました（この家から物を持ち出そうとしました）als 時に，Ich 私は ihn 彼を habe.....verhaften lassen 逮捕させたのです。Sie だんなさまは ja だって durch Übergabe des Hausschlüssels 玄関の鍵の引渡しによって（玄関の鍵を彼にあずけたりして）haben es ihm.....sehr bequem gemacht 彼にそれをとてもらくにしてやりました（彼が仕事をするのをらくにしてやったのですからね)。"

Dumke ドゥムケは mit großen Augen 大きな目をもって（目をまるくして）auf das Mädchen 女中を stierte じっとみつめました：„Ja aber それはそうだが..... wer sind Sie denn いったい［そんな事を言う］お前はだれかね?"［と］er 彼は stotterte どもりながら言いました。

„Ich 私ですか? Nicht Mitglied einer Einbrecherbande 強盗団の一員ではないんです," [と言いながら] sie 彼女は lachte 笑いました，„sondern [実は] Mitglied der Geheimpolizei 秘密警察の一員［なんです]。diese Bande この [強盗] 団を dingfest .....machen 捕縛する um.....zu ために Ich 私は zu Ihnen お宅に war.....gekommen やって来たのです。Aber ところで entschuldigen Sie 失礼いたします，jetzt もう gleich すぐに ich 私は muß.....auf die Polizei 警察へ行かなくてはなりません［から]。"

Sie 彼女は ging 行ってしまいました。Und そして nicht wieder 二度と kam..... zurück もどっては来［ませんでした]。Dumke ドゥムケは weder sie 女中にも，noch den angeblichen Kommissar 自称警官殿にも，noch den Schmuck seiner Frau 奥さんの装身具にも，noch seine Anzüge 彼の衣類にも noch seine Hausmöbel 彼の家具類にも hat.....wiedergesehen 二度とお目にかかり［ませんでした]。

〔注〕 [84] **lächelte** streicheln「なでる」は streichen「さっと一度擦る」に対する反

連発弱化的語尾 -eln 覆動詞 (Frequentativ) で，-eln の語尾はあるいは弱化動詞 (Diminutiv) を作り，あるいは反覆動詞を作る。betteln「乞食する」はなんべんも bitten「懇願する」，すなわち懇願を常習とすること。sticheln「つつく・揶揄する・皮肉る」は連続的に細かく人を stechen「刺す」ことであり，lächeln「微笑する」は lachen「笑い」の弱いものである。要するに一度かぎり (einmalig) の動作を示す動詞に -eln を付加すると，それが連続的・連発的になると同時に，動作の概念が穏かになるのが通例である。したがって -eln は連発弱化の語尾 (frequentativ-diminutive Endung) と名づけることができる。

[85] **famosen** famos という形容詞は綴りでも分かるように英語の *famous* と同語源だが，ドイツ語では主として俗語的に用いられる。すなわち prächtig や ausgezeichnet などの表裏二様の意味をもっている。本文も Ihren famosen Kommissar「だんなさまのすてきなお役人を」と多分に皮肉をこめている。その裏を言えば「あのとん

でもない・たいへんな奴」である。*famoser Kerl* を英語では *capital fellow*, *famose Geschichte*「とんでもない話」を *bang-up affair* と言うが，裏にはたいてい「どえらい・たいへんな・極悪の」という皮肉がひびいている。 **[86] sitzt** 三要形：sitzen, saß, gesessen. この sitzen という動詞は妙な味をもっていて，hinter Schloß und Riegel がなくても「監獄に入っている・くさい飯をくっている」の意になる。er *hat gesessen* と言えば「くさい飯を食ったことがある」であり，er sitzt schon lange なら「長いことくさい飯を食っている」また，学生が進級できなかった場合や娘にもらい手がなくてとり残された場合には *sitzen bleiben* と言う。

二語一想 Hendiadyoin **[87] Schloß und Riegel** das Schloß は「錠」で der Riegel は「門」。どちらも「自由をうばって厳重な監視の下におく」という共通の概念をもっている。こういう風に，二語をもって一想を表わすものを Hendiadyoin (ヘンディアデュオイン)「二語一想」と呼ぶ。非常によく用いられる修辞 (Rhetorische Figur) のひとつである。*Leib und Leben*「身命」，*Wind und Wetter*「風雨」，*Brot und Wasser*「粗食・くさいめし」，*Spiel und Scherz*「一場の戯れ」，*Haus und Hof*「家屋敷」，*Weib und Kind*「妻子」，*klar und deutlich*「明瞭に」，*fix und fertig*「用意万端ととのって」，*gescheit und klug*「りこうな」などがその一例である。この修辞法の特徴は，両方とも名詞の場合は冠詞を省くことである。

[88] Komplicen der Komplice (コンプリーツェ) は男性弱変化名詞のひとつである。仏語の complice をドイツ語式に発音した名詞で，英語の *accomplice* に相当する。意味は英・仏語と同様「共犯者・連累者・同類」である。

熟語にあらわれる填詞 (Füllwort) としての es **[89] es ihm.....bequem gemacht** *es einem bequem machen* は「ある人の仕事をらくにしてやる」という意味の熟語だが，es は別にこれといって指すものがない，たんに四格目的語の位置を填充するための贅語的なものにすぎない。この種の es を填詞 (Füllwort) と呼ぶ。この es を含む熟語もかなりひんぱんに用いられるから，つぎに数例を挙げて参照に資そう。なお，詳しくは「文法詳説編」の §24 を参照すること。

(1) Seine Eltern *haben es* jetzt *so schwer.*
彼の両親は目下とても生活に苦しんでいる。

(2) Ich *kann es* hier *nicht aushalten.*
僕はここはがまんができない。

(3) Er hat *es* sogar *zum* General *gebracht.*
彼は将軍までたたき上げた。

(4) In einem fremden Haus *macht* man *es sich* nicht ohne weiteres so *bequem.*

ひとの家へ行ってのっけから寛ぐものでない。

(5) Wie *weit hat* man *es* zum Bahnhof?

停車場までどのくらいの距離がありますか?

(6) „Corona" ist mir zuwider, ich will *es* einmal *mit* „Peace" *versuchen.*

„コロナ" はどうもうまくない，ひとつ „ピース" をのんでみよう。

[90] **dingfest zu machen** *einen dingfest machen=to arrest a person* [91] **muß..... auf die Polizei** ここはもちろん gehen を省いたもの。先の注で述べたように，方向を示す規定詞を伴う話法の助動詞にはよく gehen, kommen などを省くのである。「警察へ行く」と言う場合に auf die Polizei と auf を用いるのは，初学者のピントに合わないが，こういう際によく auf を用いることも前注ですでに詳しく説明した。14頁，第 1 課の注 [46]。

変則的な形容詞 angeblich, sogenannt, seinwollend など [92] **den angeblichen Kommissar** der angebliche Kommissar の angeblich は「.....と見なす・挙げる」という意味の angeben からきた形容詞で，本来は der als Kommissar Anzugebende「Kommissar として angeben すべき者」すなわち「警部として名ざすべき者」といったような関係であったのが逆になって，後の名詞の方 (der.....Anzugebende) がかえって形容詞になり，「見なされたる警部・警部と見なされた者・名義上の警部・自称警部・いわゆる警部」と転化したのである。こうした妙な関係にある形容詞がドイツ語ではかなりある。だれでも知っているものではたとえば der sogenannte Kommissar「いわゆる警部」などの sogenannt がある。これもほんとうは (論理的には) der Kommissar Genannte「警部と呼ばれるところのもの」であると言えよう。そのほか「むかし私の妻であったところの女」のことを meine gewesene Frau「わがありし妻」と言ったり，「天才でありたくてしようのない男」を ein seinwollendes Genie「ひとりの，ありたく欲する天才」と言ったり，「不倶戴天の仇」を der geschworene Feind「誓ったところの敵」と言ったりするのは，いずれも同じ筋道に由っている。つぎにこの種の形容詞のおもなものを挙げてみよう：

möglicher Krieg	将来あるいは起こることあるべき戦争
etwaiger Krieg	(同上)
eventueller Krieg	(同上)
vermeintlicher Täter	犯人と誤認された男

vorgeblicher Täter	自称犯人
gelegentlicher Dieb	機会あるごとに泥棒を働く男
abgesagter Feind	公敵
ausgesprochener Feind	敵をもって自認する男
werdender Bösewicht	悪人の卵
angehender Bösewicht	(同上)
erklärter Pessimist	悲観主義者をもって自認する男
mutmaßliche Ursache	推定上の原因
verkappter Kommunist	仮面の共産主義者
eingefleischte Geldgier	物慾の権化
fleischgewordene Tatkraft	辣腕の権化
ausgemachter Wüstling	十目十指の淫蕩児
konkreter Geschlechtstrieb	色慾が化けて出たような男

これらすべての形容詞に共通な現象は，たとえば fleischgewordene Tatkraft「辣腕という概念そのものがそのまま化けて出たような男」の意などでもわかるとおり，最後の名詞の意味を考えるとわかるということである。すなわち，人間そのものがすぐそのまま辣腕という抽象概念そのものではないのであるが，その非妥当性が先行の形容詞によって巧みに回避されていることが特徴である。mutmaßliche Ursache「推定上の原因」も同じで，それはほんとうに原因であるとは言えないのだが，その間の非妥当性が mutmaßlich「推定の」で巧みに恢復されている。だからこの種の形容詞の機能は，やかましく言うならば，ふつうの「形容」詞とは少し名詞にたいする形容のしかたが違っていて，「その名詞が，**じつは**その名詞によって……されている通りのものではない時」，または「その名詞が**まだ**（または**もはや**，または**ことによると**，または**それほどはなはだしく**，または**なまじっかな意味では**など）その名詞によって指されているような額面通りのものではない」というすこし変則的な関係に立っているのである。

[93] **weder……noch** 対照的接続詞の weder……noch は英語の *neither……nor* とまったく同じに用いる。否定されるものがふたつ以上にわたる際はそれだけ noch をふやせばよい。

第3課　天国への旅

解説：　小学校の一二年ぐらいの子供はよく「ターザンとライオンとどっちが強いの?」とか「火星の人間は何を食べてるの?」といった質問をする。かれらにとっては，ターザンがどこかの密林に住んでおり，火星の人間はいつ地球を襲うかもしれないし，猿飛佐助やルパンがそこらを徘徊しているのである。年はとっても無知な人間，ことに百姓女なども，こうした小学生とあまり違わない観念の世界に住んでいる。この「天国への旅」という物語も，これに類して無知な百姓のおかみさんと貧乏な一書生の間に起こった滑稽な一挿話である。ことの起こりは，学生が巴里（Paris——パリース）から来たといったのを，とんまなおかみさんが天国（Paradies——パラディース）から来たと聞き誤ったことである。彼女の先夫は三年前に死んだのだが，彼女は牧師の説教どおりにハンス・グートシャーフ(先夫の名)が目下天国で幸福に暮しているものと思いこんでいる。そこへ天国からじかに来た学生さんが現われたのだから，ただではすまない。さっそくに家のなかへ招じ入れて天国にいるハンスのことを根ほり葉ほりたずね始める。はじめは無知な百姓のおかみさんをからかうくらいのつもりだったのが，見るとなかなか裕福らしいので，貧乏書生はついに悪心を起こして，ハンスが無一文で天国へ来たためにえらく惨めな生活をしていると，おかみさんのセンチメンタリズムを刺激してまんまと肌着，衣類のほかに大枚の金銭までもハンスへ届ける約束であずかってしまう。その上，ぐうぐういってる胃袋にたらふくご馳走をつめこんでから，足どりも軽く百姓家を出る。まもなく帰った亭主はおかみさんの話をきいて地団駄を踏んでくやしがり，さっそく厩から自慢の牡馬を引き出して，学生の後を追う。学生は追手に気づいて，道路工事夫に早がわりして待っている。気負って乗りつけた亭主が，人もあろうに学生の工事夫に馬をあずけて藪の中へ飛びこんでいる間に，学生は得手に帆をあげた形で，くだんの牡馬にまたがって逃げ去ってしまう。二三時間後に，げんなりして帰って来た亭主のせりふ:「もちろん，そいつに追いついた……できるだけ早く天国へ帰れるようにわしの馬までくれてやったよ，くそいまいましい!」無知なおかみさんのお土産だけでもいい加減なのに，亭主までが盗人に追銭をやるところが，筋を二重におもしろくしている。

Die Reise ins Paradies

Ein armer Student, der wenig Geld in der Tasche hatte, kam eines Tages vor das Haus eines reichen Bauers. Dieser war nicht daheim, aber seine Frau stand am Gartenzaun

und hing Wäsche auf.

„Wer seid Ihr und wo kommt Ihr her?“ fragte sie den Stundenten.

„Ich bin,“ antwortete er, in den Garten hereintretend,
* „ein armer Schüler und komme aus Paris.“

„Wie?“ sagte sie und setzte ihren Korb auf die Erde, „Ihr kommt aus dem Paradies?“

Der Student bemerkte wohl, daß die Frau sich verhört hatte. Indessen machte ihm das Mißverständnis Spaß und
* erwiderte: „Jawohl, geraden Weges, liebe Frau.“

„Lieber, guter Freund,“ sagte die dumme Frau, indem sie ihn am Ärmel mit sich fortzog, „kommt mit mir in die Stube, ich muß noch einiges von Euch erfahren.“

In der Stube ließ sie ihn auf eine Bank niedersitzen und
* fuhr fort: „Ich habe nämlich schon einmal einen Mann gehabt, der Hans hieß und mir vor drei Jahren starb. Ich weiß, daß er im Paradies ist, denn er war immer ein frommer Mensch. Habt Ihr ihn denn nicht dort im Paradies gesehen?“

* „Hans? Wie heißt er aber mit seinem Zunamen?“

„Hans Gutschaf heißt er. Er schielt ein wenig.“

„Aber freilich,“ rief der Student strahlend aus und schlug sich auf die Knie, „Hans Gutschaf kenne ich sehr wohl, er wohnt nur ein paar Häuser weiter.“

* „Ach, lieber Junge,“ jubelte die Frau, „Wie geht's meinem guten Hans?“

„Schlecht genug,“ sagte der Student mit umflorten Augen und blickte trübselig nieder, „er hat ja weder Geld noch Kleider mitgebracht, der arme Kerl. Er wäre Hungers
* gestorben, wenn sich nicht ein paar gute Nachbarn seiner

angenommen hätten."

Da begann die Frau bitterlich zu weinen: „Ach du mein armer Hans, bei mir hast du keinen Mangel gelitten, und nun frierst und hungerst du in jener Welt! Hätte ich doch einen Boten, dir eine Summe Geld und die nötigen Kleider * zu schicken!"

„Faßt Euch, liebe Frau," sagte der Student bewegt, „wenn Ihr einen Boten braucht, so will ich Euch selber den Gefallen tun und sie ihm hinbringen, denn demnächst muß ich ohnehin ins Paradies." *

Da wurde die Frau froh und gab dem Studenten reichlich zu essen und zu trinken. Sie ging dann hinauf in ihre Kammer an den großen Schrank, nahm zwei Paar Hosen heraus und den warmen gefütterten Rock, dazu einige Hemden, fügte eine Handvoll Gold- und Silber- * gulden hinzu und wickelte das Ganze in ein großes Tuch ein. Das Bündel brachte sie dann zum Studenten herunter und schenkte ihm noch ein paar Groschen, damit er alles brav ausrichte. Der wischte sich den Mund, schnallte sich die Bürde auf den Rücken, dankte der Frau von Herzen, * schwenkte den Hut und zog davon.

Nicht lange danach kam der Bauer nach Hause. Die Frau sprang ihm entgegen und rief: „Weißt du was? Es war ein Mann hier, der kam geradenwegs aus dem Paradies und kannte meinen seligen Hans sehr wohl. Aber es geht * ihm sehr schlecht, hat er gesagt. Er leide großen Mangel dort. Darum habe ich ihm seine Kleider geschickt und seine Hemden und eine Handvoll Gold- und Silbergulden dazu, denn er geht nun wieder hin."

Der Bauer schäumte vor Wut und schrie: *

„Jawohl, er geht nun wieder hin! Und ich will dafür sorgen, daß er sicher ins Paradies kommt, und zwar in das wirkliche Paradies!“ Damit zog er seinen besten Hengst aus dem Stall, saß auf und sprengte dem Schwind-
* ler nach.

Der war aber nicht auf den Kopf gefallen. Denn als er den Bauer hinter sich herangaloppieren hörte, warf er sein Bündel in einen Busch, nahm eine Schippe, die ein Straßenarbeiter dort hatte liegen lassen, zur Hand und
* stellte sich fleißig.

„Habt Ihr nicht einen jungen Kerl mit einem Bündel auf dem Rücken gesehen?“ fragte der Bauer, den Gaul zügelnd.

„Eben war einer hier,“ antwortete der Student, „aber
* wie er Euch kommen sah, ist er über den Graben gesprungen und in den Busch gerannt.“

„Halte mir den Gaul,“ sagte der Bauer, „gleich bin ich wieder zurück.“ Damit sprang er aus dem Sattel und rannte in den Busch hinein.

* „Ich halte ihn schon,“ sagte der Student, indem er sein Bündel wieder an sich nahm und auf den Gaul stieg. „Ganz fest halte ich ihn!“ Er drückte dem Gaul die Fersen in die Weichen und sprengte davon.

„Hast du den Studenten noch eingeholt? Hast du da-
* für gesorgt, daß er sicher ins Paradies kommt?“ fragte die Bäuerin ihren Mann, als er nach einigen Stunden ohne seinen Hengst zurückkam.

Zunächst erwiderte er nichts. Nach einigen Augenblicken jedoch hieb er seinen Hut wütend auf den Tisch
* und rief: „Natürlich habe ich ihn eingeholt und.....habe

dafür gesorgt, daß er schneller ins Paradies kommt, denn ich habe ihm auch meinen Gaul gegeben, Himmelkreuzsakrament!"

Die Reise ins Paradies

[1] Ein armer Student, der wenig[1] Geld in der Tasche hatte, kam eines Tages vor das Haus eines reichen Bauers. Dieser war nicht daheim[2], aber seine Frau stand am Gartenzaun und hing Wäsche[3] auf[4].

„Wer seid Ihr[5] und wo kommt Ihr her[6]?" fragte sie den Studenten.

„Ich bin", antwortete er, in den Garten hereintretend[7], „ein armer Schüler und komme aus Paris."

„Wie?" sagte sie und setzte ihren Korb auf die Erde, „Ihr kommt aus dem Paradies?"

Der Student bemerkte wohl, daß die Frau sich verhört hatte. Indessen machte ihm das Mißverständnis Spaß[8] und erwiderte: „Jawohl, geraden Weges[9], liebe Frau."

〔訳〕 Die Reise ins Paradies 天国への旅

in der Tasche ポケットの中に wenig Geld.....hatte いくばくのおかねも持っていなかった der ところの ein armer Student ある貧乏学生が eines Tages ある日のこと vor das Haus eines reichen Bauers ある裕福な百姓の家の前へ kam やってきました。Dieser (Bauer) 百姓は war nicht daheim 家におりませんでした, aber しかし seine Frau そのおかみさんが am Gartenzaun 庭垣のそばに stand 立ってい und て Wäsche 洗たく物を hing.....auf かけていました。

„Ihr あんたさんは Wer どなた seid ですか und そして wo どこから Ihr あんたさんは kommt.....her おいでになったのですか?" [と] sie 彼女は den Studenten 学生「に」fragte たずねました。

„Ich 私は," [と] er 彼は in den Garten hereintretend 庭の中へ入って来ながら antwortete 答えました, „ein armer Schüler 貧乏書生 bin なんです und そして aus Paris パリ (パーリス) からkomme 来たのです。"

„Wie 何ですって?" [と] sie 彼女は sagte 言いました und そして ihren Korb [せんたくものを入れた] 籠を auf die Erde 地面に setzte おろしました, „Ihr あんたさんは aus dem Paradies 天国 (パラディース) から kommt 来なすったんですって?"

Der Student 学生は wohl もとより die Frau おかみさんが sich verhört hatte 聞き違いをした daß のであること bemerkte に気がつきました。Indessen しかしながら das Mißverständnis その誤解は ihm 彼に machte.....Spaß 慰みをつくってくれまし

た（その誤解が彼にはおもしろく思われました）und そこで erwiderte［こう］答えたものでした：„Jawohl そうですよ，geraden Wegs［天国から］まっすぐに［やって来たんです］，liebe Frau おかみさん。“

〔注〕 **[1] wenig** 文章全体の意を否定的にする言葉に selten＝*seldom*, kaum＝*scarcely*, *hardly*, wenig＝*little*, unmöglich (schwerlich)＝*impossibly*, *not possibly* などがあるが，これらの準否定詞の訳し方については多少注意を要するものがあるから，つぎに数例を挙げて参考に資する：

準否定詞の訳し方

(1) Er konnte *kaum* atmen.
　彼はほとんど息ができなかった。
(2) Ich bin *wenig* froh.
　僕はたいして嬉しくない。
(3) Ich kann *unmöglich* arbeiten.
　私はとても働けない。
(4) Das kann *schwerlich* wahr sein.
　それはとてもまに受けられない。

なお，準否定詞の詳細に関しては「文法詳説編」§70 を参照すること。

[2] war……daheim＝war……zu Hause. **[3] Wäsche** die Wäsche は単数ではあるが，事実はシャツだのズボンだのいろいろな内容のある複数物の代用として使われている。したがって一種の Sammelnamen「集合名詞」と考えてよい。集合名詞の代表たとえば Obst, *n.*「くだもの」は単数のままで用いて果物類の意，das Vieh も単数であるが多くの家畜のことである。**[4] hing……auf** 不規則分離動詞 aufhangen は不規則動詞 hangen に分離前綴 auf がついたもの。hangen の三要形：hangen, hing, gehangen. **[5] Ihr** 現代のふつうの用法ならもちろん Wer sind Sie? と Sie を使うのだが，巷の昔式の女だから昔式の呼びかけの代名詞 Ihr を使ったのである。古い時代にはよく二人称の複数形 Ihr を大書して今日の Sie の代わりに用いた。このほか三人称の Er も昔は Sie の代わりに用いたことがある。**[6] wo kommt Ihr her?**「おまえさんはどこから来なすったか？ どこのおひとですか？」という意味だが，本来なら *woher* kommt Ihr? なのが，本文のように her だけを離して，あたかも kommen の分離前綴のような扱いをしたのである。たとえば「彼がどこから来たひとであろうと」という句を *woher* er auch kommen mag または wo er auch *herkommen* mag＝*wherever he may come from* と言う。二番目の文では her は kommen と一語になっている。この転移は wohin にもある。「あなたはどこへ行きますか？」を *Wohin* gehen Sie? と言ってもよければ Wo gehen Sie *hin*? と言ってもよい。したがって「あなた

はどこへ行こうとも」は *wohin* Sie auch gehen mögen または wo Sie auch *hingehen* mögen である。英語の *wherever he may come from* における前置詞 *from* の後置に似ていると考えてもよいだろう。

分詞を基礎とする述語的(客語的)副詞句 【7】**in den Garten hereintretend** hereintretend は hereintreten の現在分詞なので，英語の現在分詞式に「庭へ歩み入りながら」と訳して間違いはないが，じつはこの現在分詞句は述語的副詞句なのである。その証拠にこの句は *indem er in den Garten hereintrat* と書き換えられる。このように現在分詞または過去分詞の前にいろいろな規定をつけると，述語的な副詞句ができる。つぎにわかりよい例を挙げておこう：

(1) 現在分詞を基礎とする述語的副詞句

Die Kammerjungfer steckte ihr kleines Gesichtchen, *sich nach allen Seiten umsehend*, zwischen der Laube hindurch.

侍女は，あたりの様子を窺いながら，その小さな顔を［そっと］葉棚の中から突き出した。

(2) 過去分詞を基礎とする述語的副詞句

Rechts und bei weitem näher lag die Burg, *durch eine breite Waldschlucht von dieser Stelle getrennt.*

右の方に，そしてずっと近く，城は幅の広い森の峡谷によってこの場所から隔てられて横たわっていた。

分詞を基礎とする述語句がつねに副詞的，すなわち動詞付加的 (adverbal) に用いられるとはかぎらないが，本文のごとき動詞付加的な用法もその重要な一半であるから，十分に注意して覚えておかねばならぬ。なお，詳細については「文法詳説編」の § 119 から § 122 までを参照すること。

【8】**machte ihm.....Spaß** *einem Spaß machen*「ある人をおもしろがらせる」=*to amuse a person* (Spaß は *fun* である)。

geraden Weges など 【9】*geraden Weges* はもちろん「まっすぐに」という副詞句である。つまり名詞の二格が絶対化し孤立してしまった形で，元来はギリシャ語やラテン語などの古典語からの影響である。ドイツ語ではそれがあまり発展しないで辛くもいくつかの凝結形式として残っているにすぎない：*schweren Herzens*「苦しき心を抱いて」，*geschlossenen Auges*「瞑目して」，*festen Schrittes*「足どりもたしかに」，*guten Mutes* (*gutes Mutes*)「上機嫌で」，*entblößten Hauptes*「脱帽して」，*stehenden Fußes*「起立したまま・即座に」，*eiligen Laufes*「いちもくさんに」，*starren Blickes*「じっと・どろんと目をすえて」(詳細は「文法詳説編」§ 88)。

[2] „Lieber, guter Freund," sagte die dumme Frau, indem sie ihn am Ärmel[10] mit sich fortzog[11], „kommt mit mir in die Stube, ich muß[12] noch einiges von Euch erfahren[13]."

In der Stube ließ sie ihn auf eine Bank niedersitzen und fuhr fort[14]: „Ich habe nämlich schon einmal einen Mann gehabt, der[15] Hans hieß[16] und mir[17] vor drei Jahren starb[18]. Ich weiß, daß er im Paradies ist, denn er war immer ein frommer Mensch. Habt Ihr ihn denn nicht dort im Paradies gesehen?"

„Hans? Wie heißt er aber mit seinem Zunamen[19]?"

„Hans Gutschaf heißt er. Er schielt ein wenig."

„Aber freilich[20]," rief der Student strahlend[21] aus[22] und schlug sich auf die Knie[23], „Hans Gutschaf kenne ich sehr wohl, er wohnt nur ein paar Häuser weiter[24]."

〔訳〕 „Lieber, guter Freund 親愛なる，よき友よ" [と] die dumme Frau そのばかなおかみさんは，ihn am Ärmel 彼の袖のところを [つかんで] sie.....mit sich fortzog 自分といっしょに連れ去り indem ながら (彼の袖をひいて家の中へ案内しながら), sagte 言いました，„mit mir わたしといっしょに in die Stube 部屋 [の中] へ kommt いらっしゃい，ich わたしは noch まだ einiges いくらかのことを von Euch あんたさんから muß.....erfahren 聞かなくてはなりません (どうしてもお聞きしたいことがありますから)。"

In der Stube 部屋にはいると sie 彼女は ihn 彼を auf eine Bank ひとつのベンチの上へ ließ.....niedersitzen かけさせました und それから fuhr fort [話を] つづけました：„nämlich じつは Ich わたしは schon einmal すでにいちど (いまの亭主をもつ前に) einen Mann ひとりの亭主を habe.....gehabt もっていました，der その亭主は Hans ハンス hieß という名前 und で vor drei Jahren 3 年前に starb mir 死んだのです。er ハンスが im Paradies [いま] 天国に ist いる daß ことを Ich わたしは weiß [よく] 知っています，denn なにしろ er ハンスは immer いつも ein frommer Mensch 信心深い人 war でした [からね]。Ihr あんたさんは denn いったい dort im Paradies あの天国で ihn あのひと [に] Habt.....nicht gesehen 会いませんなんだかね?"

„Hans ハンスですって? aber しかし er その方は mit seinem Zunamen 苗字の方は Wie heißt なんとおっしゃるんですか?"

„er あのひとは Hans Gutschaf ハンス・グートシャーフ heißt というんです。Er

あの人は ein wenig 少しばかり schielt やぶにらみです。"

„Aber freilich ああわかりました," [と] der Student 学生は strahlend [顔を] 輝やかして rief.....aus 言いました und そして sich auf die Knie 膝を schlug たたきました: „Hans Gutschaf ハンス・グートシャーフ [なら] ich 私は sehr wohl よく kenne 知っております, er あの方は nur ein paar Häuser weiter ほんの二三軒先に wohnt 住んでおります。"

〔注〕【10】**ihn am Ärmel** ここは逐字訳でわかるように「彼を・袖のところをつかんで」連れていったという構造である。日本語の感じで言えば「彼の袖をつかんで」すなわち an seinem Ärmel としたいが，ドイツ語では，ふつうはそうは言わない。つまり，眼・手などの部分に加えられる行為が，当人にとって直接の利害を有するのみならず，むしろ直接に当人を目標として行なわれる際には，人代名詞(あるいは名詞)の四格を用いる習慣なのである。(三格の場合もあるが，それはまたべつに述べる) 日本語なら an seinem Ärmel (物主形容詞) としそうなところを ihn (四格) am Ärmel とするのが特徴なわけ。つぎの諸例でこのドイツ語の癖に慣れてほしい:

物主代名詞代わりの四格 ihn auf den Kopf schlagen など

(1) Ich schlage *ihn auf den Kopf.* (ihn auf den=auf seinen)
僕は彼の頭を打つ。

(2) Ich küsse *sie auf die Stirn.* (sie auf die=ihre)
私は彼女の額に接吻する。

(3) Sie fassen *mich bei der Hand.* (mich bei der=meine)
かれらは私の手をつかむ。

(4) Er ergreift *sie bei den Haaren.* (sie bei den=ihre Harre)
彼は彼女の髪の毛をつかむ。

(5) Er faßt *den Hund an seiner Kette.*
彼は犬の鎖を手にとる。

最後の例は人称代名詞の代わりに名詞の四格がある場合，また定冠詞の代わりに特に物主形容詞を用いた例である。

【11】**fortzog** 分離前綴 fort＋不規則動詞 ziehen. ziehen の三要形: ziehen, zog, gezogen. 【12】**muß** 三要形: müssen, mußte, gemußt. すこしこまかいことだが，この müssen の意味はただ「.....ねばならぬ・ざるを得ぬ」ではぴったりこないと思う。ここは必然でもなければ論理上の帰結 (「.....のはずだ・に相違ない」) でもない。前後の文脈 (Kontext) でもわかるように，おかみさんが天国の前夫の消息を聞きたさに，学生にとりすがらんばかりにして懇請する口調である。müssen にはこのような

話者なり筆者なりの主張・忠告・要求・嘆願を意味する用法がある。だいたい「……しなくてはだめだ・どうしても……してもらいたい」といった訳語で表現される：Du *mußt* mich nur recht verstehen.「君は僕をほんとによく理解しなくてはならぬ(僕の言うことをよくわかってもらわなくてはこまる)」。Du *mußt* mir helfen, ja du *mußt*!「なんとかして僕を助けてくれよ」。【13】**erfahren** 非分離前綴 er-＋不規則動詞 fahren という構造。三要形：erfahren, erfuhr, erfahren. 【14】**fuhr fort** 構造：分離前綴 fort＋不規則動詞 fahren. 三要形：fortfahren, fuhr fort, fortgefahren.

規定的意味形態と後続的意味形態(副文章が主文章の後にくる場合) 【15】**der** この der は Mann を受ける関係代名詞である。初歩の間は機械的に，関係代名詞に導かれた従属文章(副文章)は後の方から訳して行く，というふうに覚えてすましているが，むしろ逆に前の方から順々に訳してこないと意味のとおらないことがある。本文の場合は，後から訳して行って，すなわち規定的 (determinierend) に訳してさしつかえないようだが，前から順々に訳してきて，すなわち後続的 (konsekutiv) に訳しても意味がとれる。いわば中間的な現象だが，文章によっては規定的と後続的とをはっきり区別しなければならないものがある。この関係は関係代名詞に導かれる従属文だけでなく，従属的接続詞の全体にわたっている。後続的意味の場合は，従属文の方は先行する主文章の延長として並立的に訳さなくてはいけない。翻訳文の誤訳には，この konsekutiv な意局を determinierend に訳したものがかなり多い。それほど重要な問題であるから，この際徹底的に研究しておく必要がある。まず比較的分かりよい両方の型の文例を挙げて，両者の意味上の相違を調べてみよう：

(1) 関係代名詞に導かれた従属文

Er schenkte mir einen Korbvoll Äpfel, die er in der Stadt gekauft hatte. (規定的)

彼は市で買った一籠のリンゴを私にくれた。

Er schenkte mir einen Korbvoll Äpfel, die ich dann unter meine Kinder verteilte. (後続的)

彼は私に一籠のリンゴをくれた，そして私はそれを私の子供たちに分けてやった。

(2) 従属的接続詞に導かれた句と文

Ich ging zu ihm hin, *um* ihm meinen schuldigen Besuch abzustatten. (規定的)

私は訪問の約束を果すために彼のところへ出かけて行った。

Ich ging zu ihm hin, *um* unverrichteter Dinge wieder zurückzukommen. (後続的)

私は彼のところへ出かけていったが，目的を達せずにまた帰ってきた。

Da mußte er sich auf eine Bank setzen und warten, *bis* die Reihe an ihn herankam. (規定的)

そこで彼はベンチに腰をおろして，自分の順番がくるまで待たざるをえなかった。

Während der Nacht konnte er kein Auge zumachen, *bis* endlich der Morgen kam und all die Nachtgedanken verscheuchte. (後続的)

夜の間彼はまんじりともできなかったが，そのうちにとうとう朝がやってきて夜の暗い想いを追いはらってしまった。

Sprich klar und deutlich, *so daß* dich jedermann verstehen kann. (規定的)

君の言うことが誰にでもわかるように，はっきり言いたまえ。

Er hatte alles vergeudet, *so daß* ihm nunmehr nichts zurückblieb. (後続的)

彼はいっさいを蕩尽してしまい，もはや何ひとつ残るものがなくなった。

Es rauschte leise an der Tür, *als* er eben zu ihr hinauf wollte. (規定的)

彼がちょうど彼女のところへ上がって行こうとした時，ドアに衣ずれの音がした。

Er wollte eben zu ihr hinauf, *als* es leise an der Tür rauschte. (後続的)

彼がまさに彼女のところへ上がって行こうとしていると，ドアのところで衣ずれの音がした。

つぎに少々困難な後続的な文例を挙げよう。後続的な意局の場合には，その従属文に dann「そのつぎに」とかあるいは dann よりもっと軽い意味の denn が助詞として入っていることが多い：

(3) Die Frau las eifrig in ihrem Gebetbuch, nur machten ihr die beiden Kinder zu schaffen, *die* sie einmal vorschob, dann wieder zurückhielt, *wie* ihr denn überhaupt die Ordnung des Leichenzuges sehr am Herzen zu liegen schien.

誤訳——Die Frau 婦人は eifrig 熱心に in ihrem Gebetbuch 彼女の祈禱書を las 読んでいた，nur ただ，denn überhaupt いったい ihr 彼女にとって die Ordnung des Leichenzuges 葬式の秩序が sehr ひじょうに am Herzen zu liegen 気にかかる schien ようにみえた wie ごとく，einmal あ

るいは vorschob 前に押したり dann あるいは wieder また zurückhielt ひきとめたりしていた die ところの die beiden Kinder ふたりの子供が machten.....zu schaffen なすべきことを作ってやった (手をやかせた)。

適訳——婦人はいっしょうけんめいに祈禱書を読んでいた，ただふたりの子供にはだいぶ手をやいているらしく，ふたりをあるいは前に押しやったり，あるいは後ろへひきとめたりするのであった，それに一体彼女はこの葬式の秩序をひじょうに気にしているらしかった。

(4) Immer wieder wird das Schifflein bis zum Himmel hinangetragen, *um* sich dann kopfüber in einen bodenlosen Abgrund hinunterzustürzen.

誤訳——dann そのつぎに in einen bodenlosen Abgrund 底知れぬ奈落の底へと kopfüber まっさかさまに um sich.....hinunterzustürzen 投げ落とされんがために，das Schifflein 小舟は Immer wieder またしてもまたしても bis zum Himmel 天にまで wird.....hinangetragen かつぎ上げられる。

適訳——小舟はいくどとなく天にも達せんばかりに持ち上げられるかと思うと，そのつぎにはさっそく底知れぬ奈落へと投げ落とされる

(5) Er begab sich zuerst nach Paris, *wo* er dann einen russischen Maler kennen lernte, *der* ihn zuletzt mit nach Rußland nahm.

誤訳——Er 彼は，zuletzt 最後に ihn 彼を mit いっしょに nach Rußland ロシアへ nahm 連れていった der ところの einen russischen Maler ひとりのロシア人の画家を dann そのつぎに kennen lernte 見知った wo ところの nach Paris パリへ zuerst まず begab sich おもむいた。

適訳——彼はまずパリへ行き，ついでそこでひとりのロシア人の画家と知合いになり，最後にその画家は彼をロシアへ連れていった。

最後につけ加えておくが，規定的意局と後続的意局とはいわば従属的文章形態の中に盛りうる意味傾向の両極であって，その間にいくつかの段階があると考えなくてはならない。本文の例などはこの両極の中間にあるものと言ってよかろう。

【16】**hieß** 三要形：heißen, hieß, geheißen. heißen が自動詞として用いられる際のひとつの用法に，本文のように一格の述語をとって「.....と呼ばれる・名は.....である」の意味のことがある。「.....になる」という意味の werden や「いぜんとして.....である」という意味の bleiben と関連させて知っておく必要がある。

関心の三格 ethischer Dativ 【17】**mir** この mir は「私に」何かをくれるので

もなく，「私から」何かを取るのでもなく，また「私のために」何かを買い求めるのでもない。文法的には全く独立した人代名詞の三格である。これはドイツ語では関心の三格 ethischer Dativ と呼んでいる。日本語に類似現象を求めると，そういうことをして「くれ」ては困る，とか，ではもう教えて「やらない」，とかいう，片言隻語のうちに自己や相手の関心・情実・利害の関係をほのめかす言葉があるが，まさにこれがドイツ語の ethischer Dativ の使い場所である。漱石の「坊ちゃん」が，増俸のことが問題になった時に，「なあに，月給なんか上ってやるもんか」と強がりを言うのなぞは，この「やる」をうまく利用した滑稽である。「こんなところで小便をしてくれては困る」と言うが，小便を「自分に」くれるわけではないので，小便をするのを目のあたりに見る気づつなさが自分「に」くれられるわけである。この「に」を称して関心の三格というのである：Du willst *mir* doch nicht hier Wasser abschlagen? つぎに数例を挙げて参考に供する。

(1) Japan! oh, das ist *dir* ein Land, wo alles märchenhaft schön ist.

日本！日本といへば「君」，すべてがまるでお伽噺のように美しい国だぜ。

(2) Siehst du? der lange Peter ist *dir* ein Advokat geworden.

どうだい，のっぽのペーテルが「君」，弁護士になったんだぜ。

(3) Lieber Freund, was schreibst du *mir* bloß für ein sonderbares Buch?

おいおい，変な本を書いて「くれ」ちゃ困るぜ。

(4) Na! du weißt, ich bin ein Übermensch; darum schreibe ich *dir* nur Überbücher.

へ！わが輩は超人だ。だから超書しかお書き遊ばさないんだ。

（超書というのは，ドイツあたりの貧乏で鼻の高い詩人や哲学者を皮肉って作られた奇抜な言葉で，つまり，計画ばかり大したもので，頭の中だけで書かれていて紙には遂に書かれないでしまう書物ということ）。

関心の三格を広い意味に使えば Er küßte *mir die Hand*.「彼は私の手に接吻した」や Er kaufte *sich einen Mantel*.「彼はマントを買い求めた」などの mir, sich も含まれるが，ここでは狭義の場合のみを説明したのである。

[18] **starb** 三要形：sterben, starb, gestorben. [19] **Wie heißt er aber mit seinem Zunamen?**「彼の苗字の方は何というか?」ということを「彼は，苗字をもっては，何と呼ばれるか?」と言う。Er が一般的な主語であるが，つぎの mit..... は，それをなおいっそう詳しく言いなおしているとも見られる。heißen という動詞はこういう用法をするのであるが，さらにこの mit の用法からいうと，こうした用い方はかなり一般

的である：Er steht mit einem Fuße im Grabe.「彼はすでに片足を墓の中につっこんでいる」; Er erhebt sich mit halbem Leibe.「彼は半身を起こす」; Er geriet mit dem rechten Arm in die Maschine.「彼は右腕を機械にさらわれた」など，たいてい身体の一部を指す名詞の場合で，Namen の場合は例外である。 **[20] Aber freilich** この aber には「しかしながら」の意味はなく，たんに間投詞的に用いられている。小学校一二年くらいの子供がたまにお菓子の配給にありついて「しかしうまいなあ!」などと言うことがあるが，この「しかし」であると思えばよい。freilich は英語の *certainly* や *to be sure* と同じ。*aber freilich* または *aber doch* といった結合で英語の *of course* に相当すると考えてもよい。 **[21] strahlend**=*vor* (*von*) *Freude strahlend*=*beaming with delight.* **[22] rief.....aus** 分離前綴 aus＋不規則動詞 rufen という構造。三要形：ausrufen, rief aus, ausgerufen. **[23] schlug sich auf die Knie** ここの sich が三格であり，schlug auf *seine* Knie の代わりであることも，もう分かったと思う。

形容詞につく数量的規定は四格 **[24] ein paar Häuser weiter** たとえば「この子供は三才に一カ月だ」という時には Dieses Kind ist *drei Jahre und einen Monat* alt. と言う。Monat は男性名詞で einen という不定冠詞の語尾で分かるとおり「三年一カ月」は四格である。これはあらゆる数量的規定に適用される（女性・中性・複数のさいは，一格と四格の区別が偶然見分けられないが，それが四格であることを知っておく必要がある)。したがって本文の ein paar Häuser も複数なので一格と四格の区別がわからぬが，じつは四格である。

zwanzig Jahre alt	二十才の
10000 Mann stark	兵力一万の
drei Meilen lang	長さ三マイルの
einen Monat lang	一カ月間の
100 Mark wert	価百マルクの
zwei Fuß breit	幅二フィートの
zwei Fuß hoch	高さ二フィートの
zwei Fuß tief	深さ二フィートの

[3] „Ach, lieber Junge," jubelte die Frau, „wie geht's meinem guten Hans[25]?"

„Schlecht genug[26]," sagte der Student mit umflorten

Augen[27] und blickte trübselig nieder, „er hat ja weder Geld noch Kleider mitgebracht[28], der arme Kerl. Er wäre Hungers gestorben[29], wenn sich nicht ein paar gute Nachbarn seiner angenommen[30] hätten."

Da begann[31] die Frau bitterlich zu weinen: „Ach du mein armer Hans, bei mir hast du keinen Mangel gelitten[32], und nun frierst[33] und hungerst du in jener Welt! Hätte ich doch einen Boten[34], dir eine Summe Geld und die nötigen Kleider zu schicken[35]!"

„Faßt Euch[36], liebe Frau," sagte der Student bewegt[37], „wenn Ihr einen Boten braucht, so will ich Euch selber den Gefallen tun[38] und sie ihm hinbringen, denn demnächst muß ich ohnehin[39] ins Paradies."

〔訳〕 „Ach, lieber Junge ああ，親愛なる若者よ（それはまたありがたいことで)," [と] die Frau おかみさんは jubelte 歓びの声をあげて言いました，„meinem guten Hans ハンスは wie geht's 今どうしていますか?"

„Schlecht genug とてもみじめですよ," [と] der Student 学生は mit umflorten Augen 霞ませられたる目をもって（目をうるませて）sagte 言いました und そして trübselig 悲しげに blickte.....nieder 目を伏せました，„er あの方は ja なにしろ weder Geld お金も noch Kleider 着物も hat.....mitgebracht 持って来 [なかった] のですからね，der arme Kerl かわいそうに。ein paar gute Nachbarn 近所の二三の親切な人たちが seiner あのひとの sich nicht.....angenommen hätten 面倒を見てくれません wenn でしたら，Er あの方は wäre Hungers gestorben 餓え死にしたことでしょうよ。"

Da この話を聞いて die Frau おかみさんは bitterlich さめざめと begann.....zu weinen 泣き始めました：„Ach du mein armer Hans ああかわいそうなハンスよ，bei mir わたしの家では du おまえさんは hast.....keinen Mangel gelitten なんの欠乏をもこうむらなかったのに（なんの不足なく暮していたのに)，und それだのに nun いまは in jener Welt あの世で du おまえさんは frierst 寒さにふるえ und そして hungerst ひもじさに苦しんでいるなんて！dir おまえさんに eine Summe Geld まとまったお金 und と die nötigen Kleider 必要な衣類を zu schicken 届けてくれる einen Boten 使いの人を ich わたしが doch せめて Hätte 持っていたら（おまえさんにお金や衣類を届けてくれる使いがあるといいのだが)!"

„Faßt Euch 気をおちつけてください，liebe Frau おかみさん," [と] der Student 学生は bewegt 感動して sagte 申しました，„[もしも] Ihr あんたが einen Boten 使

いの者を braucht 必要とする wenn なら, so それなら ich 私が selber 自分で Euch あんたのために will.....den Gefallen tun その親切をいたしましょう (私自身がその使いの役をひきうけましょう) und そして sie (=eine Summe Geld und die nötigen Kleider) それらのものを ihm あの方に [will] hinbringen 持っていってあげましょう, denn なぜかと申しますと ich 私は ohnehin そうでなくても demnächst そのうちに muß.....ins Paradies 天国へ [行か] なくてはならないのですから。"

〔注〕 [25] **wie geht's meinem guten Hans?** geht's は geht es の省略形。この *es geht einem gut (schlecht)* の用法については第 2 課の注で文例を挙げて説明してある。guter Hans というのは, 自分の夫だからそう言うのである。 [26] **Schlecht genug** これは Es geht ihm schlecht genug. の省略である。genug は英語の *enough* と同語源で意味用法もだいたい似ている。ただ genug の位置に注意する必要がある。*wine enough* または *sufficient (plenty of) wine* はドイツ語では *Wein genug, genug Wein* または *des Weins genug* と三様の表現をする。genug を規定される言葉の前におくか後におくかは, 習慣や口調できまることだから出来るだけ早く語調に慣れなくてはいけない。 [27] **mit umflorten Augen** umfloren は非分離動詞で「紗 Flor で巻く・包む」という意味だが, それが比喩的になって *den Blick umfloren=to dim the sight* という熟語ができた。本文では der Blick「瞳・眼」の代わりに die Augen を使い, mit とともに述語句にしたものである。「紗をかけられたる眼をもって」すなわち「目をうるませて」ということ。*umflorten Blickes (Auges)* といってもよい。学生が芝居気たっぷりに無智な百姓のおかみさんを愚弄している図である。 [28] **mitgebracht**=mit sich gebracht. 三要形: mitbringen, brachte mit, mitgebracht. [29] **Hungers gestorben** *Hungers sterben*=vor Hunger sterben=*to die of hunger (starvation), to be starved to death.* Hungers は前に説明した Genitivus absolutes の一種で副詞的に凝結した形。*festen Schrittes*「足どりもたしかに」や *meines Wissens*「私の知るところでは」, *allen Ernstes*「大まじめで」, *folgendermaßen*「つぎのごとく」, *unverrichteterdinge*「無駄骨を折って・手を空しくして」などと同型である。 [30] **sich.....seiner angenommen** *sich einer Person annehmen* は「あるひとの世話をする」という熟語。

二格支配の再帰動詞 なお, 再帰動詞で二格の目的語をとるものがかなり多いが, これらは口調で覚えるのが早い。その二格は日本語の「を」で訳しえられる場合が多い:

sich jemandes annehmen	あるひとを引きとって世話する
sich eines Dinges enthalten	あることをさしひかえる
sich eines Dinges entschlagen	あるものをかなぐり捨てる
sich eines Dinges entsinnen	あることを想いだす

sich eines Dinges freuen	あることを悦ぶ
sich eines Dinges bedienen	あるものを使用する
sich eines Dinges befleißen	あることを心がける
sich eines Dinges schämen	あることを恥じる
sich eines Dinges entäußern	あるものを手離す
sich eines Dinges begeben	あるものを放棄する
sich eines Dinges vermessen	あることを敢えてする
sich eines Dinges weigern	あることを拒否する

angenommen の三要形：annehmen, nahm an, angenommen. なお Er hätte から，wäre までは，「基礎入門編」の第 29 講で述べた約束話法の文章であるから，hätte や wäre の形に不審のある読者はもう一度そこを読んでほしい。

【31】**begann** 三要形：beginnen, begann, begonnen. 【32】**keinen Mangel gelitten** *Mangel leiden=to live in poverty* (*indigence*), *to be destitute*. だから「ひじょうに貧乏する」なら *großen Mangel leiden=to be in great distress* (*utter destitution*) であり，「ちっともこまらぬ」なら本文の *keinen Mangel leiden* といった形になる。gelitten の三要形：leiden, litt, gelitten. 【33】**frierst** 三要形：frieren, fror, gefroren. 【34】**Hätte ich doch einen Boten** この文章全体は「基礎入門編」第 29 講（§ 138 の「前提部または結論部の独立用法」）で説明した約束話法の用法のひとつである。本文は前提部だけの独立用法で結論部の「そうしたらどんなに嬉しいだろう」といった言葉は，言わなくても分かっているから省かれている。この種の文章は「願望の表現に用いる第二式接続法」と呼んでもよい。特徴としては doch などの助詞があることである。構文としては本文のように定形倒置形のものが多く，定形正置文もある。また daß や wenn などの接続詞を先頭にすえた形もある：

(1) *Wäre* ich *doch* reich！（「基礎入門編」§ 138 参照）

(2) Ach, *käme* er *doch* zu mir！
　彼がきてくれるといいなあ。

(3) Ach, wenn ich reden *dürfte*！
　僕が話せるといいのだが。

zu を伴う不定句の名詞付加的な用法

【35】**zu schicken** この zu を伴う不定句は名詞付加的 (adnominal) に，すなわち Boten の規定句に用いられている。この場合のように，人間を意味する名詞に zu＋不定句を結びつけるのは例外的場合であるが，いわば関係代名詞文のかわりとして英独両語ともに存する型である。たとえば

「……するための人間」「……するに適した人間」という場合にはこの結合が許される。英の *You are the fellow to execute it.*「君ならこれぐらいのことはやってのけられそうな男だ」などはドイツ語でも Sie sind der Mann, das auszuführen.

[36] Faßt Euch *sich fassen=to contain (collect, restrain) oneself*「しっかりする」,「気を落ちつける」の命令形。 **[37] bewegt** これは他動詞 bewegen の過去分詞である。bewegen は意味によって，本文のように規則動詞である場合と不規則動詞（三要形：bewegen, bewog, bewogen）である場合とがあるから注意しなくてはならない。規則動詞の場合は，物の位置を変えるために「動かす」が原義で，それが比喩的になって，ひとを「感動・感激させる」となる。本文の bewegt はこの比喩的な意味につかわれている。ところが不規則変化をする bewegen は人を「説き動かす」すなわち *to induce someone to do something* の意である。

den Gefallen tun について [38] Gafallen という名詞も意味によって性を異にして用いる。gefallen「気にいる・好かれる」という自動詞の不定法を大書してそのまま名詞に用いた場合は言うまでもなく das Gefallen であるが，このほかに本文のような der Gefallen と男性の場合もある。この後者の場合は英語の *kind, service, favour, kindness* といった単語に当たるわけで，*einem einen Gefallen tun (erweisen, erzeigen)= to do someone a favour (a good service)* とか *einem etwas zu Gefallen tun=to do something to please (oblige) someone* のような慣用句として用いる。本文のように尽すべき親切の内容がなんらかの意味でわかっている時には定冠詞を用いて *den Gafallen tun* とする：*Tun* Sie *mir* doch *den Gefallen* zu kommen.=*Do me the favour to come.*

[39] ohnehin ohnedas あるいは ohnedem あるいは ohnedies の形もある。英語に訳せば *without that* または *apart from that*,「そうでなくても・もともと・元来」である。

[4] Da wurde die Frau froh und gab dem Studenten reichlich zu essen und zu trinken[40]. Sie ging dann hinauf in ihre Kammer an den großen Schrank[41], nahm zwei Paar Hosen heraus[42] und den warmen gefütterten Rock[43], dazu einige Hemden, fügte eine Handvoll Gold- und Silbergulden[44] hinzu und wickelte das Ganze in ein großes Tuch ein. Das Bündel brachte sie dann zum Studenten herunter und schenkte ihm noch ein paar Groschen[45], damit er alles

brav ausrichte[46]. Der wischte sich den Mund[47], schnallte sich die Bürde auf den Rücken, dankte der Frau von Herzen, schwenkte den Hut[48] und zog davon.

〔訳〕 Da これを聞いて die Frau おかみさんは wurde.....froh 喜びました und それで dem Studenten 学生に gab.....reichlich zu essen und zu trinken 豊富に飲食物を与えました（どっさりご馳走しました）。dann それから Sie 彼女は hinauf 上へ in ihre Kammer 彼女の部屋へ an den großen Schrank 大きなたんすの傍へ（二階の彼女の部屋にある大きなたんすのところへ）ging 行き，zwei Paar Hosen 二足のズボン und と den warmen gefütterten Rock 暖かい裏付けされた（暖かい裏のついた）上着，dazu そのほかに einige Hemden 数枚のシャツを nahm.....heraus 取り出し，eine Handvoll Gold- und Silbergulden ひとつかみの金貨と銀貨を fügte.....hinzu 添え und そして das Ganze それらすべてを in ein großes Tuch ひとつの大きな布に wickelte .....ein 包みました。dann それから sie 彼女は Das Bündel その包みを zum Studenten 学生のところへ brachte.....herunter 持って降りました und そして er 彼が alles 万事を brav 正直に ausrichte 実行する damit ようにと（彼に彼女の依頼をちゃんと果たしてもらおうと思って），ihm 彼に noch さらにまた ein paar Groschen 二三グロッシェンを schenkte 与えました。Der 学生は wischte sich den Mund [たらふく食べた後で] 口をふき，die Bürde その荷物を sich.....auf den Rücken 自分の背中に schnallte ひもで背負い，der Frau おかみさんに von Herzen 心から dankte お礼を述べ，den Hut 帽子を schwenkte 振り und そして zog davon 立ち去りました。

〔注〕 [40] **gab.....zu essen und zu trinken** zu を伴う不定法が sein, haben, geben などと結合して述語句を形成する現象はきわめて重要な問題であるにかかわらず，ふつうの文法書ではほとんど問題とされず，したがって学習者もあいまいな解釈をしてお茶をにごしている。それで「文法詳説編」では §38 から §39 までを費して詳説してある。それでこの注ではわかりよい文例によって，zu を伴う不定法が述語句となるためにはいかなる動詞と結合するか，そしてそれぞれいかなる意味をもつか，を明らかにしておこう。

述語句として用いられた zu を伴う不定法＋sein・haben・geben など

(1) **zu を伴う不定法が sein と結合する場合。**（意味は「.....することができる」すなわち können で言い換えられる場合と「.....しなければならぬ」すなわち sollen または müssen で言い換えられる場合とに分かれるが，たいていはその両方を併有するような意味の際に用いられる）

Diese Schwierigkeit *ist* nicht *zu beseitigen.*

この困難は除去され得ない。

(言い換え： Diese Schwierigkeit *kann* man nicht *beseitigen.*)

Einige Briefe *sind* noch *zu schreiben.*

なお二三通の手紙を書かなくてはいけない。

(言い換え： Einige Briefe *müssen* noch *geschrieben werden.*)

(2) **zu を伴う不定法が haben と結合する場合。**(意味は「……しなければならぬ」と「……すべきだけのものを持っている」の間に分極性を有する)

Wir *haben* noch manche Hindernisse *zu überwinden.*

われわれはなお幾多の障害に打ち勝たねばならぬ。

Ich *habe* den ganzen Tag nichts *zu tun.*

僕は一日中何もすることがない。

(3) **zu を伴う不定法が geben と結合する場合。**(意味は「……する材料を供給する」)

Er *gibt* mir *zu essen und zu trinken.*

彼は私に食物と飲物をくれる。

Diese Sache *gab* ihm so viel *zu bedenken,* daß er die ganze Nacht kein Auge zutun konnte.

この問題は彼にいろいろと考えさせたので，一晩中ねむることができなかった。

(4) **zu を伴う不定法が bekommen と結合する場合。**(意味は「……する材料を手に入れる」)

Ich habe ja so viel heute Mittag *zu essen bekommen.*

今日の昼僕はとてもたくさん食べさせられた。

Im Laufte dieses einen Tages *bekam* er manches Angenehme und Unangenehme *zu hören.*

このただ一日の間に彼はいろんな愉快なこと不愉快なことを聞かされた。

(5) **zu を伴う不定法が es gibt と結合する場合。**(意味は「……すべき (können または sollen, müssen の色彩) ものがある」)

Bei ihm *gibt es* nichts *zu essen und zu trinken.*

奴のところには飲む物も食べる物もない。

Was *gibt's zu lachen*?

何かおかしいことがあるのか? 何がおかしいのだ?

(6) **zu を伴う不定法が bleiben と結合する場合。**(意味は「……すべき (können または sollen, müssen の色彩) ものが残っている」)

Es *bleibt* nichts mehr *zu essen und zu trinken.*

食べるものも飲むものももはやない。

(7) **zu を伴う不定法が finden と結合する場合。**(意味は「……すべきものを発見する」)

Was *finden* Sie dabei *zu lachen*?

そのことに何かおかしい点がありますか?

essen の三要形：essen, aß, gegessen. trinken の三要形：trinken, trank, getrunken.

空間概念を表現する副詞の序列 **【41】 hinauf in ihre Kammer an den großen Schrank** この長い副詞句は三つの副詞から成りたっている。「上(二階)へ・彼女の部屋へ・大きなたんすのそばへ」と一番広い規定から順々に狭い規定へと連ねてある。これがドイツ語における空間概念の副詞的規定を排列するもっともふつうな方法である。だいたい，日本語のそれと同じ序列と考えてよい。このほかに全部を一個の副詞句にまとめてしまう方法もあるが，この方はドイツ語ではあまりやらない。本文の場合なら an den großen Schrank in ihrer Kammer oben「二階の彼女の部屋の中の大きなたんすのそばへ」とするのである。副詞が二個だけの場合は，上の法則を特に注意する必要がある。二個のうちどちらが広い概念であるかによって，一句に結びつくか，二句に分かれるかがきまるからである。

(1) 一句に結ばれる場合 (広い概念が後にくる)

auf dem Baume dort	あそこにある樹の上に
auf der Bank vor dem Hause	家の前のベンチの上に
in der Schublade hier	ここの引出しの中に
am Brunnen bei dem Lindenbaum	菩提樹のそばの井戸端に

(2) 二句に分れる場合 (広い概念が前にくる)

dort auf dem Baum	あそこに，樹の上に
vor dem Hause auf der Bank	家の前に，ベンチの上に

【42】 nahm……heraus 三要形：herausnehmen, nahm heraus, herausgenommen. こは nahm zwei Paar Hosen und den warmen gefütterten Rock heraus とすべきだが，同類項がいくつも後につづく時は本文のように最初のだけで一応しめくくって，後は格を合わせてつけ加えるのである。

名詞の前にふたつ以上の形容詞がある場合 **【43】 den warmen gefütterten Rock** この場合，warm と gefüttert とのふたつの形容詞が同等の立場で Rock を形容していると考えてはいけない。じつは der *gefütterte Rock*「裏づきの上着」というひとつの

概念に warm「暖かい」という形容詞がつくのである。このように，形容詞と名詞を一括して一概念と見，その概念全体を規定する付加語をその前につけることがよくある。この場合には，あいだにコンマをうたないのが特徴である：das zweite *große Erdbeben*「二度目の大地震」，der erste *heiße Sommertag*「最初の暑い夏の日」，ein gewisser *alter Herr*「さる老紳士」，die beiden *jungen Leute*「ふたりの若人たち」，die andern *wichtigen Gründe*「そのほかの重要な根拠」。ついでに，数個の形容詞がならぶ際のコンマの打ち方を述べておく。数個の形容詞のそれぞれが直接に名詞を修飾する際はコンマを打つ：A — ein großer, reicher, mächtiger Staat「大きな，富裕な，強力な国家」，B — ein großer, reicher und mächtiger Staat「大きく富裕でかつ強力な国家」。B の例のように最後を und にすると，名詞が厳密にそれだけの性質を有することを意味し，A のように全部をコンマにすると，それらの性質およびそれに似た他の多くの性質を持つことをほのめかしている。gefüttert は füttern の過去分詞だが，この füttern (Futter より）という動詞はふたつの異なった意味を持っている。ひとつは本文の例のごとく「……裏をつける」であり，もうひとつは「病人や子供に食物を与える・動物に餌をやる」という意味である。

[44] Gold- und Silbergulden Gulden はむかしの鋳貨で二マルクの値打があり，金グルデン (Goldgulden) と銀グルデン (Silbergulden) の二種があった。本文ではたんに日本の「金貨や銀貨」に相当する意味に使っただけのもの。**[45] Groschen** これも銀貨だが，価値は一マルクの百分の一であった。日本語でなら「銅貨」といったところ。天国にいる前夫には金貨銀貨をひとつかみ，そのお使いをする学生には銅貨をすこしと区別したところ，おかみさんとしては大まじめだが，学生にとっては，それより読者にとっては，よけいにおかしいところ。**[46] damit er alles brav ausrichte** =um ihn alles brav ausrichten zu lassen なお brav は英語の *brave* からの連想で，「勇敢に」と考える諸君もあろうが，「勇敢な」という意味は今ではすたれて，「正直な・健気な」という意味に用いられる。ausrichten という動詞はなんでも人からことづかった用務を「果たす」という意である。**[47] wischte sich den Mund**「口をぬぐった」というのは，おかみさんの出してくれたご馳走をたらふく食べたことを暗示していると同時に，好事魔多しで邪魔がはいらぬうちに引きあげようという態度をほのめかしている。**[48] schwenkte den Hut** *den Hut schwenken*「帽子を振る」で，胃袋がいっぱいなるうえに思いがけない衣類や金を手にいれて，満足して急に意気揚揚と濶歩する有様が描かれている。

[5] Nicht lange danach kam der Bauer nach Hause. Die Frau sprang ihm entgegen[49] und rief: „Weißt du was[50]? Es war ein Mann hier[51], der kam geradenwegs[52] aus dem Paradies und kannte meinen seligen[53] Hans sehr wohl. Aber es geht ihm schlecht, hat er gesagt. Er leide[54] großen Mangel dort. Darum habe ich ihm seine Kleider geschickt und seine Hemden und eine Handvoll Gold- und Silbergulden dazu, denn er geht nun wieder hin."

Der Bauer schäumte vor Wut[55] und schrie[56]: „Jawohl, er geht nun wieder hin! Und ich will dafür sorgen, daß er sicher ins Paradies kommt, und zwar in das wirkliche Paradies!" Damit zog er seinen besten Hengst aus dem Stall, saß auf und sprengte dem Schwindler nach.

〔訳〕 Nicht lange danach そのあと長くなく（それからまもなく） der Bauer 百姓は kam.....nach Hause 家へかえって来ました。 Die Frau おかみさんは sprang ihm entgegen 彼に向かってとんでいきました（大急ぎで彼を迎えて） und そして rief 声をはずませて言いました：„Weißt du was ねえお前さん? hier [いま] ここに ein Mann ひとりの男が Es war おりました（いまここへある人が来たんですよ）, der そのひとは geradenwegs まっすぐに aus dem Paradies 天国から kam やって来た [のだそうです] und そして meinen seligen Hans わたしの亡くなったハンスを sehr wohl とてもよく kannte 知っている [と言うのです]。 Aber ところが es geht ihm schlecht あのひとは哀れな暮しをしている [と] er その人は hat.....gesagt 言うのです。 Er あのひとは dort あそこで（天国で） leide großen Mangel とても困っている [のだそうです]。 Darum それだから ich わたしは ihm あの人に seine Kleider あのひとの着物 und と seine Hemden あのひとのシャツ und と dazu そのほかに eine Handvoll Gold- und Silbergulden ひとつかみの金貨と銀貨を habe.....geschickte 送ってやりました。 denn なにしろ er その学生さんは nun wieder すぐまた geht.....hin [天国へ] 行く [と言うもんですから]。"

Der Bauer 百姓は vor Wut 怒りのあまり schäumte 泡をふきました（泡をふいて怒りました） und そして schrie どなりました：„Jawohl そうだとも, er 奴は nun wieder すぐまた geht.....hin [天国へ] 行くとも! Und それに ich わしは, er 奴が sicher まちがいなく ins Paradies 天国へ kommt 行く, und zwar それも in das wirkliche Paradies ほんものの天国へ [kommt] [行く] daß こと dafür そのことのために will .....sorgen 配慮するつもりだ（わしはその野郎が天国も天国, ほんものの天国へまちが

いなく行けるようにしてみせる)!" Damit こう言って er 彼は seinen besten Hengst 彼の一番上等の牡馬を aus dem Stall 厩から zog 引き出し, saß auf [その馬に] またがって und そして dem Schwindler その詐欺漢の sprengte.....nach 後を追って [馬を] とばしました。

〔注〕 [49] **sprang ihm entgegen** entgegen は springen の分離前綴と考えても, ihm の前置詞と考えてもよい。entgegen には「.....に向かって・対抗して」と「.....[を迎えて] その方へ」のふたつの意味があるが, ここは後者の意味である。前置詞としては後置される場合が多い。springen の三要形: springen, sprang, gesprungen. [50] **Weißt du was?** 第 1 課の注 16 参照。 [51] **Es war ein Mann hier.** この文章はふたつの主語 (文法上の主語 es と論理上の主語 ein Mann) があることについては第 2 課の注 8 参照。

扮役的直接法 Indicativus mimicus [52] **der kam geradenwegs** この指示代名詞 der 以下を直訳すると「その人は天国からまっすぐにやってきました。そして私の亡くなったハンスをたいへんよく知っていました」となる。言葉に敏感な諸君は上の日本語におかしさを感ずると思うが, これはじつは,「.....とその学生さんは言いました」が省いてあるのである。まさかおかみさん自身が, その学生が天国から「まっすぐに」やってくるところを見ていたわけでもなく,「天国にいる」前夫と学生が話しているところに立ち合ったわけでもない。おかみさんがかりに学生の身になってみて, いわば学生にかわってせりふを述べているのである。本文では作者がおかみさんの口をとうしてしゃべらせているのだが, 小説などによく出る形では地の文 (der erzählende Teil) において作者が作中の主人公にかわって, 主人公に扮して語るのである。これは主人公の考えたことをいちいち「.....と彼は考えた・言った」と繰り返す必要をなくするための手段であったのが, ひんぱんに用いられているうちに, ある特殊な面白さをもつようになったのである。しいて名づければ Indicativus mimicus「扮役的直接法」である。ただ直説法過去の場合が多いので, Praeteritum mimicum「扮役的過去」と言ってもよかろう。たとえば「私は彼女の所へお土産を持って出かけると „よいかたね" と呼ばれ, 何も持たずに出かけると „またうるさいのがきた" と言われた」を扮役の直説法で表現すると「私は, 彼女のところへお土産を持って出かけると „よいかた" であり, 持たないで出かけると „また例のうるさいの" であった」となる。一例: Ich konnte ihn nicht leiden; wenn er kam, so war ich entweder verreist oder sonst abwesend.「私は彼がいやでたまらなかった, 彼がやってくると, あるいは旅行中, あるいはそのほかの理由で留守であった」。留守「であった」とは言うが, じつは留守を「つかった」ということは十分わかるからそう言うのである。

[53] **selig**「冥福な」。ただし故人であることを示すために用いる形容詞で,「いまは亡

き」,「故」などにあたる。【54】**Er leide** leide は接続法の第一式だが，これは「……と彼が言った」が省かれたからで,「基礎入門編」第 27 講の間接話法でかなり詳しく説明しておいた。

「……のあまり」などの意の vor 【55】**vor Wut** 前置詞 vor は「……のあまり」,「……しすぎて」,「……のきわみ」という意味に用いられることがある。たいてい熟語的に凝結した形で現われる：*vor Schreck*「おどろきのあまり」, *vor Glück*「しあわせすぎて」, *vor Langweile*「退屈のあまり」, *vor Kummer*「苦労のあまり」, *vor Schmerz*「悲痛のあまり」, *vor Aufregung*「興奮のあまり」, *vor Zorn*「腹たちまぎれに」, *vor Eifersucht*「嫉妬のきわみ」, *vor Lachen*「おかしさに堪えかねて」, *vor Liebe*「可愛さあまって」, *vor Freude*「喜びのあまり」, *vor Scham*「恥かしさのあまり」。

【56】**schrie** 三要形：schreien, schrie, geschrieen.

[6] Der war aber nicht auf den Kopf gefallen[57]. Denn als er den Bauer hinter sich herangaloppieren hörte[58], warf[59] er sein Bündel in einen Busch, nahm eine Schippe[60], die ein Straßenarbeiter dort hatte liegen lassen[61], zur Hand und stellte sich fleißig[62].

„Habt Ihr nicht einen jungen Kerl mit einem Bündel auf dem Rücken gesehen?" fragte der Bauer, den Gaul zügelnd.

„Eben[63] war einer[64] hier," antwortete der Student, „aber wie[65] er Euch kommen sah, ist er über den Graben gesprungen und in den Busch gerannt."

„Halte mir den Gaul," sagte der Bauer, „gleich bin ich wieder zurück." Damit sprang er aus dem Sattel und rannte[66] in den Busch hinein.

〔訳〕 **aber** ところが **Der** くだんの [詐欺] 漢は **war……nicht auf den Kopf gefallen** なかなか抜目のない奴でした。**Denn** なぜかと申しますと **er** 彼は **den Bauer** 百姓 [が] **hinter sich** 自分のうしろから **herangaloppieren** [馬に乗って] 駆けてくる **hörte** のを聞き **als** ますと，**er** 彼は **sein Bündel** [背の] 荷物を **in einen Busch** とある藪の中へ

warf 投げ [こみ], ein Straßenarbeiter 道路工夫が dort そこに hatte liegen lassen 置き放しにしていた die ところの eine Schippe シャベルを nahm.....zur Hand 手に取り und そして fleißig せっせと [働いているような] stellte sich ふりをしました。

„Ihr あんたは einen jungen Kerl mit einem Bündel auf dem Rücken 背にひとつの包みをもった若い男を (包みを背負った若い男を) Habt.....nicht.....gesehen 見なかったかね?" [と] der Bauer 百姓は, den Gaul zügelnd 馬の手綱をおさえながら, fragte たずねました。

„Eben たったいま einer そんな男が war.....hier ここへ来ました," [と] der Student 学生は antwortete 答えました, „aber ところが er その男は Euch あんた [が] kommen やって来るのを sah 見る wie やいなや, er その男は über den Graben その溝を ist.....gesprungen 跳び越え und て in den Busch あの藪の中へ [ist] gerannt 駆けこみましたよ。"

„mir すまないが den Gaul この馬を Halte おさえていてくれ," [と] der Bauer 百姓は sagte 言いました, „ich わしは gleich すぐに wieder また bin.....zurück かえってくるから。" Damit こう言って er 百姓は aus dem Sattel 鞍から sprang とび [降り] und て in den Busch 藪の中へ rannte 駆けこみました。

〔注〕 [57] **war.....nicht auf den Kopf gefallen** この慣用句は er *ist nicht auf den Kopf gefallen* の形で用いられる。おそらく，倒れて頭を打つとばかになるから，こういう慣用句ができたのであろう。*he is no fool* (*no stupid*)「なかなかどうして馬鹿でない」。fallen の三要形：fallen, fiel, gefallen.

目的語化した „不定法とその四格主語" [58] **den Bauer hinter sich heran-galoppieren hörte**「百姓が自分のうしろで [馬で] 駆けてくるの——を聞いた」という構造でも分かるように，den Bauer から herangaloppieren までは hören の目的語になっている。そしてこの目的語内部の関係をみると，四格の den Bauer は不定法 herangaloppieren の主語である。er hörte, *wie* der Bauer *herangaloppierte* の省略形と見ることができる。つまり本文で四格目的語になっている den Bauer は不定法 herangaloppieren の主語なのである。形のうえでは hören は herangaloppieren にたいしてあたかも話法の助動詞のような関係に立っているように見えるが，実際は hören は den Bauer.....herangaloppieren という省略文章を目的とする他動詞である。このように「不定法とその四格主語」を目的語としてとり得る動詞は，実際においては，その数はごくわずかで，**sehen, hören, lassen, machen, fühlen, finden, lehren, heißen**「命ずる」，haben など，および sehen, hören, fühlen と同意の語にかぎる。

(1) Ich **sehe** *ihn kommen.* (=*wie er kommt*)

(2) Ich **höre** *einen Hund bellen.* (=*wie ein Hund bellt*)

(3) Der Alte **fühlt** *seinen Tod nahen.* (=*wie sein Tod naht*)

(4) Mein Wort **macht** *ihn zittern.* (=*daß er zittert*)

(5) Man **läßt** *mich nicht gehen.* (=läßt nicht zu, *daß ich gehe*)

(6) Er **lehrt** *mich Ski fahren.* (=*wie ich Ski fahren soll*)

以上の例で「不定法とその四格主語」を目的語とする動詞についての概念をつかむことができたと思うが，念のために初学者がややもすると間違いやすい一二の例を挙げておこう：

(7) Ich **helfe** *ihm Schnee schippen.*

これも同じ型に属する文章だが，「雪かきをする」Schnee schippen の意味上の主語である「彼」が三格になっている点に不審をもつ諸君もあろうと思う。これは helfen が三格支配であるからである。

(8) Er blickte auf, da er *seinen Namen nennen* **hörte.**

「自分の名前が呼ばれるのを聞いたので，彼は目を上げた」であるが，seinen Namen nennen の主語が表現されていない。つまり四格が man であるか，あるいはわざわざ言及する必要のない時にはこの文章のように省くのである。

(9) Er **hat** *einen Geldschrank zu Hause stehen.*

これは「彼は金庫を家にもっている」ということで，stehen はほとんど贅語と言ってよい。haben が「四格主語を伴う不定法」を目的語とする際は，その不定法はたいてい贅語的であると見てよい。

[59] warf 三要形：werfen, warf, geworfen. **[60] Schippe**「シャベル」は通俗語で，ふつうは Schaufel と言う。

Ich habe ihn kommen sehen など **[61] hatte liegen lassen** 関係代名詞 (die) に導かれた文章だから liegen lassen hatte としなければならないはずだと思う人は，もう一度「基礎入門編」§107 の「話法助動詞の完了時称」を読んでほしい。ただその知識だけで解釈がつかないのは lassen がなぜ gelassen になっていないか，という点だと思う。これも理窟よりも約束なのだから，ひとつの型として覚える方が早い。本課の注 58 で説いた動詞，すなわち，「四格（または三格）主語を伴う不定法」を規定句としてもつ動詞のうちで，もっともひんぱんに用いられるものは，話法の助動詞と同等の取扱いをして，不定法と同形の過去分詞を用いることがある：

(1) Ich habe ihn kommen *sehen.* (または gesehen)

(2) Ich habe ihn predigen *hören.* (または gehört)

(3) Ich habe ihn atmen *fühlen.* (または gefühlt)

(4) Ich habe ihn gehen *heißen.* (または geheißen)

(5) Ich habe ihn tanzen *lehren.* (または gelehrt)

(6) Ich habe ihm steigen *helfen.* (または geholfen)

(7) Ich habe ihn kommen *lassen.* (gelassen は不可)

ふたつの過去分詞のうち，どちらがよいかは語によって相違がある。lassen はほとんど話法の助動詞として扱うから，不定法の過去分詞を用い，sehen, hören はやや不定法の方が多く用いられ，それ以外は同等，もしくは ge- 形の方が多く用いられる。*etwas liegen lassen=to let something lie (rest), to leave something behind.* liegen の三要形：liegen, lag, gelegen.

【62】stellte sich fleißig sich stellen が述語的規定を伴って *sich so und so stellen* となると「……の風をする・装う」という意味になる：*sich krank stellen=to pretend (feign) to be ill, sich unschuldig stellen=to assume (put on) an innocent air.* **【63】eben** =soeben「たったいま・いましがた」**【64】einer** jemand と言うのにほとんど同じである。なお，不定指示詞としての einer の用法に関しては「ドイツ文法の要点」§6, §7, §8 を参照すること。**【65】wie**=sobald「……するやいなや」だからこの文章はつぎのように書き換えてもよい：*Kaum* sah er Euch kommen, *als* er über……gerannt ist. **【66】rannte** 三要形：rennen, rannte, gerannt.

[7] „Ich halte ihn schon[67]," sagte der Student, indem er sein Bündel wieder an sich nahm und auf den Gaul stieg[68]. „Ganz fest halte ich ihn!" Er drückte dem Gaul die Fersen in die Weichen[69] und sprengte davon.

„Hast du den Studenten noch[70] eingeholt[71]? Hast du dafür gesorgt, daß[72] er sicher ins Paradies kommt?" fragte die Bäuerin ihren Mann, als er nach einigen Stunden ohne seinen Hengst zurückkam.

Zunächst erwiderte er nichts. Nach einigen Augenblicken jedoch hieb[73] er seinen Hut wütend auf den Tisch und rief: „Natürlich[74] habe ich ihn eingeholt und……habe dafür gesorgt, daß er schneller ins Paradies kommt, denn ich habe ihm auch meinen Gaul gegeben, Himmelkreuzsakrament[75]!"

〔訳〕 „Ich 私は ihn (Gaul) 馬を schon だいじょうぶ halte おさえていますよ," [と] der Student 学生は sagte 言いました, indem そう言いながら er 学生は sein Bündel 例の包みを wieder またも an sich nahm 自分に取り (身につけ) und そして auf den Gaul 馬に stieg 乗りました。„ich 私は ihn 馬を Ganz fest しっかりと halte おさえていますよ (馬はテコでも離しはしませんよ)!" Er 学生は die Fersen かかとを dem Gaul.....in die Weichen 馬の脇腹へ drückte おしつけ (馬の脇腹をかかとでけって) und そして sprengte davon 疾駆し去りました。

„du お前さんは noch うまく den Studenten あの学生に Hast.....eingeholt 追いつきましたか? du お前さんは er 学生さんが sicher まちがいなく ins Paradies 天国へ kommt 行く daß ように Hast.....dafür gesorgt ちゃんとしてくれましたか?" er (Bauer) 彼が nach einigen Stunden 二三時間後に ohne seinen Hengst 馬なしで zurückkam 帰ってきた als 時に, die Bäuerin 百姓のおかみさんは ihren Mann だんなさん「に」fragte たずねました。

Zunächst 最初は er 彼は erwiderte.....nichts なんとも答えませんでした。jedoch しかし Nach einigen Augenblicken しばらくしてから er 彼は wütend 憤然として seinen Hut 帽子を auf den Tisch テーブルの上へ hieb たたきつけ und て rief 言いました: „Natürlich もちろん ich わしは ihn あいつ「に」habe.....eingeholt 追いついた und そして .....er あいつが schneller よりすみやかに ins Paradies 天国へ kommt 行ける daß ように habe dafür gesorgt してやったよ, denn なぜって ich わしは ihm あいつに auch meinen Gaul わしの馬までも habe.....gegeben くれてやったからさ, Himmelkreuzsakrament くそいまいましい!"

〔注〕 【67】 **schon** この schon を時の副詞と思って「すでに」と訳したのでは意味が

時間概念の副詞が論理概念の副詞に転用される例 とおらない。「だいじょぶ」とか「ちゃんと」とか「間違いなく」とか「必ず」とか訳さなくてはならないところである。これは時間概念の副詞が論理概念の副詞に転用された例だが, いったいに時の副詞のかなり多くのものが, このような比喩的意味に転用される:

schon	すでに	⟶	申すまでもなく, きっと
gleich	すぐに	⟶	ただちにもって, わけもなく
noch	いまだ	⟶	なおその上に
erst	やっと	⟶	まずもって
dann	その後で	⟶	そうだとすれば
bald	ほどなく	⟶	ややもすれば, 容易に
wieder	再び	⟶	また, 一方において
lange	ながらく	⟶	とても, なかなか (*lange nicht* など)
nun	いま	⟶	さて, では, まず
einmal	一度	⟶	元来 (*nun einmal*)

am Ende　ついに　⟶ 悪くすると

これはドイツ語ばかりでなく，あらゆる言語に共通な現象だから，少し注意して読んでいれば自然に語感が養われてくる。

【68】**stieg** 三要形：steigen, stieg, gestiegen. 【69】**die Weichen** die Weiche＝*groin, side* というのは馬の後脚の付け根に近い脇腹のことで，拍車 (der Sporn) をあてる場所である。この学生は拍車などをつけていないから，靴のかかとで蹴ったわけ。【70】**noch** noch に「あやうく」，「やっとのことで」「きわどいところで」の意があることはすでに述べたが，これもその一例である。念のためにつぎの例でこの noch の感じを確実にしておいてほしい。Wir haben ihn *noch* auf dem Bahnsteig eingeholt.「われわれはプラットホームでやっと(あやうく)彼に追いついた」。Das hat er mir *noch* im letzten Augenblick gesagt.「そのことを彼は私に最後のきわどい瞬間に言った」。【71】**eingeholt** この場合の einholen は *to catch up, to come up with, to join, to overtake* すなわち「追いつく」の意味である。【72】**dafür gesorgt, daß** *dafür sorgen, daß＝to see that*「……するように注意をする・手配をする」。【73】**hieb** 三要形：hauen, hieb, gehauen.「帽子を(テーブルなどに)たたきつける」。

批評の副詞　【74】**Natürlich** ふつう副詞というと動詞の方法，様式を規定したり，または形容詞または他の副詞を規定したりするものと考えられるが，本文の natürlich「言うまでもなく」はそれらとは趣きを異にして，文章全体を批評した形になっている。Er behauptet es *mit Recht*.「彼がそう主張するのはもっともなことだ」になると，„Er behauptet es.“「彼はそう主張している」という事実を，その文を書いている人が批評して「もっともなことだ」と言っているのであることが明瞭である。換言すれば，Er behauptet es, und hat, *meiner Meinung nach*, Recht.「彼はそう主張している，そして私の見るところでは，もっともなことである」の略構とも考えられるのである。Er sucht sie *vergebens*. の vergebens を方法の副詞と考えて「彼は彼女をむだに捜す」と訳すと意味がとおらない。捜し方がむだだとすれば，わざわざむだな捜し方をする奴はよっぽどまぬけであろう。この場合 vergebens「むだに」という副詞は，問題の当人から見てむだなのではない，それを傍からみているわれわれ(筆者)から見てむだなのである。だからこれらの副詞は批評の副詞とも称すべき独自の範疇を形成していると考えるべきである。数例を挙げておこう：

(1) Er bleibt *billig* sitzen.
　　彼が落第はあたりまえだ。
(2) Er tut es *mit Recht*.
　　彼がそうするのは当然だ。

(3) Er tut es *mit Unrecht.*
彼がそうするのは不当だ。

(4) Er sucht mich *vergeblich.*
彼が僕を捜したって見つかるものか。

(5) Er ist *glücklicherweise* da.
彼はさいわいにやってきた。

(6) Er kommt *sonderbarerweise* nicht.
彼は不思議にもやってこない。

Schwüre 啖呵 【75】 **Himmelkreuzsakrament**「けしからん！しくじった！しまった！ちくしょう！」といった感情をこめた間投詞的な呪いの言葉である。これとおなじに使われるものに，なおつぎのようなものがある：verdammt!, verflucht!, Donnerwetter!, Potztausend!, Teufel!, zum Teufel!, zum Henker!——こういう間投句のことを Schwur という。Schwur は「誓い」という意であるが，日本語では，むしろ啖呵(たんか)とでも言った方がよかろう。西洋語はすべて啖呵が豊富で，喜んだ時，おどろいた時はもちろん，くやしがる時でも，感心するときでも，とにかく瞬間的に勃発する強い感情をおてがるに，しかも景気よく表現するためには，どの国語にもこれがなければならないのだが，日本語はまことにこの点が貧弱で，まあせいぜい江戸っ児の「べらぼうめ」ぐらいしかないようである。

第4課　猫　の　生　態

解説：　猫の生態を，そのもっとも印象的な面をとらえて，随筆風に説いたもの。内容は猫が人間のそばに寄りたがる理由，住居に執着する傾向，水をきらう性癖，水辺で小魚を捕える技術，猫の潔癖性，大小の用を便ずる際の特殊な好み，人の肩・木の枝・屋根の上など高い位置を好む理由，恋愛期における猫，母としての猫などである。

Die Katze

Die Katze war und ist ein Raubtier. Ein Raubtier lebt einsam, hat keine Freunde, will auch keine haben. Es ist sich selbst genug. So sucht auch die Katze die Nähe der Menschen, nicht weil sie die Menschen liebt, sondern weil es dort schön warm ist. Denn nichts liebt dieses Kind * des Südens so sehr wie die Wärme der Sonnenstrahlen oder des Ofens. Sie reibt sich an dir oder läßt sich auf deinem Schoß nieder, weil sie etwas von deiner Wärme haben möchte. Wohlgemerkt: nicht von deiner Herzens-, sondern von deiner Körperwärme! Auch ist es ihr völlig * gleichgültig, wer sie streichelt. Sie verlangt nie nach Liebkosung, sondern immer nach Wärme. Behaglichkeit und Wärme liebt sie über alles und kümmert sich nichts um Menschenliebe und Menschenfreundschaft. Das ist es, was sie z.B. vom Hunde wesentlich unterscheidet. *

Die Katze hängt nicht so sehr am Menschen, als am Haus. Es ist ja eine bekannte Tatsache, daß es schwierig ist, mit Katzen umzuziehen. Sie kehren meist wieder in das altgewohnte Haus zurück. Wie ganz anders ist der Hund! Ihm ist es ganz gleich, wo er sich befindet, wenn *

er nur möglichst nahe bei seinem Herrn sein darf.

Die Katze haßt nichts so sehr wie das Wasser. Ihr Fell ist nämlich äußerst empfindlich gegen Nässe und Schmutz. Bei Regenwetter geht sie nie ins Freie. Auch tritt sie
* freiwillig nie ins Wasser. Sie besitzt aber die fabelhafte Geschicklichkeit, Fische zu fangen. Sie schlägt sie mit ihren Pranken vom Ufer aus geschickt heraus, ohne ihr Fell zu bespritzen. Wie mancher Goldfisch ist auf diese Weise spurlos verschwunden!

* Ihr habt wohl schon oft gesehen, wie eine Katze über eine schmutzige Straße trippelt. Sie macht unendliche Umwege um Pfützen und Schlamm, um nur ja nicht ihre Pfötchen zu bespritzen. Gerade so wie eine elegante Dame, die ihre Schuhe schonen möchte.

* Dieser Sinn für Sauberkeit hat die Katze zu einem angenehmen Hausgenossen gemacht. Stundenlang putzt sie ihr Fell, wo scheinbar gar nichts zu putzen ist. Reicht die Zunge nicht hin, so kommt auch noch die Pfote dazu. Deshalb haben gesunde, gut gehaltene Katzen nie Unge-
* ziefer im Fell, während wir den Hund selten flohfrei halten können.

Um ihre Notdurft zu verrichten, wählt sie sich gern einen Platz, wo sie ihre Ausscheidungen gleich zuscharren kann. Man tut deshalb gut, der Katze ein Kistchen mit
* Sand oder weicher Erde hinzustellen. Sonst wird sie ein Sofa oder gar ein Bett für ihr Geschäftchen benutzen. Das ist nämlich ihr Instinkt, sich stets eine weiche Unterlage auszusuchen. Ihr kleines Geschäft erledigt sie mit Vorliebe im Spülstein. Auffallend ist dabei ein stark kon-
* servativer Sinn der Katze, die den einmal gewählten Platz

nicht ohne Not ändert. Sie kommt sogar oft von draußen herein, um ihr Geschäftchen am gewohnten Platz verrichten zu können.

Die Katze bevorzugt einen hochgelegenen Sitzplatz. Das kommt daher, daß sie ein Baumtier war. Gern klimmt * sie ihrem Herrn auf die Schulter und sitzt dort ganz gemütlich. Um ihren gefährlichen Verfolger loszuwerden, klettert sie immer auf den nächsten Baum oder Zaun.

Da sie ein Baumtier ist, kann sie von großen Höhen abspringen. Dabei fällt sie stets auf die Füße. Die Zoo- * logen sagen, daß dieses Wunder durch die geschickte Wendung ihres Schwanzes bewirkt wird.

Zur Zeit der Liebe werden die Katzen ganz wild. Gärten und Dächer schallen wider von ihren leidenschaftlichen Liebesgesängen. Das ist ein schauerliches Konzert, das * auch den tiefsten Schläfer erweckt. Du magst sie mit Steinen werfen, du magst sie mit Wasser bespritzen, sie kümmern sich wenig darum. Sie verlegen ihre Liebesszene dann auf das andere Dach und zetern dort weiter. Müde und zerzaust kehren sie dann morgens nach Hause zurück, * um am warmen Ofen den ganzen Tag zu verschlafen und sich für die nächste Nacht zu stärken.

Als Mutter ist die Katze geradezu rührend. Ihre 4 bis 6 Jungen betreut sie mit einer mustergültigen Liebe. Vorher sucht sie sich ein sicheres Versteck, sei es ein Bett, das * gerade leer steht, oder eine Puppenschachtel auf dem Boden. Wenn ihr etwas verdächtig vorkommt, verlegt sie ihre Jungen in einen andern Schlupfwinkel. Sie spielt unermüdlich mit ihren Kleinen, und bald beginnt der Unterricht im Räuberhandwerk. Sie bringt ihnen gefangene *

Mäuse herbei, natürlich noch lebend, und läßt sie dann vor ihnen springen, damit sie sich im Fangen üben können.

Die mustergültige Mutterliebe der Katze kann sogar für verwaiste andere Jungtiere benutzt werden. Instinktmäßig
* bemuttert sie in dieser Zeit alles, was man zu ihr bringt. Sogar junge Ratten zieht sie sorgsam auf! Aber wehe, wenn man den Tag verpaßt, an dem der Mutterinstinkt erlischt! Prompt werden dann die Rattenjungen aufgefressen.

Die Katze

[1] Die Katze war und ist ein Raubtier. Ein Raubtier lebt einsam[1], hat keine Freunde, will auch keine haben. Es ist sich selbst genug[2]. So sucht auch die Katze die Nähe der Menschen, nicht weil sie die Menschen liebt, sondern[3] weil es dort schön warm ist. Denn nichts liebt dieses Kind des Südens so sehr wie[4] die Wärme der Sonnenstrahlen oder des Ofens. Sie reibt sich[5] an dir[6] oder läßt sich auf deinem Schoß nieder[7], weil sie etwas von deiner Wärme haben möchte. Wohlgemerkt[8]: nicht von deiner Herzens-, sondern von deiner Körperwärme[9]! Auch ist es ihr völlig gleichgültig, wer sie streichelt. Sie verlangt nie nach[10] Liebkosung, sondern immer nach Wärme. Behaglichkeit und Wärme liebt sie über alles[11] und kümmert sich nichts um[12] Menschenliebe und Menschenfreundschaft. Das ist es, was sie z.B.[13] vom Hunde wesentlich unterscheidet[14].

〔訳〕 Die Katze 猫

Die Katze 猫は ein Raubtier 肉食獣 war で [かつて] あった und し ist [現在においてもそうで] ある。Ein Raubtier 肉食獣 [というもの] は einsam 単独に lebt 生活する, keine Freunde 友を hat も [たない], auch しまた keine [Freunde] 友を haben 持つことを will 欲 [しない]。Es (ein Raubtier) 肉食獣は sich selbst genug 自適自足して ist いる。So たとえば auch die Katze 猫も die Nähe der Menschen 人間の近隣を sucht 求める (人間のそばにいたがる), [それは] sie (die Katze) 猫が die Menschen 人間を liebt 愛する weil ため nicht ではなくて, sondern むしろ dort そこでは (人間のそばにいると) schön とても warm 暖かく ist ある weil から [である]。Denn なぜならば dieses Kind des Südens この南国児 (暑い南方から来たこの動物) は nichts なにものをも die Wärme der Sonnenstrahlen oder des Ofens 日光または煖炉の暖かさ wie ほどに so sehr そんなに liebt 好 [まないからである] (猫は南国の暑い地方から来たものだから, なにものにもまして日光や煖炉の暖かさを好む)。Sie 猫は an dir 君 [のからだ] に reibt sich 自分をすりつけたり (きみのからだに自分のか

らだをすりつけたり) oder または auf deinem Schoß 君の膝の上に läßt sich..... nieder 腰をおろす (君の膝の上にとぐろをまいたりする), sie 猫は etwas von deiner Wärme 君の暖かさのいくぶんかを haben möchte 得たいと思う weil から。Wohlgemerkt ただし: von deiner Henzens[wärme] 君の心の暖かさ [のいくぶんかを] nicht [得たいから] ではなくて, sondern むしろ von deiner Körperwärme 君のからだの暖かさ [のいくぶんを得たいからである] (ここで注意を要することは, 猫が君にからだをすりつけたり, 君の膝の上に乗るのは, 暖かさを求めてのことだが, それは君の心の暖かさではなくて, からだの暖かさであることだ)! Auch その上 wer だれが sie (Katze) 猫を streichelt 撫でるか es ということは ihr 猫にとって völlig まったく gleichgültig どうでもよい ist のである (自分を愛撫してくれる人がだれであろうと, 猫は一向に意に介しない)。Sie 猫は nie 決して nach Liebkosung 愛撫を verlangt 求め [ない], sondern むしろ immer つねに nach Wärme 暖かさを [求めるのである]。Sie 猫は über alles 一切をこえて (何物にもまして) Behaglichkeit und Wärme 快適 (心地よさ) と暖かさを liebt 愛する und のであって um Menschenliebe und Menschenfreundschaft 人間の愛情や人間の友情については kümmert sich nichts すこしも関心をはらわない。Das この点が sie 猫を z.B. (=zum Beispiel) たとえば vom Hunde 犬から wesentlich 本質的に unterscheidet 区別する was ところの es 点 ist である (この点では猫は犬とは本質的に異なっている)。

〔注〕 【1】 **einsam**=allein, vereinzelt「単独で・独りで」。【2】 **sich selbst genug**=mit sich selbst zufrieden「おのれに満足している」。だから Es ist sein eigener Freund. と言ってもよい。Ich bin *mir selbst genug*.「私は自足の状態にある」でもわかるように, ここの sich は三格である。【3】 **nicht.....sondern** 英語の *not.....but* に相当する接続詞。これに似たものに *nicht sowohl.....als* [*vielmehr*] がある。ついでに覚えておくこと: Sie hat mich *nicht sowohl* geküßt *als vielmehr* gebissen.「彼女は私に接吻したというよりはむしろ噛みついたのだった」。【4】 **nichts.....so sehr wie .....** この文章では否定詞が目的語になっているが, つぎの例のように主語が否定詞のこともある: *Kein* Tier ist *so groß wie* der Walfisch.「いかなる動物も鯨ほど大きくはない・鯨ほど大きい動物はいない」。【5】 **reibt sich** sich reiben=*to rub oneself*「からだをすりつける」。reiben の三要形: reiben, rieb, gerieben. 【6】 **dir** 客観的な科学記事 (たとえば動物学の書物など) なら Sie reibt sich an einem Menschen..... とでも言うところだが, 本文は物語的効果をだすために, わざと読者を話中に引き入れたのである。ここは単数の du の形だが, 複数の ihr (euer, euch, euch) でも Sie (Ihrer, Ihnen, Sie) でもよい。【7】 **läßt sich.....nieder** *sich niederlassen* は人間ならば *sich setzen*「腰をおろす」と同じだが, 飛んでいる鳥とか蜂などについて言えば「降りてとまる」意味である。【8】 **Wohlgemerkt** これは「注意!」あるいは「ただし」という意の挿入語である。文法的には過去分詞であるが, 過去分詞は命令法の一種として用いられるところから gemerkt は merke!「注意せよ!」と同意で, それに「よく」

(wohl) がついたもの。こういう場合にはラテン語の *nota bene* (=merke wohl!) もよく用いられる。【9】**Herzens-.....Körperwärme** Herzens- は Herzenswärme の省略。こういうふうに，どうせ直後にまたもう一度出てくる同語は - の印で略される。たとえば「白パンと黒パン」は Weißbrot und Schwarzbrot と言うかわりに Weiß- und Schwarzbrot という。【10】**verlangt.....nach** *nach etwas verlangen=to have a great desire (longing, wish) for a thing, to hanker (crave) after (for) a thing* 【11】**über alles**=*above (beyond) all things* 【12】**kümmert sich.....um.....** *sich um etwas kümmern* という熟語は「あることに心を用いる・あることを意に介する」という意味。したがって「ひとの世話をやくより自分の頭の蠅を追え」というのを *Kümmern* Sie *sich um* Ihre eigenen Angelegenheiten! とか Sie sollen *sich um* sich selbst kümmern. などと言うのである。【13】**z.B.** zum Beispiel「たとえば」の省略形。【14】**unterscheidet** 不規則動詞 scheiden に前綴 unter のついた非分離動詞。三要形: unterscheiden, unterschied, unterschieden.

[2] Die Katze hängt[15] nicht so sehr am Menschen, als[16] am Haus. Es ist ja eine bekannte Tatsache, daß es schwierig ist, mit Katzen umzuziehen[17]. Sie kehren meist wieder in das altgewohnte Haus zurück. Wie ganz anders ist der Hund! Ihm ist es ganz gleich[18], wo er sich befindet, wenn er nur möglichst nahe bei seinem Herrn sein darf[19].

Die Katze haßt nichts so sehr wie[20] das Wasser. Ihr Fell ist nämlich äußerst[21] empfindlich gegen Nässe und Schmutz. Bei Regenwetter geht sie nie ins Freie[22]. Auch tritt sie freiwillig nie ins Wasser. Sie besitzt[23] aber die fabelhafte[24] Geschicklichkeit, Fische zu fangen[25]. Sie schlägt sie mit ihren Pranken vom Ufer aus geschickt heraus[26], ohne ihr Fell zu bespritzen. Wie mancher Goldfisch ist auf diese Weise spurlos verschwunden[27]!

〔訳〕 Die Katze 猫は so sehr そうたいして am Menschen 人間に hängt 愛着 nicht しないが, als むしろ am Haus 家に [愛着する] (猫はどちらかといえば人より

も家の方に多く愛着を感ずる)。ja 言うまでもなく mit Katzen 猫をつれて umzuziehen 移転する es ということは schwierig 難事 ist である daß という Es ことは eine bekannte Tatsache 周知の事実 ist である。Sie (Katzen) かれらは meist たいていの場合 wieder またも in das altgewohnte Haus 古く住みなれた家へ kehren.....zurück かえってくる。Wie ganz anders いかにまったく異なって der Hund 犬は ist あることよ (ところが犬はこれとまったく異なっている)! er (二番目の er) 犬は bei seinem Herrn 自分の主人のそばに möglichst できるだけ nahe 近く sein darf いることを許され wenn.....nur さえすれば, er (一番目の er) 自分が wo どこに sich befindet いるか es ということは Ihm 犬にとって ganz 全く gleich どうでもよいこと ist である。

Die Katze 猫は nichts なにものをも so sehr wie das Wasser 水ほどには haßt きらわ [ない] (猫にとっては何よりも水が禁物だ)。nämlich そのわけは Ihr Fell 猫の毛皮は gegen Nässe und Schmutz 湿潤と汚穢に対して äußerst きわめて empfindlich 敏感 ist だからである。Bei Regenwetter 雨天のさいには sie 猫は nie 決して ins Freie 戸外へ geht 出て行 [かない]。Auch また sie 猫は freiwillig 自発的には nie 決して ins Wasser 水の中へ tritt 足を踏みいれ [ない] (投げ込まれた場合はべつとして自から進んで水の中へ入ることは決してない)。aber ところが Sie 猫は, Fische 魚を zu fangen 捕える die fabelhafte Geschicklichkeit 嘘のような巧妙さを besitzt もっている。Sie 猫は ihr Fell その毛皮を ohne.....zu bespritzen 飛沫でぬらすことなしに, mit ihren Pranken その前脚をもって vom Ufer aus 岸から geschickt 巧みに sie (Fische) 魚を schlägt.....heraus 打ち出す (水際にかまえていて魚が近よると前脚のつめで上手にひっかけてしまう)。Wie mancher Goldfisch いかに多くの金魚が auf diese Weise こういう方法で spurlos あとかたもなく ist.....verschwunden 消え去ったことか (金魚鉢の金魚がこういうやり方でずいぶん猫にとられている)!

〔注〕 **[15] hängt** *an jemandem hängen* は「あるひとに愛着している」という成句で, 英語なら *to be greatly attached (devoted) to someone* といったところ。人間のかわりに物をもってきて, たとえば *am Geld hängen* とすれば *to be fond of [one's] money, to be a money-grubber*「金銭に執着する・私慾が深い・握り屋である」となる。 **[16] nicht so sehr.....als** これは注 3 で挙げた対照的接続詞 *nicht sowohl.....als [vielmehr]* と同じもの。だから本文は Die Katze hängt *sowohl* am Menschen, *als vielmehr* am Haus. としてもよい。

後続文章の先行詞として用いられる es **[17] Es ist ja.....umzuziehen.** この文章にはふたつの es があって, いずれも後続文章の先行詞として用いられている。最初の es は daß 以下をうける先行詞であり, 第二の es は mit Katzen umzuziehen という zu を伴う不定句の先行詞である。この用法は es の用法中でも重要なもののひとつだから, 二三の文例を挙げておこう。前の注で「紹介する際の es」(Wir sichteten am Horizont zwei Rauchfahnen. *Es* waren in der Tat deutsche Schlachtschiffe.

「地平線上にわれわれは二条の煙りがたなびくのを認めた。それは果たしてドイツの戦闘艦であった」）の用法を述べたが，この場合も用法は同じである。むしろ「後続文章の先行詞として用いられる es」は「紹介する際の es」の一種と考えてよいであろう：

(1) *Es* sind die roten Blutkörperchen, *die den Sauerstoff aus der Lunge bis zu jeder einzelnen Zelle tragen.*

酸素を肺から個々の細胞にまで運んでいくのは赤血球である。赤血球が酸素を肺から個々の細胞にまで運んでいくのだ。

(2) *Es* ist nicht der Reichtum, *der uns glücklich macht.*

われわれを幸福にするのは富ではない。

以上の例でわかるように，述語名詞が複数なら，es の定形も複数になる。また後続文章に対して特に読者の注意を喚起しようとする時には es の代わりに das を用いる：

(3) *Das* eben ist der Fluch der bösen Tat, *daß sie, fortzeugend, immer Böses muß gebären.* (*Schiller: Wallenstein*)

悪業というものは，一度犯すと，つぎつぎと悪を重ねて作っていかねばならぬということ，これが悪業のたたりなのだ。

(muß は文末にくるべきだが，韻の関係で位置を狂わせたのである)。

それから，関係文が事柄を指す場合には，関係代名詞（述語名詞の性・数に制約される）は was を用いることも多い。たとえば文例 (2) は次のようにも言うことができる：

(4) *Es* ist nicht der Reichtum, *was* uns glücklich macht.

umziehen の三要形：umziehen, zog um, umgezogen.

【18】**Ihm ist es ganz gleich**=Ihm ist es ganz gleichgültig（または einerlei）. この成句は次に必ず ob や wo などを先頭にすえた副文章を伴っている。【19】**wenn er nur.....darf** ここの nur は wenn といっしょに *wenn nur=if only* つまり「.....しさえすれば」という成句である。【20】**nichts so sehr wie** 注 4 を参照すること。

副詞の絶対最高級 gehorsamst, äußerst, entschiedenst など

【21】äußerst これは empfindlich という形容詞を修飾する副詞だが，すでに「基礎入門編」の §116 で習っているし，前の注でも説明してあるから，副詞の最高級は am -sten の形でなければならないことはわかっていると思う。本文のように最高級でありながら基本形のまま用いるのはある種の慣用的な単語(主として外交上の辞令)に限られる：

gütigst どうぞ　　*gehorsamst* おそれながら
ergebenst 謹んで

ところが本文の äußerst のように任意の副詞を -st の語尾のままで用いると「非常に……」の意味になる。この形の副詞を「絶対最高級」と呼んでいる：

lieblichst singen　　とてもじょうずに歌う
entschiedenst ablehnen　　だんことして拒否する
furchtbarst regnen　　おそろしく雨が降る

これらのうち，höchst, äußerst は単に「非常に」「すこぶる」という副詞であるから，ごくふつうであるが，ほかのものはそうみだりに用いるべきではない。「非常に……」という場合にむしろ aufs -ste の形の方がふつうである。

Sie sang *aufs lieblichste.*
彼女はとてもじょうずに歌った。
Er lehnte *aufs entschiedenste* ab.
彼はだんこ拒否した。
Er läuft *aufs schnellste.*
彼はとても早く走る。

[22] **ins Freie** das Freie「戸外・野外」は frei という形容詞を中性名詞化したもので，したがって格変化は「基礎入門編」の第 23 講で説いた規則にしたがう：*ins Freie gehen=to go into the open air, to take open-air (outdoor) exercise,* Bewegung *im Freien=outdoor exercise.* [23] **besizt** 三要形：besitzen, besaß, besessen. [24] **fabelhafte** fabelhaft の元の意は「作り話のような・嘘みたいな」であるが，通俗には unglaublich「信じがたいほどの」wunderbar「すばらしい」の意に用いられる。[25] **Fische zu fangen** この「zu を伴う不定句」は先行する名詞 Geschicklichkeit を規定修飾することは訳であきらかと思う。この型の zu を伴う不定句については前注で詳しく説明しておいた。[26] **schlägt……heraus** 三要形：herausschlagen, schlug heraus, herausgeschlagen.「打って」(schlagen)「外へ出す」(heraus) という構成である。こういう語は自由に類造し得るものだから，前綴になる語句の意味をよくつかんでおく必要がある。[27] **verschwunden** 三要形：verschwinden, verschwand, verschwunden.

[3] Ihr habt wohl schon oft gesehen, wie[28] eine Katze über eine schmutzige Straße trippelt[29]. Sie macht unendliche Umwege um Pfützen und Schlamm, um nur ja[30] nicht ihre Pfötchen[31] zu bespritzen. Gerade so wie eine elegante Dame, die ihre Schuhe schonen möchte.

Dieser Sinn für Sauberkeit hat die Katze zu einem angenehmen Hausgenossen gemacht. Stundenlang putzt sie ihr Fell, wo scheinbar gar nichts zu putzen ist[32]. Reicht die Zunge nicht hin[33], so kommt auch noch die Pfote dazu. Deshalb haben gesunde, gut gehaltene Katzen nie Ungeziefer[34] im Fell, während[35] wir den Hund selten flohfrei halten können.

〔訳〕 eine Katze 一匹の猫が über eine schmutzige Straße 泥に汚れた街路を渡って trippelt ちょこちょこ走る wie 有様を Ihr 君たちは wohl おそらく schon oft すでにいくども hat.....gesehen 見たことがある [と思う]。Sie 猫は, ja なんとかして ihre Pfötchen その前脚を um.....nicht.....zu bespritzen [泥水をはねかけて] けがさないため nur にのみ (ただただ前脚を濡らしたくないばっかりに), um Pfützen und Schlamm 水たまりや泥をさけて macht unendliche Umwege 際限のないまわり道をする (どんな遠いまわり道でもする)。ihre Schuhe 自分の靴を schonen möchte たいせつにして汚すまいとする die ところの eine elegante Dame 粋な婦人 Gerade so wie とちょうど同じように。

Dieser Sinn für Sauberkeit この清潔に対するセンス (この潔癖性) が die Katze 猫を zu einem angenehmen Hausgenossen 好ましい家族の一員に hat.....gemacht なしたのである (猫にこういう綺麗ずきな性質があるので人に飼われて可愛がられるようになったのだ)。scheinbar ちょっと見たところでは gar nichts zu putzen ist ぜんぜん磨く必要がない [ように思われる] wo ところの ihr Fell その毛皮を sie 猫は Stundenlang いく時間も putzt 磨く (べつに汚れているらしくもないのに暇にまかせて毛をなめては磨きをかける)。die Zunge 舌が Reicht.....nicht hin まにあわない [時には], so その時には die Pfote 脚 auch noch までも kommt.....dazu つけ加わる (舌でまにあわないと, 脚までも使う)。Deshalb それ故に gesunde, gut gehaltene Katzen 健康でたいせつに飼われている猫は nie 決して Ungeziefer 虫を im Fell 毛のなかに haben 持 [たない] (毛に虱や蚤をわかすようなことはない), während これに反して wir われわれは den Hund 犬を flohfrei 虱をわかさぬように halten können 飼うことができることは selten まれである。

〔注〕【28】**wie** jemanden gehen *sehen*「ある人が行くのを見る」, jemanden sprechen *hören*「あるひとが話すのを聞く」など, 81 頁の注58(「不定法とその四格主語」)で説明したように, ただちに不定法と結びついて助動詞的に用いられる動詞, および, erzählen「物語る」, lesen「読む」などの動詞は, 次に目的語的従属文がくる時には, daß よりも wie を先置する方がふつうである。wie を先置するからといって「いかに……であるかを」なぞと, とくに方法だけに念を入れた意味はなく, 「細部の看取」といった色彩が強いだけである:

事実描写の wie

(1) Er *sah, wie* sie bei solchem Wetter sich auf die Straße wagte.
彼は, 彼女がそんな天候をものともせずに往来へ出ていくのを, 見た。

(2) Ich habe ihm *erzählt, wie* ich dich an der Sperre zum Bahnsteig getroffen habe.
私は彼に, 私が君にプラットホームの入口のところで出会った, と話したよ。

(3) Er *las, wie* von beiden Seiten die weitgehendsten Zugeständnisse gemacht worden sind.
彼は, 両方の側からもっとも広い譲歩がなされた(両者ともできる限りの歩み寄りをした)[という記事を]読んだ。

【29】**trippelt** trippeln は英語の *to trip* と同じく「ちょこちょこと早く歩く・小股で歩く」こと。【30】**ja nicht** は,「決して……しない」という場合に用いる結合である。否定を強めるための ja と言ってもよかろう。【31】**Pfötchen** 後で出る Pfote「前脚」に対する Diminutiv「縮小名詞」である。【32】**zu putzen ist**「zu を伴う不定法」が sein と結合する場合については前注(74 頁第 3 課注 40)を見よ。【33】**Reicht die Zunge nicht hin** この定形倒置文は wenn 文章のかわりである。すなわち, Wenn die Zunge nicht *hinreicht* とまったく同じものである。定形を倒置するのは, 疑問文の場合, 主語や定形以外の要素を文頭にすえる場合, 副文章を先置する場合(「基礎入門編」§67)だけでなく, 本文のように wenn を先頭にした副文章において wenn を省略した場合もある。hinreichen(または ausreichen)は「用が足りる」。【34】**Ungeziefer** ここでは「のみ・しらみ・だに」のような虫を指しているが, 広い意味に用いる時は鼠のような有害な小動物も含まれる。【35】**während** 元来は「……するその間に」を意味する時間的な意の従属的接続詞であるが, 転じて「A は……であるが B は……である」と二つの事実をならべてそのコントラストを出すときに中間に用いる。Ich liebe Stille und Einsamkeit, während mein Bruder immer Menschen um sich haben muß.「わたしは静寂と孤独を愛するが, 私の兄弟はいつも人間が身辺にいないと気がすまない性分だ」など。

[4] Um ihre Notdurft zu verrichten[36], wählt sie sich gern einen Platz, wo sie ihre Ausscheidungen[37] gleich zuscharren[38] kann. Man tut deshalb gut[39], der Katze ein Kistchen mit Sand oder weicher Erde hinzustellen. Sonst wird sie ein Sofa oder gar ein Bett für ihr Geschäftchen benutzen. Das ist nämlich ihr Instinkt, sich stets eine weiche Unterlage auszusuchen. Ihr kleines Geschäft erledigt sie mit Vorliebe im Spülstein. Auffallend ist dabei ein stark konservativer Sinn der Katze, die[40] den einmal gewählten Platz nicht ohne Not ändert. Sie kommt sogar oft von draußen[41] herein, um ihr Geschäftchen am gewohnten Platz verrichten zu können.

〔訳〕 sie (第一の sie) 猫は, ihre Notdurft verrichten その必要事を果たす (大小便をする) Um.....zu ために, sie (第二の sie) それが ihre Ausscheidungen 排泄物を gleich すぐに zuscharren kann 掻いて埋めることのできる wo ところの einen Platz ひとつの場所を gern 好んで wählt.....sich 選ぶ (大小便をした後ですぐにその上に土などをかけて蔽ってしまえるような場所をさがし出す)。deshalb それゆえ der Katze 猫に ein Kistchen (Kiste の縮小形) mit Sand oder weicher Erde 砂や柔かい土のはいった小箱を hinzustellen あてがうと Man tut.....gut よろしい。Sonst さもないと sie 猫は ein Sofa oder gar ein Bett ソファまたは [時には] ベットさえも für ihr Geschäftchen 小用のために wird.....benutzen 利用するであろう。nämlich それと言うのは stets いつでも (用便の際はつねに) eine weiche Unterlage 柔かい下敷を sich..... auszusuchen さがし出す Das ということが ihr Instinkt 猫の本能 ist である [からだ]。sie 猫は mit Vorliebe とくに好んで im Spülstein「流し」で Ihr kleines Geschäft 小用を erledigt すませる。dabei この場合 ein stark konservativer Sinn der Katze 猫の強い保守的な志向 [というもの] が Auffallend ist 注目にあたいする, die 猫は den einmal gewählten Platz 一度選んだ場所を ohne Not 必要がなければ nicht .....ändert 変えない [からである]。Sie 猫は sogar それどころか, am gewohnten Platz 慣れた場所で um ihr Geschäftchen.....verrichten zu können 小用を済ませんがために, oft 時によると von draußen 戸外から kommt.....herein [家の中へ] 入ってくる [ことさえある]。

〔注〕 [36] **ihre Notdurft.....verrichten**「用をたす」である。大小を区別したい時は *die große Notdurft*, *die kleine Notdurft* と言う。あとですぐでてくるように,「小」用の方は ihr *kleines Geschäft* とか ihr *Geschäftchen* と言ってもよい。「用をたす」つ

いでに用をたす場所もすこし調べておこう。一番無難な場所は der Abort [ʔapˈɔrt] か der Abtritt である。die Latrine や das Klosett「厠」もないではないが，紳士はあまり行かない。あるいは多少のユーモアをもって der Lokus には行くかもしれぬ。「化粧室」や「手洗所」へいく日本人は少しきざに見えるが，die Toilette, der Waschraum をさがすドイツ人は少しもきざでない。しゃれた男は die Wasserwerke はどこかなぞと聞くが，これは必ずしも水力電気や給水タンクを見学したいばかりでもないらしい。往来や会場などには öffentliche Bedürfnisanstalt といって，まるで官庁か学校のようなものが設けてあるから，これならだれでも入学できる。Bedürfnisanstalt もおいおい有名になってきたから，有名なものはどうしても自然に敬遠されがちで，少しつむじを曲げて Sitzanstalt ないし Hockanstalt を求める人もある。eine Sitzangelegenheit と言うと椅子か凭木(ひより)のようだが，それでも十分用をたすことができる。そもそも Stuhl「椅子」と言えばすでにその事である，穴の開いたなどと言う必要はない。

「排泄」を表わす ab- 【37】**Ausscheidungen**「排泄」を表わすのに前綴の ab- が好んで用いられるから，ついでに二三の例を挙げておこう。*Wasser abschlagen*「放尿する」の ab-, absondern「分泌する」の ab-, Abführungsmittel「下剤」の ab- を見れば，ab- に「排泄」の機能があることが分かろう。近ごろは塵芥と区別して，台所の残り物 Küchenabgänge または Küchenabfälle「いもの皮やお茶かすやねぎの皮など」を集めにくるが，あれは豚などに食わせるものである。それから，煮物をしていると「あく」のような「泡」のような「うきかす」が浮く，それを匙でとり除きながら煮るのだが，この浮滓のことを Abschaum という。鉱山なら金滓である。「あく」は Ablauge という。また工場などから溝へ流している汚水または排水は Abwasser である。また自動車は，ことに発車のときは，いやな臭いのするガスを排泄するが，あれは Abgas である。「おなら」も人間の Abgas と言うわけ。人間の大勢集まる所ではたえず換気して frische Luft（これを Zuluft と言う）を入れ，Abluft を排泄しなければならない。人間も呼吸するたびに相当の Abluft を排泄しているわけで，閉めきった電車の中のあのたまらない悪臭は主としてこの Abluft の臭いなのである。食事の後には茶碗や皿を，要すれば湯で洗ってしまうが，流した後の湯 (Spülwasser) も Abwasser，そのほか，残飯を Abhub と言うのも，成立は違うかもしれないが，成立後の語感としてはやはりこれらと似ている。「くず」という表現にはもちろん -sel の語尾があるが (Abgängsel, Füllsel, Feilsel, Fegsel, Nachbleibsel, Überbleibsel, Schnipsel, Ausfegsel, Häcksel, Schabsel など)，また Abfall をつけてもよい：Metallabfälle と言えば工場で生ずる金属の鑢くず (Feilsel) など，Küchenabfälle と言えば前述の台所の残り物である。

「開ける」auf- と「閉める」zu-　[38] **zuscharren** これは scharren「掻いて」zu「埋める」という構成の分離動詞。この場合の分離前綴 zu- は auf- と対照するもので，「開ける」の auf- にたいして zu- は「閉める」という意味である：

auftun —— zutun		aufklappen —— zuklappen	
開ける	閉める	ばたんと開ける	ばたんと閉める
aufschließen —— zuschließen		aufschieben —— zuschieben	
開ける	閉める	押し開ける	押して閉める
aufgehen —— zugehen			
開く	閉まる		

[39] **Man tut.....gut** 後にくる関係文との連絡をつけるために *Man tut.....gut daran* としてもよいが，daran はいれない場合が多い。これとまちがいやすい句に，「.....した方がよい」という意味を表わすために besser を用いた句がある。たとえば「行った方がよいでしょう」は *Es ist (wäre) besser* hinzugehen. であり，「黙っていた方がよいでしょう」なら Sie *hätten besser getan zu* schweigen. (Sie *hätten besser geschwiegen.*) と言うが，gut tun も同じである。[40] **die** 前に (65 頁第 3 課注 15) 述べたように関係代名詞 die は後続的である。[41] **von draußen** draußen は「戸外」，drinnen は「屋内」。

[5] Die Katze bevorzugt einen hochgelegenen Sitzplatz. Das kommt daher, daß sie ein Baumtier war. Gern klimmt[42] sie ihrem Herrn auf die Schulter und sitzt dort ganz gemütlich. Um ihren gefährlichen Verfolger loszuwerden, klettert sie immer auf den nächsten Baum oder Zaun.

Da sie ein Baumtier ist, kann sie von großen Höhen abspringen. Dabei fällt sie stets auf die Füße[43]. Die Zoologen[44] sagen, daß dieses Wunder durch die geschickte Wendung ihres Schwanzes bewirkt wird.

〔訳〕 Die Katze 猫は einen hochgelegenen Sitzplatz 高い所にあるとまり場を bevorzugt とくに好む。Das このことは sie 猫が ein Baumtier 樹上動物 war であった daß という daher 事実から kommt 由来する。sie 猫は Gern 好んで ihrem Herrn

auf die Schulter 主人に肩の上へ（自分の主人の肩の上へ）klimmt よじのぼる und そして dort そこに ganz きわめて gemütlich 居心地よく sitzt とまっている。sie 猫は ihren gefährlichen Verfolger 自分の危険な追跡者を Um.....loszuwerden 逃れるために，immer 常に auf den nächsten Baum oder Zaun 手近かにある樹木や垣の上へ klettert よじのぼる。

sie（第一の sie）猫は ein Baumtier 樹上動物 ist である Da から，sie（第二の sie）猫は von großen Höhen ひじょうに高い所から kann.....abspringen 跳び降りることができる。Dabei その際 sie 猫は stets 必ず fällt.....auf die Füße 脚の上に降りる（降りても脚でちゃんと立つ）。Die Zoologen 動物学者たちは sagen 言っている，dieses Wunder この奇蹟（この跳び降りの巧みな芸当）は durch die geschickte Wendung ihres Schwanzes 尾の巧みな振転によって（尾を巧みに振って平衡をとることによって）bewirkt wird 行なわれる daß のであると。

〔注〕【42】**klimmt** 三要形：klimmen, klomm, geklommen. 時には規則的に klimmte, geklimmt となることもある。【43】**fällt.....auf die Füße** *auf die Füße fallen* は「落ちても（降りても）倒れずに立つ」という慣用句。【44】**Zoologen** -log の語尾を有する名詞はギリシャ語からはいってきたもので男性弱変化名詞に属する：Philolog[e]「言語学者」，Astrolog[e]「星占師」，Demagog[e]「民衆煽動者」。

[6] Zur Zeit der Liebe werden die Katzen ganz wild. Gärten und Dächer schallen wider[45] von ihren leidenschaftlichen Liebesgesängen. Das ist ein schauerliches Konzert, das auch den tiefsten Schläfer[46] erweckt. Du magst[47] sie mit Steinen werfen, du magst sie mit Wasser bespritzen[48], sie kümmern sich wenig darum. Sie verlegen ihre Liebesszene dann auf das andere Dach und zetern dort weiter. Müde und zerzaust[49] kehren sie dann morgens[50] nach Hause zurück, um am warmen Ofen den ganzen Tag zu verschlafen[51] und sich für die nächste Nacht zu stärken.

〔訳〕Zur Zeit der Liebe 恋の時期には（交尾期には）die Katzen 猫は ganz ひじょうに werden.....wild 狂暴になる。Gärten und Dächer 庭や屋根は von ihren leidenschaftlichen Liebesgesängen かれらの激情的な恋の歌のために schallen wider 鳴りわたる。Das これは auch den tiefsten Schläfer 最も深い睡眠者をも（どんなに熟睡している人でも）erweckt 目ざめさせる das ところの ein schauerliches Konzert もの

すごいコンサート ist である。Du 君は sie (Katzen) かれらに mit Steinen werfen 石を投げつけて magst みるがよい，du 君は sie かれらに mit Wasser bespritzen 水をかけて magst みるがよい，sie かれらは wenig ほとんど darum そんなことを kümmern sich 意に介［しない］(石を投げつけられようが，水をかけられようが，いっこうにとんちゃくしない)。dann そんな場合には Sie かれらは ihre Liebesszene かれらのラヴ・シーンを auf das andere Dach ほかの屋根へ verlegen 移す und そして dort そこで zetern.....weiter 叫びつづける (恋の讃歌をうたいつづける)。dann それから morgens 翌朝に［なると］sie かれらは Müde und zerzaust 疲れて［毛を］もみくちゃにして nach Hause 家へ kehren.....zurück 帰ってくる，am warmen Ofen 暖かいストーブのそばで den ganzen Tag.....verschlafen 昼中を寝てすごし und そして für die nächste Nacht つぎの夜のために sich.....verstärken 鋭気を養う um.....zu ために。

〔注〕［45］**schallen wider** *von etwas widerschallen=to resound with something*「あるものから反響する・こだまする」。widerschallen は widerhallen と言ってもよい。ここで分離前綴の wider が文末に行っていないのは，前置詞を伴う句を後にもってくる時（強調したり，長い規定を伴う際）には，その前置詞を外にはみ出させる習慣があるからである。

形容詞の最高級の認容的意味　［46］**auch den tiefsten Schläfer**「たとえ……といえども」の意を表わすために形容詞の最高級に sogar, selbst, auch などの助辞を添えるが，時にはこれらの助辞を添えないこともある：

(1) *Der kühnste* Unternehmer wäre nicht auf diesen Gedanken gekommen.

たとえどれほど思いきった企業家といえどもそんなことは考えまい。

(2) Er tat Dinge, die man mit *dem besten* Willen nur verschroben nennen konnte.

どんなに善意に解釈してもつむじ曲りとしか言いようのないようなことをいくつも彼はしでかした。

(3) Das Fräulein war so überaus tugendsam, zartsinnig und verschämt, daß *auch die entfernteste* Beziehung auf die Verhältnisse, durch welche wir entstehen und werden, sie tief verletzen konnte.

そのお嬢さんはとても品行が正しく，心が繊細な上に，大の恥かしがり屋だったので，われわれ人間が生れる事情などにほんのちょっとでも触れたら，ひどく感情を傷つけられるのであった。

ついでに心得ておく必要があるが，認容的な色彩は最高級の場合だけに限るものでなく，文脈のいかんであらゆる場合に見られる現象である。次例をよく味わってほしい：

(4) „Hast du viele Gläubiger auf dem Hals?" „*Der Sand am Meere* ist nichts dagegen."

君を苦しめてる借金取りはたくさんなのか?——浜のまさごも数ならずさ。

無関心な要求を表わす mögen 【47】 **magst** この mögen の用法については，「新ドイツ語の基礎」第 28 講の「要求話法」をもう一度読み返してみること。本文の場合は少しこまかくなって，「……するがよい」，「……したがよかろう」，「……するならせよ」といった無関心な要求を表わしている。無関心な要求といっても「純粋な要求」との差は紙ひとえ，たんなる程度の差にすぎない。無関心な要求には mögen の直接法（動詞の第一式接続法）を用いる。つぎの文例でこの用法になれてほしい：

(1) Die Wissenschaft *mag* die Vernunft befriedigen, das Gemüt läßt sie leer.

科学は理性を満足させるかも知れない，しかし情の方は放りぱなしだ。

(2) Wir erleben und erkennen, solange wir wach sind, aber wir leben auch, wenn Geist und Sinne schlafen. *Mag* die Nacht alle Augen schließen, das Blut schläft nicht.

われわれは，目が醒めている間は，体験し認識する。しかし，精神と感官が眠っている時でも，われわれは生きつづけている。夜がわれわれの眼を閉ざしても，血液は依然として眠らずに働いている。

(3) *Heirate* ihn wer da mag, ich bin nicht für den ersten besten Freier da.

誰でも結婚したい人は彼と結婚するがよいでしょう，わたしは求婚されたからといって手あたりしだいに誰とでも結婚するような人間ではありません。

(2) と (3) の例で倒置法を用いてあるが，実際は *Es mag* die Nacht alle Augen schließen……, *Es heirate* ihn wer da mag の形式上の主語 es が省略された形である。

(4) Wenn er die Mühe scheut, so *bleibe* er hübsch zuhause.

その労をとるのがいやなら(出ていくのがいやなら)，じっと家にいるがよかろう。

(5) Er *werde* meinetwegen ein Minister oder was er sonst noch will.

彼は大臣なりなんなり好きなものになるがよかろう。

[48] **mit Steinen werfen, mit Wasser bespritzen**「あるひとに石を投げる」は Steine auf jemand werfen とも言うが，また人の方を四格にして jemanden mit Steinen werfen とも言う。この後の方の関係の時にはふつうは be- という前綴を要するのであるが，werfen だけはその例外である。すなわち「あるひとに水の飛沫をかける」は Wasser auf jemand spritzen，人を四格にすると jemand mit Wasser bespritzen となる。[49] **zerzausen**「毛をかきむしる」。[50] **morgens** は「朝方」で，morgen は「明日」(s の有無に注意)。[51] **verschlafen**「寝てすごす」，「眠りあかす」——この型の ver- という前綴りは「……あかす」「すごす」の意に用いられる：den Abend vertrinken「晩を飲みあかす」，den Abend verplaudern「晩を語りあかす」など。

[7] Als Mutter ist die Katze geradezu rührend. Ihre 4 bis 6 Jungen betreut sie mit einer mustergültigen Liebe. Vorher sucht sie sich ein sicheres Versteck, sei es ein Bett, das gerade leer steht, oder[52] eine Puppenschachtel auf dem Boden. Wenn ihr etwas verdächtig vorkommt, verlegt sie ihre Jungen in einen andern Schlupfwinkel. Sie spielt unermüdlich mit ihren Kleinen, und bald beginnt der Unterricht im Räuberhandwerk. Sie bringt ihnen gefangene Mäuse herbei, natürlich noch lebend[53], und läßt sie dann vor ihnen springen, damit sie sich im Fangen üben können.

Die mustergültige Mutterliebe der Katze kann sogar für verwaiste andere Jungtiere benutzt werden. Instinktmäßig bemuttert sie in dieser Zeit alles[54], was man zu ihr bringt. Sogar junge Ratten zieht sie sorgsam auf! Aber wehe, wenn man den Tag verpaßt, an dem der Mutterinstinkt erlischt![55] Prompt werden dann die Rattenjungen aufgefressen[56].

〔訳〕 die Katze 猫は Als Mutter 母としては geradezu まことにもって rührend 感心な ist ものである。sie 猫は mit einer mustergültigen Liebe 模範的な愛情をも

って Ihre 4 bis 6 Jungen 四匹ないし六匹の仔を betreut 養育する。Vorher 前もって sie 猫は ein sicheres Versteck 安全な隠れ場を sucht.....sich 探しておく，es (Versteck) それが gerade ちょうど具合よく leer steht 空いている das ところの ein Bett 寝台 sei であろうと，oder あるいは eine Puppenschachtel auf dem Boden 屋根裏の人形箱 [sei] であろうと [かまわない]。ihr 猫にとって etwas 何かが verdächtig 疑わしく vorkommt 思われる Wenn 時には (何かうさん臭いと思うと), sie 猫は ihre Jungen 仔猫たちを in einen andern Schlupfwinkel べつな隠れ場所へ verlegt 移す。Sie 猫は unermüdlich 倦むことなく mit ihren Kleinen 仔猫たちを相手に spielt 戯れる，und そして bald [そのうちに] やがて der Unterricht im Räuberhandwerk 掠奪商売の授業が beginnt 始まる。Sie 猫は ihnen (=ihren Kleinen) 仔猫たちに gefangene Mäuse 捕えられた鼠を bringt.....herbei 持ってきてやる，natürlich 言うまでもなく noch lebend まだ生きている [ままで] (母猫は仔猫たちに鼠を捕えてきてやる，それも生きたままの奴を)，und そして dann それから sie (第三の sie) 仔猫たちが im Fangen [鼠を] 捕えることにおいて sich.....üben können 練習することができる damit ために (仔猫たちに鼠捕りの練習をさせるために)，sie (第二の sie) その鼠を vor ihnen 仔猫たちの前で läßt.....springen 跳び走らせる。

Die mustergültige Mutterliebe der Katze 猫の模範的な母性愛は sogar それどころか für verwaiste andere Jungtiere 親を失った他の動物の仔にたいして [さえ] も kann.....benutzt werden 利用されうる (利用することができる)。sie [母] 猫は in dieser Zeit この時期においては man 人が zu ihr 母猫のところへ bringt 持っていく was ところの alles すべてのもの (どんな動物の仔を持っていてもそれ) を Instinktmäßig 本能的に bemuttert 母として世話をする。sie 母猫は sogar junge Ratten [時によると] 鼠の仔でさえも sorgsam 入念に zieht.....auf 育てあげる！Aber しかしながら den Tag....., an dem Mutterinstinkt erlischt [その日に] 母性本能が消えるところのその日 (母性本能の消失する日) を man ひとが verpaßt 逸する wenn ならば (うっかり忘れると)，wehe 禍なるかな！(さあ大変！) dann その時には (母性本能が消失すると) Prompt 即座に die Rattenjungen 鼠の仔たちは werden.....aufgefressen 喰い平げられてしまう！

〔注〕 **[52] sei es.....oder** これは「それは甲であれ，あるいは乙であれ」という無選択の態度を表わす認容文であって，下のごとくいろいろな形式がある。助詞として nun を伴うことがよくあるから，ついでに記憶しておくこと：

無選択の態度を表わす認容文「それは甲であれ，乙であれ」

A. *es sei nun* wahr *oder* falsch
　　それは真実であれ嘘であれ

B. *sei es nun* wahr *oder* falsch
　　(同上)

C. *es mag nun* wahr sein *oder* falsch
　　(同上)

D. *ob* mit Recht *oder* mit Unrecht

それが当然のことであれ不当のことであれ

E. *einerlei ob* mit Recht *oder* mit Unrecht

(同上)

F. *gleichviel ob* mit Recht *oder* mit Unrecht

(同上)

G. *gleichviel* auf *welche* Weise

どんな方法によってであれ

次に上の形式を用いた文例をいくつか挙げておこう：

(1) Das war ein trefflicher Gedanke, *er sei nun* im Feuer des Augenblicks entstanden *oder* planmäßig vorbereitet gewesen.

それは大急ぎの際にあわただしく産れたものであれ，あるいは前から計画していたものであれ，とにかくすばらしい考えであった。

(2) Der Staat ist zunächst Macht, um sich zu behaupten; seine Gesetze müssen gehalten werden, *ob* gern *oder* ungern.

国家というものはまず第一に，自己[の独立]を主張するための，権力である。[したがって]国家の法規は，好むと好まざるとにかかわらず，守らなくてはならない。

(3) Alle Körper, *gleichviel* (*einerlei*) *ob* leblos *oder* belebt, streben nach dem Zentrum der Erde.

あらゆる物体は，無生物たると生物たるとを問わず，地球の中心に向かう傾向をもっている。

(4) Ach, könnte ich doch nur eine Stellung finden, *gleichviel welche*!

どんな口でもいい，働き口が見つかるといいのだがなあ！

[53] **natürlich noch lebend** この句は前注で詳しく説明した述語句で，しかも Mäuse, *die* natürlich noch lebend *sind* と書きかえられるのでも明らかなように，名詞付加的 (adnominal) な用法である。[54] **alles** ここはもちろん，猫以外のほかの動物の仔のことである。動物の仔でも人間と同様に生きものであるから，無生物扱いにするのは変だが，動物はおろか人間を指す場合でも，個人を無視して指すときには中性にする。「生きとし生けるもの」は Alles, was lebt とか Alles was atmet とか言うし，また「女」のことを was lange Haare trägt (長い頭髪をもてるもの) と言うのなども同じである。[55] **erlischt** 三要形：erlöschen, erlosch, erloschen. [56] **aufgefressen** 三要形：auffressen, fraß auf, aufgefressen.

第5課 「かの如く」の哲学

解説： Hans Vaihinger (1852—1930) が「かの如くの哲学」の著者として日本に紹介されたのは，今から二十年近くも前だったろうか。一生をカントの復興と祖述に捧げた人で，カント文献学の創始を初め，「純粋理性批判註釈」のような地味な研究，世界のカント研究者のための機関紙「カント研究」の編集などが主な仕事であった。主著の „Die Philosophie des Als-Ob“ も，表題は奇抜に見えるが，じつはカントの主観的観念論のひとつの応用である。本文は筆者がファイヒンゲルの著書並びに彼に関する研究をあさっているうちに，興味を感じた点を独文にまとめたもので，第8課の「アインシュタインの空間論」とならんで，哲学に興味を有する諸君の手引きになれば幸いである。哲学と言うと何か難解な漢字を使って，常人に分からないようなことを説いたり考えたりするもののように思いこんでいるひとびとは，本文を研究することによって，哲学が具体的な生きた現実から出発したものであること，毎日われわれが当面する日常生活の個々の問題を合理的につきつめていくことが哲学することであることを，悟ると思う。本文は主題が „als ob“ であるから，接続法の動詞がしきりに出てくる。「基礎入門編」の第 26 講および第 29 講を思いかえしながら研究してほしい。

Die Philosophie des Als-ob

Das Hauptwerk des Philosophen Hans Vaihinger führt den wunderlichen Titel: Die Philosophie des Als-Ob. Es sei an einigen Beispielen erklärt, was der Philosoph eigentlich mit diesem „Als-Ob“ sagen will.

* Man weiß, was ein Punkt ist. Man weiß, daß er in der Mathematik eine große Rolle spielt. In Wirklichkeit aber gibt es nirgends einen Punkt. Man kann sich zwar einen Punkt denken, aber zeichnen kann man ihn nicht. Nimm einen ganz spitzen Bleistift und versuche es, einen streng
* mathematischen Punkt zu machen! Es wird dann kein mathematischer Punkt, d.h. eine ausdehnungslose Stelle im

Raume sein, sondern eine Fläche. Nein, nicht einmal eine Fläche, sondern ein Körper. Sieh ihn dir einmal durch ein Vergrößerungsglas an: es ist ein massiver Berg von Graphit!

Aber diese Tatsache stört uns gar nicht. Wir tun so, als ob es wirklich Punkte gäbe, und treiben unsere Geometrie unbeirrt weiter. Und zwar mit Recht! Denn täten wir das nicht, dann gäbe es überhaupt keine Wissenschaft und keine Technik mehr in der Welt.

Und dennoch: der eigentliche mathematische Punkt, der nur ein Ort sein und keine Ausdehnung haben soll, existiert nirgends in der Welt, sondern nur in unserem Denken. Er ist ein Gedankending, eine Fiktion, über deren Unwirklichkeit man sich völlig im klaren ist, die man aber nicht entbehren kann.

Nehmen wir jetzt ein anderes Beispiel. Da wird ein Mensch zum Tode verurteilt, weil er einen andern ermordet hat. Und warum verurteilt man ihn zum Tode? Offenbar darum, weil man seine Tat mißbilligt, d.h. weil man sich sagt: er hätte seine Tat nicht begehen sollen, er hätte anders handeln sollen.

Dem Satz: „Er hätte anders handeln sollen," liegt aber als notwendige Voraussetzung ein anderer zugrunde: „Er hätte anders handeln können." Ohne diesen zweiten hätte der erste keinen Sinn.

Hätte er aber tatsächlich anders handeln können? Hätte ein anderer Mensch, der Richter zum Beispiel, an seiner Stelle anders gehandelt? Hand aufs Herz: Hättest du selbst an seiner Stelle anders handeln können, wärest du, nehmen wir mal an, mit demselben Charakter geboren wie

dieser Mensch, in dasselbe Milieu, in dieselben Verhältnisse, in dieselbe Lage geraten, worin sich dieser Mensch zur Zeit seiner Missetat befand?

Höchstwahrscheinlich hätte dann auch jeder andere gerade
* so handeln müssen, wie dieser Mensch gehandelt hat. Allem Anscheine nach hat er nur so, und nicht anders handeln können.

Und doch hätte er anders handeln sollen? Wie reimt sich das aber zusammen, die Forderung einerseits: „Er
* hätte anders handeln sollen" und andererseits die eiserne Tatsache: „Er hätte aber gar nicht anders handeln können"? Denn jene bejaht die Freiheit des menschlichen Willens, diese verneint sie.

Hiergegen ist zu antworten: Um überhaupt bestrafen
* zu können, ist die Annahme der Freiheit des menschlichen Willens unumgängliche Voraussetzung. Denn wenn man alle menschlichen Handlungen samt und sonders als Wirkungen betrachtete, welche mit ihren Ursachen naturnotwendig verknüpft wären, so würde es ein großes Unrecht
* sein, Verbrecher überhaupt bestrafen zu wollen.

Was würde nun aber aus der menschlichen Gesellschaft, wenn man alle Verbrecher laufen ließe?

Es ist also eine praktische Forderung, daß wir die Verbrecher bestrafen müssen. Hierzu müssen wir aber durch-
* weg so handeln, als ob es einen freien Willen gäbe. Ob es überhaupt einen solchen gibt, kümmert uns hier ebensowenig wie die Frage, ob es einen mathematischen Punkt gibt. Wir machen demnach jeden Missetäter für seine Tat verantwortlich, als ob er ebensogut anders hätte handeln
* können. Aus alledem erhellt, daß auch das Strafrecht auf

einem Als-Ob beruht.

Und so stoßen wir im geistigen Leben Schritt auf Schritt auf solche notwendigen und nützlichen Fiktionen. Hätte man sie nicht, dann könnte man weder denken noch handeln. Ja, nicht einmal leben könnte man ohne einen * solchen nützlichen Irrtum. Wie bald ist der Tod da! Und dennoch leben wir so, als ob wir ewig da sein könnten! Vielleicht hat dieses Leben gar keinen Sinn! Und dennoch leben wir, als ob es einen hätte!

Und wir tun recht daran. Das ist der Sinn der Philosophie des Als-Ob.

Die Philosophie des Als-Ob

[1] Das Hauptwerk des Philosophen Hans Vaihinger führt den wunderlichen Titel: Die Philosophie des Als-Ob[1]. Es sei[2] an einigen Beispielen erklärt, was der Philosoph eigentlich mit diesem „Als-Ob" sagen will.

Man weiß[3], was ein Punkt ist. Man weiß, daß er in der Mathematik eine große Rolle spielt[4]. In Wirklichkeit[5] aber gibt es[6] nirgends einen Punkt. Man kann sich zwar einen Punkt denken[7], aber[8] zeichnen kann man ihn nicht[9]. Nimm[10] einen ganz spitzen Bleistift und versuche es, einen streng mathematischen Punkt zu machen! Es wird dann kein mathematischer Punkt, d.h.[11] eine ausdehnungslose Stelle im Raume[12] sein, sondern eine Fläche. Nein, nicht einmal eine Fläche, sondern ein Körper. Sieh ihn dir einmal durch ein Vergrößerungsglas an[13]: es ist ein massiver[14] Berg von Graphit!

〔訳〕 Die Philosophie des Als-Ob「かの如く」の哲学

Das Hauptwerk des Philosophen Hans Vaihinger 哲学者ハンス・ファイヒンゲルの主著は den wunderlichen Titel: Die Philosophie des Als-Ob「かの如く」の哲学という風変りな表題を führt もっている。der Philosoph この哲学者が eigentlich そもそも mit diesem „Als-Ob" この「かの如く」をもって sagen will 言わんと欲する was ところの Es ことは an einigen Beispielen 二三の例によって sei.....erklärt 説明されてあれ（この「かの如く」なる言葉によってファイヒンゲルが何を言わんとするかを，二三の例によって説明しよう）。

Man われわれは ein Punkt 点とは was 何で ist あるかを weiß 知っている。Man われわれは er (Punkt) 点が in der Mathematik 数学において eine große Rolle ひとつの大きな役割を spielt 演じている daß ことを weiß 知っている。aber しかし In Wirklichkeit 本当は einen Punkt 点は gibt es nirgends どこにも存在しない。zwar なるほど Man われわれは einen Punkt 点を kann sich.....denken 考えてみることはできる，aber しかし man われわれは ihn 点を zeichnen kann.....nicht 描くことはできない。einen ganz spitzen Bleistift 非常に先のとがった鉛筆を Nimm 取って und

そして einen streng mathematischen Punkt 厳密に数学的な点を zu machen つくる es ことを versuche 試みてみたまえ（試みに先の鋭く尖った鉛筆を取って数学上の定義にすこしもちがわないような点をこしらえてみたまえ）! dann [さて] 書いてみると Es それは kein mathematischer Punkt 数学上の点，d.h. (das heißt と読む) すなわち eine ausdehnungslose Stelle im Raume 空間内における拡がりのない位置 wird..... [kein].....sein とはならないであろう，sondern むしろ eine Fläche ひとつの平面 [になるであろう]。Nein いな，eine Fläche 平面 nicht einmal ですらもない，sondern むしろ ein Körper ひとつの立体 [となるだろう]。einmal こころみに ihn (Körper) それを durch ein Vergrößerungsglas 拡大鏡によって Sieh.....dir.....an [よく] 見てみたまえ！es それは ein massiver Berg von Graphit ひとつのかさばった黒鉛の山 ist である！

〔注〕【1】**Die Philosophie des Als-Ob** 名詞以外の品詞，または句，文章などを，**das Als-Ob, das Morgen, das blutgedrillte Muß など** そのままの形で名詞化すると，すべて中性の扱いをする。そして二格の語尾 -s をつけない。本文の場合も，接続詞 als ob を名詞化して das Als-Ob とし，さらにそれを二格にして die Philosophie の規定句としたのである。英語でも *Most of my* ***yesterdays*** *have been spent telling what's wrong with America—always, I hope, with suggestions for constructive change. Most of my* ***tomorrows*** *will be similarly employed.*「私の „昨日“ の大部分はアメリカの調子の狂った点を語ることに費された——しかもそのつど，どう改革したらいいかということを検討することを忘れなかったと思う。私の „明日“ の大部分も同様な目的に用いられるであろう。」などと言って任意の品詞・句・文章を名詞化するが，性についてはなんの規定もなく，ふつうの名詞と同じ扱いをするだけである。この点，ドイツ語は性が判然と区別されているだけに冠詞をつけるときに注意を要する。

(1) Arbeite nur für das *Heute*; das *Morgen* kommt von selber und mit ihm auch die neue morgige Kraft.

ただ „今日“ のために働け。„明日“ はひとりでやってくる，そして，„明日“ とともに新しい明日の力もやってくる。

(2) Er hatte von seinem Vater das blutgedrillte **Muß**, vor einer bittern Sache nicht auszukneifen.

彼は困難に面して尻込みして逃げるような真似をしないだけの，血のにじむような修業で叩き込んだ „べし“ を父から承けついでいた。

【2】**Es sei** これは「基礎入門編」の第 28 講で勉強した要求話法の一例である。筆者の要望を表わしていると考えても，筆者と読者との取りきめを表わしていると考

えてもよい。Es sei から sagen will までを，次のように書きかえてもよい：Was ist denn das nun eigentlich, dieses „Als-Ob"? Ein paar Beispiele werden es uns klar machen.「そもそもこの „かの如く" とは何であろうか? 二三の例を引いてみればわかると思う」。【3】**Man weiß** ここは Wir [alle] wissen, was ein Punkt ist. と言うのと同じ。【4】**eine große Rolle spielt**=eine wichtige Rolle spielt. 【5】**In Wirklichkeit**=*im Grunde*「実際は」【6】**gibt es** *es gibt* については「基礎入門編」の §123 を参照すること。【7】**sich.....einen Punkt denken**=sich einen Punkt vorstellen「点を心に描く」。【8】**zwar.....aber**「なるほど.....だがしかし」の意を表わす対照的接続詞には，*zwar.....aber* のほかに *wohl.....aber* や *freilich.....aber* などがある。【9】**zeichnen kann man ihn nicht** ここはまた herstellen kann man ihn nicht「点をこしらえることはできない」と言ってもよい。【10】**Nimm du** にたいする nehmen の命令形。次の versuche も同じく du にたいする命令形である。zu machen! までの文章を Sie を主語にするとこうなる：*Versuchen Sie* es einmal, *nehmen Sie* Ihren ganz spitzen Bleistift und *machen Sie* einen Punkt. 【11】**d.h.**= das heißt. 並立的接続詞でよく省略形を用いるのは：*zum Beispiel* (略 z.B.)「たとえば」，*zum Exempel* (略 z.E.)「たとえば」，*das ist* (略 d.i.)「すなわち」，*beziehungsweise* (略 bzw.)「あるいは」，*nämlich* (略 näml.)「すなわち」などである。【12】**eine ausdehnungslose Stelle im Raume**「位置だけはあるが拡がりがない」。この句は前文の „mathematischer Punkt" だけの言い換えで，kein は含まれていないことに注意する必要がある。【13】**Sieh.....dir.....an** これも du にたいする命令形。*sich etwas ansehen, sich etwas denken* などの sich (三格) は前注で説明したように「関心の三格」で，わざわざ訳出するにおよばない。【14】**massiver** 英語の *massive* と同じ意味に使うこともあるが，ここはむしろ *solid, compact*「どっしりした・厚味のある」の意味。ここのところを es ist ein *winziger* Berg von Graphit「それは黒鉛のごく小さい山である」と言ってしまえば平凡になってしまう。massiv と言うと表現の面白さが加わる。

[2] Aber diese Tatsache stört uns gar nicht. Wir tun so, als ob[15] es wirklich Punkte gäbe[16], und treiben unsere Geometrie unbeirrt weiter[17]. Und zwar mit Reicht! Denn täten wir das nicht[18], dann gäbe es überhaupt keine Wissenschaft und keine Technik mehr in der Welt.

Und dennoch: der eigentliche mathematische Punkt, der

nur ein Ort sein und keine Ausdehnung haben soll, existiert nirgends in der Welt, sondern nur in unserem Denken[19]. Er ist ein Gedankending, eine Fiktion, über deren Unwirklichkeit man sich völlig im klaren ist[20], die man aber nicht entbehren kann.

〔訳〕 Aber しかし diese Tatsache この事実は uns われわれを stört.....gar nicht すこしもさまたげない(こういう事実があったからといって一向さしつかえはない)。Wir われわれは als ob あたかも wirklich ほんとうに Punkte 点が es.....gäbe 存在する [かの如く] に, so そのように tun 行なう(われわれはあたかも点というものが実在しているかの如くにふるまっている), und そして unbeirrt 迷うことなく unsere Geometrie われわれの幾何を treiben.....weiter やりつづける(そんなことにおかまいなくお馴染みの幾何を先へ先へと研究していく)。Und zwar しかも mit Recht [そうすることが] 正しいのである(そしてまたそれでよいのだ)! Denn なぜならば wir [もしも] われわれが das そのことを täten.....nicht なさない [ならば] (もしもわれわれが, 点が実在するという仮定に立って研究をしないならば), dann その場合には(そうすると) überhaupt そもそも in der Welt この世の中に keine Wissenschaft.....mehr もはや科学も und また keine Technik [mehr] 技術も gäbe es 存在 [しないであろう]。

Und dennoch それにもかかわらず: nur ein Ort sein.....soll たんに位置であるべきで und そして keine Ausdehnung haben [soll] 拡がりをもつべきでない der ところの der eigentliche mathematische Punkt 本来の数学的点は(本来の数学的な点というものは, 位置だけはもっているが拡がりのないものであるから), nirgends in der Welt 世界のどこにも existiert 存在 [しない] sondern のであって nur ただ in unserem Denken われわれの頭のなかに [存在するだけである]。Er (der mathematische Punkt) それは ein Gedankending 思惟の所産 ist である, eine Fiktion ひとつの仮構 [である], über deren Unwirklichkeit それの非現実性に関して man われわれは völlig 完全に sich.....im klaren ist 意識している, aber しかし man われわれは die それを nicht entbehren kann 無しにすませるわけにはいかないのである(点なぞというものはわれわれが頭の中でこしらえたもので, したがって実在しないものであることはよくわかっているが, さりとて無くてはさっそくにこまるものなのだ)。

〔注〕 [15] **Wir tun so, als ob**=Wir *stellen uns so, als ob*=*We pretend to.....* したがって意味の重点は tun よりも als ob 以下にある。 [16] **als ob es.....Punkte gäbe** als ob の用法については「基礎入門編」の §139 を参照すること。

Er trinkt seinen Kaffee. 習慣・性癖などを指す物主代名詞 [17] **und treiben unsere Geometrie unbeirrt weiter**「一向おかまいなしにわれわれの幾何学をつづけてやる」だが, 日本語としては unsere「われわれの.....」が余計なもののように感

じられる。Er trinkt seinen Kaffee.「彼は彼のコーヒーを飲む」といった表現はドイツ語に限らず，英語にも仏語にも多いが，これには「彼のおきまりの」,「いつもの」または「彼独特の」という着色がある。つまり，習慣あるいは習癖を指す意味が付随概念 (Nebenbegriff) として含まれている。次の諸例で微妙な意味の着色になれてほしい：

(1) Ich habe *meine* Geschäfte.
私には仕事というものがある。

(2) Er ist auf *seiner* Reise.
彼はいつもの旅行に出ている。

(3) Er raucht *sein* Pfeifchen.
彼は例のごとくパイプで喫煙している。

(4) Er will sich *sein* Mittagsschläfchen nicht stören lassen.
彼は習慣の昼寝をさまたげられることをいやがる。

(5) Da kommt der Herr Professor mit *seiner* Erkenntnistheorie herbei und beweist, daß es erkenntnistheoretisch falsch sei.
すると教授という厄介な代物が例の認識論とやらをひっさげて立ち現われ，それは認識論的に誤っていると言ってご証明になる。

(6) Sie hat *ihren* Mässigkeitsverein, *ihren* Mitwoch, *ihre* Besuche, *ihr* ich weiß nicht was alles, ich aber habe rein gar nichts, höchstens *meine* Langeweile.
彼女には彼女の禁酒宣伝会や，水曜の例会や，訪問や，そのほか何だか変なものがたくさんあるが，僕には全然何にもない，たかだか退屈があるぐらいなものだ。

(7) Ein jeder hat *seine* eigene Weise, betrogen zu werden, wie er *seine* eigene Weise hat, sich einen Schnupfen wegzuholen.
[女に] だまされるのにも，人によってそのひと独特のだまされ方がある，それは風をひくのにも人によってそれぞれひき方があるのと同様である。

[18] **täten wir das nicht**=wenn wir das nicht täten. この wenn のかわりの倒置法については「基礎入門編」の §137 を参照すること。[19] **existiert.....in unserem Denken**=existiert.....in unserem Kopfe (in unserer Einbildung, in unserer Vorstellung). [20] **über deren Unwirklichkeit man sich völlig im klaren ist** *über etwas im klaren sein=to be fully enlightened about something, to see (understand) it clearly.*

[3] Nehmen wir jetzt ein anderes Beispiel. Da[21] wird ein Mensch zum Tode verurteilt[22], weil er einen andern ermordet hat. Und warum verurteilt man ihn zum Tode? Offenbar darum, weil man seine Tat mißbilligt, d.h. weil man sich sagt[23]: er hätte seine Tat nicht begehen sollen, er hätte anders handeln sollen[24].

Dem Satz: „Er hätte anders handeln sollen," liegt aber als notwendige Voraussetzung ein anderer zugrunde[25]: „Er hätte anders handeln können." Ohne diesen zweiten[26] hätte der erste keinen Sinn.

〔訳〕 jetzt つぎに wir われわれは ein anderes Beispiel ほかの例を Nehmen とってみよう。Da ここに ein Mensch ひとりの人間が [あって] er 彼が einen andern [Menschen] ほかの人間を ermordet hat 殺した weil という理由で, wird.....zum Tode verurteilt 死刑の宣告を受ける [と仮定してみよう]。Und ところで warum なぜ man われわれは ihn 彼を verurteilt.....zum Tode 死刑に宣告するのであろうか? Offenbar 明らかに, man われわれが seine Tat 彼の行為を mißbilligt 非とする weil から, d.h. すなわち, er 彼は seine Tat その行為を hätte.....nicht begehen sollen なすべきではなかった, er 彼は hätte anders handeln sollen 別な行動をとるべきであった, [と] man われわれは sich 自分に sagt 言う weil から, darum それだから [である] (それは明らかに, われわれが彼の行為を非なりと判断するからである, 言葉を換えて言えば, われわれは, 彼はかかる犯罪を犯してはならなかった, 彼はべつな行動をとるべきであった, と考えるからである)。

aber ところが „Er hätte anders handeln sollen,"「彼はべつな行動をとるべきであった」Dem Satz [という] 命題には als notwendige Voraussetzung 必然的な前提として ein anderer [Satz] 他の [命題] が liegt.....zugrunde 基礎に横たわっている, [すなわち] „Er hätte anders handeln können."「彼はべつな行動をとることができたのだ」(ところが,「彼は別な行動をとるべきであった」という命題が成立するために, その基礎として「彼は [その気になれば] べつな行動をとることもできたのだ」というもうひとつの命題が必ずなくてはならない)。Ohne diesen zweiten [Satz] この第二の [命題] がなければ der erste [Satz] 第一の [命題] は hätte.....keinen Sinn なんの意味をもたないであろう (無意味となるであろう)。

〔注〕 [21] **Da** ほとんど zum Beispiel と言うのに同じである。 [22] **zum Tode verurteilt** *einen zum Tode verurteilen=to pass a sentence of death (a death-sentence) upon someone* の受動形。 [23] **sich sagt**=sich denkt.

Für dich täte ich alles. 約束話法の結論部の独立用法 【24】 **er hätte.....sollen**

この接続法を用いたふたつの文章はどちらも「基礎入門編」の第 29 講で述べた約束話法である。もっと詳しく言えば，§138 の「前提部または結論部の独立用法」の中の結論部の独立用法である。どちらの文意にもたとえば Wenn er sich Sache die besser überlegt hätte「もし彼がこの件についてもっとよく考えてみたのであったら」といったような前提部が省かれていると考えることができる。いかなる前提部が省略されているかは，文脈で容易に判断しうるものである：

(1) Für dich *täte* ich alles.

君のためなら僕はなんでもするよ。

考え方： *Wenn es für dich geschehen sollen*, dann täte ich alles.「君のためにするのであったら，それなら僕はなんでもするよ」 Für dich täte ich alles, *wenn ich Gelegenheit dazu hätte*.「君のためになら，機会さえあれば，僕はなんでもするよ」

(2) Er *hätte* es nicht tun sollen.

彼はそんなことをすべきではなかった。

考え方： *Eigentlich* hätte er es nicht tun sollen.「本来ならば彼は.....」 Er hätte es nicht tun sollen, *wenn es nach mir gegangen wäre*.「僕の考えどおりになっていたら，彼は.....」

(3) Niemand wiedersprach ihm. Es *wäre* auch überflüssig gewesen.

だれも彼に反対しなかった。また反対したところで無駄だったろう。

考え方： *Wenn jemand ihm widersprochen hätte*, so wäre es überflüssig gewesen.「だれか彼に反対したところ.....」

(4) Ohne dich *wäre* ich umgekommen.

君がいなかったら僕は死んだだろう。

考え方： *Wenn du nicht da gewesen wärest*, so wäre ich umgekommen.

【25】 **liegt.....zugrunde** *etwas liegt etwas anderem zugrunde*「甲が乙の基礎となっている。甲が成立するためにはその基礎として乙がなければならない」。 【26】 **Ohne diesen zweiten**「この第二の命題がなかったならば」。注 24 を参照せよ。

[4] Hätte er aber tatsächlich anders handeln können? Hätte ein anderer Mensch, der Richter zum Beispiel, an seiner Stelle[27] anders gehandelt? Hand aufs Herz[28]: Hät-

test du selbst an seiner Stelle anders handeln können, wärest du[29], nehmen wir mal an, mit demselben Charakter geboren wie dieser Mensch, in dasselbe Milieu, in dieselben Verhältnisse, in dieselbe Lage geraten, worin sich dieser Mensch zur Zeit seiner Missetat befand?

Höchstwahrscheinlich[30] hätte dann auch jeder andere gerade so handeln müssen, wie dieser Mensch gehandelt hat. Allem Anscheine nach hat er nur so, und nicht anders handeln können.

〔訳〕 aber しかし er 彼は tatsächlich 実際に hätte.....anders handeln können べつな行動をとることができたであろうか? ein anderer Mensch ほかの人間, der Richter zum Beispiel たとえば裁判官は an seiner Stelle 彼の地位におかれたならば Hätte.....anders gehandelt べつな行動をとったであろうか(ほかの人間, たとえば裁判官が彼の立場におかれたとして, はたしてべつな行動をとったであろうか)? Hand 手を aufs Herz 胸の上へ(正直に言いたまえ): du selbst 君自身が an seiner Stelle 彼の立場におかれたとして Hättest.....anders handeln können [はたして] べつな行動をとることができたであろうか, nehmen wir mal an これは仮定の話だがしてみよう, du 君が mit demselben Charakter.....wie dieser Mensch この人間と同じ性格をもって geboren 生まれ, dieser Mensch この人間が zur Zeit seiner Missetat 彼の犯行の時期に sich.....befand 置かれた worin と in dasselbe Milieu 同じ環境へ, in dieselben Verhältnisse 同じ境遇へ, in dieselbe Lage 同じ状態へ wärest.....geraten 陥ったならば(仮に君がこの犯罪者と同じような性格を持って生まれ, 犯行時期に彼がおかれたと同じ境遇に陥ったとして, はたして君はべつな行動をとりえたであろうか)?

dann その場合には Höchstwahrscheinlich おそらくは auch jeder andere 各々のほかの人間も(ほかのどんな人間でも) gerade so.....wie dieser Mensch gehandelt hat この人間が行動したとちょうど同じように hätte.....handeln müssen 行動しなければならなかったであろう。Allem Anscheine nach 十中八九 er (jeder andere) 彼は nur so ただそうしか hat.....[handeln können] 行動できなかったであろう, und そして [hat].....nicht anders handeln können べつな行動をとることができなかったであろう。

〔注〕【27】**an seiner Stelle** この文章は *an seiner Stelle* に前提部が含蓄されていると見て: Hätte ein anderer Mensch, der Richter zum Beispiel, anders gehandelt, *wenn er an seiner Stelle gewesen wäre?* と言いかえてもよい。【28】**Hand aufs Herz** *die Hand aufs Herz legen=to lay one's hand on one's heart* これは法廷に立って証言をする時などの仕草で, 誓って嘘を言わないことを表示する。転じて「正直なところ」,「掛け値のないところ」の意の挿入句に用いる。【29】**wärest du**=wenn du.....

geraten wärest, worin..... [30] **Höchstwahrscheinlich** wahrscheinlich の意味を強調するために höchst を付加したもの。つぎに出てくる *allem Anscheine nach* と同じである。日本語なら，とくに強く発音する場合の「たぶん」「おそらく」(まちがいない！の意) に相当する。

[5] Und doch hätte er anders handeln sollen? Wie reimt sich das aber zusammen, die Forderung einerseits: „Er hätte anders handeln sollen" und andererseits die eiserne Tatsache[31]: „Er hätte aber gar nicht anders handeln können"? Denn jene bejaht die Freiheit des menschlichen Willens[32], diese verneint sie.

Hiergegen ist zu antworten: Um überhaupt bestrafen zu können, ist die Annahme der Freiheit des menschlichen Willens unumgängliche Voraussetzung. Denn wenn man alle menschlichen Handlungen samt und sonders[33] als Wirkungen betrachtete, welche mit ihren Ursachen naturnotwendig verknüpft wären, so würde es ein großes Unrecht sein, Verbrecher überhaupt bestrafen zu wollen.

〔訳〕 Und doch しかもそれにもかかわらず er 彼 (犯行者) は hätte.....anders handeln sollen べつな行動をとるべきであった [というのであろう] か? aber しかし das つぎの [ふたつの矛盾した] ことは Wie どういうふうに reimt sich.....zusammen つじつまが合っているのであろうか，(すなわち「撞着しているではないか」)，[すなわち] einerseits 一方においては „Er hätte anders handeln sollen"「彼はべつな行動をとるべきであった」die Forderung [という] 要求 und と andererseits 他方では „Er hätte aber gar nicht anders handeln können"?「しかし彼はぜんぜんべつな行動をとりえなかったであろう」die eiserne Tatsache [という] 鉄の (盤石のごとき) 事実と (一方では「彼はべつな行動をとるべきであった」と要求しても，他方には「しかし彼はべつな行動をとることはぜんぜん不可能だった」という厳として動かしがたい事実がひかえている，この両者の矛盾をつじつまを合わせる方法があるだろうか)? Denn なぜ [こういう疑問が起こる] かというと jene (Forderung) 前者は die Freiheit des menschlichen Willens 人間意志の自由を bejaht 肯定し，diese (Tatsache) 後者は sie (Freiheit) それを verneint 否定する [からである]。

Hiergegen この [疑問] にたいしては ist zu antworten [つぎのように] 答えなくてはならない: überhaupt そもそも Um.....bestrafen zu können 罰しうるためには (いやしくも処罰ということが成りたちうるためには) die Annahme der Freiheit des menschlichen Willens 人間意志の自由の仮定 (人間の意志は自由であるという仮定) は unumgängliche Voraussetzung 不可避的な前提 ist である。Denn なぜかと言うに wenn もしも man われわれが alle menschlichen Handlungen あらゆる人間の行動を samt und sonders ことごとく, mit ihren Ursachen その原因と naturnotwendig 必須的に verknüpft wären 結びついている welche ところの Wirkungen 結果 als として betrachtete 観察する [ならば] (なぜならば人間のあらゆる行為は, 結局それぞれ原因があって, この原因からかならず出てくる結果であるというふうに考えてくれば), überhaupt そもそも Verbrecher 犯罪者を bestrafen zu wollen 処罰しようなぞと思う es ことが ein großes Unrecht 大きな不正 würde.....sein となるであろうから。

〔注〕 **[31] die eiserne Tatsache** eisern は「鉄の」すなわち「鉄石のごとき」で, unbestreitbar「争うべからざる」, unabwendbar「不可避の」, unleugbar「否定しがたい」といった意味。 **[32] die Freiheit des menschlichen Willens** 通俗的にわかりやすく言うと,「意志の自由」というのは, われわれがわれわれの行為に責任をもつ (Wir sind verantwortlich für unsere Taten.) ことである。このような意志自由説を奉ずるひとびとにたいして, 人間意志の自由を否定するひとびとは, たとえば「人間は環境の産物である」といったことを主張して, われわれの欲する通りに行動できる (Wir können, wie wir wollen.) というのは嘘で, 実際は, われわれは必然にしたがって動いている (Wir tun, wie wir müssen.) にすぎないと主張する。この争いは古来, 哲学の, いな, 全人類のもっとも困難な問題のひとつとして, こんにちなお解決されずにある。 **[33] samt und sonders**=*each and all, all and sundry, jointly and severally, all together.*

[6] Was würde nun aber aus der menschlichen Gesellschaft[34], wenn man alle Verbrecher laufen ließe[35]?

Es ist also eine praktische Forderung, daß wir die Verbrecher bestrafen müssen. Hierzu müssen wir aber durchweg so handeln, als ob es einen freien Willen gäbe. Ob es überhaupt einen solchen gibt, kümmert uns hier ebensowenig wie die Frage, ob es einen mathematischen Punkt gibt. Wir machen demnach jeden Missetäter für seine Tat

verantwortlich, als ob er ebensogut anders hätte handeln können. Aus alledem erhellt, daß auch das Strafrecht auf einem Als-Ob beruht.

〔訳〕 nun aber ところが wenn もしも man われわれが alle Verbrecher あらゆる犯罪人を laufen ließe 無罪放免する[としたら], aus der menschlichen Gesellschaft 人間の社会から Was 何が würde できあがるであろうか(人間の社会はどうなるであろうか・秩序が保てなくなる!)?

also それゆえに wir われわれが die Verbrecher 犯罪者を bestrafen müssen 罰しなくてはならない daß という Es ことは eine praktische Forderung 実際上の要求 ist なのである(だからしてわれわれは[理論はともかくとして]社会生活を実際に営んでいくうえからして, いやでも犯罪人を罰しなくてはならないのだ)。Hierzu そうするためには(犯罪者を罰するためには) aber しかし wir われわれは, als ob あたかも, einen freien Willen 自由意志なるものが es.....gäbe 存在する[かの如く], durchweg あくまでも so そのように müssen.....handeln 行為しなければならない(われわれはあたかも自由意志が存在するかのごとくにふるまわねばならない)。überhaupt そもそも einen solchen [Willen] かかるもの(自由意志なるもの)が es.....gibt 存在する ob か否か[という問題]は, hier この場合においては, ob es einen mathematischen Punkt gibt 数学的点が存在するかいなか die Frage [という]問題 kümmert uns.....ebensowenig wie と同じくわれわれの関わるところではない。demnach したがって Wir われわれは jeden Missetäter あらゆる犯罪者に für seine Tat その[犯した]行為にたいして machen .....verantwortlich 責任を負わせる, als ob あたかも er 彼が ebensogut ちょうど同じようによく anders hätte handeln können べつな行動をとることができたかの如く(罪を犯した者があると, あたかもその犯罪者がべつな行動をとることもできたかの如くに考えて, その犯行にたいして責任をとらせる)。Aus alledem 以上のことから, auch das Strafrecht 刑法もまた auf einem Als-Ob ひとつの「かの如く」(仮定)に beruht 立脚する daß ということが erhellt 明らかになる。

〔注〕 [34] **Was würde.....aus der menschlichen Gesellschaft** 人なり物なりが「.....の状態になる」ことを *aus* と *werden* とで表現する。*Aus ihm wird nichts.*=*He will never be anything (in the world). Was soll aus dir werden?*=*What is to become of you?* [35] **laufen ließe** *einen laufen lassen (to discharge him)*「雇人などを解雇する・おいはらう」; *to let one off, to set free, to release*「犯人などを放免する・追わぬ」。

[7] Und so stoßen[36] wir im geistigen Leben Schritt auf Schritt[37] auf solche notwendigen und nützlichen Fik-

tionen. Hätte man sie nicht[38], dann könnte man weder denken noch handeln. Ja, nicht einmal leben könnte man ohne einen solchen nützlichen Irrtum. Wie bald ist der Tod da[39]! Und dennoch leben wir so, als ob wir ewig da sein könnten[40]! Vielleicht hat dieses Leben gar keinen Sinn! Und dennoch leben wir, als ob es einen hätte!

Und wir tun recht daran[41]. Das ist der Sinn der Philosophie des Als-Ob.

〔訳〕 Und so こういうふうに wir われわれは im geistigen Leben 精神生活において Schritt auf Schritt 一歩一歩 (いたるところで，精神生活のいかなる方面においても) auf solche notwendigen und nützlichen Fiktionen このようなやむをえないしかも有用な虚構に stoßen 逢着する。man [もしも] われわれが sie (Fiktionen) かかる虚構を Hätte.....nicht もたなかったならば，dann その時には man われわれは könnte.....weder denken noch handeln 考えることも行動することもできないであろう。Ja いな，ohne einen solchen nützlichen Irrtum かかる有用な誤謬がなかったならば man われわれは nicht einmal leben könnte 生きることすらできないであろう。Wie bald いかに早く der Tod 死は ist.....da 来ることか (死はすぐまじかに迫っている)! Und dennoch それにもかかわらず wir われわれは，als ob あたかも wir われわれが ewig 永遠に da sein könnten 生きつづけられるかのごとくに so そのように leben 生きている！Vielleicht おそらく dieses Leben この [われわれの現世の] 生活は hat.....gar keinen Sinn なんの意味をももっていない [であろう]! Und dennoch それでも wir われわれは，als ob あたかも es (dieses Leben) それが einen (=Sinn) 意味を hätte もっているかのごとく leben 生活している.

Und しかも wir tun recht daran そうすることが正しいのだ (それはそれでいいのだ)。Das これが der Sinn der Philosophie des Als-Ob「かの如く」の哲学の意味 ist である。

〔注〕 【36】 **stoßen** 三要形：stoßen, stieß, gestoßen. *auf etwas* (四格) *stoßen*「あるものにぶっつかる・逢着する」。*auf einen stoßen* なら「ひとにめぐり会う・邂逅する」。【37】 **Schritt auf Schritt**=*auf jeden Schritt*=überall「いたるところ・どこへでも」。これとつぎの句とが混同されやすいから注意を要する：*Schritt für Schritt*「一歩一歩・漸次に」 【38】 **Hätte man sie nicht**=Wenn man sie nicht hätte. 【39】 **Wie bald ist der Tod da!**=Wie bald naht sich der Tod! 【40】 **als ob wir ewig da sein könnten**=als ob wir ewig weiter leben könnten. 【41】 **wir tun recht daran** *daran tun* の用法：er hat *gut daran getan=he acted wisely* (*in doing it*); du würdest *wohl daran tun zu schreiben=it will be well for you to write;* er würde *besser daran tun nachzugeben=it would be better for him to yield, he had better give in.*

第6課　壺を作るロビンソン

解説： いまの小学上級生や中学生で，ロビンソン・クルーソーの名を知らない者はなかろう。それほどロビンソンの漂流記はおもしろい，おもしろいから有名になったのである。イギリスの Daniel Defoe が „*The life and strange surprising adventures of Robinson Crusoe of York*“ を出版したのは 1719 年だが，翌年にはすでにドイツ語に翻訳され，1760 年までにドイツだけで約四十種類の翻訳と無数の模倣作が出版されているのを見ても，当時いかにこの作がヨーロッパの読者を夢中にさせたかが想像されよう。「壺を作るロビンソン」はロビンソンが無人島に漂着して煮物をする器にこまり，まず粘土をこねて壺を作り，それを日光にあてて乾かしたうえ，水をいれて火にかけても壊れない焼物に仕上げるまでの苦心談をお話風にまとめたものである。原文は中級程度で「基礎入門編」の文法の知識がほんとうに頭に入っているかどうかを試験してみるのに恰好の読物であると思う。

Robinson als Töpfer

Robinson Crusoe, der Sohn eines Hamburger Kaufmanns, war seinen Eltern heimlich entlaufen, um die Welt kennen zu lernen. Auf seiner Reise erlitt er Schiffbruch und die Wogen warfen ihn an den Strand einer unbe-
* wohnten Insel.

Zuerst schien ihm das einsame Leben dort unerträglich. Allmählich aber gewöhnte er sich daran und fing an, sich so bequem wie nur möglich einzurichten. Er suchte sich eine Höhle zur Wohnung, fing wilde Ziegen ein, verfer-
* tigte sich allerlei Geräte und wußte sich sogar Feuer zu verschaffen, so daß er sich Wildbret am Spieß braten konnte.

Jedoch es fehlte ihm noch an Kochgeschirren. Zwar hatte er schon öfters versucht, sich aus Tonerde Schüsseln
* und Töpfe herzustellen, indessen hatte es ihm nie geglückt.

Eines Tages aber brachte er endlich einen Topf zustande, der zwar sehr ungeschickt aussah, aber doch vielleicht zu gebrauchen war. „Übung macht den Meister," sagte er fröhlich; „morgen will ich schon bessere Töpfe machen."

Der Erfolg bestätigte dies auch; denn jeder Topf, der in * den folgenden zwei Tagen fertig wurde, geriet besser als sein Vorgänger. Freilich waren die Töpfe nicht so schön rund und glatt, wie sie von unsern Töpfern gemacht werden. Aber Robinson hatte ja auch keine Drehscheibe, auf der die Töpfe gemacht zu werden pflegen. Kurz, es * hätte ihm leid getan, wenn er jetzt einen seiner sieben Töpfe beschädigt hätte.

Diese Unannehmlichkeit trat nun aber doch ein. Um die Töpfe trocknen zu lassen, hatte er sie einige Tage in die Sonne gestellt. Da mochte denn wohl einer davon * zu frisch in die Sonnenhitze gebracht worden sein, denn er hatte einen Riß bekommen. „Nun," tröstete sich Robinson, „ich habe ja noch sechs, und diese scheinen auch alle gut zu sein." In diesem Glauben wollte er denn gleich einen davon benutzen. Er füllte ihn also mit Wasser, tat * etwas Salz hinzu und stellte ihn ans Feuer. Aber wie sehr hatte er sich da getäuscht! Es dauerte gar nicht lange, so drang das Wasser in den Ton des Topfes ein und zerweichte diesen ganz.

„Vielleicht werden die Töpfe im Feuer härter als durch * die Sonnenhitze." So dachte Robinson und schritt sogleich zu einem Versuche. Er holte zwei Steine von gleicher Größe herbei, stellte seine fünf Töpfe pyramidenförmig darauf und machte dann ein tüchtiges Feuer darunter. Kaum aber loderten die Flammen empor, so ging's knack! *

knack! und einer der Töpfe war zersprungen.

„Wahrscheinlich habe ich das Feuer gleich zu stark gemacht," dachte Robinson und nahm vorsichtig einige brennende Scheite hinweg, um die Hitze zu mäßigen. Da * blieben denn die übrigen Töpfe wirklich unversehrt, und so konnte das Feuer nach und nach wieder vergrößert werden, bis nach langem, langem Warten der eine Topf endlich anfing zu glühen. Das hielt Robinson für ein gutes Zeichen, und er setzte daher das Feuern noch so * lange fort, bis auch die andern glühend wurden.

Natürlich konnte er es am andern Tage kaum erwarten, bis die Töpfe hinlänglich abgekühlt waren, um einen davon in Gebrauch nehmen zu können. Als es endlich so weit war, füllte er wieder einen Topf mit Wasser und stellte * ihn ans Feuer. Aber auch diesmal sah er sich getäuscht; denn nur zu bald drang das Wasser an der Außenseite des Topfes hervor und drohte, das Feuer zu verlöschen. Er versuchte es mit dem zweiten und dritten Topfe, doch immer zeigte sich derselbe Übelstand.

* Da wußte er gar nicht mehr, was er tun sollte. Schon wollte er sich drein ergeben, die Töpfe nicht zum Kochen benutzen zu können, als er unter den Kohlen zufällig den Boden des zuerst vom Wasser zerweichten Topfes bemerkte. Dieser sah ja ganz anders aus als die unversehrt geblie- * benen Töpfe; er war fast völlig überglast und ließ nicht einen Tropfen Wasser durch. „Halt!" rief Robinson freudig, „jetzt hab' ich's! Der Scherben hat unten zwischen den Steinen gelegen, wo die Hitze mehr zusammengehalten wurde, und dadurch wird er so glasig geworden sein." * Und sogleich nahm er einen neuen Versuch vor.

Er grub ein ziemlich tiefes Loch mit einigen Stufen in die Erde, legte die beiden Steine hinein und umgab die Grube mit Steinen, die er so übereinander setzte, daß bei den Stufen eine Öffnung blieb. Dann stellte er seine vier Töpfe auf die Steine und machte zwischen diesen ein * kleines Feuer, das er nach und nach verstärkte. Da trat zwar das Glühen der Töpfe viel eher ein als beim vorigen Versuche; doch überglast wurde keiner von ihnen.

„Woran mag das nur liegen?“ fragte sich Robinson wiederholt vergebens. Endlich fiel ihm ein, daß in dem * zerweichten Topfe sich Salz befunden hatte und dieses vielleicht die Ursache der Verglasung gewesen sein möchte. „Nun, das könnte ich ja einmal versuchen,“ sagte er zu sich selbst und warf sogleich über die Töpfe eine Handvoll Salz, das er aus verdunstetem Meerwasser gewonnen hatte. * Dann feuerte er noch so lange fort, bis er glaubte, daß es genug wäre.

Über alledem war es sehr spät geworden und da Robinson jetzt ohnehin nichts weiter tun konnte, so begab er sich zur Ruhe. Allein es wollte kein Schlaf in seine Augen * kommen, weil sein Geist sich noch zu sehr mit der Töpferei beschäftigte. Er hätte gar zu gern sogleich untersucht, was für einen Erfolg der letzte Versuch gehabt habe. Dennoch beherrschte er seine Ungeduld und blieb liegen; und nach langer Zeit schlief er endlich ein. *

Als er erwachte, stand die Sonne bereits hoch am Himmel, und er mußte daher eilen, seine Ziegen zu besorgen. Kaum war dies geschehen, so ging er zum Brennofen, und — wer beschreibt seine Freude? Er hatte vier gut glasierte Töpfe! So konnte er denn zum ersten Male kochen! *

Und das tat er auch sogleich, wenn schon die Mittagszeit noch fern war. In einem Topfe mit Wasser setzte er ein tüchtiges Stück Fleisch, in einem andern aber frische Bataten ans Feuer, und nach zwei Stunden hatte er seit
* langer, langer Zeit wieder eine gekochte Mahlzeit vor sich stehen.

Um wie vieles war seine Lage nun besser geworden! Jetzt konnte er zahlreiche Speisen bereiten, die er vorher entbehren mußte; er konnte das Brot besser backen; er
* konnte aber auch noch mancherlei andere Gefäße machen, die zur Aufbewahrung von Mehl, Salz, Milch und andern Dingen notwendig waren, und sich überhaupt viele Annehmlichkeiten schaffen.

Robinson als Töpfer

[1] Robinson Crusoe, der Sohn eines Hamburger Kaufmanns[1], war seinen Eltern heimlich entlaufen[2], um die Welt kennen zu lernen[3]. Auf seiner Reise erlitt er Schiffbruch[4] und die Wogen warfen ihn an den Strand einer unbewohnten Insel.

Zuerst schien ihm das einsame Leben dort unerträglich. Allmählich aber gewöhnte er sich daran[5] und fing an, sich so bequem wie nur möglich[6] einzurichten[7]. Er suchte sich eine Höhle zur Wohnung[8], fing wilde Ziegen ein[9], verfertigte sich allerlei Geräte und wußte sich sogar Feuer zu verschaffen, so daß er sich Wildbret am Spieß braten[10] konnte.

〔訳〕 Robinson als Töpfer 壺作りとしてのロビンソン

der Sohn eines Hamburger Kaufmanns あるハンブルグの商人の息子 [である] Robinson Crusoe ロビンソン・クルーソーは, um die Welt kennen zu lernen 世間を知るために (見聞をひろめるために), seinen Eltern その両親のもとから heimlich ひそかに war.....entlaufen 逃げ出した。er 彼は Auf seiner Reise その旅行の途中で erlitt.....Schiffbruch 難破の憂目をみた und そして die Wogen 波浪は ihn 彼を an der Strand einer unbewohnten Insel ある無人島の海浜へ warfen 打ちあげた。

Zuerst 最初のうちは das einsame Leben dort そこの (その無人島の) 孤独な生活は ihm 彼にとって unerträglich 耐えがたく schien 思われた。aber しかし Allmählich 次第に er 彼は gewöhnte.....sich daran それに自分を慣らした (その島の生活に慣れてきた) und そして so bequem wie nur möglich できるだけ住み心地よく sich..... einzurichten 自分を整えるべく (生活の設計を立てることを) fing an 始めた。Er 彼は eine Höhle 一つの洞穴を zur Wohnung 住居として suchte sich さがし出した, wilde Ziegen 野生の山羊を fing.....ein わなで捕え, allerlei Geräte いろいろな道具を verfertigte sich こしらえた und そして sogar その上さらに sich.....Feuer zu verschaffen 自分のために火を調達すること [さえ wußte 知っていた (火をおこすことさえできた), so daß その結果 er 彼は Wildbret 野獣の肉を am Spieß 串にさして sich .....braten konnte 火にあぶることができた (串にさした山羊のあぶり肉を食べることができた)。

〔注〕 [1] **eines Hamburger Kaufmanns** 地名を付加語にする時は，もちろん二格 (-s) も用いるが，もっと名詞と密接な関係を生ぜしめるのは，本文のような -er の語尾である。これは形容詞のごとくであって，そのくせ格語尾の変化をしない：*Berliner* Akademie「ベルリン・アカデミー」，*Münchner* Bier「ミュンヒェン・ビール」，*Straßburger* Münster「シュトラスブルクの大寺院」。この用法でちょっと注意を要するのは二格の語尾 (-s) または von を使う際と -er の語尾を使う際とで，意味に差異があることがある。die Straßen *Berlins* または die Straßen *von Berlin* と言えば「ベルリンの街路」だが *Berliner* Straße と言うと「ベルリン街」となって，普通名詞の Straße までが固有名詞化する。

付加語としての地名

離格 (Ablativ) 的三格を伴う動詞：ent- / ab- 及び nehmen, stehlen, rauben など

[2] **seinen Eltern.....entlaufen** 初歩のあいだは形式的に，名詞や代名詞の三格は「に」すなわち与格 (Dativ) であるというふうに教えてしまうが，本文のように関係する動詞によっては，逆に「から」を意味することもある。これは与格にたいして離格または奪格 (Ablativ) と言われるもので，前綴り ent- または ab- を有する動詞および「奪う」意味を有する nehmen, stehlen, rauben などとともに用いられる場合である (15 頁第 1 課注 48 参照)：

A. ent- なる前綴りを有する動詞を伴う場合（「奪う・取る」の意）

(1) *Seinem Scharfblick entgeht* nichts.

なにものも彼の炯眼を逃れない・彼は炯眼なのでなにものも見逃さない。

(2) Das Schwert *entfiel seiner Hand.*

剣は彼の手からすべり落ちた。

(3) Er wußte *seiner Guitarre* gar liebliche Töne zu *entlocken.*

彼は彼のギターからとても快よい音を誘いだすことを知っていた・彼はギターを手にとって快よいしらべを奏でた。

(4) Wunder nennt man eine Erscheinung, die *sich unserm Verständnis entzieht.*

われわれの理解力から逃がれる現象をわれわれは奇蹟と呼んでいる・われわれの理解力のおよばない現象は奇蹟と呼ばれる。

B. ab- なる前綴りを有する動詞を伴う際（「奪う・取る」の意）

(5) Er hat *sich* das Trinken *abgewöhnt.*

彼は飲酒の習慣を自分からとった・飲酒のくせをふっつりやめた。

(6) Die ganze Geschichte hatte *ihm* nur ein mitleidiges Lächeln *abgenötigt.*

その話は彼から同情的微笑を奪いとったにすぎなかった・その話をきいて彼はただかわいそうにといった微笑を浮かべただけであった。

(7) Er bekam eine kleine Summe zugeschickt, die seine Eltern *sich* mühsam *abgespart* hatten.

彼の両親が苦労をして[自分の食うのをやめて]貯めた小額の金を送ってもらった。

(8) Der Bauer muß seinen Lebensunterhalt *dem harten Boden abringen.*

農民は[ひたいに汗して]土ととりくんでそこから生計の資を得なければならぬ。

C. 「奪う」の意の nehmen, stehlen, rauben を伴う場合。

(9) Er *nahm mir* alles.

彼は私からすべてを奪った。

(10) *Wem* hast du das *gestohlen*?

おまえはだれからそれを盗んだのか?

(11) Diejenigen, die weder rauchen noch trinken, *rauben dem Staat* die besten seiner indirekten Steuern.

煙草も酒ものまない人は，国家からその間接税の最上のものを奪うものだ。

entlaufen 三要形: entlaufen, entlief, entlaufen.

【3】 **die Welt kennen.....lernen**「世間を知る・見聞をひろめる・浮世の波風にあたってみる」。【4】 **erlitt.....Schiffbruch** *Schiffbruch erleiden=to suffer shipwreck, to be shiprecked.* erleiden の三要形: erleiden, erlitt, erlitten. 【5】 **gewöhnte.....sich daran** *sich an etwas* (四格) *gewöhnen=to get accustomed (used) to something.* 【6】 **so bequem wie nur möglich**「できるだけ.....」の表現には，本文のように *so.....wie* [*nur*] *möglich* の形式と *möglichst.....* の形式とがある。本文も möglichst bequem と言ってもよい。【7】 **sich.....einzurichten** *sich einrichten* は英語なら *to establish oneself* であるが，なかなか一回でかんたんに訳語のつけにくい動詞である。「居を定めて毎日の生活をしていけるように設備をする」ことである。だから Er hat *sich* nett *eingerichtet.* と言えば「小じんまりした家をもった」といった意味になる。【8】 **zur Wohnung** この zu は目的，または用途を指す用法の zu である: Er nahm sie zum Weib.「彼は彼女を娶った」，Er gab es mir zum Geschenk.「彼はそれを私に贈物としてくれた」など。【9】 **fing.....ein** この einfangen は「捕えて」(fangen)「中に

いれる」(ein) という構造で，動物でも犯人でも，捕えて逃げられぬようにすることである。三要形：einfangen, fing ein, eingefangen. 【10】**braten** 三要形：braten, briet, gebraten.

[2] Jedoch es fehlte ihm noch an Kochgeschirren. Zwar hatte er schon öfters versucht, sich aus Tonerde[11] Schüsseln und Töpfe herzustellen, indessen hatte es ihm nie geglückt[12]. Eines Tages aber brachte er endlich einen Topf zustande, der zwar sehr ungeschickt aussah, aber doch vielleicht zu gebrauchen war. „Übung macht den Meister[13]," sagte er fröhlich; „morgen will ich schon[14] bessere Töpfe machen."

〔訳〕 Jedoch とはいえ ihm 彼には noch まだ an Kochgeschirren 炊事道具にお いて es fehlte 欠けていた（まだ炊事道具がなかった）。Zwar なるほど er 彼は schon öfters すでにいくども，aus Tonerde 粘土から Schüsseln und Töpfe 鉢や壺を sich .....herzustellen こしらえる（粘土で鉢や壺を作る）ことを hatte.....versucht 試みはした，indessen しかし hatte es ihm nie geglückt それは彼にとって決してうまくいかなかった（いちども成功したことはなかった）。aber ところが Eines Tages ある日のこと er 彼は endlich ついに einen Topf ひとつの壺を brachte.....zustande 作り上げた，der その壺は zwar なるほど sehr ungeschickt 非常に拙劣に aussah 見えた（見たところ非常に不手際なものであった），aber doch けれども vielleicht ひよっとすると zu gebrauchen war 使用することができた（あるいは役にたつかも知れないものであった）。„Übung 習練は den Meister 名人を macht 作る（努力は上達のもと）" [と] er 彼は fröhlich 上きげんで sagte 言った，„ich ぼくは morgen 明日は schon かならず bessere Töpfe もっとよい壺を will.....machen こしらえてみせよう。"

〔注〕【11】**Tonerde** Ton は粘土，Erde は土，やかましく言えば「磐土(ばんど)」だろうが，ここではそんな学問的な訳語は必要がない。【12】**hatte es ihm.....geglückt** *es glückt einem* はすぐ前の „es fehlte ihm.....an....." と同じく非人称的用法。【13】**Übung macht den Meister** 英語なら *Practice makes perfect.* などに相当する諺。

助詞 schon の一用法「もう；実に；きっと」など 【14】**schon** この schon が，時間を示す「すでに」でないことは文脈で明らかである。「明日はもう」とか「明日はきっと」とかいった訳語にあたるもので，したがって ja や doch のもっと強いもので

ある。Er vollends ist *schon* ein Millionär.「彼にいたってはじつに百万長者ですぞ」になるともっとはっきりしてきている。日本語でも「そりゃもうどうして」とか「そりゃもうじつに」という表現があるが，この「もう」にあたるのが schon である。ひと皿二十円ぐらいのふかしいもを昼食代わりに食べている男が，たまに一品六十円から百円の中華料理にありつくと，さすがに値段だけのことはある，「こりゃもうまったくものが違う」(Das ist *schon* was ganz anderes!) と思う。「こうなるともう重役級のランチだな」(Das ist *schon* das Mittagessen eines Direktors!)「こうなるともう得意にならざるをえない」(Da bildet er sich *schon* was ein.)「しかし毎日こんなものを食うには，それこそもうどうして月給の十万円ももらわなくちゃ続くまい」(Aber man müßte *schon* hunderttausend Yen Monatsgehalt beziehen, um jeden Tag so speisen zu dürfen.) そう思ってあたりを見まわすと，金のありそうなのばかりがきている，あのハゲおやじは何だろう？課長 (Sektionschef) ぐらいかな？いや，あのハゲぐあいでみると，「ありゃもうどうして，局長ぐらいにちがいない」(Der da mit der kahlen Platte, der muß *schon* ein Direktionschef sein.) 局長にしても，「じつによくはげたものだなあ！」(Das nenn' ich *schon* eine Glatze!)

[3] Der Erfolg bestätigte dies auch; denn jeder Topf, der in den folgenden zwei Tagen fertig wurde, geriet[15] besser als sein Vorgänger[16]. Freilich waren die Töpfe nicht so schön rund und glatt, wie sie von unsern[17] Töpfern gemacht werden. Aber Robinson hatte ja auch keine Drehscheibe, auf der die Töpfe gemacht zu werden pflegen. Kurz, es hätte ihm leid getan[18], wenn er jetzt einen seiner sieben Töpfe beschädigt hätte.

〔訳〕 Der Erfolg 結果は auch はたして dies このこと（もっとよい壺を作ってみせるという言葉）を bestätigte 実証した（この言葉がうそでないことが結果によって裏書きされた）; denn なぜなれば in den folgenden zwei Tagen つぎの二日の間に fertig wurde できあがった der ところの jeder Topf どの壺も besser als sein Vorgänger その先行者よりもよりよく geriet できあがった（前にこしらえたのより出来栄えがよかった）[からである]。Freilich 言うまでもなく die Töpfe [彼のこしらえた] 壺は，sie (Töpfe) それが von unsern Töpfern われわれの陶工たちによって gemacht werden 作られる wie ように so schön rund und glatt そんなに円やかでそして滑らか waren

.....nicht ではなかった（もっとも彼のこしらえた壺は現代の陶工が作る壺のように恰好のよい円味も滑らかさも持っていなかった)。Aber とは言っても Robinson ロビンソンは ja auch 実際また, auf der その上で die Töpfe 壺が gemacht zu werden pflegen 作られることを常とする [ところの]（ふつう壺を作る台に使われる）keine Drehscheibe 廻転円板を hatte 持って [いなかったのだから止むをえない]。Kurz これを要するに（それはそれとして), wenn もしも er 彼が jetzt いま（その時に）einen seiner sieben Töpfe 彼の七つある壺のひとつを beschädigt hätte 破損したとした [ならば], es hätte ihm leid getan それは彼にとって心痛をなしたであろう（彼は悲観したであろう)。

〔注〕【15】**geriet** *gut geraten*「うまくいく・できばえがよい」, *schlecht geraten*「うまくいかない・できばえがわるい」というふうに方法の副詞を伴う。三要形: geraten, geriet, geraten. 【16】**sein Vorgänger** 前後の関係でこの Vorgänger が,「その前に作られた壺」であることはわかると思うが, この場合注意を要することがある。壺は男性だから Vorgänger でよいが, もしも壺が女性なら Vorgängerin としなくてはならない。ちかごろ出される翻訳物をみると, たとえば die Zeit「時代」を人代名詞 sie で受けてあるからといって「彼女は」と訳してあるが, うっかりしていると「時代」は「彼女」つまりなにか女性的なものだときめてしまわれる怖れがある。英語で船や軍艦を女性的なものに扱うと同じように, ドイツ語の場合は先行する名詞そのものの性によって代名詞にしろ言い換えの名詞にしろ, その性がきまるのであるから, 壺はなにか男性的なもの, 時代は女性的なものと早合点しないことが必要である。【17】**unsern**「われわれの」壺作りというと日本語ではちょっとおかしいが, つまり「当今の」という意味である。【18】**es hätte ihm leid getan** *es tut ihm leid=it pains (grieves) him* 主語の es はつぎの wenn 以下の内容を指す先行詞と考えてよい。(この一文が, 例の「約束話法」の典型的な一例であることはあらためて言うまでもあるまい。)

[4] Diese Unannehmlichkeit[19] trat nun aber[20] doch[21] ein. Um die Töpfe trocknen zu lassen, hatte er sie einige Tage in die Sonne gestellt. Da mochte denn[22] wohl einer davon zu frisch in die Sonnenhitze gebracht worden sein, denn er hatte einen Riß bekommen[23]. „Nun," tröstete sich Robinson, „ich habe ja noch sechs, und diese scheinen auch[24] alle gut zu sein." In diesem Glauben wollte er

denn[25] gleich einen davon benutzen. Er füllte ihn also mit Wasser, tat etwas Salz hinzu und stellte ihn ans Feuer. Aber wie sehr hatte er sich da getäuscht! Es dauerte gar nicht lange, so[26] drang das Wasser in den Ton des Topfes ein und zerweichte diesen ganz.

〔訳〕 nun aber ところが doch やっぱり Diese Unannehmlichkeit そうした不愉快なことが trat.....ein 起こった [のである]。die Töpfe 壺を Um.....trocknen zu lassen 乾かすために, er 彼は sie (Töpfe) それらを einige Tage 二三日間 hatte..... in die Sonne gestellt 日なたへ出しておいた。Da.....denn すると einer davon それら [の壺] のひとつが wohl おそらく zu frisch あまりに新鮮 [なうちに] (作りたてのほやほやのところで・作りたてで水気が多すぎる時に) mochte.....in die Sonnenhitze gebracht worden sein 太陽の熱にさらされたのであろう, denn その証拠に er (einer davon) その壺は hatte.....einen Riß bekommen ひとつの割目を得た (まだよく乾ききらないうちに太陽の熱にあたったためらしいが, 壺のひとつに亀裂ができた)。„Nun まあいいさ," [と] Robinson ロビンソンは tröstete sich 自分を慰めた (気をとり直して言った), „ich ぼくは noch まだ sechs 六つ [の壺] を habe もっている ja ではないか (まだ六つ残ってるじゃないか), und そして diese (=sechs).....alle この六つはどれも auch また scheinen.....gut zu sein 良いもののように思われる。" denn じっさい er 彼は In diesem Glauben この信念において (こう信じて) gleich ただちに einen davon 六つの壺のひとつを wollte.....benutzen 利用しようとした。also そこで Er 彼は ihn (einen davon) それを mit Wasser 水をもって füllte 満たした (それに水をいっぱい入れた), etwas Salz いくらかの塩を tat.....hinzu 付加し (塩を加え) und そして ihn それを stellte.....ans Feuer 火のそばへおいた (火にかけた)。Aber しかし er 彼は da その時 wie sehr いかにはなはだしく hatte.....sich.....getäuscht 思い違いをしていたことであろう (しかし彼はたいへんな勘ちがいをしていたのであった)! Es dauerte gar nicht lange, so 大して時間が経たないうちに (まもなく) das Wasser 水が in den Ton des Topfes 壺の粘土の中へ drang.....ein しみこみ und そして diesen (Topf) 壺を ganz まったく zerweichte ぐじゃぐじゃにしてしまった。

〔注〕 【19】 **Unannehmlichkeit**「不愉快なこと」形容詞は unangenehm (名詞の方とは形がすこしちがう点に注意)。【20】 **nun aber** この nun aber「ところが」は, この二語のままを一句としておぼえること。【21】 **doch**「やっぱり」この doch は, 強く読む。つまり trotzdem「それにもかかわらず」とでもいうのと同じほど念の入っている語であるから。【22】 **da.....denn** すこし古めかしくはあるが, 由緒正しく本格的なドイツ語では,「そのとき」という da には好んでそのうしろに denn を付加するのが習慣である。denn だけにとくに意味というほどのものはない。【23】 **bekommen** 三要形: bekommen, bekam, bekommen. 【24】 **auch**「また」という auch である。

すなわち，まだ六つもあとに残っているし，それに「また」(そのうえさらに) その六つとも立派なものだ……と言って，楽観の資料をふたつならべたから，それを連結するために「また」と言ったわけである。【25】**denn** この denn もたいした意味はないが，こういう場合は dann というのとほとんど同じである。denn という語もまた dann から転化したものであることが，こうした使用法でわかる。【26】**Es dauerte gar nicht lange, so**「間もなく……した」という慣用句。本来の場合ならば *Es wird nicht lange dauern, so* kommen sie zurück.「まもなくかれらは帰ってくるだろう」。dauern というのは「続く」(すなわち時間が経過すること) という意である。

[5] „Vielleicht werden die Töpfe im Feuer härter als durch die Sonnenhitze." So dachte Robinson und schritt sogleich zu einem Versuche[27]. Er holte zwei Steine von gleicher Größe herbei, stellte seine fünf Töpfe pyramidenförmig darauf und machte dann ein tüchtiges Feuer darunter[28]. Kaum aber loderten die Flammen empor, so[29] ging's knack! knack[30]! und einer der Töpfe war zersprungen[31].

〔訳〕 „Vielleicht おそらく die Töpfe 壺は im Feuer 火の中において (火で焼いた方が) durch die Sonnenhitze 太陽の熱による (日なたで乾かす) als よりも härter もっと固く werden 成る [だろう]。" Robinson ロビンソンは So こう dachte 考えた und そして sogleich ただちに schritt……zu einem Versuche ひとつの試みに向かって歩みを進めた (ひとつの実験にとりかかった)。Er 彼は zwei Steine von gleicher Größe 同じ大きさのふたつの石を holte……herbei 運んできた, darauf その [石の] 上に seine fünf Töpfe 残りの五つの壺を pyramidenförmig ピラミッド形に stellte 積み上げ und て dann それから darunter その下で ein tüchtiges Feuer 猛烈な火を machte おこした。aber ところが die Flammen 焔が loderten……empor 燃えあがる Kaum…… so やいなや ging's knack! knack! パチン! パチン! という音がした und そして einer der Töpfe 壺のひとつは war zersprungen こわれてしまった。

〔注〕【27】**schritt……zu einem Versuche** schreiten は「大またに歩く」という意味だが，本文のように *zu etwas schreiten* の形をとると *to proceed to do something, to set about doing something* の意になる。つまり「とりかかる」という邦語に相当する熟語。machte sich an einen Versuch と言うこともできる。schritt の三要形：schreiten,

schritt, geschritten. [28] **machte.....ein tüchtiges Feuer darunter** おなじぐらいの大きさの石をふたつ，底の方にならべて，その間のうつろになった所に火をたいたのである。tüchtig は stark「強い，猛烈な」とおなじ。[29] **kaum aber.....so ging's knack! knack!**=Sobald aber die Flammen emporloderten, ging's knack! knack!

擬音詞 Onomatopöie, Onomatopoesie [30] **ging's knack! knack!** ging's は ging es の省略形，knack は擬音詞 (Onomatopöie, Onomatopoesie, Tonnachahmung, Tonmalerei) である。擬音詞は無限にあるのだから，よく使われるものをほんのすこし挙げておく：

poch! poch!	とんとん！かちかち！
bauz!	どたん！ばたり！すってんころり！
kladderadatsch!	がたがたぴしゃん！(砕けくずれる音)
hui!	さっと！ひょいと！すっと！(迅速なるさま)
husch!	さっと！
piff! paff!	ぽんぽん！ずどん！(銃の音)
hatsch!	はっくしょい！
klinglingling!	ちりんちりん！がらんがらん！
klipp! klapp!	がたん！がたん！(水車の音)
kikeriki!	コケコッコー！
pick!	チクッ！(刺す時)
piep! pieps!	ピヨピヨ！

擬音はよく i-a の音で表わされる：Wirrwarr ごっちゃ，Mischmasch ごったまぜ，Ticktack カチカチ (時計の音)，Zickzack ジグザク，Bimbam ガンガン，ゴンゴン (鐘の音) など。最後に ging's という句の gehen という動詞であるが，こうした音にはたいてい gehen を非人称動詞にして使うのである。ところが，非人称でなく，名詞を主語にすると machen を用いる：Der Topf machte knack!「壺がピシンといった」Die Katze macht miau!「猫はニャーゴという」など。

[31] **zersprungen** 三要形：zerspringen, zersprang, zersprungen.

[6] „Wahrscheinlich habe ich das Feuer gleich[32] zu stark gemacht," dachte Robinson und nahm vorsichtig einige

brennende Scheite hinweg[33], um die Hitze zu mäßigen. Da blieben denn[34] die übrigen Töpfe wirklich unversehrt[35], und so konnte das Feuer nach und nach wieder vergrößert werden, bis nach langem, langem Warten der eine Topf endlich anfing zu glühen. Das hielt Robinson für ein gutes Zeichen[36], und er setzte daher das Feuern noch so lange fort[37], bis[38] auch die andern glühend wurden.

〔訳〕 „Wahrscheinlich ひょっとすると ich 僕は das Feuer 火を gleich すぐに habe.....zu stark gemacht あまり強くおこしすぎたのであろう," [と] Robinson ロビンソンは dachte 考えた und そこで, die Hitze 熱を um.....zu mäßigen 和げるために, vorsichtig 用心深く einige brennende Scheite 二三の燃えている木片を nahm .....hinweg 取り除いた。Da すると denn 案のじょう die übrigen Töpfe 残りの壺は wirklich ほんとうに unversehrt 無傷に blieben とどまった (亀裂が生じなかった), und so そこで das Feuer 火は nach und nach 次第次第に wieder また konnte..... vergrößert werden 拡大されることができた (そこで火をまた次第に強くしていって), bis.....endlich ついに nach langem, langem Warten 長い, 長い待機の後に (長いこと待った後で) der eine Topf ひとつの壺が zu glühen [灼熱して] 赤くなり anfing はじめた。Robinson ロビンソンは Das これ (壺のひとつが赤く灼熱したこと) を für ein gutes Zeichen よい徴候として hielt とった (よい前兆と考えた), und.....daher それゆえ er 彼は das Feuern 火を燃すことを noch なお so lange ひじょうに長く setzte .....fort 続けた, bis ので遂に die andern ほかの壺 auch もまた glühend wurden 灼熱した。

〔注〕 [32] **gleich**「すぐに」というのは「はやく」,「急に」の意。反対は「徐々に」(nach und nach)。 [33] **hinweg** 英の *away* (ほかに fort, weg がある)。 [34] **da..... denn** 前に注したとおり,「そこで」という時に用いる常套形式。 [35] **unversehrt**「無事で, 無傷で」。 [36] **Das hielt Robinson für ein gutes Zeichen** *etwas für etwas halten=etwas für etwas ansehen=to take one thing for another*「.....を.....と思う」,「.....をもって.....となす」という熟語。 [37] **setzte fort** fortsetzen「続行する」。fort は weiter とおなじく「つづけて」を意味する前綴り。 [38] **bis** この接続詞は, 後から先に訳して「.....するまで」と言ってもよければ (限定的!), 順序どおり前から後へと訳して,「.....しているうちについに.....した」と言ってもよい (後続的!)

[7] Natürlich konnte er es[39] am andern Tage kaum erwarten, bis die Töpfe hinlänglich[40] abgekühlt waren, um einen davon in Gebrauch nehmen[41] zu können. Als es endlich so weit war[42], füllte er wieder einen Topf mit Wasser und stellte ihn ans Feuer. Aber auch diesmal sah er sich getäuscht; denn nur zu bald drang das Wasser an der Außenseite des Topfes hervor[43] und drohte[44], das Feuer zu verlöschen. Er versuchte es mit[45] dem zweiten und dritten Topfe, doch immer zeigte sich derselbe Übelstand[46].

〔訳〕 Natürlich むろん er 彼は am andern Tage その翌日, die Töpfe 壺が hinlänglich じゅうぶんに abgekühlt waren 冷却されて, einen davon それらの [壺の] ひとつを in Gebrauch nehmen 使用する um.....zu können ことができる bis [ようになる] までは konnte.....es.....kaum erwarten かろうじて待つことができた (待ちどおしくてならなかった)。endlich [それでも] ようやくのことで es.....so weit war そこまできた (壺が冷えて使えるようになった) Als 時, er 彼は wieder またも einen Topf ひとつの壺を füllte.....mit Wasser 水をもってみたした。und そして ihn その壺を stellte.....ans Feuer 火にかけた。Aber しかしながら auch diesmal こんどもまた er 彼は sah.....sich getäuscht 欺かれた自分を見た (見当がはずれたことに気づいた); denn なぜなれば das Wasser 水は nur zu bald ただあまりにも早く (壺を火にかけるやいなや) an der Außenseite des Topfes 壺の外側で drang.....hervor にじみ出た und そして das Feuer 火を drohte,.....zu verlöschen 消すべく脅かした (いまにも火を消しそうになった)。Er 彼は es それを mit dem zweiten und dritten Topfe 第二および第三の壺でもって versuchte 試みた (第二第三の壺を試してみた・さらにふたつの壺に水を入れて火にかけてみた), doch しかし immer あいかわらず derselbe Übelstand おなじ不都合が zeigte sich 自己を示した (現われた)。

〔注〕 【39】 es bis 以下の関係文の内容を指す先行詞。【40】 **hinlänglich** つぎの um .....zu の不定句を受けて「そのひとつを使用するにたりるだけ」とつづける。hinreichend, または genugsam とも言う。【41】 **in Gebrauch nehmen** たんに benutzen と言ってもよい。【42】 **so weit war** これを「そんなに遠くまできた」などと考えると見当がちがう。*so weit sein* は「そこまで事が運ぶ」,「やっと準備がととのう」「用意ができる」という熟語である。Nun bin ich so weit. と言えば「もう用意ができました」という意になる。【43】 **drang.....hervor** 三要形: hervordringen,

drang hervor, hervorgedrungen. hervor- は，なんでも隠れたところから眼に見えるところへ現われてくることを意味する前綴りで，英語の *forth* にあたる。hervortreten「歩み出る」，hervorquellen「湧き出る」，hervorragen「にゆっと突き出ている」など。[44] **drohte,.....zu verlöschen** 人間以外のものが主語になっている際は，この「zu を伴う不定法」と drohen の結合は英語の *to threaten* とおなじで「.....しそうである・のおそれがある」の意。[45] **versuchte es mit** *es mit etwas versuchen=to put to (on) trial, to bring (put) to the test*「試してみる・試験する・吟味する」。es はたんなる虚字・填詞 (Füllwort) にすぎない。[46] **Übelstand**「不都合」，「まずいこと」，「弊」である。es steht übel mit etwas「.....は悪い状態にある」などと言うから，それを名詞にした語である。

[8] Da wußte er gar nicht mehr, was er tun sollte. Schon wollte er sich drein ergeben[47], die Töpfe nicht zum Kochen benutzen zu können, als[48] er unter den Kohlen zufällig den Boden des[49] zuerst vom Wasser zerweichten Topfes bemerkte. Dieser sah ja ganz anders aus[50] als die unversehrt gebliebenen Töpfe; er war fast völlig überglast[51] und ließ nicht einen Tropfen Wasser durch. „Halt!" rief Robinson freudig, „jetzt hab' ich's[52]! Der Scherben hat unten zwischen den Steinen gelegen[53], wo die Hitze mehr zusammengehalten[54] wurde, und dadurch wird er so glasig geworden sein." Und sogleich nahm er einen neuen Versuch vor[55].

〔訳〕 Da そこで er 彼は，was 何を er 彼が tun sollte なすべきであるかを，wußte .....gar nicht mehr もはやまったく知らなかった（どうしてよいのかまったく見当がつかなくなった）。Schon すでに er 彼は，die Töpfe 壺を zum Kochen 煮たきに nicht .....benutzen zu können 利用することはできない，drein ということの中へ wollte sich.....ergeben 自分を任せようと思った（彼はすんでのことに，壺を煮たきに利用することはできないものと諦めかけていた），als その時 er 彼は zufällig 偶然に unter den Kohlen [燃え残りの] 炭の下に den Boden des zuerst vom Wasser zerweichten Topfes 最初に水によって軟化された壺（一番はじめに水を入れてこわしてしまった壺）の底を bemerkte 認めた（もうだめだと匙を投げようとしていた時，ふと燃え残りの炭を

かきまわしているうちに，その炭灰の中に最初に失敗した壺の底が残っているのに目がとまった)。Dieser (=Boden) この壺底は ja 明らかに die unversehrt gebliebenen Töpfe 損傷なくとどまった (損傷なしにすんだ) 壺 als とは ganz anders まったく異なった sah.....aus 外観を呈していた；er (Boden) それは fast völlig ほとんど完全に (完全と言ってもいいくらいに) war.....überglast ガラスをかぶせたようになっていた und そして nicht einen Tropfen Wasser 一滴の水をも ließ durch 通さ [なかった]。„Halt 待った!" [と] Robinson ロビンソンは freudig よろこんで rief 叫んだ，„jetzt いまこそ hab' ich's わかったぞ! die Hitze 熱が mehr より多く (比較的) zusammengehalten wurde 凝集されていた (熱が外部へ散らないように鬱積したまま保たれていた) wo ところの unten zwischen den Steinen 下の方の [ふたつの] 石の間に Der Scherben この破片 (壺底) は hat.....gelegen あった，und dadurch そのために er (Scherben) それは so glasig こんなにガラスのように wird.....geworden sein なったのであろう。" Und そこで er 彼は sogleich すぐに einen neuen Versuch ひとつの新しい実験を nahm.....vor 試みた。

〔注〕 [47] **sich drein ergeben** ergeben のかわりに geben, finden, fügen, schicken を用いてもおなじで *to submit to something, to put up with something, to resign oneself to something, to acquiesce in something* 「甘んじて受ける・認めて従う・忍従する」の意。本文では d[a]rein の da (=das) はもちろん，つぎの die Töpfe.....zu können なる「zu を伴う不定句」を受ける。[48] **Schon.....als**=Kaum.....als. この als は逐語訳を見ると「その時」となっている。これは一見関係が逆のようであるが，これが「後続的」に訳すべき場合の好例である。[49] **des** は数語あとの Topfes の冠詞である。そして，冠詞と名詞との間へ zuerst vom Wasser zerweichten という長い形容句がはいっている。これはすぐ後の die unversehrt gebliebenen Töpfe にもある現象である。(詳しくは「文法詳説編」§ 123 を参照せよ)。

副文章中の前置詞を伴う文肢 [50] **sah.....aus** 三要形：aussehen, sah aus, ausgesehen. この分離前綴 aus- が文章の最後に位置しないで，als 以下の文肢の前におかれていることを不審に思う諸君もあろう。まずつぎに挙げる例を読んだ上で本文を見なおしてほしい：

(1) Hier ist der alte General, der im Weltkriege unzählige Siege erfochten hat *für Gott und Vaterland.*

これは世界大戦中，神と祖国のために，無数の勝利をかち得た老将軍である。

(副文章の中にある前置詞を伴った文肢または概念の意味を強調して読者の注意をひくために，わざわざ定形のうしろにはみ出させたもの)

(2) Der Vater hatte dem Sohne die Erlaubnis, einen Ausflug zu machen, gegeben, *mit der Bedingung*, daß dieser sich nicht allzu

sehr von der Stadt entferne.

父は息子に，町からあまり遠く離れない，という条件で，遠足の許可をあたえた。

（これは副文章ではないのに，わざわざ追加的にうしろにはみ出させて，読者の注意を要求している）

文例の (2) でわかるように，関係する副文章を伴った前置詞文肢はかならず文章の外にはみ出る。そもそも前置詞を伴った文肢はひとつのまとまった概念となる傾向をもち，したがって，それだけを特別扱いにする機会が多いわけである。

【51】**überglast** überglasen は mit Glas überziehen=*to glaze over*「ガラスまたは釉薬をかける」「ガラスのようにつやつやにする」ことだが，ここは塩が加わって自然に表面がすべすべとしたことをさしている。【52】**jetzt hab' ich's!** この ich hab's! は，なんでも「手にいれた」，「つかまえた」，「わかった」（すなわち正体をつかんだ）という時に用いる慣用句である。【53】**gelegen** 三要形：liegen, lag, gelegen. これを「置く」の意の legen と混同してはならない。legen ならば規則動詞だから，過去分詞は gelegt となるはずである。【54】**zusammengehalten** 三要形：zusammenhalten, hielt zusammen, zusammengehalten. 【55】**nahm.....vor** 三要形：vornehmen, nahm vor, vorgenommen. この語は，実験を試みるとか，説明を試みるとか，抵抗を試みるとかいう「試みる」（すなわちたんに「なす」とおなじ）に相当する語である。

[9] Er grub[56] ein ziemlich tiefes Loch mit einigen Stufen in die Erde, legte die beiden Steine hinein und umgab[57] die Grube mit Steinen, die er so übereinander setzte, daß[58] bei den Stufen eine Öffnung blieb. Dann stellte er seine vier Töpfe auf die Steine und machte zwischen diesen ein kleines Feuer, das er nach und nach verstärkte. Da trat zwar das Glühen der Töpfe viel eher ein[59] als beim vorigen Versuche: doch[60] überglast[61] wurde keiner von ihnen.

〔訳〕 Er 彼は ein ziemlich tiefes Loch mit einigen Stufen 二三の段々のついた，かなり深い穴を in die Erde 土の中へ grub 掘り die beiden Steine [先の] 二つの石を legte.....hinein その [穴の] 中へ入れ und そして die Grube その穴を umgab.....

mit Steinen 石で囲んだ, die その石を er 彼は, bei den Stufen 段々のところに eine Öffnung 隙間が blieb 残る so.....daß ように übereinander setzte 積み重ねた（彼は土にかなり大きい穴を掘り，その内側に段々をつけた，そして前に使った大きさの同じな二つの石を底にすえ，内側には段々に沿って石の壁を築いた，しかし段のところには空気のかよう隙間を作るようにした)。Dann それから er 彼は seine vier Töpfe [残りの] 四つの壺を auf die Steine [底のふたつの] 石の上へ stellte のせた und そして zwischen diesen [Steinen] このふたつの石の間に ein kleines Feuer 小さな火を machte 起し, das その火を er 彼は nach und nach すこしずつ verstärkte 強くした。Da すると das Glühen der Töpfe 壺の灼熱は zwar なるほど beim vorigen Versuche その前の試みの時 als よりも viel eher はるかに早く trat.....ein 現われはした; doch しかし keiner von ihnen [四つの] 壺のどれひとつとして überglast wurde 表面がガラスのようにはならなかった。

〔注〕【56】**grub** 三要形：graben, grub, gegraben. この grub ein.....Loch「穴を掘った」という語法に不審を抱かない諸君でも，Wunden schlagen「打って傷をつける」となるとちょっと変に思いはしないだろうか。この Loch や Wunden を結果的四格または結果的補足語と言って「.....して.....をこしらえる」という，応用範囲の広いひとつの語法である。つぎの諸例で感じを養ってほしい：

結果的補足語 (Ergebnisobjekt) を伴う語法

ein Haus bauen	家を建てる
Schatten werfen	蔭をなげる
Pillen drehen	丸薬をひねる
Wunden schlagen	打って傷つける
sich einen Buckel lachen	笑って背中を曲げる
sich eine rote Nase trinken	飲んで鼻頭を赤くする
sich Mut trinken	飲んで勇気をつける
sich Tod trinken	飲んで死ぬ
Tränen weinen	泣いて涙をだす
Wut schnauben	鼻息を荒くして怒る
Freude atmen	悦びを発散する
Liebe lächeln	愛嬌をふりまくようにほほえむ
Zorn blicken	怒った目つきをする
Verderben drohen	破滅の恐怖を抱かせる

【57】**umgab** 三要形：umgeben, umgab, umgeben. 【58】**so.....daß**「.....するように.....するために」である。damit または auf daß で書きかえてもよい。【59】**trat**

.....**ein** 三要形: eintreten, trat ein, eingetreten. 分離前綴り ein- が als 以下の前置詞句の前におかれたことについては注 50 を参照すること。eintreten の意は beginnen「はじまる」とおなじ。【60】**zwar.....doch.....** は zwar.....aber..... とおなじで,「.....ではあるが, しかし.....」の形式。(対照的接続詞) 【61】**überglast** なる過去分詞の位置に注意。これは強調するためにわざわざ前に置かれたもので, 正順ならば keiner von ihnen wurde überglast.

[10] „Woran mag das nur liegen[62]?" fragte sich Robinson wiederholt vergebens. Endlich fiel ihm ein[63], daß in dem zerweichten Topfe sich Salz befunden[64] hatte und dieses vielleicht die Ursache der Verglasung gewesen sein möchte[65]. „Nun[66], das könnte[67] ich ja einmal versuchen," sagte er zu sich selbst und warf sogleich über die Töpfe eine Handvoll Salz[68], das er aus verdunstetem Meerwasser gewonnen[69] hatte. Dann feuerte er noch so lange fort, bis er glaubte, daß es genug wäre.

〔訳〕 „das そのことは nur そもそも Woran 何に mag.....liegen 因るのであろうか (ガラス化の現象が起こらないのはなぜであろうか)?" [と] Robinson ロビンソンは wiederholt いくども vergebens いたずらに fragte sich 自問した。Endlich [しかし] ついに, in dem zerweichten Topfe [先の] こわれた壺の中に Salz 塩が sich.....befunden hatte 入ってい und て dieses この [塩] が vielleicht ひよっとすると die Ursache der Verglasung ガラス化の原因 gewesen sein möchte であったかも知れない daß ということが fiel ihm ein 彼の念頭に浮かんだ。„Nun よし, ich ぼくは das そのこと (塩を用いること) を ja どうしても einmal 一度 könnte.....versuchen 試みてみなくてはなるまい," [と] er 彼は zu sich selbst 自分自身に向かって sagte 言った und そして sogleich ただちに, er 彼が aus verdunstetem Meerwasser 蒸発した海水から gewonnen hatte 得た (前に海水を蒸発させて作っておいた) das ところの eine Handvoll Salz ひとにぎりの塩を über die Töpfe 壺の上へ warf かけた。Dann それから er 彼は, daß es genug wäre もう十分であると so lange, bis er glaubte 思うまで noch なおも feuerte.....fort 火を燃やしつづけた。

〔注〕【62】**Woran mag das nur liegen?**「その原因は何だろうか?」で, nur (または denn) はたんに疑問詞に添えて意味を強めるだけ。A liegt an B, は「A の原因は B にある」という熟語。【63】**fiel.....ein** 三要形: einfallen, fiel ein, eingefallen.

【64】**befunden** 三要形: befinden, befand, befunden. sich befinden は「ある」(すなわち es gibt と同意)。【65】**möchte:** この möchte は想像・推察の意の möchte で, dürfte とも言う。【66】**Nun** 英語の *well* にあたる。【67】**könnte**「これはいちど試しにやってみてもいいな」という意味で könnte を用いたのである。こうした könnte や, 前注の möchte, dürfte などの用法はなかなか微妙でむずかしい。【68】**eine Handvoll Salz** voll は量を表わす任意の名詞に付加することができる。性には影響しない。たとえば「ひとくちの塩を」なら *einen Mundvoll* Salz,「ひとさじの塩を」なら *einen Löffelvoll* Salz,「コップいっぱいの塩を」なら *ein Glasvoll* Salz である。【69】**gewonnen** 三要形: gewinnen, gewann, gewonnen. (gewinnen は「得る」である, erhalten と同じ)。

[11] Über alledem[70] war es sehr spät geworden und da Robinson jetzt ohnehin nichts weiter tun konnte, so begab er sich zur Ruhe[71]. Allein es wollte[72] kein Schlaf in seine Augen kommen, weil sein Geist sich noch zu sehr mit der Töpferei beschäftigte. Er hätte gar zu gern sogleich untersucht[73], was für einen Erfolg der letzte Versuch gehabt habe. Dennoch beherrschte er seine Ungeduld und blieb liegen[74]; und nach langer Zeit schlief er endlich ein.

〔訳〕 Über alledem そうしたことをいろいろしているうちに war es sehr spät geworden 時間がひじょうにおそくなった und それに Robinson ロビンソンは jetzt その時には ohnehin そうでなくてさえ（日が暮れて暗くならなかったにしても）nichts weiter tun konnte それ以上なにもすることができなかった da ので, so そこで er 彼は begab.....sich zur Ruhe 休息に赴いた（寝床に入った)。Allein しかし kein Schlaf 眠りが in seine Augen 彼の眼の中へ es wollte.....kommen 来ようとしなかった（どうしても眠れなかった), sein Geist 彼の心は noch まだ zu sehr あまりにもはなはだしく mit der Töpferei 壺焼きのことに sich.....beschäftigte 夢中であった（彼はあまり一生懸命に壺焼きのことを考えていた) weil ので。der letzte Versuch この最後の試みが was für einen Erfolg どんな結果を gehabt habe かち得たかを, Er 彼は gar zu gern なにとぞして sogleich すぐにも hätte.....untersucht 調べてみたかった。Dennoch けれども er 彼は seine Ungeduld 焦りを beherrschte 抑えつけ und て blieb liegen 横になったままでいた; und そして er 彼は nach langer Zeit 長い時間の後に endlich ついに schlief.....ein 眠りこんだ。

〔注〕 [70] **Über alledem** über の三格は「……の間に」を示す：Er hört gar nicht zu, oder schläft gar *überm* Zuhören ein.「彼は全然聞いていない，あるいは悪くすると聞いているうちに眠りこんでしまう」。この時間関係の über が因由を示すことになるのも自然である。*über* dem Spiel die Geschäfte versäumen=*to neglect one's business over (for the sake of) playing*「遊びに夢中になって用務を怠る」，*über* dem Lärm etwas überhören=*not to hear something for (on account of) the noise*「騒音のためにある事を聞きのがす」。 [71] **begab……sich zur Ruhe** *sich zur Ruhe begeben*=zur Ruhe gehen=schlafen. sich begeben はちょうど「赴く」という邦語に相当する語。begeben の三要形：begeben, begab, begeben.

惰性・傾向を指す wollen [72] **es wollte** es は形式上（文法上）の主語で，意味上（論理上）の主語が kein Schlaf であることはもうわかっていると思う。ここの wollen は意志を示すものでなく，惰性とか傾向を指す。したがって本文のように否定の際は，思いどおりにいかないことを示す：

(1) Das Holz will noch immer nicht Feuer fangen.
この木はどうも一向に燃えそうにない。

(2) Mir wollte seine Rede gar nicht gefallen.
彼の話にはどうしても感服できなかった。

[73] **hätte gar zu gern……untersucht** これは前注で詳しく述べたとおり，約束話法の結論部の独立用法だが，また hätte……gern という成句と考えてもよい。

liegen bleiben, schlafen gehen, kennen lernen など [74] **blieb liegen** 不定法を伴う成句的動詞のうちで，bleiben, gehen, lernen を基礎とするものが一番よく使われるから，つぎにその数例を挙げておこう。これらの成句は類造が容易であるから，もっともふつうな型をしっかりのみこんでおく必要がある：

1. bleiben

stehen bleiben	立ったままでいる・中止する
sitzen bleiben	坐ったままでいる・原級にとどまる
hangen bleiben	掛かったままでいる
schweben bleiben	浮動したままでいる

2. gehen

spazieren gehen	散歩にいく
betteln gehen	物ごいをして歩く
schlafen gehen	寝につく

baden gehen	入浴にいく
suchen gehen	さがしにいく
einkaufen gehen	買物にいく
hausieren gehen	行商する

3. lernen

kennen lernen	知合いになる・精通する
fühlen lernen	感じうるようになる
verstehen lernen	理解する
begreifen lernen	(同上)
sehen lernen	見えるようになる
lügen lernen	嘘をつきはじめる

4. その他

spazieren führen	散歩に連れだす
sich schlafen legen	寝につく
spazieren fahren	乗り物で散歩する・ドライブする
spazieren reiten	馬で散策する

[12] Als er erwachte, stand die Sonne bereits hoch am Himmel, und er mußte daher eilen, seine Ziegen zu besorgen. Kaum war dies geschehen[75], so ging er zum Brennofen, und — wer beschreibt seine Freude[76]? Er hatte vier gut glasierte[77] Töpfe! So konnte er denn[78] zum ersten Male kochen! Und das tat er auch sogleich, wenn schon[79] die Mittagszeit noch fern war. In einem Topfe mit Wasser setzte er ein tüchtiges Stück Fleisch, in einem andern aber frische Bataten ans Feuer[80], und nach zwei Stunden hatte er seit langer, langer Zeit wieder eine gekochte Mahlzeit vor sich stehen[81].

〔訳〕 er 彼が erwachte 目を覚ました Als 時には, die Sonne 太陽は bereits すでに hoch am Himmel 空高く stand [上って] いた, und.....daher それゆえ er 彼は,

seine Ziegen 山羊の zu besorgen 世話をするために，mußte.....eilen 急がねばならなかった。dies このこと（山羊に飼料をやること）が war.....geschehen 行なわれる Kaum.....so やいなや（山羊に飼料をやってしまうとただちに）er 彼は zum Brennofen 窯のところへ ging 行った，und そして——wer だれが seine Freude 彼の喜びを beschreibt 叙述するだろうか（その時の彼の喜びは筆紙につくせないぐらいであった)! Er 彼は vier gut glasierte Töpfe 四つの立派にガラス化された壺を hatte もった（見ると四つとも表面がきれいにガラス化しているではないか)! So.....denn かくして er 彼は zum ersten Male はじめて konnte.....kochen 物を煮ることができる [のである]! Und そして auch 果してまた er 彼は，die Mittagszeit 昼食の時間が noch まだ fern 離れて war いた wenn schon けれども（昼飯までにはまだ間があったけれども)，sogleich ただちに das そのことを tat なした（事実またすぐに煮てみた)。In einem Topfe mit Wasser 水の入ったひとつの壺に er 彼は ein tüchtiges Stück Fleisch 大きな肉きれを [いれ]，in einem andern [Topfe] もうひとつの [壺] には aber しかし frische Bataten 新鮮なさつまいもを [いれて] setzte.....ans Feuer 火にかけた，und そして nach zwei Stunden 二時間の後に er 彼は seit langer, langer Zeit ひさしぶりで wieder ふたたび eine gekochte Mahlzeit 煮た料理を hatte.....vor sich stehen 自分の前においた（こうして二時間の後には，ひさしぶりでまた煮た食事をとることができた)。

〔注〕【75】**geschehen** 三要形：geschehen, geschah, geschehen. 【76】**wer beschreibt seine Freude?**「ヤギに飼料をやってしまうやいなや彼は壺を焼いているところへ行った，そして——」と作者は，四つの壺の表面が釉薬をかけたように見事につやつやしているのを見て欣喜雀躍するロビンソンの姿を描こうとしたのだが，いちいち事細かに述べるのをさけて，一筆で注釈的に「だれが彼の悦びをよく描くことができよう！」と逃げたのである。beschreiben の三要形：beschreiben, beschrieb, beschrieben. 【77】**glasierte** 語尾 -ieren を有する動詞が過去分詞において ge- をとらぬことは「基礎入門編」でごぞんじのはず。glasieren = überglasen. 【78】**so .....denn** 前に出たことのある da.....denn..... と同じで，denn は別に意味はない。【79】**wenn schon**「たとえ.....にせよ」，「.....にかかわらず」という接続詞（wenn auch とおなじ)——schon だけを「すでに」と考えてはいけない。すぐつぎの noch とくいちがうからおかしいことはすぐわかるであろうが。【80】**In einem Topfe..... ans Feuer** ここの ans Feuer setzen「火にかける」という他動詞の目的語は，それぞれ ein tüchtiges Stück Fleisch および frische Bataten である。In einem Topf mit Wasser「水のはいったひとつの壺のなかに」および in einem andern「もうひとつの壺の中に」は，それぞれ Fleisch および Bataten の規定句で，先置強調して「壺のなかにいれて」の意に用いたもの。

haben と四格主語を伴う不定法 【81】**hatte er.....eine gekochte Mahlzeit.....**

stehen Mahlzeit は haben の目的語で四格であるが，stehen という述語の主語である。このように四格主語の述語になっている不定法は，わざわざ訳出する必要がないことが多い：

(1) Er hat einen Geldschrank zu Hause *stehen.*
彼は家に金庫をもっている。

(2) Er hat mein Manuskript in der Schublade *liegen.*
彼は僕の原稿をひきだしにしまっている。

(3) Er hat eine goldene Kette am Bauche *baumeln.*
彼は金鎖をおなかのところにぶらさげている。

(4) Er hat einen Trauring am Finger *stecken.*
彼はエンゲージ・リングを指にはめている。

(5) Er hat einen Säbel an der Seite *hängen.*
彼は剣を腰にさげている。

[13] Um wie vieles[82] war seine Lage nun besser geworden! Jetzt konnte er zahlreiche Speisen bereiten, die er vorher entbehren[83] mußte; er konnte das Brot besser backen; er konnte aber auch[84] noch mancherlei[85] andere Gefäße machen, die zur Aufbewahrung von Mehl, Salz, Milch und andern Dingen notwendig waren, und sich überhaupt[86] viele Annehmlichkeiten[87] schaffen[88].

〔訳〕 nun いまや seine Lage 彼の境遇は Um wie vieles どんなにか war.....besser geworden よくなったことであろう（これで彼の境遇は幾倍となくらくになった）! Jetzt いまでは er 彼は，er 彼が vorher その前には entbehren mußte 無くてすまさなくてはならなかった die ところの zahlreiche Speisen たくさんの料理を konnte.....bereiten 調理することができた；er 彼は das Brot パンを besser もっとよく konnte.....backen 焼くことができた；er 彼は aber auch また noch [そのほかにも] なお zur Aufbewahrung von Mehl, Salz, Milch und andern Dingen 穀物の粉，塩，乳およびその他のものを貯蔵するのに notwendig waren 必要である die ところの mancherlei andere Gefäße いろいろな他の容器を konnte.....machen 作ることができた，und そして überhaupt そもそも viele Annehmlichkeiten いくたの便宜を [konnte].....sich .....schaffen 獲得することができた。

〔注〕 【82】 **Um wie vieles** 比較する際の「差」を示すには，(すなわち，たとえば「私の方が三年だけ年上である」と言う際の「だけ」のごとき) 前置詞 um を用いる：Ich bin um zwei Jahre jünger als er.「私は彼よりも二才だけ年下である」,——ただし，um を用いずにたんに四格でもよい：Ich bin zwei Jahre jünger als er.——けれども本文のような場合には um があった方がハッキリするわけである。【83】 **entbehren**「……を欠乏する」,「……なしでまにあわせる」,「……なしで辛抱する」ことをいう。したがって unentbehrlich は「不可欠の」(英：*indispensable*). 【84】 **aber auch** 両語で「同時にまた」(aber だけをきりはなして「しかし」と読むべからず)。【85】 **mancherlei** manche と言ってもおなじ。ただ -erlei という語尾がつくと「種類」の意味が生ずる。そしてこの語尾は格変化をしない。vielerlei Arten「多くの種類」, dreierlei Richtungen「三種の方向」など。【86】 **überhaupt**「そもそも」(すなわち「一般的に言って」の意)。ここでは，前にいろいろな具体的なことを言った後であるから，それをうちきって，一般的に総括しようとしてこの語を用いたのである。

-heiten, -keiten の意味　【87】 **Annehmlichkeiten** (便宜，ぜいたく，英語 *comforts*, 詳しく言うと，生活を快適にする資料で，われわれの生活で言えば煖炉とか，自転車とか，ラジオセットとかいったようなものである。必需品では言いたりない，ぜいたくはすこし言いすぎであろう)——前に Unannehmlichkeit「不都合・不便」という語が出たことがある。それから，この -keit (-heit も然り) の語尾に注意！本来 -keit や -heit は抽象名詞で「安易なこと・愉快なこと」を意味するが，本文のように複数になると具体概念に転化して「生活を安易にするもの・生活の利便」を意味するようになる。つぎに -keit, -heit について例を示してみよう：*Gesundheiten* ausbringen「健康を祝して飲む」, über *Kleinigkeiten* mit einem in Streit geraten「くだらぬことでひとと争う」, einer Frau *Artigkeiten* zuflüstern「婦人に嬉しがらせを言う」, viel *Damenbekanntschaften* haben「婦人の知合いをたくさんもっている」, mit allen *Reisebequemlichkeiten* ausgerüstet sein「いっさいの旅行用品を用意している」, die *Sehenswürdigkeiten* einer Stadt「ある都市の名所」。——単数はたいてい抽象名詞になるが，しかし Flüssigkeit「液体」といったような例外もある。

【88】 **sich etwas schaffen**＝sich etwas anschaffen「ものを調達する」。

第7課　君　　主　　論

解説： 古代の英雄アキレスは半人半馬の怪獣ヒロンに育てられたと伝えられているが，これは君主たる者は人間的性質と野獣的性質のふたつを巧みに使い分けなければならぬことを象徴的に物語っている。野獣的性質にはふたつの面がある。ひとつは狐の狡智であり，もうひとつは獅子の威力である。獅子は強いが罠にかかる。狐は罠を見破るが狼にはかなわない。君主は罠を見破るために狐の姿をかり，狼を退散させるために獅子の仮面をかぶらなくてはいけない。ただし狐のしっぽをつかまれたり，獅子の仮面をはぎとられぬ要心が肝要である。大衆は単純で目先の印象に支配されやすいからである。具眼の士はないわけでないが，大衆の声に反抗して起つほどの勇者はまずない。まして直接に審判の方法のない君主の言動に矛盾があったとしても，大衆はさして問題にしない。けだし大衆は「権威」に弱いからである。君主たるものは最後の目的たる国家の興隆に専心すればよい。そのための手段はつねに神聖である。要するに君主たるものは機に応じて鬼にも仏にもなるだけの修養を積んでおくことが肝要である。——これはマキアヴェリ（イタリア人）の政治論の中心的な部分をわかりやすく解説したものだが，その態度はあくまでも客観的・実証的で傾聴すべきものをふくんでいる。

Der Fürst

Jeder weiß, wie lobenswert es ist, wenn ein Fürst sein Wort hält und rechtschaffen, nicht hinterlistig handelt. Und dennoch sieht man aus der Erfahrung der Vergangenheit, daß diejenigen Fürsten, welche mit List die Gemüter der Menschen zu betören verstanden, große Dinge aus- *
gerichtet und am Ende diejenigen, die redlich handelten, überwunden haben. Man muß also wissen, daß es zwei Wege gibt, zu kämpfen: einen gesetzlichen und einen gewaltsamen. Der erste geziemt den Menschen, der zweite eher den Tieren. Oft aber reicht die erste Weise nicht *
zu, und so muß bisweilen zur zweiten gegriffen werden.

Einem Fürsten ist daher nötig, bald den Menschen, bald das reißende Tier spielen zu können. Diese Lehre wird von den Alten symbolisch ausgedrückt in der Sage, wie Achilles und viele andere Helden vom Zentauren Chiron
* aufgezogen und unterwiesen worden. Einen solchen Lehrer haben, halb Mensch, halb Tier, heißt nichts anderes, als daß ein Fürst beide Naturen, die menschliche und die tierische, gut zu gebrauchen wissen muß.

Muß sich der Fürst darauf verstehen, die Bestie zu
* spielen, so muß er dazu von beiden nehmen, vom Fuchs und vom Löwen. Denn der Löwe entgeht den Schlingen nicht, und der Fuchs kann sich gegen den Wolf nicht wehren. Die Fuchsgestalt ist also nötig, um die Schlingen kennenzulernen, und die Löwenmaske, um die Wölfe zu
* verjagen. Wer immer nur den Löwen spielt, versteht seine Sache schlecht. Ein kluger Fürst kann und darf daher sein Wort nicht halten, wenn dessen Erfüllung sich gegen ihn selbst kehren würde, und wenn die Ursachen aufhören, die ihn bewogen haben, es zu geben. Wenn die Menschen
* insgesamt gut wären, so würde eine solche Handlung als nichtswürdig zu bezeichnen sein. Da sie aber insgesamt nichtswürdige Lumpen sind und dir ihrerseits nicht Wort halten, so brauchst auch du es ihnen gegenüber nicht zu halten. Und einem Fürsten kann es nie an Vorwand
* fehlen, seinen Wortbruch zu beschönigen. Man könnte viele Beispiele anführen, um zu zeigen, wie viele Friedensschlüsse, wie viele Versprechungen durch Wortbrüche der Fürsten vernichtet worden, wie der, der den Fuchs am besten zu spielen gewußt hat, auch am weitesten gekom-
* men ist. Nur ist es notwendig, daß man die Fuchsnatur

zu vertuschen weiß. Die Menschen sind so einfältig und hängen so sehr vom Eindrucke des Augenblicks ab, daß derjenige, der täuschen will, stets jemanden findet, der sich täuschen läßt. Denn die Menschen urteilen im ganzen mehr nach den Augen, als nach dem Gefühle. Die Augen * hat jeder offen; wenige aber haben richtiges Gefühl. Jeder sieht, was du zu sein scheinst, wenige merken, wie du beschaffen bist, und diese wenigen wagen es nicht, der Stimme des großen Haufens zu widersprechen. Dieser hält sich an die Majestät des Staates, der sie verteidigt. * Bei den Handlungen der Menschen, absonderlich der Fürsten, über die man keinen Gerichtshof anrufen kann, wird immer auf den Endzweck gesehen. Der Fürst sei also nur darauf bedacht, zu siegen und den Staat zu erhalten; die Mittel dazu werden immer für ehrenvoll * gehalten und von jedermann gelobt werden. Denn der große Haufen hält es immer mit dem Scheine und mit dem Ausgange. Die ganze Welt ist voll von Pöbel und die wenigen Klügern kommen nur zu Worte, wenn es dem großen Haufen, der in sich selbst keine Kraft hat, an * einer Stütze fehlt. Wie viele Fürsten gab und gibt es in der Welt, die nichts als Frieden und Treue predigen, und doch um Ansehen und Macht gekommen wären, wenn sie sie selbst beobachtet hätten!

Papst Alexander der Sechste z.B. tat gar nichts anderes * als die Menschen täuschen, dachte an nichts anderes und fand immer Leute, die sich anführen ließen. Niemals hat jemand eine größere Fertigkeit gehabt, zu versichern und mit großen Schwüren zu beteuern. Niemals aber hat jemand sein Wort weniger gehalten. Dennoch gelangen *

ihm seine Anschläge nach Wunsch, weil er die Welt von dieser Seite gut kannte.

Ein Fürst braucht also die sogenannten schönen Tugenden gar nicht zu haben, wohl aber den Anschein davon. * Es ist z.B. sehr nachteilig, stets redlich zu sein: aber fromm, treu, menschlich, redlich zu scheinen, ist sehr nützlich. Er muß sein Gemüt so bilden, daß er, wenn es notwendig ist, auch das krasseste Gegenteil von alledem hervorkehren kann. Ein Fürst, und absonderlich ein neu * emporgekommener Fürst, kann nicht immer alles das beobachten, was bei den gewöhnlichen Menschen für gut gilt. Er muß oft wider Treue und Menschenliebe, wider Gewissen und Religion handeln. Er muß also einen Geist besitzen, der geschickt ist, sich so, wie es die jeweiligen * Windrichtungen und die abwechselnden Glücksfälle fordern, zu wandeln. Er darf zwar den geraden Weg nicht verlassen, so lange er die Macht hat, wohl aber den krummen betreten, wenn es sein muß. Ein Fürst muß sich daher wohl hüten, daß nie ein Wort aus seinem Munde * geht, das nicht von Gerechtigkeit, Menschlichkeit und Frömmigkeit erfüllt ist. Alles, was er spricht, muß Treue, Mitleid und Demut atmen. Und nichts ist notwendiger als der Schein aller dieser Tugenden.

Der Fürst

[1] Jeder weiß, wie lobenswert es[1] ist, wenn ein Fürst sein Wort hält[2] und rechtschaffen, nicht hinterlistig[3] handelt. Und dennoch sieht man aus der Erfahrung der Vergangenheit, daß diejenigen[4] Fürsten, welche mit List die Gemüter der Menschen[5] zu betören verstanden, große Dinge ausgerichtet[6] und am Ende diejenigen, die redlich handelten, überwunden[7] haben. Man muß also wissen, daß es zwei Wege gibt, zu kämpfen[8]: einen gesetzlichen und einen gewaltsamen. Der erste geziemt[9] den Menschen, der zweite eher[10] den Tieren.

〔訳〕 Der Fürst 君主

ein Fürst 君主たる者が sein Wort hält その一言を守り und そして rechtschaffen 正直に, nicht hinterlistig 陰険にではなく handelt ふるまう wenn ならば, es それが wie lobenswert いかに称賛にあたいすること ist である [かは], Jeder 誰でも weiß 知っている（周知のごとく，君主たる者が約束を守り，正直に行動してひとを欺かないということは，まことに称賛すべきことである)。Und dennoch にもかかわらず man われわれは aus der Erfahrung der Vergangenheit 過去の経験から sieht [つぎのようなことを] 認めるのである，daß すなわち，mit List 策謀を用いて die Gemüter der Menschen 人間の心を zu betören 瞞着することを verstanden 心得ている welche ところの diejenigen Fürsten その君主たちが，große Dinge 大事業を ausgerichtet [haben] 成就し und そして am Ende 最後には diejenigen, die redlich handelten 正直に行動した君主たちを，überwunden haben 負かした（ところが，過去の経験であきらかなように，策略をもって巧みに人心を収攬した君主たちが，偉大な事業を成しとげ，ついには，正直に行動した君主たちをうちまかしたのである)。also それゆえに，zu kämpfen 闘うための zwei Wege ふたつの道：[すなわち] einen gesetzlichen [Weg] 合法的な [道] und と einen gewaltsamen [Weg] 暴力的な [道] es.....gibt が存在する daß ことを Man われわれは muß.....wissen 知らねばならぬ（ゆえに，生存のための闘いをたたかいぬくには，合法的な方法と暴力的な方法との，ふたつの方法があることを心得えておかなくてはならない)。Der erste [Weg] 第一の道は den Menschen 人間に geziemt ふさわしい，der zweite [Weg] 第二の方法は eher むしろ den Tieren 野獣に [ふさわしい]。

〔注〕 [1] **wie lobenswert es ist, wenn** この es は wenn 以下の副文章の内容を

指す先行詞である。なぜ daß を用いないで wenn を用いるかというと，daß を用いるとなにか事実そんなことがあったのを指摘して言うように聞こえるからである。【2】 **sein Wort hält** *sein Wort halten=to keep one's word;* この反対は *sein Wort brechen =to break one's word.* 【3】 **und rechtschaffen, nicht hinterlistig** これは nicht hinterlistig, sondern rechtschaffen というよりは nicht hinterlistig に力が入っていることに注意する必要がある。【4】 **diejenigen……, welche……**「……するところのそのような」。これはたびたび出てくる構造で，diejenigen のかわりにたんに die と言ってもよし，solche と言ってもよい。【5】 **die Gemüter der Menschen=*the minds of men.*** der Menschen という二格規定がなくても，たんに die Gemüter だけで「人心」といった日本語に相当する意味になる。単数は Gemüt. 【6】 **große Dinge ausgerichtet** *große Dinge ausrichten*「大事を成しとげる」。【7】 **überwunden** 三要形：überwinden, überwand, überwunden. 【8】 **zu kämpfen** この kämpfen は「生きるためにたたかう」すなわち「生存競争」(der Kampf ums Dasein) をたたかうことである。なおこの zu を伴う不定法は adnominal「名詞付加的」用法で，先行する zwei Wege を規定している。【9】 **geziemt** ge- がついているが過去分詞ではない。geziemen は，「……にとってふさわしい」あるいは「……らしい」，geziemt den Menschen は menschenwürdig「人間らしい，人間としてはずかしくない」とおなじ。【10】 **eher**「むしろ」。vielmehr とおなじ。(Der zweite Weg geziemt eher den Tieren. である)。

[2] Oft aber reicht die erste Weise nicht zu, und so[11] muß bisweilen zur zweiten gegriffen werden[12]. Einem Fürsten ist[13] daher[14] nötig, bald den Menschen, bald[15] das reißende Tier spielen zu können. Diese Lehre wird von den Alten[16] symbolisch ausgedrückt in der Sage, wie Achilles und viele andere Helden vom Zentauren[17] Chiron aufgezogen[18] und unterwiesen[19] worden. Einen solchen Lehrer haben, halb Mensch, halb Tier[20], heißt nichts anderes, als[21] daß ein Fürst beide Naturen, die menschliche und die tierische, gut zu gebrauchen wissen muß.

〔訳〕 aber ところが Oft しばしば die erste Weise 第一の方法が reicht……nicht

zu 十分でない（ところが第一の方法だけではまにあわないことがある），und so そこで bisweilen 時には zur zweiten [Weise] 第二の方法に gegriffen werden 訴える muß 必要がある。daher したがって，Einem Fürsten 君主たる者にとっては，bald ある時は den Menschen 人間 [の役] を，bald ある時は das reißende Tier 猛獣 [の役] を spielen 演じ zu können うることが ist.....nötig 必要である。Diese Lehre この教訓は，von den Alten 古代人によって，in der Sage [つぎの] 伝説のなかに，symbolisch 象徴的に wird.....ausgedrückt 表現されている，wie すなわち Achilles und viele andere Helden アキレスおよび他の多くの英雄たちが vom Zentauren Chiron 半人獣の怪獣ヒロンによって aufgezogen 育てられ und かつ unterwiesen worden 指導された [という伝説に象徴されている]。halb Mensch, halb Tier なかば人間 [であり] なかば野獣 [である] Einen solchen Lehrer このような教師を haben もっていることは，ein Fürst 君主たる者は beide Naturen 両方の性質，[すなわち] die menschliche [Natur] 人間的な性質 und と die tierische [Natur] 野獣的な性質を gut たくみに zu gebrauchen 使用することを wissen muß 心得ていなければならない daß ということ nichts anderes, als 以外の何物をも heißt 意味 [しない]（かかる半人半獣の教師をもつということは，とりもなおさず，君主たる者は人間的性質と野獣的性質の両者をうまく使いこなせなくてはいけないということを示唆している。）

〔注〕 **[11] und so**「かくして」，「それゆえ」。

有形無意の es を主語とする受働文 **[12] so muß bisweilen.....werden** この文章を定形正置文になおせば es muß bisweilen zur zweiten gegriffen werden となる。それが本文のように定形倒置文になって，形式上の主語 es が省かれたのである。このことについては「基礎入門編」の § 86 を参照されたい。*zu etwas greifen* は「あるものを用いる・ある手段に訴える」という熟語だが，この用法では greifen は言うまでもなく自動詞である。この有形無意の es を主語とする受動文の特徴のひとつは，自動詞をも受働形にすることである。自動詞は四格を支配せず，したがって受働文の主語となるべきものがないから，そのかわりに形式的な es を主語にすえるのである。念のために二三の例について受働形と能働形の両方を挙げてみよう：

(1) われわれは働かねばならぬ。
　Man muß arbeiten.
　Es muß gearbeitet werden.

(2) 喫煙してよろしい。
　Man darf rauchen.
　Es darf geraucht werden.

(3) ここでは喫煙できない。
　Hier darf man nicht rauchen.
　Hier darf nicht geraucht werden. (主語 es は省かれる!)

【13】 **ist** は ist es と言うにおなじ。つぎにくる zu を伴う不定句の先行詞となる es は，省いてもよいのである。【14】 **daher** also, demnach「それゆえ」【15】 **bald..... bald.....**「時に.....時に.....」,「ある時は.....，ある時は.....」。【16】 **den Alten** der Alte「老人」の複数ではなく，古代人（西洋人のいう古代人とはギリシア・ローマの古代人）の意。【17】 **Zentaur** ギリシア神話に出てくる，胸から上が人で，下の方が馬になっている怪獣。怪獣とはいえ，これは獣ではなく，非常な賢人で，かつ人を教えることに妙を得ているとされていた。今でも，乗馬の達人のことを Zentaur と言う。けだし，いわゆる鞍上人なく鞍下馬なしという，人馬一体の理想人だからであろう。——Zentaur は弱変化男性名詞である，それゆえ三格で -en をつけて vom Zentauren となっている。【18】 **aufgezogen** 三要形は aufziehen, zog auf, aufgezogen. 「教育する」は erziehen であるが，「養育する」（成人せしめる）は aufziehen である。【19】 **unterwiesen** 三要形：unterweisen, unterwies, unterwiesen. これは unterrichten「教える」とおなじ。【20】 **halb Mensch, halb Tier** これは先行する Lehrer を形容する述語句。したがって Einen solchen Lehrer haben, *der* halb Mensch, halb Tier *ist* の省略形と考えてよい。【21】 **nichts anderes, als**=*nothing* [*else*] *but*.

[3] Muß[22] sich der Fürst darauf verstehen, die Bestie zu spielen[23], so muß er dazu von beiden nehmen[24], vom Fuchs und vom Löwen. Denn der Löwe entgeht den Schlingen nicht, und der Fuchs kann sich gegen den Wolf nicht wehren. Die Fuchsgestalt ist also nötig, um die Schlingen kennenzulernen, und die Löwenmaske, um die Wölfe zu verjagen. Wer immer nur den Löwen spielt, versteht seine Sache schlecht[25]. Ein kluger Fürst kann und darf daher sein Wort nicht halten, wenn dessen Erfüllung[26] sich gegen ihn selbst kehren würde, und wenn die Ursachen aufhören, die ihn bewogen[27] haben, es zu geben. Wenn die Menschen insgesamt[28] gut wären, so würde eine solche Handlung als nichtswürdig zu bezeichnen[29] sein.

〔訳〕 [もしも] der Fürst 君主が，die Bestie zu spielen 野獣 [の役] を演ずる，sich .....darauf verstehen ことを会得し Muß なければならない [とするならば]，so そう

とすれば er 君主は dazu そのためには von beiden....., vom Fuchs und vom Löwen 狐と獅子の両者から muß.....nehmen 採るところがなければならぬ（君主たる者は，時に野獣となることも必要だとすれば，どうしても狐と獅子の両方の性質を兼ね備えなければならない）。Denn なぜなれば der Löwe 獅子は den Schlingen 罠から entgeht.....nicht 逃れられない und し der Fuchs 狐は gegen den Wolf 狼にたいして kann sich.....nicht wehren 身を守ることができない [獅子は強いが罠を見破る智恵がない，狐は罠を見破る智恵をもっているが，狼にはかなわない]。also ゆえに，die Schlingen 罠 um.....kennenzulernen [の何物たるか] を知るためには，Die Fuchsgestalt 狐の姿が ist.....nötig 必要である，und また，die Wölfe 狼を um.....zu verjagen 退散させるためには，die Löwenmaske 獅子の仮面が [必要である]。immer つねに nur ただ den Löwen spielt 獅子を演じる Wer 者 [獅子の役しか演じられない君主] は，seine Sache 自分の責務を versteht.....schlecht まずく理解する [賢明だとは言えない]。daher それゆえに Ein kluger Fürst 賢明なる君主は kann und darf..... sein Wort nicht halten その一言を守ることはとうてい不可能でもあるし，また守ってはならないのである，wenn もしも dessen Erfüllung その [一言の] 履行が gegen ihn selbst 彼自身に向かって sich.....kehren würde 鋒先を向ける [ならば]，und そしてまた wenn もしも，es zu geben その約束を与えるように，ihn bewogen haben 彼 [の気持] を動かした die ところの die Ursachen 原因が aufhören 無くな [ったならば]（それゆえ，明君たる者は，いったんこうと約束しても，そのとうりやった日にはとんだ損をするとか，あるいは，約束した当時は何か約束しなければならない事情があって約束したのだが，今となればもはやそんな義理は感じないと言ったような場合には，そんな約束は平気で反古にしたってかまわないのである。かまわないどころではない，むしろそうしなければならないのである）。Wenn もしも die Menschen 人間が insgesamt ひとり残らず gut 善良で wären ある [とするならば]，so その場合には eine solche Handlung かかる [不信の] 行為は als nichtswürdig けしからぬと würde.....zu bezeichnen sein 言うべきであろう。

〔注〕 **[22] Muß**＝Wenn.....muß. **[23] die Bestie zu spielen**＝das Tier zu spielen. **[24] von beiden nehmen** von.....nehmen は「.....から採る」すなわち「.....から採って以て用いる」「.....に学ぶ」「.....の長をとる」という熟語である。etwas「なにものかを，なんらかの長所を」といったような四格が省かれていると思えばよい。**[25] versteht seine Sache schlecht** *seine Sache gut* (*schlecht*) verstehen「要領がよい（悪い）・抜け目がない（うっかりしている）・賢明である（暗愚である）」。**[26] dessen Erfüllung** dessen は sein Wort をうける指示代名詞の二格である。die Erfüllung desselben とも言う。**[27] bewogen** 三要形：bewegen, bewog, bewogen. 机を動かす，風が海面を激動させる，といった場合の「動かす」bewegen は規則的に bewegte, bewegt と変化するが，本文のように「説き動かす」，「誘って.....させる」のときは不規則変化をする。**[28] insgesamt**「どいつもこいつも」，「みんな」で，alle というよりも力が強い。samt und sonders とも言う。alle zusammen と言ってもよ

い。また sämtlich という語もある。 **[29] als nichtswürdig zu bezeichnen** bezeichnen は nennen, heißen などと同意。「名づける」「呼ぶ」である。zu bezeichnen sein「名づけるべくある」は,「名づけることができる」の意。

[4] Da sie aber insgesamt nichtswürdige Lumpen[30] sind und dir ihrerseits[31] nicht Wort halten, so brauchst auch du es ihnen gegenüber nicht zu halten. Und einem Fürsten kann es nie an[32] Vorwand fehlen, seinen Wortbruch zu beschönigen. Man könnte viele Beispiele anführen, um zu zeigen, wie viele Friedensschlüsse, wie viele Versprechungen durch Wortbrüche der Fürsten vernichtet worden, wie der[33], der den Fuchs am besten zu spielen gewußt hat, auch am weitesten gekommen[34] ist. Nur[35] ist es notwendig, daß man die Fuchsnatur zu vertuschen[36] weiß. Die Menschen sind so einfältig und hängen so sehr vom Eindrucke des Augenblicks ab, daß derjenige, der täuschen will, stets jemanden findet, der sich täuschen läßt.

〔訳〕 **aber** ところが **sie (die Menschen)** 人間どもは **insgesamt** ひとり残らず **nichtswürdige Lumpen** けしからぬ不徳義漢 [の寄りあい] **sind** であり **und** そして **ihrerseits** かれらの方でも **dir** 汝にたいして **nicht Wort halten** 約束を守らない **Da** のだから, **so** それだから **auch du** 汝もまた **ihnen gegenüber** かれらにたいして **brauchst.....es.....nicht zu halten** 約束を守る必要はない。**Und** それに **einem Fürsten** 君主たる者が, **seinen Wortbruch zu beschönigen** その破約をうまくとり繕ろう **an Vorwand** 口実に **kann es nie.....fehlen** こと欠くことは決してない。**wie viele Friedensschlüsse** いかに多くの講和条約締結が, **wie viele Versprechungen** いかに多くの約束が **durch Wortbrüche der Fürsten** 君主たちの破約によって **vernichtet worden** 無効にされたかを, **am besten** もっともたくみに **den Fuchs.....zu spielen** 狐の役を演ずることを **gewußt hat** 心得た **der** ところの **der** 者が, **auch** また **am weitesten** もっとも遠くまで **gekommen ist** 進んだ (いちばん立身出世をした) **wie** ということを, **um zu zeigen** 示すために, **Man** われわれは **viele Beispiele** 多くの実例を **könnte.....anführen** 挙げることができる。**Nur** ただし, **man** われわれは **die Fuchsnatur** 狐の性質を **zu vertuschen** 蹈晦(とうかい)する (ボヤかしごまかす) ことを **weiß** 心得ている **es.....**, **daß** ことが, **ist.....notwendig** 必要である。**Die Menschen** 人間という

ものは so きわめて einfältig 単純 sind であり und かつ so sehr ひじょうに vom Eindrucke des Augenblicks 瞬間の印象（目前の感銘）に hängen.....ab 左右される [ものである] daß から，täuschen will 眩惑しようと思う der ところの derjenige 者は，stets いつでも，sich täuschen läßt 眩惑される der ところの jemanden 誰かを findet 見出す（ひっかけようと思えばひっかかる相手はいくらでもいる）。

〔注〕 [30] **Lumpen** ルンペンというとこの国では金のない人間のことをいうが，ドイツ語の元来の意は「不徳義漢」である。がからドイツ人にむかってうっかり Ich bin ein Lump！などと言ってはいけない。(Lumpen は複数形である) このルンペンが日本語にはいってきたのは，マルクス研究がさかんになった当時，翻訳家などがなまはんかなドイツ語をすこし見当ちがいにふりまわしたところからきたものらしい。[31] **ihrerseits**「かれらの側で」(auf ihrer Seite) の意。おなじく meinerseits, deinerseits, seinerseits, unsererseits などがある。japanischerseits「日本側で」や amerikanischerseits「アメリカ側で」なども勝手に作ってよいことになっている。[32] **an** この an は：Es fehlt mir an etwas.「私にはあるものが欠けている」という用い方からきている。[33] **der**＝derjenige [34] **am weitesten gekommen ist**＝es am weitesten gebracht hat. この weit kommen も es weit bringen も，ともに，「出世する」，「成功する」という熟語。[35] **Nur**「ただし」。[36] **vertuschen** vertuscheln という形もある。bemänteln または beschönigen と言ってもよい。臭いものにふたをするように，ごまかして世間ていをつくろうことを言う。

[5] Denn die Menschen urteilen im ganzen mehr nach den Augen, als nach dem Gefühle. Die Augen hat jeder offen; wenige aber haben richtiges Gefühl. Jeder sieht, was du zu sein scheinst, wenige merken, wie du beschaffen bist, und diese wenigen wagen es nicht, der Stimme des großen Haufens zu widersprechen[87]. Dieser hält sich an die Majestät des Staates[88], der sie verteidigt. Bei den Handlungen der Menschen, absonderlich der Fürsten, über die man keinen Gerichtshof anrufen kann, wird immer auf den Endzweck gesehen[89].

〔訳〕 **Denn** けだし die Menschen 人間というのは im ganzen 概して，nach dem

Gefühl 気持による als よりも, mehr より多く nach den Augen 眼によって urteilen 判断する [からである] (行為を貫く精神によるよりは, むしろ外観によって判断するからである)。jeder だれでも Die Augen 眼 [だけ] は hat.....offen 開いている, aber ところが wenige 少数の者が richtiges Gefühl 正しい感受力を haben もっている (ところが正しい判断力をもっている人はごく少ない)。Jeder 誰でも, du 君が zu sein scheinst あるべく見える was ところのものを (君の外観を) sieht 見る, [ところが] du 君が wie いかなる beschaffen bist 性質をもっているか, merken に気づく [ひとは] wenige 少数である, und ところが diese wenigen この少数の人々は, der Stimme des großen Haufens 大衆の声に zu widersprechen 反対する, es ことを wagen.....nicht 敢えてしない。Dieser (der große Haufen) 大衆は, sie かれらを verteidigt 守護する der ところの an die Majestät des Staates 国家の権威に hält sich つくものだ。über die その人々を裁くために man われわれが keinen Gerichtshof anrufen kann いかなる法廷をも呼び立てることのできないような (法廷に訴えて裁きをつけることのできない) Bei den Handlungen der Menschen, absonderlich der Fürsten 人々, ことに君主たちの行動にあっては, immer つねに wird.....auf den Endzweck gesehen 窮極の目的のみが考慮される。

〔注〕 **[37] widersprechen** 三要形: widersprechen, widersprach, widersprochen. **[38] hält sich an die Majestät des Staates** *sich an* (四格) *etwas halten*=sich auf (四格) etwas verlassen **[39] wird.....auf den Endzweck gesehen** *auf etwas sehen* は「あるものに注目する」ということで, 本文はこの自動詞的用法の受働化である。したがって定形倒置になっているので形式上の主語 es が省かれたのである。

[6] Der Fürst sei also nur darauf bedacht[40], zu siegen und den Staat zu erhalten: die Mittel dazu werden immer für ehrenvoll gehalten und von jedermann gelobt werden. Denn der große Haufen hält es immer mit dem Scheine[41] und mit dem Ausgange. Die ganze Welt ist voll von Pöbel, und die wenigen Klügern kommen nur zu Worte, wenn es dem großen Haufen, der in sich selbst keine Kraft hat, an einer Stütze fehlt. Wie viele Fürsten gab und gibt es in der Welt, die nichts als Frieden und Treue predigen, und doch um Ansehen und Macht gekommen wären, wenn sie sie selbst beobachtet hätten!

〔訳〕 also それゆえに Der Fürst 君主は, zu siegen 勝利を得 und て den Staat 国家を zu erhalten 保持する nur darauf ことのみを sei.....bedacht 心がける [べきである]: die Mittel dazu そのための手段は immer 常に werden.....für ehrenvoll gehalten.....werden 名誉あるものと考えられ und von jedermann だれからも [werden] gelobt [werden] 称讃されるであろう。Denn なぜならば der große Haufen 大衆は immer つねに hält es.....mit dem Scheine und mit dem Ausgange 外観と結果に左担する (みてくれと結果がよければその方につく)。Die ganze Welt 全世界は ist voll von Pöbel 愚民に満ちている, und そして die wenigen Klügern 少数の賢明な人々は, in sich selbst 自分自身のなかに keine Kraft hat 力をもたない der ところの dem großen Haufen 大衆に, es.....an einer Stütze fehlt 支えるものがない wenn 時に nur のみ, kommen.....zu Worte 発言が許されるのみだ (衆愚の数は圧倒的に多い。そのあいだにごく少数の具眼の士がいるだけだ。だから, たいていは具眼の士は沈黙している。そして大衆が拠りどころを失って破局に追いこまれるような, 一世紀に一度あるかないかというような危機でもなければ, たちあがることはない)。Frieden und Treue 平和と誠意 nichts als 以外の何ものをも predigen 説かない (ただひたすら平和を賛美し誠意を説きながら), und doch しかもそれにもかかわらず, wenn もしも sie かれらが selbst 自身で sie (=Frieden und Treue) それらを beodachtet hätten 遵守した [であろうならば], um Ansehen und Macht gekommen wären 名声と権力を失ったであろう [と思われる] die ところの Wie viele Fürsten いかに多くの君主が in der Welt 世界に gab.....es いたことであろう und そして gibt es [現に] いることであろう!

〔注〕 【40】 **sei.....darauf bedacht** この sei は要求話法の用法。bedacht は bedenken の過去分詞だが, 今では独立した形容詞として用いられている。*auf etwas bedacht sein=to be mindful of -ing, to be intent on -ing.* 【41】 **hält es.....mit dem Scheine** *es mit etwas halten*「あることに賛成する・加担する」という熟語で es はたんなる Füllwort「虚字」にすぎない。

[7] Papst Alexander der Sechste[42] z.B. tat gar nichts anderes als die Menschen täuschen, dachte an nichts anderes und fand immer Leute, die sich anführen ließen[43]. Niemals hat jemand eine größere Fertigkeit gehabt, zu versichern und mit großen Schwüren zu beteuern. Niemals aber hat jemand sein Wort weniger gehalten[44]. Dennoch gelangen ihm seine Anschläge nach Wunsch, weil er die Welt von dieser Seite gut kannte.

〔訳〕 z.B. (=zum Beispiel) たとえば Papst Alexander der Sechste 法王アレキサンダー六世は, die Menschen täuschen 人間をだますこと gar nichts anderes als 以外のなにごとも tat な [さなかった], an nichts anderes ほかのなにごとをも dachte 考え [なかった] und そして immer つねに, sich anführen ließen 瞞着される die ところの Leute ひとびとを fand 見出した。Niemals.....jemand いまだかつて何人も, zu versichern 確約をし und そして mit großen Schwüren ものものしい誓いをたてて zu beteuern 宣言する(いかめしい宣誓の言葉で約束を与える)[ことにかけては], eine größere Fertigkeit [彼より] 大なる巧妙さを hat.....gehabt 持 [たなかったと] (彼ほど巧妙なひとはかつてなかった)。aber ところが Niemals.....jemand いまだかつて何人も hat.....sein Wort weniger gehalten [彼より] よりすくなく約束を守った人間はなかった, (彼ほどすくなく約束を守る人間はなかった, すなわち彼ほど約束を守らない人間は古来まれに見るところである) Dennoch それにもかかわらず seine Anschläge 彼の策謀は nach Wunsch 思いどおりに gelangen ihm 成功した, weil なぜかと言うに er 彼は die Welt 世の中 [というもの] を von dieser Seite この方面から gut よく kannte 知っていた (世の中のこの面をよく知っていた) から。

〔注〕 [42] **Alexander der Sechste** Alexander VI. とも書く。der Sechste「第六番の者, 六世」は Alexander の「同格説明語」(Apposition) と呼び, Alexander の格とおなじ格になる, 二格は Alexanders des Sechsten, 三格は Alexander dem Sechsten, 四格は Alexander den Sechsten である。[43] **sich anführen ließen**「だまされた」sich.....lassen「自分を.....せしめる」というのは「.....される」という, ほとんど受働と同様の意の, よくでてくる形式である。

否定詞と als [44] **Niemals.....weniger gehalten** この文章は *Niemand* hat sein Wort weniger gehalten *als* er. と言うのにひとしい。二三行前の Niemals hat jemand..... も *Niemand* hat eine größere Fertigkeit.....als er. と言うのにひとしい。いうまでもないことだが, 否定詞と比較級とを用いて, いわば最高級のごとき表現をするわけである。日本語ではたいてい「あいつほどりこうな奴はない」などと言うが, ドイツ語では Niemand ist so klug wie er. と言う以外に Niemand ist klüger als er. という形をよく用いるというわけである。

[8] Ein Fürst braucht also die sogenannten schönen Tugenden gar nicht zu haben, wohl aber[45] den Anschein davon[46]. Es ist z.B. sehr nachteilig, stets redlich zu sein: aber fromm, treu, menschlich, redlich zu s c h e i n e n[47], ist sehr nützlich[48]. Er muß sein Gemüt so bilden, daß[49] er,

wenn es notwendig ist, auch das krasseste[50] Gegenteil von alledem hervorkehren[51] kann. Ein Fürst, und absonderlich[52] ein neu emporgekommener[53] Fürst, kann nicht immer alles das beobachten[54], was bei den gewöhnlichen Menschen für gut gilt[55]. Er muß oft wider Treue und Menschenliebe, wider Gewissen und Religion handeln.

〔訳〕 also ゆえに Ein Fürst 君主は die sogenannten schönen Tugenden いわゆる美徳なるものを braucht.....gar nicht zu haben ぜんぜんもつ必要がない, wohl aber しかし den Anschein davon それの外観は [そなえていなくてはならない] (いかにも美徳の君子らしく見せかける必要はある)。z.B. たとえば, stets いつも redlich zu sein 正直にしている Es ことは ist.....sehr nachteilig ひじょうに不利である, aber ところが fromm, treu, menschlich, redlich [ひとから見て] 敬虔で, 忠実で, 人間的で, 正直で zu scheinen あるように見えるということは, ist sehr nützlich きわめて有利である。Er 君主は, wenn es notwendig ist 必要とあれば, auch das krasseste Gegenteil von alledem それらすべての正反対をすらも er.....hervorkehren kann 出して見せることができる so.....daß ように sein Gemüt 自分の心情を muß.....bilden 陶冶しなくてはならない。Ein Fürst 君主は, und absonderlich ことに ein neu emporgekommener Fürst 新しく成りあがった君主は, bei den gewöhnlichen Menschen 凡人どもの間で für gut gilt よいことと考えられている was ところの alles das すべてのことを nicht immer かならずしも kann.....beobachten 遵守することはできない (必要はない)。Er 君主は oft しばしば wider Treue und Menschenliebe 義理と人間愛に反して, wider Gewissen und Religion 良心と宗教に反して, muß.....handeln 行動しなくてはならぬ。

〔注〕 [45] **nicht.....wohl aber.....;** nicht.....sondern..... と zwar.....aber..... とを同時に用いたときには, 後半部に wohl aber という句を用いる。すなわち「.....ではないが, しかし.....ではある」という場合である。Ich habe noch keine Frau, *wohl aber* ein Liebchen. 「わたしはまだ家内はありませんが, 情婦ならあります」。[46] **den Anschein davon** は換言すれば deren Anschein または den Anschein derselben. [47] **scheinen** とくに念を入れたい語には, このように「隔字体」(Sperrdruck ; Sperrschrift) というのを用いる。[48] **ist sehr nützlich** この文章も前の文章とおなじように es を主語としてこう書きかえられる : es ist aber sehr nützlich, fromm, treu, menschlich, redlich zu scheinen. [49] **so.....daß** この従属的接続詞は「規定的」で,「.....するように」,「.....する目的で」という意味である。[50] **das krasseste Gegenteil** kraß という形容詞は, das krasse Gegenteil とか der krasseste Widerspruch 「もっともはなはだしい矛盾」とかいったような場合にのみにしか用い

ない語で，「露骨な」「ひどい」の意。【51】**hervorkehren** 元来，衣服の裏側などを「表に向ける」，「裏がえして出す」こと。hervor- には，すべて隠れていたものが表面にあらわれる意があることは，先に述べたことがある。【52】**absonderlich**「ことに，なかんずく」これよりももっとふつうなのに vor allem, vornehmlich, insbesondere, besonders などがある。【53】**emporgekommen** 三要形： emporkommen, kam empor, emporgekommen. ついでに「成りあがり者・幸運児」のことを Emporkömmling=*upstart, fortune's minion* と言う。【54】**beobachten** この動詞にはふたつの意味がある。ひとつは「観察する」すなわち betrachten にあたる意味で，他のひとつは「遵守する」すなわち befolgen に相当する意味である。本文の場合は明らかに後者である。なお beobachten の発音は「ベオーバハテン」である。【55】**für gut gilt** *für (als) gut gelten*=für (als) etwas gehalten werden=*to pass for something, to be considered as something.* gelten の三要形：gelten, galt, gegolten.

[9] Er muß also einen Geist besitzen, der geschickt ist, sich so, wie es die jeweiligen Windrichtungen und die abwechselnden Glücksfälle fordern, zu wandeln. Er darf zwar den geraden Weg nicht verlassen, so lange er die Macht hat, wohl aber den krummen betreten, wenn es sein muß[56]. Ein Fürst muß sich daher wohl hüten, daß nie ein Wort aus seinem Munde geht, das nicht von Gerechtigkeit, Menschlichkeit und Frömmigkeit erfüllt ist. Alles, was er spricht, muß Treue, Mitleid und Demut atmen[57]. Und nichts ist notwendiger als der Schein aller dieser Tugenden.

〔訳〕 also ゆえに Er 君主は，die jeweiligen Windrichtungen und die abwechselnden Glücksfälle そのときどきの風向きと変転常なき世運が es.....fordern それを要求する wie ごとく，so そのように sich.....zu wandeln 自分を変化せしめる（転身する）geschickt ist 技量のある der ところの einen Geist 精神を muß.....besitzen 所有しなくてはならない（したがって君主は，そのときどきの人心の動向を察知し，起伏常なき運命の趨行にしたがって，たくみに自己の姿を変えてゆくだけの弾力性のある精神の所有者でなければならない）。zwar なるほど Er 君主は，er 彼が die Macht 権力を hat 握っている so lange かぎりは，den geraden Weg まっすぐな道（正直なやり方）

を darf.....nicht verlassen すててはならない, wohl aber しかし, wenn es sein muß 必要とあらば [darf] den krummen [Weg] betreten 曲った道を歩んで [よろしいのである]。daher それゆえに Ein Fürst 君主は, von Gerechtigkeit, Menschlichkeit und Frömmigkeit 正義, 仁徳および敬虔をもって nicht.....erfüllt ist 満たされていない das ような ein Wort 一言も aus seinem Munde 自分の口から nie..... geht けっして洩れない daß ように, wohl よく muß sich.....hüten 注意しなくてはならない。er 君主が spricht 語る was ところの Alles すべて [の言葉] は, Treue, Mitleid und Demut 誠実, 同情および謙譲を muß.....atmen 発散していなくてはいけない。und そして nichts なにものも der Schein aller dieser Tugenden すべてこれらの徳の見せかけ ist notwendiger als より必要ではない (これらの徳をすべてかねそなえていると思わせることぐらい必要なことはない)。

〔注〕 [56] **wenn es sein muß**=*on* (*at*) *a pinch.*「いざとなれば」の意の成句。nötigenfalls, gegebenenfalls とも言う。[57] **atmen**「呼吸する」の意であるが, ここのように Demut atmen「忍従を呼吸する」などというと, そのひと息ひと息が忍従の気魄に横溢していることを意味する。

第8課　アインシュタインの空間論

解説：アインシュタインという名は，本書を読む諸君なら知らない人はないだろう。ドイツがナチスの天下になり，ユダヤ人排斥をやりだしてからアメリカに避難したドイツ人はかなりいるが，そのなかでも作家のトーマス・マンと自然科学者のアインシュタインは世界的に有名である。アインシュタインの名がこの国で急に有名になったのは今から二十年以上も前に，いまは故人の石原純博士等が相対性原理（Relativitätstheorie）を紹介された時からである。本文で紹介した空間論は，専門家にはもちろん当時でもわかっていたことだが，一般のひとびとにはなかなか理解しがたい学説で，結局この新しい空間論の *details* のひとつである相対性理論の方が，通俗的な形で，新奇を好む学生たちに比較的受けいれられたようである。たとえば，橋の上を自動車に乗って通っていくひとが，車の上から石を落とす。走る車の中で見ているとその石は垂直に落ちていく。ところが河原に立って見ている人の眼には，石は弧を描いて落下する。つまり同一物体の運動でも，それを観察する人の立場によって異なった現象に見える。ざっとこんなふうに相対性原理なるものを説明して，白線の高校生がバーの女給たちを感心させていたものである。しかしこの程度の知識では肝心の空間論は，一向につかめないし，今日の自然科学の進歩にはついてゆけない。アインシュタインの空間論は，これまでの常識を一蹴して，宇宙全体は一種の球のような性格をもち，有限であって無限ではない，と主張する。問題はこの「球のような性格」である。球といえばわれわれはすぐに野球のボールのようなものを想像するが，それでは話にならない。宇宙がボールのようなものなら，その宇宙ボールを浮かべている何物かがあることになる。宇宙のほかにまたべつな宇宙があってはたまらない。宇宙のもつ球のような性格というのは，主として球の表面のもっている性格だと思えばよい。野球のボールとちがって，地球だの宇宙となると，その表面はいわば水平面のようなものである。水平面が二次元の世界であることはいうまでもあるまい。つまりアインシュタインは，宇宙全体は球の表面がもっているような性質をもっている，換言すれば，二次元の世界と考えらるべきものである，と主張するのである。これを二次元の世界にふさわしく根拠づけるものは，一直線に空間を進んでいくうちについにもとの出発点に帰ってくるという事実（いや，まだこんな途方もない大旅行をしたひとがいないから，事実とはいわれないが）である。あるいは今にすばらしく精巧な望遠鏡ができたら，それを覗いているうちに無限のかなたに自分の後頭部を見うるようなことになろうかも知れない。宇宙が球の表面のような性質をもっていることを確かめるもうひとつの方法がある。それは三角測量（Triangulation）である。平地では三角形の内角の和は二直角になることは小学生でも知っているが，さて球の表面ではどうなるだろうか。総和は二直角以上になる。しかもその三角形が大きければ，それにしたがって総和も大きくなるのである！これは天文学上の，すなわち天体の測定によって確かめられた事実である。以上のことから宇宙が「無限」でないことはわかったと思う。しかし，宇宙は「無限」ではないが，「無限界」であ

ることに変わりはない。なぜかと言うに，どこにも限界がないからである。最近の天文学はさらに一段と精密になって，アインシュタインの主張するように宇宙は有限であるが，たえず拡がりを増していると主張している。ここらでアインシュタインの宇宙論をすっかりつかんでおかないと，こんごの自然科学の進歩についていけなくなると思う。——この課あたりになると，前に読んだところを忘れているようでは内容的に先に進めなくなってしまう。語学の知識と内容の把握が緊密に平行して進まなければ，どちらも中途半端なものになるおそれがある。パラグラフひとつ読破するごとに，けっきょくなにを言っているか，を自問自答しつつ進んでもらいたい。

Die Einsteinsche Raumlehre

Es war eine ziemlich starke Zumutung für den Verstand des normalen Publikums, als vor einigen Jahrhunderten zum erstenmal behauptet wurde, daß die Erde eine kugelförmige Gestalt besitze. Eine derartige Lehre widersprach ja geradezu allen normalen Vorstellungen; denn überall, * wo man die Erde überblicken konnte, erschien sie als ebene Fläche, und selbst von den höchsten Bergen aus konnte man eine Krümmung der Erdoberfläche nirgends bemerken! Mehr als das: die Lehre von der Kugelgestalt der Erde führte offensichtlich zu ganz absurden Folge- * rungen. Die Bewohner der unteren Erdhälfte mußten dann mit den Füßen nach oben an dieser Kugel herumlaufen, wie z.B. Fliegen an der Zimmerdecke. Diese bedauernswerten Menschen mußten dann in den Weltraum hinunterfallen! *

So führte man gegen die Behauptung der Gelehrten den gesunden Menschenverstand ins Feld und brandmarkte die Lehre der Wissenschaft zu einer weltfremden Spekulation, die der normale Mensch nicht mitmachen könne.

Als dann Kolumbus den ersten Schritt zur Umsegelung *

der Erdkugel machte, als später Magellan die Umschiffung wirklich gelang, da mußte der gesunde Menschenverstand klein beigeben. Und heute gibt es ja wohl niemand, der die Kugelgestalt der Erde ernstlich anzweifelt. Schon der
* junge Volksschüler vermag mit überlegenem Lächeln den Einwand zu widerlegen, die Bewohner der untern Halbkugel müßten herunterfallen. Er wird sogar mit dem Stolz des Wissenden erklären, daß „unten" und „oben" relative Begriffe seien, daß es eine „untere" Halbkugel gar nicht
* geben könne.

Unterdessen sind die Gelehrten gegenüber dem Wissen der damaligen Zeit abermals um ein Stück fortgeschritten und legen dem heutigen Publikum eine Behauptung von ähnlicher Kühnheit vor; und der gesunde Menschenver-
* stand, obschon er seitdem viel gelernt hat, steht wieder einmal in Opposition zu der neuen Lehre. Diese neue Lehre ist die Behauptung Einsteins, daß der Weltraum als Ganzes von kugelartigem Charakter sei und sich nicht, wie man bisher glaubte, ins Unendliche ausdehne.

* Nun wollen wir hier gewiß nicht behaupten, daß es eine einfache Sache sei, der neuen Lehre der Wissenschaft zu folgen. Aber man kann dem anschaulichen Vorstellen, über das doch jeder gesunde Menschenverstand irgendwie verfügt, einige Anhaltspunkte geben. Man kann zum
* Beispiel diejenigen Argumente zusammenstellen, die etwa der Volksschüler des Jahres 2000 vorbringen wird, wenn er die dann schon wohlvertraute Lehre verteidigen soll. Wir wollen das jetzt versuchen.

Zunächst muß man sich darüber klar sein, daß man sich
* den kugelartigen Weltraum nicht vorstellen darf als eine

Kugel, die in einem andern größeren Raum schwebt. Denn der Weltraum ist ja der gesamte Raum, und darum kann es nicht noch Raum außer ihm geben. Die Bezeichnung „kugelartig" ist eben nur ein Vergleich. Es handelt sich hier gar nicht um eine gewöhnliche Kugel. * Nun, wie ist das zu verstehen?

Bei der Kugel unterscheidet man zweierlei: ihre Oberfläche und den durch sie umrissenen Raum. Man sehe zunächst einmal von diesem Raum ab und richte sein Augenmerk ausschließlich auf die Oberfläche, die als solche * etwas Zweidimensionales ist im Gegensatz zum an sich dreidimensionalen Raum. Nun ist die Behauptung der neuen Lehre die: der Weltraum hat als Ganzes diejenigen Eigenschaften, die die Kugeloberfläche hat.

Um den Vergleich mit der Kugel weiter durchzuführen, * müssen wir uns zunächst einmal eine Welt vorstellen, in der alles Geschehen sich auf der Oberfläche einer Kugel abspielt. Wir müssen uns also eine zweidimensionale Welt vorstellen. Ich will gerade nicht behaupten, daß es eine solche wirklich gibt; aber nichts steht uns im Wege, * uns eine solche zu denken. Soviel Phantasie darf ich den lieben Lesern zutrauen, nicht wahr?

Wir müssen uns also eine zweidimensionale Welt vorstellen, in der alles Geschehen sich auf der Oberfläche einer Kugel abspielt. Außerhalb dieser Kugeloberfläche, * ebenso in Innern der Kugel, gibt es nichts, keine Himmelskörper, keine Lichtstrahlen, keine Vorgänge irgendwelcher Art. Würden auf einer solchen Kugel Lebewesen wohnen, die selbst natürlich auch von flächenhafter Gestalt sind, also kleine Scheibchen ohne Dicke, die auf der Kugel *

herumlaufen können, so würden diese Lebewesen mit Recht behaupten, daß ihre Welt nur zwei Dimensionen besitze. Sie können nämlich zwei Stangen überall nur waagerecht aufeinander stellen; eine dritte Stange durch
* den Schnittpunkt senkrecht zu den beiden andern zu stellen, wäre in jener Welt nicht möglich, da diese dritte Stange in die Höhe, die es doch nicht gibt, hinausragen müßte. Aber jene Lebewesen würden sich darüber gewiß gar nicht wundern; es wäre ihnen selbstverständlich, daß es
* nur zwei Dimensionen gibt. Eine dritte Dimension wäre ihnen ein Begriff, oder besser ein Unbegriff, der geradeso inhaltlos sein würde als der einer vierten Dimension für uns. Für Schachspiel würden sie sich sehr bald interessieren, wenn wir es bei ihnen einführten; für Hürden-
* laufen und Stabhochspringen dagegen würden sie kein Verständnis aufbringen.

Könnten jene Lebewesen nun bemerken, daß sie sich auf einer Kugelfläche befinden? Daß sie sich auf (oder besser in) einer Fläche befinden, das würden sie schon
* bald bemerken, sobald sie etwas zu philosophieren beginnen; aber ob sie so leicht auch zur Erkenntnis gelangen würden, daß sie sich auf einer Kugeloberfläche befinden? Ich glaube, schwerlich. Es würde dann mindestens ein anderer Einstein nötig sein.

* Trotzdem wäre es nicht gänzlich ausgeschlossen, daß sie die Kugelform ihrer Welt doch erkennen. Zwar könnten sie es nicht an den dreidimensionalen Eigenschaften der Kugel tun, denn sie könnten nicht quer durch den Innenraum von einer Stelle der Oberfläche in gerader Linie
* zur gegenüberliegenden Stelle gelangen; wohl aber an den

flächenhaften Eigenschaften der Kugel. Zwar wäre es ihnen unmöglich, die Krümmung der Kugel als Wölbung der Fläche zu sehen; denn in dieser Welt würden die Lichtstrahlen selbst auf der Kugelfläche entlanggleiten, da sie ja nicht in den Raum hinauskönnen, und man * könnte also sozusagen um die Kugel herumsehen, die Fläche würde deshalb eben erscheinen, der Weg der Lichtstrahlen würde als gerade Linie angesehen werden. Nur würde man die merkwürdige Entdeckung machen, daß man beim Fortschreiten in gerader Linie schließlich wieder * an seinen Ausgangspunkt zurückkommt! Ja, wenn die Kugel nicht zu groß ist und keine Hindernisse im Wege stehen, würde man, mit dem Fernglas geradeaus blickend, in der unendlichen Ferne schließlich seinen eigenen Hinterkopf sichten! *

Es gibt für diese armen Flächenbewohner noch andere Mittel, die Krümmung zu bemerken. Die Feldmesser würden nämlich bei genauerer Messung bald entdecken, daß da sehr merkwürdige geometrische Gesetze gelten. Nehmen wir mal an, sie bedienten sich dabei des bei uns * üblichen Feldmessungsverfahrens, das man Triangulation heißt: man stellt an den Endpunkten eines großen Dreiecks Winkelmesser auf und mißt die Winkel des Dreiecks aus. Würde man das auf der richtigen Ebene tun und nachher die gemessenen inneren Winkel zusam- * menzählen, so würde, wie jeder weiß, ein Betrag von 180 Grad, das heißt zwei rechte Winkel, herauskommen. Auf einer Kugeloberfläche kommt aber ein größerer Betrag heraus, weil da das Dreieck nicht von drei geraden Linien, sondern von drei sich aufwölbenden Kreisbögen begrenzt *

wird. Jene Feldmesser freilich bemerken keine Wölbung der Dreieckseiten, sondern sehen diese für geradlinig an. Sie würden in ihrer unverbesserlich planimetrischen Denkweise diese merkwürdige Erscheinung nicht ergründen
* können, sie würden es einfach als eine durch Beobachtungen festgestellte Tatsache erklären, daß die Summe der inneren Winkel im Dreieck größer als 180 Grad ist, und zwar um so mehr, je größer das Dreieck ist.

Das sind also die Erlebnisse der Bewohner einer zwei-
* dimensionalen Kugelflächenwelt. Und eben diese Erlebnisse sind es, die wir nun in unsere dreidimensionale Welt übertragen müssen, wenn wir uns den kugelartigen Charakter des Weltraums vorstellen wollen. Unser Weltgeschehen spielt sich völlig innerhalb von drei Raumdimensionen ab.
* Eine Krümmung des Raumes in eine vierte Dimension hinein können wir uns deshalb nicht vorstellen. Wir müssen uns vielmehr auf einen Standpunkt stellen, der der Situation jener Flächenbewohner entspricht; wir müssen uns den kugelartigen Charakter unseres dreidimensionalen Raumes
* nach den Erlebnissen in unserer dreidimensionalen Welt allein ausmalen. Das ist nun gar nicht so schwierig. Wir denken uns wieder Feldmesser an der Arbeit. Auf drei Berggipfeln sei je ein Feldmesser mit seinem Winkelmesser aufgestellt. Jeder kann die beiden andern im Fernrohr
* seines Apparates sehen. Jeder mißt den Dreieckswinkel und notiert ihn in sein Meßbuch. Nachher treffen sie sich im Tal, teilen sich ihre Messungen mit und zählen die Winkel zusammen: sie erhalten dann einen Betrag, der größer ist als 180 Grad. Ein solches Ergebnis mag ja
* unsern Feldmessern sehr merkwürdig vorkommen.

Nun wird freilich nicht behauptet, daß bei irdischen Messungen schon derartige Abweichungen eintreten würden. Anders aber liegt es bei astronomischen Messungen. Würden drei Beobachter auf drei verschiedenen Fixsternen aufgestellt und die Winkel des durch sie gebildeten Dreiecks * messen, so würden sie beim Zusammenzählen mehr als 180 Grad erhalten. Und weiter; würde man in diesem Raum immer in gerader Linie fortschreiten, mitten durch den Raum hindurch, so würde man schließlich von rückwärts an seinen Ausgangspunkt zurückkommen. Auch das * wird von der modernen Astronomie behauptet. Nur daß wir auf einen Magellan des Weltraumes nicht hoffen können, denn der Weltraum ist viel zu groß, als daß er mit einem auch noch so schnellen Fahrzeug durchflogen werden könnte. Der Umfang des Weltraumes in Kilometern aus- * gedrückt, wird nach Einstein mit einer Zahl angegeben, die man mit 26 Stellen schreiben muß. Das ist ja wohl ein bißchen zu lang für eine Weltreise. Wir können infolgedessen mit unseren Fernrohren auch noch nicht um den Raum herumsehen. Derartige Fernen vermag einst- * weilen auch das beste Fernrohr nicht zu durchdringen.

Was wir hier geschildert haben, mag befremdend klingen — aber unvorstellbar ist es gewiß nicht. Die Behauptung Einsteins, daß der Weltraum endlich sei, lässt sich in eine Anzahl durchaus vollstellbarer Einzelheiten auflösen. * Dieser Weltraum ist endlich, denn man kann sich in ihm nicht beliebig weit vom Ausgangspunkt entfernen; vielmehr wird die Entfernung beim Fortschreiten in gerader Linie nur anfänglich größer, während sie nach Erreichung eines größten Wertes wieder abnimmt. Trotzdem ist diese *

Welt unbegrenzt, denn nirgends stößt man an eine Grenze. Unter Grenze des Weltraums versteht man eine Fläche, von der wir sagen müßten, daß die Punkte auf der einen Seite derselben zur wirklich existierenden Welt gehören,
* während die Punkte auf der anderen Seite nicht. Aber der wirkliche Raum besitzt solche Begrenzung nirgends. Vielmehr gehören, wo man auch steht, alle umgebenden Punkte mit zum Raum. Es ist damit gerade so, wie wir es eingangs schon von der Erdoberfläche gesagt haben.
* Wo man auch steht, man sieht seine Umgebung stets als ebenes Flächenstück; und doch schließen sich diese scheinbar ebenen Flächenstücke nicht zu einer großen ebenen Platte, sondern zu einer großen Kugelfläche zusammen. So besteht der Raum auch aus lauter Einzelstücken von
* ganz normalem Charakter, die sich nach allen Richtungen stetig in den übrigen Raum verlängern, und der Beobachter entdeckt deshalb an keiner Stelle eine Grenze des Raumes. Und noch schließen sich alle diese Raumstücke nicht zu einem unendlich großen, sondern nur zu einem
* endlichen Raume zusammen. Man könnte den Weltraum etwa mit Kugeln, sagen wir von der Größe der Erdkugel, ausstopfen. Würde der Beobachter zwischen den Löchern, die die Kugeln zwischen sich lassen, herumklettern, so würde er feststellen, daß jede Kugel an allen ihren Seiten
* von anstoßenden Kugeln berührt wird. Da gibt es keine einzige Kugel, die an einem Rande läge. Würde er aber auf jede Kugel eine Ziffer schreiben, so würde er schließlich finden, daß die Kugeln eine feste Zahl haben. Das heißt, schließlich hat jede Kugel eine Nummer, ist überall
* von numerierten Kugeln ungeben, und eine Kugel hat

die größte Nummer erhalten. Auch hier ist wieder jedes Einzelgebiet von ganz normalem Charakter, nur der Zusammenschluß zu einem endlichen Ganzen ist überraschend.

Der mathematische Philosoph vermag heute diese Zu- *
sammenhänge noch viel genauer auszumalen, als wir es in dieser kurzen Skizze können. Ich glaube daher nicht, daß man heute noch ernstlich von einer Unvorstellbarkeit der Einsteinschen Lehre reden darf. Vielmehr scheint mir die gegenwärtige Situation nicht viel anders zu sein, als die *
Situation zu Kolumbus' Zeiten. Es wird lediglich einige Zeit der Gewöhnung verstreichen müssen, bis man die neue Weltraumlehre als eine vertraute Vorstellung empfindet. Indessen schreitet die Wissenschaft schon wieder fort. Gerade in den letzten Jahren sind gewisse Erkennt- *
nisse der Astronomie zutage getreten, welche die Einsteinsche Lehre noch etwas verwickelter erscheinen lassen. Danach ist der Raum zwar endlich, aber in wachsender Ausdehnung begriffen; wir haben uns als Vergleich also einen Gummiball zu denken, der aufgeblasen wird und *
dessen Oberfläche sich daher ständig ausdehnt. Natürlich handelt es sich bei dieser sich ausdehnenden Oberfläche um ein zweidimensionales Analogon des in Wirklichkeit dreidimensionalen Weltraums.

Daß das nun freilich die letzte Stufe unseres Wissens *
vom Weltraum sei, das wollen wir gewiß nicht behaupten. Im Gegenteil, wenn der Volksschüler des Jahres 2000 das Bild des Einsteinschen Weltraums in sich aufgenommen hat, so wird vermutlich die Wissenschaft schon wieder ein Stück weiter sein und Dinge behaupten, die auch dem *

Publikum jener vorgerückten Zeit recht unverständlich erscheinen würden. Aber das ist nun einmal der Lauf der Welt; und vielleicht ist gerade das so interessant an dieser Welt, daß unser Wissen von ihr ebenso wächst, wie der
* Raum, der uns umfaßt.

Die Einsteinsche[1] Raumlehre[2]

[1] Es war eine ziemlich starke Zumutung[3] für den Verstand des normalen Publikums, als vor einigen Jahrhunderten zum erstenmal behauptet wurde[4], daß die Erde eine kugelförmige Gestalt besitze[5]. Eine derartige[6] Lehre widersprach[7] ja[8] geradezu[9] allen normalen Vorstellungen[10]; denn überall, wo man die Erde überblicken konnte, erschien sie als ebene[11] Fläche, und selbst[12] von den höchsten Bergen aus[13] konnte man eine Krümmung[14] der Erdoberfläche nirgends[15] bemerken!

〔訳〕 Die Einsteinsche Raumlehre アインシュタインの空間論
die Erde 地球は eine kugelförmige Gestalt 球のごとき形態を besitze (三要形: besitzen, besaß, besessen) そなえている daß と, vor einigen Jahrhunderten 数百年前に zum erstenmal はじめて behauptet wurde 主張された als 時, Es それは für den Verstand des normalen Publikums 通常の公衆の理解力にとって eine ziemlich starke Zumutung かなり無理な要求 war であった (数世紀前にはじめて, 地球は球形であるという学説が唱えられたが, 科学知識のとぼしい当時のふつうのひとびとにこの説を理解しろと言っても, それはすこしむりな注文であった)。ja けだし Eine derartige Lehre かかる学説は geradezu 全くもって allen normalen Vorstellungen あらゆるふつうの考え方に widersprach (三要形: widersprechen, widersprach, widersprochen) 矛盾していた (そういう説は当時のふつう一般のひとびとの常識にてんから反していた); denn なぜかと言うに, man 人が die Erde 地球を überblicken konnte 見渡すことのできる wo ところの überall いたるところにおいて (どこで地球を見渡しても), sie 地球は als ebene Fläche 平らな面として erschien (三要形: erschinen, erscheien, erschienen) 見えた, und そして selbst von den höchsten Bergen aus 最高の山嶽 [の上] からでさえ man ひとは eine Krümmung der Erdoberfläche 地球表面の彎曲などというものは nirgends どこにも konnte.....bemerken 認めること [ができなかったからである]!

〔注〕 [1] Einsteinsche -sch の語尾は固有人名に付して形容詞を作る, ただし, その形容詞を大書するところがこの sch 語尾の特徴である。(人名ではなく, 地名ならば -er という無変化語尾をつけることは既出)。例: Weilsche Krankheit「ワイル氏病」, Die Magellansche Wolke「マジェラン

固有名詞の形容詞化語尾 -sch について

星雲」, Faradaysche Gesetze「ファラデイの法則」など。

【2】**Raumlehre**=Raumtheorie. 【3】**starke Zumutung**「むりな注文」という成句。Zumutung は *jemandem etwas zumuten*「あるひとにあることを強要する，押しつけがましく要求する」から作った名詞。【4】**behauptet wurde** に主語がないのは daß ..... 以下にたいする先行詞 es がその直前に省かれているのである。【5】**besitze** besitzen (所有する, *possess*) の第一式接続法 (用法は間接話法)。【6】**derartige**= solche, derlei (これは der Art「そんな種類の」から造った語)。【7】**widersprach** widersprechen「矛盾する，齟齬(そ)する」。齟齬という名詞は Widerspruch.

助辞 ja の一用法「だって……じゃないか」 【8】*ja* は「じつに」,「じっさい」,「あきらかに」であるが，この助辞がはいると，その文はよく「だって……じゃないか!」(「けだし……なるをもってなり」,「現に……なんだから」) という意味になりがちであるから，ja には「けだし」とか「現に」とか「だって」とかいったような用法もあると言ってもよいわけである。だから，ほとんど denn「なぜなら」とおなじとも言えるであろう。

【9】**geradezu**「まったくもって」,「(こうなるともう)ぜんぜん」など。schon と言ってもいいが，schon よりも強い。Das ist geradezu empörend!「それはまたあんまりひどすぎるじゃないか!」【10】**allen normalen Vorstellungen** これは三格 (widersprach と結合するから)。normal は「標準的」,「ふつうの」(durchschnittlich または Durchschnitts- とおなじ)。Vorstellung は Begriff とおなじ (専門語としては二者はちがうが，ふつうはおなじに使う:「考え方」,「観念」)。【11】**eben** この語は，副詞としては「ちょうど」(eben so など) あるいは「たったいま」(soeben とおなじ) であるが，形容詞としては「平らな」「平面の」である: ebene Geometrie (平面幾何学, Planimetrie)。【12】**selbst**「……すら」,「……さえ」,「……だに」。【13】**von……aus**「……から」。(aus は余計なようだが，von だけでは念がはいらないからこんなものを追加する習慣がある)。【14】**Krümmung**「彎曲」: 形容詞は krumm「曲った」，動詞は krümmen「曲げる」。「曲線」は krumme Linie. Krümmung に不定冠詞がついているのは，そもそも彎曲**などというものは**……[存在しない] の意だからである。【15】**nirgends**=nirgendswo (*nowhere*).

[2] Mehr als das[16]: die Lehre von[17] der Kugelgestalt der Erde führte[18] offensichtlich[19] zu ganz absurden[20] Folgerungen[21]. Die Bewohner der unteren[22] Erdhälfte[23] mußten

dann[24] mit den Füßen nach oben[25] an dieser Kugel[26] herumlaufen[27], wie z.B. Fliegen an der Zimmerdecke[28]. Diese bedauernswerten[29] Menschen mußten[30] dann in den Weltraum hinunterfallen!

〔訳〕 Mehr als das それより以上だ（それだけではない）: die Lehre von der Kugelgestalt der Erde 地球の球形の学説（地球はまるいという説）は offensichtlich あきらかに zu ganz absurden Folgerungen まったく不合理な結論に führte 導いた。dann その場合には（もしも地球がまるいとすれば）Die Bewohner der unteren Erdhälfte 地球の下半部の居住者たちは，z.B. (=zum Beispiel) 例えば Fliegen an der Zimmerdecke 部屋の天井にとまっている蝿 wie のように，mit den Füßen nach oben 上の方へ足をむけて an dieser Kugel この［地球という］球［の表面］を mußten.....herumlaufen 走り回らねばならない（とひとは言った）。dann もしもそうとすれば Diese bedauernswerten Menschen この憐れむべきひとびとは in den Weltraum 宇宙の中へ mußten.....hinunterfallen（三要形: hinunterfallen, fiel hinunter, hinuntergefallen）落ちていくにちがいなかった！［と当時のひとびとは考えた］。

〔注〕【16】**mehr als das** これは ja（英の *nay*）「いや，それのみかは」とおなじ意の間投的挿入句。【17】**die Lehre von.....**「.....に関する学説」Lehre や Theorie にはたいてい von をつけ，二格をすぐ結びつけないことになっている：Darwins Theorie（または Lehre）von der Entstehung der Arten「種の起源に関するダーウィンの学説」，die Lehre vom Gegensatz des Yin und Yang「陰陽の対立についての説」など。【18】**führte.....zu.....** は「.....に導く」（これは輸入の直訳語らしい）で，「.....の勢のおもむくところ，やがてはついに.....という結果になる」という時に用いる。【19】**offensichtlich**=offenbar「あきらかに，だれが考えてもわかるとおり」。【20】**absurd**「むちゃくちゃな，非常識な，不条理な，支離滅裂な」。【21】**Folgerung**「結論」（ほんとうはむしろ「推論」）で，Schluß とおなじ。「推論する」は folgern, schließen. 【22】**unteren** unter は前置詞としてのみならず，形容詞としても用いる（反対は ober）。副詞としては unten「下に」，oben「上に」である。【23】**Erdhäfte**「半球」これは Hemisphäre（西半球，東半球という「半球」というギリシャ系語のドイツ訳）。Hemi は halb の意，Sphäre は球（Kugel），Halbkugel におなじ。【24】**dann**「しかる時は」:「そうだとすると」(in diesem Falle)。【25】**mit den Füßen nach oben** 直訳すると「足をもって上方へ」だが「足を上の方へむけて」の意。前に mit dem einen Fuße im Grabe「片足を半分墓の中へつっこんだ」という文例があったのを思い出すこと。【26】**an dieser Kugel** an は物の表面を指す，auf でもその意になるが，ここは逆立しているわけだから，わざわざ厳密に an と言ったからおも

しろいのである。【27】**herumlaufen** herum「……し回る」は umher (英 *to and fro*)「あちこち」と同意，ただしすこし誇張し滑稽化する意がある。「おまえはどこをうろつき回っていた?」(Wo hast du die ganze Zeit herumgetrieben?) など。【28】**Decke**「天井」。床(ゆか)の方は Boden, Fußboden. 【29】**bedauernswert** bedauern は「かわいそうに思う」，-wert (または würdig, 英: *worth*) は「……の価値ある」。bemerkenswert「注目にあたいする」，bewundernswert「おどろくべき，驚嘆すべき」など。

扮役的直接法について 【30】**mußten** これが直接法の過去になっているところに目をとめること。(ひとつ前の mußten もおなじ)。müßten「……せねばならないはずだが」とでもあるならわかるが，「せねばならなかった」と断言してあるのはどういうわけであろうか? これが，ずっと前に触れたことのある「Indicativus mimicus 扮役的直接法」または「直接引用」である。Sie *sagten*: diese bedauernswerten Menschen *müssen* aber in den Weltraum hinunterfallen! と言うかわりに，sagten という過去形を省いて，müssen という現在形を暴力的に過去にかえてしまうことがドイツ語ではひじょうにはやるのである。おしまいの！の印に注意すればこの関係はなおよくわかるはずである。

[3] So[31] führte man gegen die Behauptung der Gelehrten den gesunden Menschenverstand[32] ins Feld[33] und brandmarkte[34] die Lehre der Wissenschaft zu einer weltfremden[35] Spekulation[36], die der normale Mensch nicht mitmachen[37] könne.

Als dann Kolumbus den ersten Schritt zur Umsegelung[38] der Erdkugel machte, als später Magellan[39] die Umschiffung wirklich gelang[40], da mußte der gesunde Menschenverstand klein beigeben[41].

〔訳〕 So こういうふうに man [当時の] ひとびとは gegen die Behauptung der Gelehrten 学者たちの主張に対して den gesunden Menschenverstand 常識を führte ……ins Feld くりだし (学者の説を撃破するために常識という武器をもちだし) und て die Lehre der Wissenschaft 学問の説くところを，der normale Menschen 通常人が nicht mitmachen könne 追随することのできない die ところの zu einer weltfremden Spekulation 世間ばなれした空論であると brandmarkte 烙印をおしてしまった。

dann ついで Kolumbus コロンブスが den ersten Schritt zur Umsegelung der Erdkugel 地球周航のための最初の一歩を machte 決行した Als 時, später その後で die Umschiffung 周航 [の業] が wirklich 実際に Magellan マジェランに gelang (三要形: gelingen, gelang, gelungen) 成功した (マジェランがほんとうに地球周航に成功した) als 時, それを見て der gesunde Menschenverstand 常識は mußte..... klein beigeben (三要形: beigeben, gab bei, beigegeben) [先の鼻息はどこへやら] すごすごと屈服してしまった。

〔注〕 [31] **so**「かくのごとく」,「上述のごとく」。auf diese Weise とも dergestalt ともいう。 [32] **der gesunde Menschenverstand** *common sense* に相当する「常識」という熟語。Mutterwitz「母ゆずりの智恵」とも言う。 [33] **führte.....ins Feld**「もちだす」,「おっとりだす」(槍, なぎなたをおっとりだす, などの),「.....を切札に出す」という成句。Feld は戦場で, 元来は, とっておきの精鋭などを戦場に「くりだす」ことを言ったもの。 [34] **brandmarken**「烙印をおす」, (zu:「.....として」) すなわち「レッテルをつける」, したがって「.....だと言って葬り去る」こと。「折り紙をつける」のとは反対で, 悪い方にしか用いない。stempeln「判をおす」とも言う。——穏便なところでは bezeichnen「.....呼ばわりする, ...と名づける」ともいう, この方は善悪を問わず, 用いる。 [35] **weltfremd**「世の中では親しまれない」「世間ばなれのした」。 [36] **Spekulation** 思弁。すなわち「微妙すぎるやっかいな理窟」,「現実の基礎から足の浮いた, 理窟のための理窟」である。この語にはべつに「投機」の意もあることをついでに記憶すること。 [37] **mitmachen** 行動をともにする, などと言う「ともにする」である。 [38] **Umsegelung**「周航」das Segel「帆」から segeln「航海する」。つぎにでる Umschiffung とおなじ。 [39] **Magellan** 人名だが, 文法的に三格であることは, gelang (gelingen, gelang, gelungen) との関係からわかるはず。 [40] **gelang** gelingen「成功する」の過去形。これは三格とともに用い, Etwas gelingt mir.「あることが私に成功する」というふうに用いる。だから Magellan は三格。 [41] **klein beigeben** これは成句で, いやいやに折れてでる。しぶしぶ兜をぬぐことを言う。つまり, 大きなことを言っておきながら, 形勢不利と見るや, いままでの鼻息にも似ず, いいかげんな負け惜しみを言いながら鳴りをひそめてしまうことを「小さく横へ添えてだす」というわけである。おそらくカルタの方からでもきた言葉であろう。

[4] Und heute gibt es ja wohl[42] niemand, der die Kugelgestalt der Erde ernstlich anzweifelt[43]. Schon der

junge Volksschüler vermag[44] mit überlegenem Lächeln den Einwand zu widerlegen, die Bewohner der untern Halbkugel müßten[45] herunterfallen. Er wird sogar[46] mit dem Stolz des Wissenden[47] erklären, daß „unten" und „oben" relative Begriffe seien[48], daß es eine[49] „untere" Halbkugel gar[50] nicht geben könne.

〔訳〕 Und そして heute 今日においては ja wohl おそらく, die Kugelgestalt der Erde 地球が円い形のものであることを ernstlich 本気で anzweifelt 疑う der ような niemand ひとはひとりも gibt es 存在 [しないであろう]。Schon der junge Volksschüler 幼い小学生ですら, die Bewohner der untern Halbkugel 下半球の居住者たちは müßten herunterfallen 落ちていくだろう, den Einwand [という] 抗議を mit überlegenem Lächeln えらそうな微笑を浮かべて vermag.....zu widerlegen 反駁することができる。sogar それどころか Er (Volksschüler) 小学生は mit dem Stolz des Wissenden 識者の誇りをもって, „unten" und „oben" 「下」と「上」は relative Begriffe 相対的な概念 seien である daß ということ, eine „untere" Halbkugel「下」半球 [などというものは] es.....gar nicht geben könne そもそもありえない daß ということを, wird.....erklären 説明するであろう (それだけならまだしも, ひょっとすると小学生は, いっぱし物識り顔でつぎのような説明さえしかねない, すなわち, 「上」とか「下」というのは相対的な概念にすぎず, したがって「下」半球なぞというものは全然あるわけのものでないと)。

〔注〕 [42] **ja wohl** ja は「あきらかに」, wohl は「おそらく」。 [43] **anzweifelt** たんに「疑う」は zweifeln という自動詞だが,「.....を疑う」,「.....を疑問視する」(すなわち否定する, にちかい) は bezweifeln, anzweifeln, in Frage stellen である。 [44] **vermag**「できる」三要形: vermögen, vermochte, vermocht. これは können とおなじ, ただし zu+不定法と結びつく: Ich vermag Berge zu versetzen.「私は山をも移すことができる」。 [45] **müßten** müssen の接続法第二式, 用法は間接話法。すなわち den Einwand を説明する間接引用文だから (逐語訳を見よ)。もし die Bewohner が単数ならば第一式の müsse でも第二式の müßte でもかまわない。 [46] **sogar**「それどころか」で, 文頭ならば ja「いやそれどころか」を用いる。 [47] **der Wissende**「知れる者」wissen の現在分詞 wissend の名詞化。der Sachverständige「くろうと, 専門家」とも der Eingeweihte「その方の事情に明るいひと」とも言う。 [48] **seien** は wären と言ってもおなじ。 [49] **eine** を用いたのは, やはり「.....などというものは」だからである。 [50] **gar nicht**=überhaupt nicht「そもそも.....ない」。

[5] Unterdessen[51] sind die Gelehrten gegenüber[52] dem Wissen der damaligen Zeit abermals[53] um[54] ein Stück fortgeschritten und legen dem heutigen Publikum eine Behauptung von ähnlicher Kühnheit vor; und der gesunde Menschenverstand, obschon[55] er seitdem viel gelernt hat, steht wieder einmal[56] in Opposition[57] zu der neuen Lehre. Diese neue Lehre ist die Behauptung Einsteins, daß der Weltraum als Ganzes von[58] kugelartigem[59] Charakter sei und sich nicht[60], wie man bisher glaubte, ins Unendliche ausdehne.

〔訳〕 Unterdessen そうこうするあいだに die Gelehrten 学者たち（学界）は gegenüber dem Wissen der damaligen Zeit その当時（地球が円形であることがわかったころ）の知識にくらべて abermals またもや um ein Stück 一道程 sind.....fortgeschritten（三要形：fortschreiten, schritt fort, fortgeschritten）進歩した und そして dem heutigen Publikum こんにちの世人に eine Behauptung von ähnlicher Kühnheit［地球は円いという主張と］似たような大胆さのひとつの主張（似たような思いきった主張）を legen.....vor 提出している；und そして der gesunde Menschenverstand 常識は——er（der gesunde Menschenverstand）それは seitdem それ以来（地球が円いことを発見して以来）viel 大いに gelernt hat 学ぶところがあった obschon にもかかわらず——wieder einmal またもや zu der neuen Lehre この新説にたいして steht .....in Opposition 反対の立場をとっている。Diese neue Lehre その新しい学説とは，der Weltraum als Ganzes 全体としての宇宙は von kugelartigem Charakter 球のごとき性質をもったもの sei であり und したがって，man 世人が bisher 在来 glaubte 信じていた wie ように，ins Unendliche 無限なものへ sich nicht.....ausdehne 延長するものでない（無限の拡がりをもったものでない）daß という die Behauptung Einsteins アインシュタインの主張 ist である。

〔注〕【51】**unterdessen**「さるほどに」，「そうしているあいだに一方では」。ほかに unterdes, indes, indessen, während der Zeit なども用いる。【52】**gegenüber**「.....にたいして」の意の三格支配前(後)置詞，ここでは im Vergleich zu.....「.....にくらべて」の意。【53】**abermals** zum zweitenmal, schon wieder「またもや，またぞろ」。【54】**um ein Stück** um は「いくらいくら分だけ」の「だけ」にあたる。Die Amerikaner sind uns um 100 Jahre voraus.「アメリカ人はわれわれにくらべて百年だけすすんでいる」，Ich habe mich um 10 Minuten verspätet.「私は十分間だけ遅

刻した」——ein Stück (英: *a piece*) は ein Stück Weges「ちょっとした道のり」の略形。【55】**obschon**=obgleich, obwohl, obzwar, wenn auch. 【56】**wieder einmal** 前出 abermals と同意。wiederum「またもや」と言うにおなじ。とくに einmal だけの意味を考えてはいけない。通俗体のドイツ語では，こういう場合の副詞に，形式的に einmal (略して mal) をつけるだけの話である。(abermals の方では mals の形でついている) たとえば früher einmal「もうせん」, später einmal「このつぎ」, zunächst einmal「さしずめ，まずもって」など。【57】**in Opposition zu.....** (英語とぜんぜんおなじ)「.....と対立して」——in Opposition zu A stehen は A と「対立する，張り合う」。

形容詞的用法の von 【58】**von kugelartigem Charakter sei** この von の用法に注意 (英の *of*): *Power without knowledge is of no value.*=Macht ohne Wissen ist von keinem Wert.「知識を伴わざる権力は無価値である」; *This is a rule of general application.*=Das ist eine Vorschrift von allgemeiner Anwendung.「これは一般的適用性を有する規則である」。*affairs of great moment*=Angelegenheiten von großem Belang「重大事件」など。

形容詞語尾 -artig の意味 【59】**kugelartig**「球のような，球的」kugelförmig「球の形をした」ではなく，球「的」性質，というところに相対理論のむずかしいところがみえている。-artig, -haft の二語尾は，「的」と言いたい時に，どんな名詞にでも付加してよいことになっている。

【60】**nicht** の位置に注意せよ！ wie man bisher glaubte, nicht ins Unendliche ausdehne だったらどんな意味になるか?

[6] Nun wollen wir hier gewiß[61] nicht behaupten, daß es eine einfache Sache sei, der neuen Lehre der Wissenschaft zu folgen. Aber man kann dem anschaulichen[62] Vorstellen[63], über das[64] doch[65] jeder gesunde Menschenverstand irgendwie[66] verfügt, einige Anhaltspunkte geben. Man kann zum Beispiel diejenigen Argumente[67] zusammenstellen[68], die etwa der Volksschüler des Jahres 2000 vorbringen[69] wird, wenn er die[70] dann[71] schon wohlvertraute[72] Lehre verteidigen soll. Wir wollen das jetzt versuchen.

〔訳〕 Nun さて wir われわれは hier ここで, der neuen Lehre der Wissenschaft この科学の新説に zu folgen ついていく (この新学説を理解する) es ことが eine einfache Sache やさしいこと sei である, daß と gewiß けっして wollen.....nicht behaupten 主張しようとするものではない。Aber しかしながら man われわれは, jeder gesunde Menschenverstand 常識が doch おそらく über das それを irgendwie なんらかの方法で verfügt もっている [ところの] (常識のあるひとなら誰でももっている), dem anschaulichen Vorstellen 具体的表象力に einige Anhaltspunkte 二三の拠りどころを kann.....geben あたえることができる (むずかしい抽象論ではふつうの常識人にはわかりにくいだろうが, 直覚的にわかるような説明法なら誰でもとりつけると思うから, そういう直覚的な把握の手がかりになるような二三の説明を試みることにしよう)。zum Beispiel [そのためには] たとえば, der Volksschüler des Jahres 2000 紀元二千年ごろの小学生が, wenn もしも er (Volksschüler) 彼が die dann schon wohlvertraute Lehre そのころにはもうよく知っているこの学説を verteidigen 弁護する soll ことになった [なら], etwa おそらく vorbringen wird もちだすであろう die ような, diejenigen Argumente 論証法を Man ひとは kann.....zusammenstellen まとめることができる (紀元二千年ごろになれば小学生でも宇宙が球的性格のものであることくらいは知っているであろうが, そのころの小学生に向かって, どうして宇宙が球的なものであるかと訊ねたら, おそらく, それはこういうわけだから, と言ってもちだしそうな理窟が今からでも考えられる)。Wir われわれは das そういう論証法を jetzt いま wollen..... versuchen こころみてみよう。

〔注〕 【61】 **gewiß**=freilich「もちろん」。【62】 **anschaulich** 直観的 (intuitiv) とよく似ているが, ちょっとちがう。実物をまざまざと眼前に「見る」ように「具体的」にはっきりしたものをいう。dem anschaulichen Vorstellen は anschauenden Vorstellen と言ってもよく, つまり「具体的な考え方」のこと。【63】 **Vorstellen** Vorstellungsvermögen「表象能力」。いったいわれわれの心意の機能をさすときには, 哲学者の最近の傾向として, すべて不定法の名詞化を用いる。Das Denken は「われわれの思惟能力」あるいは時には「考えるわれら」とすらもなる。Dem Denken dünkt das Tun ein Wunder.「われわれの思惟には, 行為は奇蹟と思われる。——行動する時は無我夢中でやるが, あとで理窟で考えてみると, 自分ながらよくもやったと思って感心する」など。【64】 **über etwas verfügen**「あるものを持つ」という成句。(verfügen を, 左右する, とか, 駆使する, とかいうふうに思ってはいけない) 【65】 **doch** 関係文が「.....であるはずの.....」という意の時には, そのどこかに doch を挿入する。(ja でも ja doch でもおなじ) Ich finde meine Schule, die ich doch vorhin hier abgezogen, nicht mehr.「さっきここで脱いだはずの靴がもうみつからない」。【66】 **irgendwie** なんらかの方法で。(どういうふうに持っているとはっきり言うわけにはいかないが, 十人十色で, めいめいそれぞれの様式でもっている, の意) 【67】 **Argument,** *n.* いわゆる「理窟」のこと。【68】 **zusammenstellen** 揃えてひとに見

せる，まとめて述べる。【69】**vorbringen** ひと前に「だす」，すなわち「もちだす」。【70】**die** は Lehre の冠詞。ここを冠飾句でなく，関係文に直せば：wenn er die Lehre, die dann schon wohlvertraut geworden sein wird, verteidigen soll. 【71】**dann**「その当時においては」(紀元 2000 年頃には)。【72】**wohlvertraut**「よく慣れた，あたりまえになってしまった」=selbstverständlich, gang und gäbe, geläufig「あたりまえの，慣れっこの，わかりきった」。

[7] Zunächst muß man sich darüber klar[73] sein, daß man sich den kugelartigen Weltraum nicht vorstellen darf[74] als eine Kugel, die in einem andern größeren Raum schwebt. Denn der Weltraum ist ja[75] der gesamte Raum, und darum kann es nicht noch Raum außer ihm geben. Die Bezeichnung[76] „kugelartig" ist eben[77] nur ein Vergleich. Es handelt[78] sich hier gar nicht um eine gewöhnliche Kugel. Nun, wie ist das zu verstehen[79]?

〔訳〕 Zunächst さしあたって man われわれは darüber つぎの点に関して muß..... sich.....klar sein はっきりした理解を持つ必要がある，daß すなわち man われわれは den kugelartigen Weltraum 球的な宇宙を，in einem andern größeren Raum 他のもっと大きな空間に schwebt 浮游している die ところの als eine Kugel ひとつの球と sich.....nicht vorstellen darf 考えてはならない。Denn なぜならば der Weltraum 宇宙は ja あきらかに der gesamte Raum 空間の総体 ist であり，und darum したがって außer ihm この空間のほかに noch なお更に Raum 空間が kann es nicht..... geben 存在するわけがない [からである]。Die Bezeichnung „kugelartig"「球状の」という名称は eben つまり nur ein Vergleich たんなる比較にすぎない ist のである。hier この場合においては eine gewöhnliche Kugel 通常の球が Es handelt sich..... gar nicht um 問題になっているのでは全然ない (球状といっても通常の球のことを言っているのではない)。Nun さて [それならば]，das そのこと (この場合の球状) は wie いかに ist.....zu verstehen (三要形：verstehen, verstand, verstanden) 理解すべきであろうか?

〔注〕【73】**sich darüber klar sein** は「そのことを明瞭に理解する」という熟語。klar の代わりに im klaren とも言う。【74】**darf** は Kugel のつぎにくるべきものであるが (またそこへおいてもよいのであるが) Kugel には関係文が結びつくから，わざと前にだしたもの。【75】**ja** は，denn があれば要らないようなものであるが，「わ

かりきったことだが」の意を強めるために入れたもの。【76】**Bezeichnung**=Benennung, Ausdruck. 【77】**eben** はちょうど日本語の「つまり」にあたる。also「だからつまり」と言ってもよいところ。【78】**Es handelt sich hier gar nicht um eine gewöhnliche Kugel**=Es ist gar nicht eine gewöhnliche Kugel.=Es ist hier nicht von einer gewöhnlichen Kugel die Rede. —— Es handelt sich um..... は,「それは.....である」という慣用句。なお 37 頁第 2 課注 47 を参照せよ。【79】**Wie ist das zu verstehen?**=Wie soll man das verstehen?

[8] Bei[80] der Kugel unterscheidet man zweierlei[81]: ihre Oberfläche und den durch sie umrissenen Raum. Man sehe[82] zunächst einmal[83] von diesem Raum ab[84] und richte[85] sein Augenmerk[86] ausschließlich auf die Oberfläche, die als solche[87] etwas Zweidimensionales[88] ist im Gegensatz zum[89] an sich[90] dreidimensionalen Raum. Nun ist die Behauptung der neuen Lehre die[91]: der Weltraum hat als Ganzes diejenigen Eigenschaften, die die Kugeloberfläche hat.

〔訳〕 Bei der Kugel 球にあっては man われわれは zweierlei 二者を unterscheidet (三要形: unterscheiden, unterschied, unterschieden) 区別する: [すなわち] ihre Oberfläche その表面 und と den durch sie umrissenen (三要形: umreißen, umriß, umrissen) Raum その表面によって画された空間 [である]。Man われわれは zunächst einmal まずさしあたり von diesem Raum この空間から sehe.....ab (三要形: absehen, sah ab, abgesehen) 目をそらそう (この空間を問題外におこう) und そして sein Augenmerk われわれの注意を ausschließlich もっぱら auf die Oberfläche 表面に [だけ] richte 向けてみよう, die 表面は als solche そのものとして (表面そのものは) im Gegensatz zum an sich dreidimensionalen Raum 本来三次元である空間に対して etwas Zweidimensionales 二次元的なもの ist である。Nun ところで die Behauptung der neuen Lehre 新しい学説の主張は die 次のごときもの ist である: [すなわち] der Weltraum 宇宙は als Ganzes 全体として, die Kugeloberfläche 球の表面が hat もっている die ような, diejenigen Eigenschaften そういう性質を hat もっている。

〔注〕【80】**Bei der Kugel**「球においては」というのは bei dem Begriff Kugel「球という概念に際しては」, すなわち, 球と言えばすぐ.....を考える, という「と言えば」

にあたるのが bei である。【81】**zweierlei** ふたつの事柄を，ふたつの点を。ein Doppeltes とも言う。(数詞にはすべて -erlei の語尾をつけて，「いく種類」の意の形容詞，名詞をつくる。)【82】**sehe** (接続法第一式，要求話法)。【83】**zunächst einmal**「まず」，「まずもって」(einmal は無意味，前出の wieder einmal などとおなじ)。【84】**von……absehen** は「……は仮にしばらく措く」，「……をしばらく度外視する」，「……をしばらく考慮の外におく」(文字どおりには「……から眼をそらす」，ab- は weg- とおなじ)。【85】**richte** 接続法第一式，要求話法。richten「向ける」。【86】**Augenmerk** 眼，観点，眼のつけどころ，注意。

als solche, an sich「それ自体」 【87】**als solche**「それ自体が」(an sich とも言う)；ここでは主語が Oberfläche だから solche は女性になっているが，主語が男・中性ならば als solcher, als solches というふうに変わってくる。たとえば「穴という奴は，それ自体としては，無いものである」(Das Loch ist als solches nichts.) と言う。つまり，そこだけ何もないのを称して穴というのだから。けれども，穴があいているのを指して「ここにひとつの穴が……無い」というのはちょっとおかしい。実際としてはやはり穴が「ある」と言う。けれども，やかましく言うと，穴という概念は，「それ自体としては」(すなわち，「やかましく，厳密に言うと」) 無いことを意味するのである……といったようなばかな理窟も言えるわけである。そのほか，「人間はそれ自体としては野獣より弱い」(Der Mensch als solcher ist schwächer als die Bestie.) などと言う。つまり，武器をもったり，文明世界にいたりするからこそ獣物より強いのだが，それ自身としては，すなわち付帯物を全部のけてしまって，動物と同じ裸一貫として考えれば，人間ほど弱いものはない，という意味である。——原文の箇所もそれで，平面というものは，あいまいに考えれば，その上に山があったり川があったりして，多少こう厚みもあり凸凹もあるように思うが，やかましく言うと，すなわち平面という「観念」を厳密に考えてゆくというと（これが als solche)，ふたつのダイメンションしかない，というわけである。つまり「観念を厳密に考えると」という際にこの als solche という文句を用いる。学問というものは，いつも観念を厳密に考えるものだから，学問書を読んでいるとしょっちゅうこの句におめにかかる。

【88】**Zweidimensionales**「二次元的なもの」: Dimension「次元」ということばを知らない人はまさかあるまい。その形容詞が dimensional である。これはそれをまた名詞化したもの。だから etwas Zweidimensionales と言うかわりにたんに zweidimensional と言ってもよいところ。【89】**im Gegensatz zu……** は「……とはちがって」という前置句。英: *contrary to……* 【90】**an sich**=als solcher (前注 87)。【91】**die** これは冠詞ではなく，指示代名詞である。diese と言うにおなじ。女性になっているのは Behauptung をうけるから。日本語なら「こうである」と言う時に，ドイツ語で

は「これである」と言うのである。Mein Entschluß ist der.「私の決心はこうである」; Meine Ansicht ist die.「私の意見はこうである」など。

[9] Um den Vergleich mit der Kugel weiter durchzuführen[92], müssen wir uns zunächst einmal eine Welt vorstellen, in der alles Geschehen sich auf der Oberfläche einer Kugel abspielt[93]. Wir müssen uns also eine zweidimensionale Welt vorstellen. Ich will gerade[94] nicht behaupten, daß es eine solche[95] wirklich gibt; aber nichts steht uns im Wege[96], uns[97] eine solche zu denken. Soviel[98] Phantasie darf ich den lieben Lesern zutrauen[99], nicht wahr[100]?

〔訳〕 den Vergleich mit der Kugel 球との比較を weiter さらにつづけて Um..... durchzuführen 行なうためには, wir われわれは zunächst einmal さしあたり, alles Geschehen あらゆる現象が auf der Oberfläche einer Kugel 球の表面において sich .....abspielt 展開する in der ところの, eine Welt ひとつの世界を müssen.....uns .....vorstellen 思い浮かべてみる必要がある。also つまり Wir われわれは eine zweidimensionale Welt ひとつの二次元的世界を müssen uns.....vorstellen 思い浮かべてみなくてはならない。eine solche [Welt] かかる世界が wirklich 実際に es.....gibt 存在する daß と, Ich 私は gerade 必ずしも will.....nicht behaupten 主張するものではない; aber しかし eine solche かかる世界を uns.....zu denken 想像する [にあたって], nichts なにものも steht uns im Wege われわれの道をふさがぬ (想像することはすこしもさしつかえないと思う)。Soviel Phantasie この程度の想像力を ich 私は den lieben Lesern 親愛なる読者たちに darf.....zutrauen 期待していいと思うが, nicht wahr どうだろう?

〔注〕 [92] **weiter durchführen**「さらに先へと遂行する」とは「続行する」,「そのまま続けてゆく」。 [93] **sich abspielen**「行なわれる」, すなわち geschehen とほぼ同意であるが, すでに主語が Geschehen だからそれが使えなかったわけである。 [94] **gerade nicht**「必ずしも.....とは言わぬ」,「別に.....というわけでない」という時には nicht に gerade を添える。(英: *not exactly*)。 [95] **eine solche**「そんなもの」。(すなわち solche zweidimensionale Welt) [96] **nichts steht uns im Wege** *jemandem im Wege stehen* は「あるひとに対して, その行手に立ちふさがっている」と

いう原意から,「あるひとを妨げる」の意に用いる。Nichts hindert uns.「なにものもわれわれを妨げない」と言ってもいい。すなわち「……するになんのさしつかえがあろう」,「……したってかまわない」という成句である。【97】**uns denken** sich etwas denken「自分にあるものを考えてみる」は,すでにいくどか出てきた sich etwas vorstellen とおなじ。【98】**soviel**「それくらいの」,「その程度の」。【99】**zutrauen**「期待する」,すなわち「もっているものと考える」こと。その用法は jemandem etwas zutrauen「あるひとにあることを期待する」。

nicht wahr? の用法 【100】「そうでしょう?」「そうでしょうね?」と念をおす言葉。英語ではその時々でいろいろだが,ドイツ語はその前に使った動詞のいかんにかかわらず,いつも nicht wahr でいいから便利である。フランス語もそうで,いつも *n'est-ce pas?* でよい。ただ英語だけがやっかいである。

[10] Wir müssen uns also eine zweidimensionale Welt vorstellen, in der alles Geschehen sich auf der Oberfläche einer Kugel abspielt. Außerhalb[101] dieser Kugeloberfläche, ebenso im Innern[102] der Kugel, gibt es nichts, keine Himmelskörper, keine Lichtstrahlen, keine Vorgänge irgendwelcher[103] Art. Würden[104] auf einer solchen Kugel Lebewesen[105] wohnen, die selbst natürlich auch von flächenhafter[106] Gestalt sind, also kleine Scheibchen[107] ohne Dicke, die auf der Kugel herumlaufen können, so würden diese Lebewesen mit Recht[108] behaupten, daß ihre Welt nur zwei Dimensionen besitze.

〔訳〕 also ゆえに Wir われわれは, alles Geschehen あらゆる現象が auf der Oberfläche einer Kugel ひとつの球の表面において sich……abspielt 展開する in der ところの, eine zweidimensionale Welt 二次元的世界なるものを müssen uns……vorstellen 想像してみなくてはならない。Außerhalb dieser Kugeloberfläche この球の表面の外にも, ebenso また im Innern der Kugel この球の内部にも, gibt es nichts 何物も存在しない, keine Himmelskörper 天体もなければ, keine Lichtstrahlen 光線もなく, keine Vorgänge irgendwelcher Art どんな種類の事象もない。auf einer solchen Kugel かかる球の上に, natürlich 言うまでもなく selbst それ自身 auch また von

flächenhafter Gestalt 平面的な形体をもって sind いる, also したがって, auf der Kugel この球の上を herumlaufen (三要形: herumlaufen, lief herum, herumgelaufen) können 走り回ることのできる die ところの, kleine Scheibchen ohne Dicke 厚さのない小さな円板 [である] Lebewesen, die ところの生物が Würden.....wohnen もしも住んでいるとしたならば, so そうしたら diese Lebewesen これらの生物が, ihre Welt かれらの世界は nur zwei Dimensionen ふたつの次元しか besitze もっていない daß と, würden.....behaupten 主張しても mit Recht 無理からぬことと言わなければならない。

〔注〕【101】**außerhalb**「.....の外部に」という二格支配前置詞。反対は innerhalb「.....の内部に」。【102】**im Innern** のかわりに innerhalb でもよい。【103】**irgendwelcher:**「なんらかの」。(Art [種類] が女性で, それを二格にしたもの)——keine Vorgänge irgendwelcher Art のかわりにたんに keinerlei Vorgänge「いかなる種類のできごとも」と言ってもよい。【104】**würden** これは würde (英の *would*, あるいはここではむしろ *should*) の複数形。文頭の定形倒置は Wenn..... と同じ。約束話法の構文規則を思い出すこと!【105】**Lebewesen** Wesen というのは, べつに「本質」という場合のみではなく, たんに「物」,「者」(英の *being*) という時にも用いる。【106】**flächenhaft**「平面的」-haft という語尾が -artig とおなじく, ちょうど「的」にあたり, かつどんな名詞にでも添えて用いられることは前に述べておいた。

縮小名詞 Diminutiv -chen -lein 【107】**Scheibchen:** Scheibe「盤, 平盤」の縮小名詞。たびたびでてくるこの「縮小名詞」についてちょっと一言。-chen あるいは -lein という中性語尾を付すると「小さな.....」という名詞ができる。(変音に注意)

der Mann (男)	das Männchen	小男
	das Männlein	(同)
die Hand (手)	das Händchen	お手て
	das Händlein	(同)
das Haus (家)	das Häuschen	小屋
	das Häuslein	(同)

「小さい」というのはごく一般的に言っての話で, 詳しく言うと,「かわいい」の意になったり (Händchen), またひやかすような, 軽蔑的な意をおびたり (Männlein「おっさん」), またぜんぜん意味が変わったり (「雄」を Männchen, 雌を Weibchen という, たとえ象の雌雄といえども!) する。すべて中性である。

【108】**mit Recht behaupten**「道理をもって主張する」とは, 主張するのはむりもないことだ, の意。

[11] Sie können nämlich zwei Stangen überall nur waagerecht[109] aufeinander[110] stellen; eine dritte Stange durch den Schnittpunkt senkrecht zu den beiden andern zu stellen, wäre[111] in jener Welt nicht möglich, da diese dritte Stange in die Höhe, die es doch nicht gibt, hinausragen müßte. Aber jene Lebewesen würden sich darüber gewiß gar nicht wundern; es wäre ihnen selbstverständlich, daß es nur zwei Dimensionen gibt. Eine[112] dritte Dimension wäre ihnen ein Begriff, oder besser[113] ein Unbegriff[114], der geradeso[115] inhaltlos sein würde als der[116] einer vierten Dimension[117] für uns. Für[118] Schachspiel würden sie sich sehr bald interessieren, wenn wir es bei ihnen einführten; für Hürdenlaufen und Stabhochspringen dagegen würden sie kein Verständnis aufbringen[119].

〔訳〕 nämlich つまり Sie かれらは zwei Stangen 二本の棒を überall いかなる場所においても nur waagerecht 水平にしか können.....aufeinander stellen 積み重ねることができないのである; eine dritte Stange 三本目の棒を durch den Schnittpunkt 先の [二本の棒の] 接点を通して senkrecht zu den beiden andern 二本の棒にたいして垂直に zu stellen 立てる [などという] ことは, in jener Welt この世界においては wäre.....nicht möglich 不可能であろう, da けだし diese dritte Stange この三本目の棒は in die Höhe 上方へ——doch ところが die 上などというものは es.....nicht gibt [この世界には] 存在しないのである——hinausragen müssen 突き出るにちがいないから。Aber しかし jene Lebewesen この生物たちは darüber そのこと (上や下がないということ) を gewiß きっと würden sich.....gar nicht wundern 少しも不思議に思わないだろう; nur zwei Dimensionen たんにふたつの次元しか es.....gibt 存在 [しない] daß という es ことは ihnen かれらにとって selbstverständlich 自明のこと wäre である [から]。Eine dritte Dimension 第三次元などというものは ihnen かれらにとっては, für uns われわれにとって der (=Begriff) einer vierten Dimension 第四次元の概念が geradeso.....als [そうである] とちょうど同じように inhaltlos sein würde 無内容であるだろう (ナンセンスであるだろう) der ところの, ein Begriff 一つの概念, oder besser むしろ ein Unbegriff 怪概念 wäre であるだろう (現代のわれわれにとって第四次元の概念はナンセンスなものにすぎないが, 第二次元の世界に住んでいる生物にも第三次元などというものはやはり同様にナンセンスな概念, 否むしろ怪概念であろう)。Für Schachspiel 将棋にたいしてならば sie かれらは sehr bald すぐに würden.....sich

interessieren 興味を感ずるであろう，wenn もしも wir われわれが es (Schachspiel) それを bei ihnen かれらの世界に einführten 紹介したならば；dagegen これに反して für Hürdenlaufen und Stabhochspringen ハードル・レースと棒高跳にたいしては sie かれらは würden.....kein Verständnis aufbringen (三要形：aufbringen, brachte auf, aufgebracht) なんの理解をも示さないであろう。

〔注〕【109】**waagerecht**「水平に」。Wage（または Waage）は秤のこと。反対は lotrecht, senkrecht「垂直，鉛直」。【110】**aufeinander**＝eine auf die andere「ひとつを他の上に」と言うにおなじ。「上下に重ねて」である。おなじように ineinander「おたがいに入り組み合って」，nebeneinander「ならんで，平行して」など，いろいろな似た語がある。【111】**wäre** 約束話法。【112】**eine** たびたび注したごとく，「.....などというものは」の時にはかならず不定冠詞。【113】**oder besser**「あるいは(こうも言える)」という成句。*besser gesagt* または *um es besser auszudrücken*「それを，もっとよく言い表わせば」とも言える。

前綴り un- の意味 【114】**Unbegriff** un- という前綴りは，反対を意味する以外に，「とんでもない」，「とんだ」，「けしからぬ」，「無茶な」，「なってない」（とにかく「悪い」の意）の意に用いる。たとえば Tugend は徳だが，Untugend は悪徳である，Unmensch はべつに人間以外の動植物ではなく，「ひとでなし」である。その他 Unstaat「とんでもない国家」，Unbuch「悪書」など。ついには「どえらい」，「莫大な」まで意味する：Unsumme「巨額」，Untiefe「どえらい深いところ」など。ここの Unbegriff は，したがって「荒唐無稽の概念」である。

【115】**geradeso.....als.....** は ebenso.....wie とおなじ。「.....とまったくおなじく.....」。【116】**der**＝derjenige「.....のそれ」（冠詞ではなく，指示代名詞）。【117】**vierten Dimension**「第四次元」第四次元などというものはあるはずがない。（ただし，あるひとびとに言わせると，時間というものが第四次元だそうであるが，それはまあ論外である）【118】**für** これは sich für etwas interessieren「あるものに興味をもつ」の für etwas の部分を強調先置した形。【119】**Verständnis aufbringen**「理解」を示す，というのは，もちろん，興味と関心をもつことである。

[12] Könnten jene Lebewesen nun bemerken, daß sie sich auf einer Kugelfläche befinden? Daß sie sich auf (oder besser in) einer Fläche befinden, das würden sie schon bald bemerken, sobald sie etwas zu philosophieren be-

ginnen; aber ob sie so leicht auch zur Erkenntnis gelangen würden, daß sie sich auf einer Kugeloberfläche befinden? Ich glaube, schwerlich[120]. Es[121] würde dann mindestens ein anderer[122] Einstein nötig sein.

Trotzdem wäre es nicht gänzlich ausgeschlossen[123], daß sie die Kugelform ihrer Welt doch[124] erkennen. Zwar könnten sie es[125] nicht an[126] den dreidimensionalen Eigenschaften der Kugel tun, denn sie könnten nicht quer durch den Innenraum von einer Stelle der Oberfläche in gerader Linie[127] zur gegenüberliegenden[128] Stelle gelangen; wohl aber[129] an den flächenhaften Eigenschaften der Kugel.

〔訳〕 nun ところで jene Lebewesen 前述の生物たちは, sie かれらが auf einer Kugelfläche 球の表面に sich.....befinden (三要形: befinden, befand, befunden) いる daß ということを, bemerken 認める Könnten ことができるであろうか? sie かれらが auf (oder besser in) einer Fläche ある表面の上, というよりはむしろ表面の「内」に sich.....befinden 存在している Daß ということ, das そのことに sie かれらは, sie (二番目の sie) かれらが etwas 多少 zu philosophieren 哲学することを beginnen (三要形: beginnen, begann, begonnen) はじめる sobald やいなや, schon bald ただちに bemerken 気づく würden であろう; aber しかし sie (第二の sie) かれらが auf einer Kugeloberfläche 球の表面に sich.....befinden 存在している daß という zur Erkenntnis 認識に auch も sie かれらは so leicht そう容易に gelangen 到達する würden であろう ob か? schwerlich [それは] むずかしい, [と] Ich 私は glaube 思う。dann その際には (それがわかるためには) mindestens すくなくとも ein anderer Einstein もうひとりのアインシュタインが Es würde.....nötig sein 必要であろう。

Trotzdem とは言うものの, sie かれらが die Kugelform ihrer Welt かれらの世界が球形であることを doch やはり結局は erkennen (三要形: erkennen, erkannte, erkannt) 認識する daß という, es ことは wäre.....nicht gänzlich ausgeschlossen (三要形: ausschließen, schloß aus, ausgeschlossen) ぜんぜん除外されたことではないだろう (ありえないことではない)。Zwar なるほど sie かれらは an den dreidimensionalen Eigenschaften der Kugel 球の三次元的性質によっては könnten.....es nicht.....tun かかる認識に達することはできないであろう, denn なぜかと言うに sie かれらは quer durch den Innenraum [球の] 内部を横断して von einer Stelle der Oberfläche 表面のある箇所から in gerader Linie 一直線に zur gegenüberliegenden Stelle 相対する箇所へ könnten nicht.....gelangen 達することができないからである; wohl aber し

かし an den flächenhaften Eigenschaften der Kugel 球の平面的性質によってなら[そうした認識に達することができるかもしれない]。

〔注〕【120】**schwerlich** kaum とおなじ。これらは日本語の「とても」とおなじく，否定詞である。schwerlich のかわりに nicht と言っても意味はかわらない。【121】**Es** 文の非人称化（「基礎入門編」§125）。【122】**ein anderer Einstein** もうひとりのアインシュタインが，とは，われわれの世界におけるアインシュタインのごとき人間が。【123】**ausgeschlossen**「除外されたこと」とは，unmöglich「不可能」，undenkbar「考えられない」の意。会話で Ausgeschlossen！と言えば，「そんなことは考えられない」すなわち「だめです！」，「そんな話はない！」，「そりゃうそだ」などの意。【124】**doch** この語を強く発音して読め。trotz alledem「それにもかかわらず」と言うにおなじ。【125】**es.....tun**「それをなす」とは，直前の die Kugelform ihrer Welt erkennen をくりかえすかわりである。【126】**an**「.....を見て」，「.....を観察して」。【127】**in gerader Linie**=geradesweges. 【128】**gegenüberliegend** 英：*opposite* 【129】**wohl aber** sondern とほぼおなじ。

[13] Zwar wäre es ihnen unmöglich, die Krümmung der Kugel als Wölbung[130] der Fläche zu sehen; denn in dieser Welt würden die Lichtstrahlen selbst[131] auf der Kugelfläche entlanggleiten[132], da sie ja nicht in den Raum hinauskönnen[133], und man könnte also sozusagen um die Kugel herumsehen[134], die Fläche würde deshalb eben erscheinen, der Weg der Lichtstrahlen würde als gerade Linie angesehen[135] werden. Nur würde man die merkwürdige Entdeckung machen, daß man beim Fortschreiten in gerader Linie schließlich wieder an seinen Ausgangspunkt zurückkommt! Ja, wenn die Kugel nicht zu groß ist und keine Hindernisse im Wege stehen, würde man, mit dem Fernglas geradeaus blickend[136], in der unendlichen Ferne schließlich seinen eigenen Hinterkopf sichten[137]!

〔訳〕 Zwar なるほど die Krümmung der Kugel 球の彎曲を als Wölbung der Fläche 平面の膨らみとして zu sehen 見る es ことは ihnen かれらにとって wäre.....

unmöglich 不可能であろう：denn なぜなれば in dieser Welt この世界においては die Lichtstrahlen selbst 光線すら, sie (Lichtstrahlen) それが in den Raum 空間の中へ nicht.....hinauskönnen 射してることができない da.....ja ものである以上, auf der Kugelfläche entlanggleiten (三要形: entlanggleiten, glitt entlang, entlanggeglitten) 球面上に沿って滑る würden であろうから, und.....also それゆえに man かれらは sozusagen 言わば um die Kugel herumsehen 球のまわりをぐるりと回って見通す könnte ことができよう, deshalb したがって die Fläche 表面は eben 平らに erscheinen 見える würde であろう, der Weg der Lichtstrahlen 光線の [すすむ] 道は als gerade Linie 直線と angesehen (三要形: ansehen, sah an, angesehen) werden 見なされる würde であろう。Nur ただし, beim Fortschreiten in gerader Linie 直線にすすんでいくうちに schließlich ついには wieder ふたたび an seinen Ausgangspunkt もとの出発点へ zurückkommt (三要形: zurückkommen, kam zurück, zurückgekommen) かえってくる daß という die merkwürdige Entdeckung 不思議な発見を würde man.....machen かれらはなすであろう！Ja 否, wenn もしも die Kugel 球が nicht zu groß ist あまり大きくなく und かつ keine Hindernisse なんらの障碍も im Wege stehen 道をふさいでいないとすれば, man かれらは, mit dem Fernglas 望遠鏡をもって geradeaus blickend まっすぐ前方を眺めて見たならば, in der unendlichen Ferne 無限の遠方に schließlich ついには seinen eigenen Hinterkopf 自分自身の後頭部を sichten 認める würde であろう！

〔注〕【130】**Wölbung** wölben「丸みをつける・ふくらます・もりあげる」。【131】**die Lichtstrahlen selbst**=sogar die Lichtstrahlen. 【132】**entlanggleiten** entlang (英: *along*) gleiten (英: *glide*).

Ich kann nicht hinaus. 私は表へでられない 【133】**hinauskönnen**「外へ出ることができる」。話法の助動詞は, 方向を指す語とともに用いれば, もはや gehen などの動作動詞を必要としない。Ich muß hinaus.「私は外出せねばならぬ」。Darf ich herein?「入ってもよろしいですか?」。Er will nach Paris.「彼はパリに行こうとしている」。【134】**um die Kugel herumsehen**「球の周囲をめぐって見る」というのは, 球の表面に沿って曲線的に視線をはしらせること。もちろん視線はラジオの長波みたいにそうはいかない。ふつうよく言うことに, Er kann um die Ecke sehen.「彼は角を曲って視線を向けることができる」すなわち, 物の陰にあるものまでが見えるということを, こういうふうにおもしろく言うのである。【135】**als.....angesehen werden**=für.....gehalten werden 【136】**mit dem Fernglas geradeaus blickend** =wenn man mit dem F. geradeaus blickt 【137】**sichten** sehen とけっきょく同意であるが,「遠望する」という特殊な語である。

[14] Es gibt für diese armen Flächenbewohner noch andere Mittel, die Krümmung zu bemerken. Die Feldmesser würden nämlich bei[138] genauerer Messung bald entdecken, daß da[139] sehr merkwürdige geometrische Gesetze gelten[140]. Nehmen wir[141] mal[142] an, sie bedienten[143] sich dabei des bei uns üblichen[144] Feldmessungsverfahrens[145], das man Triangulation heißt[146]: man stellt an den Endpunkten eines großen Dreiecks Winkelmesser auf und mißt[147] die Winkel des Dreiecks aus. Würde man das auf der richtigen Ebene tun und nachher die gemessenen inneren Winkel zusammenzählen, so würde, wie jeder weiß, ein Betrag[148] von 180 Grad, das heißt zwei rechte Winkel, herauskommen[149].

〔訳〕 für diese armen Flächenbewohner このかわいそうな平面居住者たちにとって, die Krümmung 彎曲を zu bemerken 認知すべき noch andere Mittel なお他の方法が Es gibt 存在する。nämlich すなわち Die Feldmesser 測量師は bei genauerer Messung [ふつうよりも] 正確に測量するならば, bald やがて entdecken [つぎのような事実を] 発見する würden であろう, daß すなわち da そこには sehr merkwürdige geometrische Gesetze ひじょうに奇妙な幾何学の法則が gelten (三要形: gelten, galt, gegolten) 支配する [ことを]。wir われわれは mal ちょっと Nehmen.....an (三要形: annehmen, nahm an, angenommen) [こう] 仮定してみよう [かりに], sie (Feldmesser) かれらが dabei その際 (測量に当たって), man ひとが Triangulation 三角測量 heißt と呼んでいる (三角測量と呼ばれている) das ところの, des bei uns üblichen Feldmessungsverfahrens われわれのもとでふつう行なわれている測量法を bedienten sich 用いた [と考えてみよう]: an den Endpunkten eines großen Dreiecks ひとつの大きな三角形の頂点に Winkelmesser 測角器を man stellt.....auf 据えつけ und そして die Winkel des Dreiecks その三角形の [三つの] 角を [man] mißt.....aus (三要形: ausmessen, maß aus, ausgemessen) 量る。[もしも] man かれらが das そのことを auf der richtigen Ebene 正しい平面上において tun 行ない und そして nachher 後で die gemessenen (三要形: messen, maß, gemessen) inneren Winkel 測定した内角を zusammenzählen 合計する Würde ならば, so そうすれば, wie jeder weiß だれでも知っているように, ein Betrag von 180 Grad 総計百八十度, das heißt 換言すれば zwei rechte Winkel 二直角が herauskommen (三要形: herauskommen, kam heraus, herausgekommen) 生ずる würde であろう。

〔注〕【138】**bei genauerer Messung**「より正確なる測量に際しては」とは，genauer

bei..... の句と wenn..... の文

messend あるいは wenn sie genauer messen「もしかれらが，なおも正確に測っていくならば」の意。wenn の文は，簡単であればたいてい bei..... の句によって表現できる：「天気がよかったら」は bei schönem Wetter または Wenn das Wetter schön ist.「条件が変らなければ」は bei gleich bleibenden Bedingungen または Wenn die Bedingungen die gleichen bleiben.
【139】**da:** 英語の *there*（「基礎入門編」§125）にあたる。主文章なら Es gelten sehr merkwürdige Gesetze だが，副文章では es を用いるかわりに，英語とおなじ da を用いるのである。【140】**gelten**「通用する」，「支配する」。【141】**nehmen wir .....an** 命令法の一種 【142】**mal** (einmal の異形)「ちょっと」，「こころみに」，「まあ」。【143】**bedienten** 形は接続法第二式，間接話法。sich eines Dinges bedienen「あるものを用いる」，二格支配ゆえ des Feldmessungsverfahrens と二格になっている。【144】**üblich**「習慣の」，「ふつう行なわれている」，「慣用の」。【145】**Verfahren,** *n.*=Methode, *f.* 【146】**heißt:** heißen, hieß, geheißen この動詞は自動詞として「呼ばれる」，「と称する」の意にも，またこの場合のように他動詞として nennen, bezeichnen と同意にも使われる。【147】**mißt** これでわかる通り，messen「量る」という動詞は sprechen などとおなじ型である。(messen, maß, gemessen; ich messe, du mißt, er mißt) 【148】**Betrag,** *m.*=Summe, *f.* 合計。【149】**herauskommen**「(結果が)生ずる・(答が)出る」。

[15] Auf einer Kugeloberfläche kommt aber ein größerer Betrag heraus, weil da das Dreieck nicht von drei geraden Linien, sondern von drei sich aufwölbenden[150] Kreisbögen[151] begrenzt[152] wird. Jene Feldmesser freilich[153] bemerken keine Wölbung der Dreieckseiten, sondern sehen diese für geradlinig an. Sie würden in ihrer unverbesserlich[154] planimetrischen Denkweise diese merkwürdige Erscheinung nicht ergründen[155] können, sie würden es einfach[156] als eine durch Beobachtungen festgestellte[157] Tatsache erklären[158], daß die Summe der inneren Winkel im Dreieck größer als 180 Grad ist, und zwar[159] um so[160] mehr, je größer das Dreieck ist.

〔訳〕 aber ところが Auf einer Kugeloberfläche 球の表面においては ein größerer Betrag それより大なる総計が kommt.....heraus 出てくる（球の表面においては三つの角の総計は百八十度以上になる), weil なぜかと言うに da そこにおいては das Dreieck 三角形は nicht von drei geraden Linien 三つの直線によってではなく sondern して von drei sich aufwölbenden Kreisbögen 三つのふくれ上がった円弧によって begrenzt wird 境界づけられているから（球の表面においては，三角形の三辺は三つの直線ではなくて，三つのもりあがった弧線だから)。jene Feldmesser 先の測量師たちは freilich もちろん keine Wölbung der Dreieckseiten 三角形の三辺のふくれには bemerken 気がつかない sondern で diese 三辺を für geradlinig 直線的なものと sehen..... an 考える。Sie かれらは in ihrer unverbesserlich planimetrischen Denkweise かれらの度しがたく平面幾何学的な考え方において（平面幾何学的な考え方に慣れきっているので) diese merkwürdige Erscheinung この不思議な現象を nicht ergründen können 究理することができない würden であろう，die Summe der inneren Winkel im Dreieck 三角形の内角の総和は größer als 180 Grad ist 百八十度より大であり，und zwar しかも，das Dreieck 三角形が je größer.....ist 大きくなればなるほど，um so mehr それだけ［総和も］大になる daß という es ことを sie かれらは einfach あっさりと als eine durch Beobachtungen festgestellte Tatsache 観察によって確かめられた事実だと erklären 言明する würden であろう。

〔注〕［150］**sich aufwölbend** 自分をもりあげるところの。もりあがる，ふくらんだ，凸面の。［151］**Kreisbogen,** *m*. 円弧。Kreis「円」，Bogen「弓，アーチ弧」。［152］**begrenzen**=umreißen「画する」。［153］**freilich** もちろん，なるほど(=zwar)。［154］**unverbesserlich** verbessern「改める，矯正する」より。(度しがたく平面幾何的な，なんと言っても平面幾何的考え方の改まらない)。［155］**ergründen**「究める」=sich erklären「解明する」。［156］**einfach** かんたんに，あっさりと，わけもなく，たんに。［157］**festgestellt** feststellen「認識する，認める，認知する」。［158］**erklären** 説明する，ではなくて，als, für とともに用いるときには「言明する，宣言する，……と言いはなつ」。［159］**und zwar**「しかも」(時には「ただし」)。［160］**um so**=desto「ますます」つぎの je と対照する。

[16] Das sind also die Erlebnisse der Bewohner einer zweidimensionalen Kugelflächenwelt. Und eben diese Erlebnisse sind es[161], die wir nun in unsere dreidimensionale Welt übertragen müssen, wenn wir uns den kugelartigen Charakter des Weltraums vorstellen wollen. Unser Weltgeschehen spielt sich völlig innerhalb von drei Raum-

dimensionen ab. Eine Krümmung des Raumes in eine vierte Dimension hinein[162] können wir uns deshalb nicht vorstellen. Wir müssen uns vielmehr auf einen Standpunkt stellen, der der Situation jener Flächenbewohner entspricht: wir müssen uns den kugelartigen Charakter unseres dreidimensionalen Raumes nach den Erlebnissen in unserer dreidimensionalen Welt allein ausmalen[163].

〔訳〕 also つまり Das これが die Erlebnisse der Bewohner einer zweidimensionalen Kugelflächenwelt 二次元的球面世界に居住するひとびとの経験 sind なのである。Und そして eben diese Erlebnisse ほかならぬかかる経験こそ, wir われわれが nun さていよいよ, den kugelartigen Charakter des Weltraums 宇宙の球的性格を wenn wir uns.....vorstellen wollen 想像しようと思えば, in unsere dreidimensionale Welt われわれの三次元的世界へ übertragen müssen 移して考えなくてはならぬ die ところの es もの sind なのである。Unser Weltgeschehen われわれの世界の現象は völlig ぜんぜん innerhalb von drei Raumdimensionen 三次元の空間内で spielt sich.....ab 生起する。deshalb それゆえ wir われわれは Eine Krümmung des Raumes in eine vierte Dimension hinein 空間が第四次元へ曲りこむなどということを können.....uns.....nicht vorstellen 想像することができない。vielmehr むしろ Wir われわれは, der Situation jener Flächenbewohner 先の平面居住者の状況に entspricht (三要形: entsprechen, entsprach, entsprochen) 該当する der ような auf einen Standpunkt ひとつの立場へ müssen uns.....stellen われわれ自身をおかなくてはならない: wir われわれは den kugelartigen Charakter unseres dreidimensionalen Raumes われわれの三次元的空間の球的性格を nach den Erlebnissen in unserer dreidimensionalen Welt allein われわれの三次元的世界における経験のみにしたがって müssen uns.....ausmalen 想像するよりしかたがない。

〔注〕 **[161] sind es, die.....** ここの関係を逐語訳の方でよく研究していただきたい。es を die でうけるはずはないのであるが,「.....するのは.....である」という場合には, その.....によって関係代名詞の性数を決定するのである。 **[162] eine Krümmung des Raumes in eine vierte Dimension hinein** 直訳すると,「第四次元の中へむかっての, 空間の彎入」つまり, 空間というものが, 元来存在しないはずの第四次元の中へギュッと曲がり込んでいる, という妙な表現であるが, 妙であるだけに, 言わんとするところがはっきりうかがわれる。in.....hincin「.....の中へむかっての」。 **[163] ausmalen**「[心に] 描いてみる」。*Sich etwas ausmalen* という形で覚えておくこと。

[17] Das ist nun gar nicht so schwierig. Wir denken uns wieder Feldmesser an der Arbeit. Auf drei Berggipfeln sei[164] je[165] ein Feldmesser mit seinem Winkelmesser aufgestellt. Jeder kann die beiden andern im Fernrohr seines Apparates sehen. Jeder mißt den Dreieckswinkel und notiert ihn in sein Meßbuch. Nachher treffen sie sich im Tal, teilen sich ihre Messungen mit[166] und zählen die Winkel zusammen: sie erhalten[167] dann einen Betrag, der größer ist als 180 Grad. Ein solches Ergebnis mag[168] ja unseren Feldmessern sehr merkwürdig vorkommen.

〔訳〕 nun ところで Das このことは so schwierig それほどむずかしい ist.....gar nicht ことでは全然ない。Wir われわれは wieder もういちど Feldmesser an der Arbeit 測量師が仕事するところを denken uns 想像してみよう。Auf drei Berggipfeln 三つの山の頂上に je それぞれ ein Feldmesser mit seinem Winkelmesser 一人の測量師が測角器をもって aufgestellt 配置されて sei いると仮定しよう。Jeder 測量師のひとりひとりは die beiden andern 相棒のふたりを im Fernrohr seines Apparates 測量具の望遠鏡によって kann.....sehen 望むことができる。Jeder 測量師は den Dreieckswinkel [それぞれの] 三角形の一角を mißt 測定し und そして ihn その角を in sein Meßbuch 測量手帳へ notiert 記入する。Nachher あとで sie 三人は im Tal [山をおりて] 平地で treffen.....sich 集合する, ihre Messungen かれらの測量の結果を teilen sich.....mit 教え合う und そして die Winkel [三つの] 角を zählen..... zusammen 加算する: dann その時 sie かれらは, größer ist als 180 Grad 百八十度より大きい der ところの einen Betrag 総計を erhalten 得る。Ein solches Ergebnis かかる経験は ja あきらかに unseren Feldmessern これらの測量師たちには sehr merkwürdig きわめて不思議なことに mag.....vorkommen (三要形: vorkommen, kam vor, vorgekommen) 思われるであろう。

〔注〕【164】**sei** 要求話法。すなわち sei aufgestellt で「配置されてあらんことを」(すなわち「据えつけたものと仮定しよう」)。【165】**je**「おのおの」,「それぞれ」である。(jeder という語はがんらい je der「各々その」と言ったところからきている)。【166】**mitteilen**「伝える」,「伝達する」,「通知する」。【167】**erhalten**=gewinnen 【168】**mag** muß とおなじで,「.....するに相違ない」。

[18] Nun wird freilich nicht behauptet[169], daß bei irdischen[170] Messungen schon[171] derartige Abweichungen[172] eintreten[173] würden. Anders[174] aber liegt es bei astronomischen Messungen. Würden drei Beobachter auf drei verschiedenen Fixsternen aufgestellt und die Winkel des durch sie gebildeten Dreiecks messen, so würden sie beim Zusammenzählen mehr als 180 Grad erhalten. Und weiter[175]: würde man in diesem Raum immer[176] in gerader Linie fortschreiten, mitten durch den Raum[177] hindurch, so würde man schließlich von rückwärts an seinen Ausgangspunkt zurückkommen. Auch das wird von der modernen Astronomie behauptet.

〔訳〕 Nun さて freilich もちろん, bei irdischen Messungen 地球上の測量にあたって schon 早くも derartige Abweichungen かかる偏差が eintreten (三要形: eintreten, trat ein, eingetreten) würden 現われる daß と wird.....nicht behauptet 主張するわけではない。aber しかし bei astronomischen Messungen 天文学上の測定に際しては Anders liegt es 事情がちがってくる。drei Beobachter 三人の観測者が auf drei verschiedenen Fixsternen 三つの異なった恒星に aufgestellt 配置され und そして die Winkel des durch sie gebildeten Dreiecks その三つの恒星によって形づくられた三つの角を messen 測る Würden ならば, so そうすれば sie かれらは beim Zusammenzählen 合計の時には mehr als 180 Grad 百八十度以上を würden.....erhalten (三要形: erhalten, erhielt, erhalten) 得るであろう。Und weiter それだけではない: [もしも] man われわれが in diesem Raum この空間 (宇宙) を immer in gerader Linie どこまでも一直線に mitten durch den Raum hindurch 空間のまっただなかを貫いて würde.....fortschreiten 前進しつづけるであろうならば, so そうすれば man われわれは schließlich ついには von rückwärts 背後から an seinen Ausgangspunkt われわれの出発点へ würde.....zurückkommen かえってくるであろう。Auch das このこともまた von der modernen Astronomie 現代の天文学によって wird.....behauptet 主張されている。

〔注〕 [169] **wird.....behauptet** この文の主語はどれか? (「基礎入門編」§86)。[170] **irdisch** Erde と関係した形容詞。irden「土製の」, irdisch「地上の, 地球上の」。[171] **schon**「すでに」,「はやくも」(というのは, 地球上ではたいした距離ではないから,「まだ」そんな偏差は生じないわけである)。[172] **Abweichung,** *f*. ab-

weichen「それる，偏する」より。【173】**eintreten**=beginnen, entstehen「生ずる」。【174】**anders** この語は so の反対で，換言すれば nicht so である。es liegt anders (es liegt nicht so) で，「這般(しゃはん)の事情はべつである」，「話がすこしちがってくる」，「関係が異る」という熟語。【175】**und weiter**「さらに一歩を進めて言えば」あるいは「しかのみならず」という間投的挿入句。完全に言うとすれば und jetzt gehen wir noch einen Schritt weiter. 【176】**immer**=immerzu「どんどんと，どこまでも」。【177】**mitten durch den Raum hindurch** mitten は「まっただなかを」という副詞。durch.....hindurch は「.....を貫いて」。

[19] Nur daß[178] wir auf[179] einen Magellan[180] des Weltraumes nicht hoffen können, denn der Weltraum ist viel zu groß, als[181] daß er mit einem auch noch so[182] schnellen Fahrzeug durchflogen[183] werden könnte. Der Umfang des Weltraumes, in Kilometern ausgedrückt, wird nach Einstein mit einer Zahl angegeben, die man mit 26 Stellen[184] schreiben muß. Das ist ja wohl ein bißchen[185] zu lang für eine Weltreise. Wir können infolgedessen[186] mit unseren Fernrohren aucn noch nicht um den Raum herumsehen[187]. Derartige Fernen vermag einstweilen[188] auch[189] das beste Fernrohr nicht zu durchdringen.

〔訳〕 Nur daß ただし wir われわれは auf einen Magellan des Weltraumes 宇宙のマジェランが [出現することを] nicht hoffen können 期待することはできない，denn なぜならば der Weltraum 宇宙は，er (Weltraum) それが mit einem auch noch so schnellen Fahrzeug たとえどれほど速力の早い乗物をもってしても durchflogen (三要形: durchfliegen, durchflog, durchflogen) werden könnte 横断飛行されうる als daß にしては，viel zu groß あまりにも広大すぎる ist のである [から] (なぜならば宇宙はあまりに広大であるから，どんなに速力の早い乗物をもってしても横断しきるということは不可能だからである)。nach Einstein アインシュタインによれば，Der Umfang des Weltraumes 宇宙の周囲は，in Kilometern ausgedrückt キロメートルで表わすと，man われわれが mit 26 Stellen 二十六桁をもって schreiben muß 書かねばならぬ die ような mit einer Zahl 数をもって wird.....angegeben (三要形: angeben, gab an, angegeben) 挙げられる (アインシュタインの説では，宇宙の周囲は，キロメートルで表わすと，二十六桁ぐらいの数になる)。Das これ (この数) は für eine Weltreise 世

界旅行をするにしては ja wohl あきらかに ist.....ein bißchen zu lang すこしばかり遠すぎる。infolgedessen それゆえ Wir われわれは auch また mit unseren Fernrohren 望遠鏡をもって noch nicht まだ können.....um den Raum herumsehen 宇宙をぐるりとひとめぐり眺めとおすことはでき [ない]。auch das beste Fernrohr 最上の望遠鏡ですらも einstweilen 当分は Derartige Fernen かかる距離を vermag..... nicht zu durchdringen (三要形: durchdringen, durchdrang, durchdrungen) 貫通する (眺めとおす) ことはできない。

〔注〕 【178】 **nur daß.....** は,「ただし」という形式と思ってよろしい。ただし,そのつぎはもちろん定形後置の従属文になる。 【179】 **auf** これは auf.....hoffen「.....を期待して待つ, ...の到来を待つ」の auf. 【180】 **Magellan** 世界一周をした人物。einen Magellan des Weltraumes というのは, 史実の Magellan を ein Magellan des Weltmeeres と考えて, それと一幅対をなす第二の「宇宙旅行のマジェラン」と言ったわけ。

viel zu....., als daß..... について 【181】「.....するにしては, あまりにも.....」という形式である。viel は単に zu を強めるための副詞。「あまりにも」と対応する後の部分は, zu を伴う不定句でもよく, als daß でもよい。als daß の際は, このテキストの場合のごとく接続法第二式 (könnte!) を定形にすることが多い。「私はだまされるにしてはあまりにも頭がよすぎます」: Ich bin viel zu schlau, um mich betrügen zu lassen. あるいは als daß ich mich betrügen ließe. 【182】 **auch noch so**「たとえいかに」という副詞句。 【183】 **durchflogen** 文字通りには「飛び貫く」,「飛び横ぎる」。fliegen「飛ぶ」の三要形: fliegen, flog, geflogen. 【184】 **Stelle** は, 数学の方では「桁」の意に用いる。zweistellig「二桁の」など。 【185】 **ein bißchen**=ein wenig, etwas「少々」。 【186】 **infolgedessen**「それゆえ」: in Folge dessen (それの・結果・として)。 【187】 **um den Raum herumsehen** 前注 134. 【188】 **einstweilen** 当分の間は, ここしばらくは。 【189】 **auch**=selbst, sogar「.....といえども」。

[20] Was wir hier geschildert haben, mag befremdend klingen — aber unvorstellbar ist es gewiß nicht. Die Behauptung Einsteins, daß der Weltraum endlich sei, läßt[190] sich in eine Anzahl durchaus[191] vorstellbarer Einzelheiten[192] auflösen. Dieser Weltraum ist endlich, denn man kann

sich in ihm nicht beliebig weit vom Ausgangspunkt entfernen; vielmehr wird die Entfernung beim Fortschreiten in gerader Linie nur anfänglich größer, während[193] sie nach Erreichung eines größten Wertes wieder abnimmt[194]. Trotzdem ist diese Welt unbegrenzt, denn nirgends stößt man an[195] eine Grenze.

〔訳〕 wir われわれ（筆者）が hier ここで geschildert haben 述べた Was ことは, mag befremdend klingen（三要形：klingen, klang, geklungen）奇異にひびくかもしれない——aber しかし es それは unvorstellbar 考えられないことでは ist.....gewiß nicht けっしてない。der Weltraum 宇宙は endlich 有限 sei である daß という Die Behauptung Einsteins アインシュタインの主張は, in eine Anzahl durchaus vorstellbarer Einzelheiten じゅうぶん想像することのできるいくつかの個別的な事実に läßt sich .....auflösen 分解することができる。Dieser Weltraum この宇宙は endlich 有限 ist である, denn なぜならば man ひとは in ihm この宇宙のなかで beliebig weit 任意の遠方へは kann sich nicht.....vom Ausgangspunkt entfernen 出発点から離れることができ［ない］からである; vielmehr むしろ beim Fortschreiten in gerader Linie 直線に前進していると nur anfänglich ただはじめのあいだだけ die Entfernung 距離が wird.....größer 次第に大きくなる［のみで］während それに反して nach Erreichung eines größten Wertes ある最大値に達した後では sie 距離は wieder 逆に abnimmt（三要形：abnehmen, nahm ab, abgenommen）減少してくるのである。Trotzdem それにもかかわらず diese Welt この世界は unbegrenzt 無限界 ist である, denn けだし nirgends いずこにおいても man われわれは stößt.....an eine Grenze 限界につきあたらないからである。

〔注〕［190］**läßt sich.....auflösen**＝kann man auflösen ［191］**durchaus**「じゅうぶん.....できる」とか,「結構.....できる」とか言う場合の「じゅうぶん」,「結構」にあたる語。［192］**Einzelheiten**＝英 details ［193］**während** コントラストをだすための接続詞, 英 whereas. ［194］**abnimmt** abnehmen「減る」, zunehmen「増す」。［195］**auf**（または **an**）**etwas stoßen**「あるものにぶつかる, つきあたる」, stoßen の三要形：stoßen, stieß, gestoßen.

[21] Unter[196] Grenze des Weltraums versteht man eine Fläche, von der wir sagen müßten, daß die Punkte auf der einen Seite derselben[197] zur wirklich existierenden Welt

gehören, während die Punkte auf der anderen Seite nicht. Aber der wirkliche Raum besitzt solche Begrenzung nirgends. Vielmehr gehören, wo man auch steht, alle umgebenden Punkte mit[198] zum Raum. Es ist damit[199] gerade so, wie wir es eingangs schon von der Erdoberfläche gesagt haben. Wo man auch steht, man sieht seine Umgebung stets als ebenes Flächenstück[200]; und doch schließen sich diese scheinbar[201] ebenen Flächenstücke nicht zu[202] einer großen ebenen Platte, sondern zu einer großen Kugelfläche zusammen.

〔訳〕 Unter Grenze des Weltraumes 宇宙の限界［という言葉］のもとに，wir われわれは eine Fläche［つぎのような］平面を versteht（三要形：verstehen, verstand, verstanden）理解する（われわれが「宇宙の限界」と言う時，それはつぎのような平面のことを言うのである），von der（=Fläche）その平面について wir われわれは sagen müßten［つぎのように］言わなくてはならない（その平面はつぎのような性格をもっている），daß すなわち die Punkte auf der einen Seite derselben この平面の一方の側における点は zur wirklich existierenden Welt 実際に存在する世界に gehören 属する，während ところが die Punkte auf der anderen Seite 他の側における点は nicht［実際に存在する世界に属］さない（と，言わざるをえない）。Aber しかし der wirkliche Raum 実存する空間は nirgends どこにも solche Begrenzung かかる限界を besitzt もって［いない］。Vielmehr むしろ，wo man auch steht われわれがどこに立とうと，alle umgebenden Punkte あらゆる周囲の点は mit ともに zum Raum この空間に gehören 属する（やはりこの空間の一部である）。damit この空間はと言えば，wir われわれが eingangs［本文の］冒頭において schon すでに von der Erdoberfläche 地球の表面について es.....gesagt haben 述べた wie と gerade so ちょうどおなじような Es ist 関係にある。Wo man auch steht どこに立って（眺めて）も，man 人は seine Umgebung 自分の周囲を stets つねに als ebenes Flächenstück 平らな面の一部として sieht 見る；und doch にもかかわらず diese scheinbar ebenen Flächenstücke この一見平らな面の諸断片は schließen sich.....zusammen（三要形：zusammenschließen, schloß zusammen, zusammengeschlossen）集合して nicht zu einer großen ebenen Platte ひとつの大きな平らな板にならない sondern で，zu einer großen Kugelfläche ひとつの大きな球面に［なる］。

〔注〕【196】**unter**「A を B と解する」ということを Man versteht B unter A. と言う。【197】**derselben**=der Fläche「平面の」と言うかわりに用いた指示代名詞。

mit は副詞の場合がある 【198】**mit** この mit はふつうの前置詞の mit ではない。

これは副詞で,「ともに」,「また」,「も」である。mit gehören「いっしょに属する，これまた属する」と考えればわかるだろう。たとえば「わたしもそばで見ていました」は Auch ich sah es an. よりは Ich sah es mit an. と言った方がよい。「われまた罪あり」は Auch ich bin schuld daran. あるいはもっとふつうには Ich bin mit schuld daran. だから共犯者 (Komplice) はドイツ語では Auchschuldiger ではなくて Mitschuldiger である。Mitmensch「同胞」といえば,「これまた人間」の意で,「同胞市民」もドイツ語では「これまた市民」(Mitbürger) と言う。

Es ist mit.....so und so. 這般の関係はしかじかである 【199】 **Es ist damit geradeso, wie.....** これはよく出てくるひとつの形式で，この mit という前置詞のつぎにくる名詞が，いわば意味上の主語であると思ってもよい。すなわち「いったい A という奴は.....である」とか,「そも A の者たる，.....に似たるあり」とか，そういう比喩の際に Es ist mit A..... という形式を用いるのである：たいていは Es ist mit A wie mit B.「いったい A という奴は，まるで B みたいなところがある」(英 *It is with A as with B.*) というふうにふたつならべて用いる。たとえば「そも人の一生たる，あたかも期日未定の死刑の宣告に似たるあり」なら Es ist mit unserem Dasein wie mit einem Todesurteil mit unbestimmter Frist.——「結婚というものは富くじを引くようなものだ」(当たりくじはまあ.....ない!) Es ist mit dem Heiraten wie mit der Lotterie.

【200】 **Flächenstück** Stück とは Teil「一部分」の意。 【201】 **scheinbar** 一見したところ，見かけは。

結果を示す zu と in 【202】 **schließen sich zu.....zusammen**「.....に結集する」というのは「結集して.....になる」ということである。英語ならたいてい into というところを，ドイツ語では *to* (zu) か *in* (in) かのどちらかひとつを用いる。「木を焼いて炭にする」は Holz zur Kohle verbrennen.「炭をすりつぶして粉末にする」は Kohle zu Pulver zerreiben.「塩素とナトリウムが化合して食塩になる」なら Chlor und Natrium verbindet sich zu Kochsalz.「草花をたばねて花束にする」なら Blumen zu einem Strauß verbinden. など。またある場合は in と四格を用いる。「不用の家具類を金に替える」は entbehrliche Hausmobilien in Geld umsetzen,「月給は持ちかえる途中で消えてしまう」は Das Monatsgehalt zerfließt auf dem Nachhauseweg ins Nichts.「問題をこじつけてしゃれにしてしまう」は die Sache in einen Scherz drehen, など。

[22] So[203] besteht[204] der Raum auch aus lauter[205] Einzelstücken von ganz normalem Charakter, die sich nach allen Richtungen stetig[206] in den überigen Raum verlängern, und der Beobachter entdeckt deshalb an keiner Stelle eine[207] Grenze des Raums. Und doch schließen sich alle diese Raumstücke nicht zu einem unendlich großen, sondern nur zu einem endlichen Raume zusammen. Man könnte den Weltraum etwa[208] mit Kugeln, sagen wir[209] von[210] der Größe der Erdkugel, ausstopfen. Würde der Beobachter zwischen den Löchen, die die Kugeln zwischen sich lassen, herumklettern, so würde er feststellen, daß jede Kugel an allen ihren Seiten von anstoßenden[211] Kugeln berührt wird.

〔訳〕 So それと同じように der Raum この空間 auch もまた aus lauter Einzelstücken von ganz normalem Charakter まったく通常の性格をもった個々の断片ばかりから besteht 成りたっている, die この個々の断片は nach allen Richtungen あらゆる方向に向かって stetig しだいに in den übrigen Raum 残りの空間の中へ sich..... verlängern 延長されて行く, und.....deshalb それゆえにまた der Beobachter 観測者は an keiner Stelle いかなる場所においても eine Grenze des Raumes 空間の限界などというものを entdeckt 発見 [しない]。Und doch にもかかわらず alle diese Raumstücke これらすべての空間の断片は schließen sich.....zusammen 結合して nicht zu einem unendlich großen [Raume] ひとつの無限に大きい空間にならない sondern で nur ただたんに zu einem endlichen Raume ひとつの有限な空間に [なるにすぎない]。Man われわれは etwa なんなら (要すれば) den Weltraum 宇宙を mit Kugeln 球をもって, sagen wir たとえば von der Größe der Erdkugel 地球の大きさの [球をもって] könnte.....ausstopfen 塡充することができるであろう。der Beobachter 観測者が, die Kugeln 球が zwischen sich 自分の間に lassen 残しておく die ところの zwischen den Löchern 空隙の間を (観測者が球と球との間にできる空隙の間を), Würde .....herumklettern あちこち攀ぢ回るとしたら, so そうすれば er 観測者は, jede Kugel どの球も an allen ihren Seiten そのあらゆる側面において von anstoßenden Kugeln 隣接せる球によって berührt wird 触れられる (隣接せる球と接触している) daß ことを würde.....festsellen 認めるであろう。

〔注〕 [203] **So**「かくのごとく」。 [204] **besteht aus.....**「.....から成っている」,「から構成されている」。 [205] **lauter** これは laut という形容詞ではなく, もとっから lauter で, 無語尾のまま用い, ほんとうは副詞 (nur とほとんど同意) なのである,

ただかならず名詞の前におかれるから，ちょっと形容詞のような感じをあたえる。(おなじものに eitel がある) Sie sehen hier lauter Freunde.「ここにごらんになるのはみんな味方ばかりです」，Er lebt unter eitel Büchern.「あいつはまるで本ばかりの中にうずまって暮している」。【206】**stetig**「だんだんと」，「いつのまにか」(たとえば，爪先上りに，いつのまにか山頂に達している路ならば Es geht stetig bergauf. と言うなど)。【207】**eine** たびたび言うとおり，境界「などというものは」だから不定冠詞。

「なんなら」という etwa 【208】**etwa**「なんなら」こうしてもよかろう，などと言う際の「なんなら」である。「なんなら巡査にでもなろうかなあ」Werde ich etwa Polizist?「なんなら僕のところで泊りたまえよ」Sie könnten etwa bei mir übernachten.——また vielleicht も用いる：Vielleicht könnten Sie bei mir übernachten?——断わっておくが etwa は，etwas とはぜんぜん別物である。

sagen wir そうですねえ，まあ……；たとえば…… 【209】**sagen wir** これは文章ではなく，etwa とよく似た間投的挿入句である (英語ではたんに *say* と言う)。いったい数というものは，一例として言う場合には 4 でも 5 でも 100 でも 75 でも何でもいいようなものだが，あんまり自由すぎてちょっとためらうものだが，そういう時に思いきってこの sagen wir「なんならこうとでもしておきましょうか」を前置きにして任意の数を出すのである。たとえば，友禅の着物を，昔の話だが定価 150 円也という正札をつけて飾窓に出したら，ちっとも売れなかった。それは安すぎたからである。そういうばかな，婦人の心理を知らない商人には，こう言って教えてやるとよい：Nehmen Sie doch den Preis höher, sagen wir……zu 500, oder besser 5000 Yen!「もっと高くしたらどうです，そうですねえ，まあ，五百円とか，あるいは五千円の方がよいかも知れないが」商人は思いきって五万円とつけた，そしたらあくる日売れたという話。

【210】**von** この von は「……という性質をもった」の意。【211】**anstoßend**「隣接の」benachbart ではたんに「近所の」になって，すぐ接している意味にならない。

[23] Da gibt es keine einzige Kugel, die an einem Rande läge[212]. Würde er aber auf jede Kugel eine Ziffer[213] schreiben, so würde er schließlich finden, daß die Kugeln eine feste[214] Zahl haben. Das heißt, schließlich hat jede Kugel

eine Nummer, ist überall von numerierten Kugeln umgeben, und eine Kugel hat[215] die größte Nummer erhalten. Auch hier ist wieder[216] jedes Einzelgebiet von ganz normalem Charakter, nur der Zusammenschluß zu einem endlichen Ganzen ist überraschend.

〔訳〕 Da そこには, an einem Rande 絶端に läge 位置するといった die ような keine einzige Kugel ただひとつの球も gibt es 存在 [しない]。aber しかし er 観測者が auf jede Kugel おのおのの球に eine Ziffer ひとつの数字 (番号) を Würde..... schreiben 書きつけていくならば, so そうすれば er 彼は schließlich ついには, die Kugeln 球が eine feste Zahl 一定の数を haben もっている daß ことを würde..... finden 発見するであろう。Das heißt 換言すれば, schließlich 結局は jede Kugel おのおのの球は eine Nummer [それぞれ] ひとつの番号を hat もち, überall いたるところで von numerierten Kugeln 番号のついた球によって ist.....umgeben (三要形: umgeben, umgab, umgeben) とりまかれている, und そして eine Kugel そのうちのひとつの球は die größte Nummer (ついに) 最高の番号を hat.....erhalten 得た (というわけである!) Auch hier この場合においても wieder 先の場合とおなじく jedes Einzelgebiet おのおのの個々の領域 (球) は ist.....von ganz normalem Charakter まったく通常の性格のものである, nur der Zusammenschluß zu einem endlichen Ganzen ただ有限なるひとつの全体への結合 (結合してひとつの有限な全体になること) が überraschend 意外に思われる ist のにすぎない。

〔注〕 【212】 läge liegen「位置する」の三要形は liegen, lag, gelegen で, その第二式接続法が läge. ——「.....するといったような(そんなものはない)」 というふうに, 否定されるべきはずの虚構的な文には, 第二式接続法を用いる。「彼女がいちど恋人としてもたなかったような男は世の中にひとりもいない」は Es gibt keinen Mann in der Welt, den sie nicht einmal zum Liebhaber gehabt hätte.——「ばかをなおす薬なんてものはない」は Es gibt kein Mittel, womit man Dummköpfe heilen könnte.

否定的基礎の上に立つ虚構の文の定形は第二式接続法

【213】 **Ziffer** つぎの単語を区別しておぼえること: Zahl, *f*.「数」, Wert, *m*.「数値」, Größe, *f*.「数値」, Ziffer, *f*.「数字」, Nummer, *f*.「番号」。 【214】 fest=bestimmt「一定の」。 【215】 **hat** この現在完了は,「.....してしまう」すなわち「最後には.....するにいたる」という意で用いてある。 【216】 **wieder** またもや。(wiederum とも言う)。

[24] Der mathematische Philosoph vermag heute diese Zusammenhänge noch viel genauer auszumalen, als wir es in dieser kurzen Skizze können. Ich glaube daher nicht, daß man heute noch ernstlich von[217] einer Unvorstellbarkeit der Einsteinschen Lehre reden darf. Vielmehr scheint mir die gegenwärtige Situation nicht viel anders[218] zu sein als die Situation zu Kolumbus' Zeiten[219]. Es[220] wird lediglich[221] einige Zeit der Gewöhnung verstreichen müssen, bis man die neue Weltraumlehre als eine vertraute[222] Vorstellung empfindet. Indessen schreitet die Wissenschaft schon wieder fort.

〔訳〕 Der mathematische Philosoph 数理哲学者は heute 今日では diese Zusammenhänge こうした関係を, wir われわれが in dieser kurzen Skizze この短い概説において es.....können なしうる als よりも noch viel genauer はるかに正確に vermag.....auszumalen 描写（説明）することができる。daher それゆえに Ich 私は, heute noch 今日なお ernstlich 大まじめに von einer Unvorstellbarkeit der Einsteinschen Lehre アインシュタインの学説は考え得られないものだなどと man..... reden darf 言ってよろしい daß とは glaube.....nicht 思わない。Vielmehr むしろ mir 私には die gegenwärtige Situation 現在の情況は als die Situation zu Kolumbus' Zeiten コロンブスの時代における情況とくらべて nicht viel anders さして変わらない zu sein ものである scheint ように思われる。die neue Weltraumlehre この新しい宇宙論が als eine vertraute Vorstellung 周知の考え方として man.....empfindet (三要形: empfinden, empfand, empfunden) われわれが感ずる bis までには, lediglich たんに einige Zeit der Gewöhnung 慣れしたしむためのすこしの時間が Es wird .....verstreichen (三要形: verstreichen, verstrich, verstrichen) müssen 経過する必要があるであろう。Indessen その間に die Wissenschaft 科学は schon wieder またもや schreitet.....fort 進歩しつつある。

〔注〕 [217] **von.....reden** は, べつに「.....について話す」というのではなく,「.....なんてことを言う」という意である。たとえば,「死ぬなんてことを言う奴にかぎって死んだためしがない」は Wer vom Sterben redet, denkt am wenigsten daran. von einer Unvorstellbarkeit der Einsteinschen Lehre「アインシュタイン説の想像不可能性」と言うと, えらいやかましく聞こえるが, じつは「アインシュタインの説はちょっとピンとこない, なんてことを」ということにすぎない。

von.....reden の意味

どうです，ドイツ語における普遍的一切合財名詞化の生硬性がわかりますか?
【218】**nicht viel anders zu sein** ちょうど「たいして変わらない」にあたる。【219】**Kolumbus' Zeiten** 二格の s をつけようと思っても，尻に s があるためにつけられない時には，固有名詞ならば ' を打っておく。ただし des をつけると ' は不用：Das Ei des Kolumbus「コロンブスの卵」など。【220】**Es** は非人称主語，文の非人称化，意味上の主語はつぎの einige Zeit. 【221】**lediglich** nur とおなじ。【222】**vertraut**「親しい・心安い・慣れっこになった」。

[25] Gerade in den letzten Jahren sind gewisse Erkenntnisse der Astronomie zutage getreten[223], welche die Einsteinsche Lehre noch etwas verwickelter erscheinen lassen[224]. Danach ist der Raum zwar endlich, aber in wachsender Ausdehnung begriffen[225]; wir haben uns als Vergleich also einen Gummiball zu denken, der aufgeblasen wird und dessen Oberfläche sich daher ständig ausdehnt. Natürlich handelt[226] es sich bei dieser sich ausdehnenden Oberfläche um ein zweidimensionales Analogon[227] des in Wirklichkeit dreidimensionalen Weltraums.

〔訳〕 Gerade in den letzten Jahren ちょうどこの最近の数年間に，die Einsteinsche Lehre アインシュタインの学説を noch etwas verwickelter さらにすこしく複雑に erscheinen lassen 見えさせる welche ような gewisse Erkenntnisse der Astronomie ある種の天文学上の知識が sind.....zutage getreten あきらかにされた。Danach それによると der Raum 宇宙は zwar なるほど endlich 有限 ist ではある，aber が [ist].....in wachsender Ausdehnung begriffen (三要形：begreifen, begriff, begriffen) たえず拡大しつつある；also ゆえに wir われわれは als Vergleich 比喩として，[息を吹きこんで] aufgeblasen (三要形：aufblasen, blies auf, aufgeblasen) wird ふくらませられ und.....daher したがって dessen Oberfläche その表面が ständig たえず sich.....ausdehnt 拡がっていく der ところの einen Gummiball ひとつのゴムマリを haben uns.....zu denken 想像してみる必要がある。Natürlich 言うまでもなく bei dieser sich ausdehnenden Oberfläche このたえず拡がりつつある表面というのは ein zweidimensionales Analogon des in Wirklichkeit dreidimensionalen Weltraums じつは三次元的な宇宙の二次元的類似物 handelt es sich um なのである。

〔注〕【223】**zutage treten** 現われる，(発表されること)。【224】**erscheinen lassen**

「見えさせる・思わせる」。【225】**in.....begriffen sein**「.....しつつある」。「すべては流る」Alles fließt. または Alles ist im Fluß begriffen. 【226】**es handelt sich bei A um B**「A というのはじつは B である」という成句。【227】**Analogon**「類似物，平行物，比較物」。たとえば，ギリシァ神話の，神の山オリンポス (Olymp) の Analogon をこの国に求めるならば，それは高天原である，など。つまり，似ているだけではいけないので，似ていても違っていてもいいから，とにかくおなじような関係にあるものを Analogon と言うのである。

[26] Daß das nun freilich[228] die letzte Stufe unseres Wissens vom Weltraum sei, das wollen wir gewiß nicht behaupten. Im Gegenteil[229], wenn der Volksschüler des Jahres 2000 das Bild[230] des Einsteinschen Weltraums in sich aufgenommen[231] hat, so wird vermutlich die Wissenschaft schon wieder ein Stück weiter sein und Dinge behaupten, die auch dem Publikum jener vorgerückten Zeit recht unverständlich erscheinen würden. Aber das ist nun einmal[232] der Lauf der Welt[233]; und vielleicht ist gerade das[234] so interessant an[235] dieser Welt, daß unser Wissen von ihr ebenso wächst, wie der Raum, der uns umfaßt.

〔訳〕 nun さて freilich いうまでもなく das これが die letzte Stufe unseres Wissens vom Weltraum 宇宙に関するわれわれの知識の最後の段階 sei である（宇宙に関するわれわれの知識がこれで終わった） Daß など das そんなことは wir われわれは wollen.....behaupten 主張しようとするものでは gewiß nicht 決してない。Im Gegenteil, それどころか, der Volksschüler des Jahres 2000 紀元二千年ごろの小学生が das Bild des Einsteinschen Weltraums アインシュタインの宇宙像を in sich aufgenommen (三要形: aufnehmen, nahm auf, aufgenommen) hat 頭にいれてしまった wenn ならば, so その時には vermutlich おそらく die Wissenschaft 科学は schon wieder またもや ein Stück weiter ひと駒先に進んで sein おり und そして, auch dem Publikum jener vorgerückten Zeit その進歩した時代のひとびとにも recht unverständlich まったく不可解に erscheinen würden 思われるであろう die ような Dinge ことがらを behaupten 主張する wird であろう。Aber しかし das これが der Lauf der Welt 世のつね ist であって nun einmal しかたがない; und そして vielleicht おそらくは, unser Wissen von ihr (Welt) この世界に関するわれわれの知識が

uns umfaßt われわれをとりまく der ところの wie der Raum 空間と ebenso 同様に wächst (三要形: wachsen, wuchs, gewachsen) 成長していく daß という gerade das まさにこの点が an dieser Welt この世界の so interessant きわめておもしろいところ ist なのであろう。

〔注〕 [228] **nun freilich**「さてもちろん」これはほんとうは daß..... のなかにはいるべきではなく，daß のほかに，文の劈頭におくべきものであるが，aber などを数語あとへずらせて文内にいれるとおなじように，こうして立入り禁止のところへまでも乗りこむ特権がすべての副詞的接続詞 (jedoch, daher, indessen, nun など) にあることをあらためて認識していただきたい。 [229] **im Gegenteil** (英 *on the contrary*).「むしろその逆である」,「それどころか」,「それどころではなく」。 [230] **Bild** 元来「図」,「絵」であるが,「全貌」,「相貌」時には「概略」の意にすら用いられ，学術用語では「像」と言っている (Weltbild 世界像，など)。 [231] **in sich aufnehmen** おのが頭脳のなかへ「とりいれる」こと。もちろんけっきょく「こなす」ことである。 [232] **nun einmal**「なんと言っても」,「なんせ」,「もともと」,「どうせ」——「あいつはもとっからああなんですよ」(Er ist nun einmal so.),「僕はどうせものわかりが悪い方なんで」(Ich bin nun einmal schwer von Begriff)。 [233] **der Lauf der Welt**「世の歩み」，すなわち「世の実情」。Das ist der Lauf der Welt.「それが世のつねである，世の中はそうしたもの」はふつうよく使うおざなり文句である (英: *So the world wags.*) [234] **gerade das**=eben das, das eben.「この点がつまり」,「この点こそ」,「ここがつまり」。 [235] **an dieser Welt** その具有する性質を批評するときにはたいてい an を用いる: An ihm gefällt mir manches.「あいつにはいろいろと気にいった点がある」。